

甲賀市市政に関する意識調査報告書

【市政全体・市民自治・情報発信等】

令和6年3月
甲賀市

目次

I	調査の実施概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査票の配布・回収の状況	1
4	標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5	本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて	3
II	回答者の属性	4
III	調査結果	9
1	市政全体に関する満足度について	9
(1)	甲賀市への愛着	9
(2)	甲賀市の魅力を自慢できるか	11
(3)	定住意向	13
(4)	暮らしの「満足度」と「重要度」	19
(5)	現在の暮らしに幸せを感じるか	107
(6)	市政への関心	111
(7)	市政に関する満足度	113
(8)	これからの4年間で重点的に取り組むべき施策	123
2	市民自治について	129
(1)	自治振興会への活動参加	129
(2)	自治振興会や区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容	131
(3)	地域コミュニティについて	135
(4)	10年後に求める新しい豊かさについて	136
(5)	まちづくりについて	138
3	市に関する情報の入手について	144
4	新型コロナウイルス感染症について	170
(1)	新型コロナウイルス感染症で困っていること	170
(2)	新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援	172
(3)	新型コロナウイルス感染症の支援に関して	174

資料：アンケート調査票

I 調査の実施概要

1 調査の目的

市民の市政についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に調査を実施した。

2 調査の設計

- 調査地域:甲賀市全域
- 調査対象:市内在住の18歳以上の男女
- 調査標本数:3,000人
- 調査抽出法:層化二段無作為抽出法(抽出台帳:住民基本台帳、旧町5地域別)
- 調査方法:郵送配布・郵送回収、またはインターネットによる回答
- 調査時期:令和5年10月6日～10月20日

3 調査票の配布・回収の状況

- 配布数:3,000件
 - 回収件数(率):1,220件(40.7%)
 - 有効回答数(率):1,217件(40.6%)
- うち郵送回収:862件(70.8%)、インターネット回答355件(29.2%)

4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

① 標本抽出計画と集計母数(集計対象数)

今回の調査では、アンケート調査配布数(標本数)を市内5地域と母集団構成比に応じて配分した。

地域別の回収率は甲賀地域が50.5%で最も多く、以下、甲南地域が43.0%、信楽地域が38.9%、土山地域が38.5%、水口地域が37.4%と続いている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答の地域区分は母集団構成比に近い。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 (令和2年)
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
水口地域	34,326	45.5%	1,386	46.2%	519	42.6%	37.4%	37.6%
土山地域	6,145	8.2%	221	7.4%	85	7.0%	38.5%	46.5%
甲賀地域	8,162	10.8%	317	10.6%	160	13.1%	50.5%	50.7%
甲南地域	17,333	23.0%	703	23.4%	302	24.8%	43.0%	42.5%
信楽地域	9,418	12.5%	373	12.4%	145	11.9%	38.9%	40.7%
不明・無回答	-	-	-	-	6	0.5%	-	-
合計	75,384	100%	3,000	100%	1,217	100%	40.6%	41.6%

年代別の回収率は70歳以上が56.6%で最も多く、以下、60歳代が54.7%、50歳代が38.1%、40歳代が31.1%、30歳代が29.5%、20歳代以下が20.2%と続いている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答は年齢層が高い構成であることがわかる。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 (令和2年)
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
20歳代以下	10,911	14.5%	430	14.3%	87	7.1%	20.2%	25.3%
30歳代	9,462	12.6%	380	12.7%	112	9.2%	29.5%	27.1%
40歳代	11,814	15.7%	508	16.9%	158	13.0%	31.1%	31.6%
50歳代	11,825	15.7%	485	16.2%	185	15.2%	38.1%	39.7%
60歳代	11,246	14.9%	419	14.0%	229	18.8%	54.7%	54.1%
70歳以上	20,126	26.7%	778	25.9%	440	36.2%	56.6%	57.2%
不明・無回答	-	-	-	-	6	0.5%	-	-
合計	75,384	100%	3,000	100%	1,217	100%	40.6%	41.6%

② 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果から甲賀市の18歳以上の人口(母集団)の意識や要望等を推定することができる。ただし、今回の結果が抽出調査のため、数字の誤差を考慮する必要がある。そこで、どの程度の誤差があるのかを以下の数式で求めた。

世論調査では、信頼度95%(同じ調査を対象を変えて行った場合に、100回中95回は同様の結果が得られると考えてもよい)の水準を求めることが一般的とされており、これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出した。その結果、標本誤差=2.79%(小数第3位四捨五入)となり、母集団の回答は今回のアンケート調査結果の±2.79%の区間に95%の確率で存在すると言える。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差

±1.96 : 信頼度95%の時の係数

N : 母集団数 (調査時点の甲賀市の18歳以上人口 : 75,384) n : 標本数 (有効回答数 : 1,217)

P : 標本測定値0.5 (50% (0.5) のときに最大となるため0.5で計算)

5 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

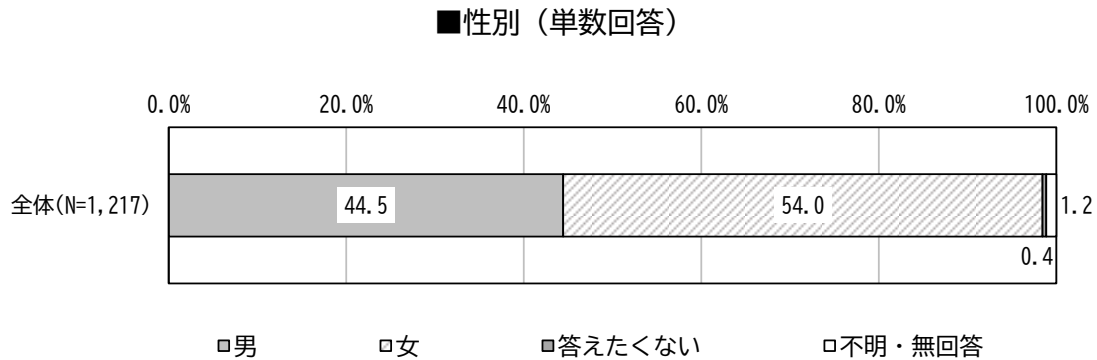
- ・ 回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比(%)で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示している。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- ・ 図表中の「N」は集計対象者総数または、回答者限定設問の限定条件に該当者数を示している。

Ⅱ 回答者の属性

① 性別

「問 1」 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

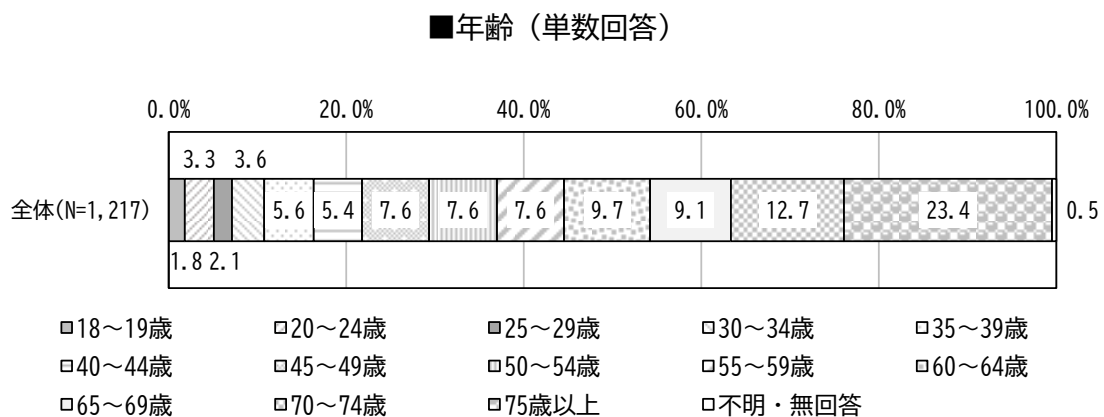
性別は、「男」が44.5%、「女」が54.0%、「答えたくない」が0.4%となっている。



② 年齢

「問 2」 あなたの年齢は、10月1日現在でおいくつですか。(○は1つ)

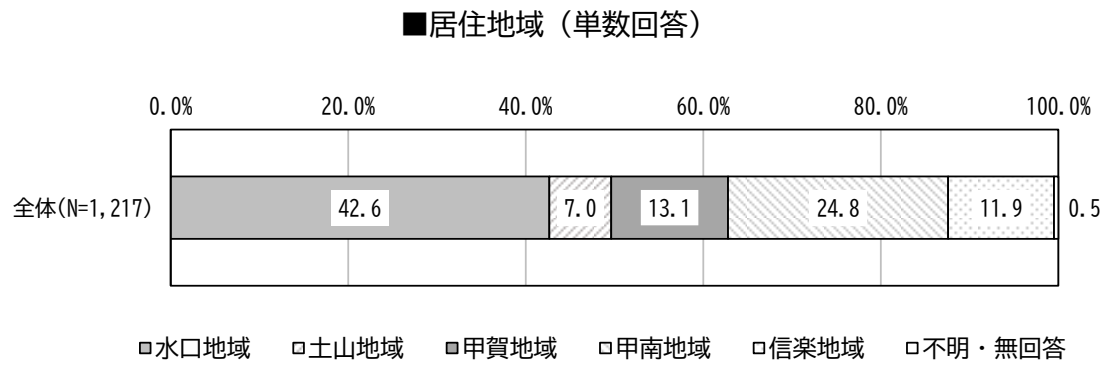
年齢は、「75歳以上」が23.4%で最も多くなっており、以下、「70～74歳」が12.7%、「60～64歳」が9.7%と続いている。



③ 居住地域

「問 3」 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

居住地域は、「水口地域」が 42.6%で最も多くなっており、以下、「甲南地域」が 24.8%、「甲賀地域」が 13.1%、「信楽地域」が 11.9%、「土山地域」が 7.0%と続いている。

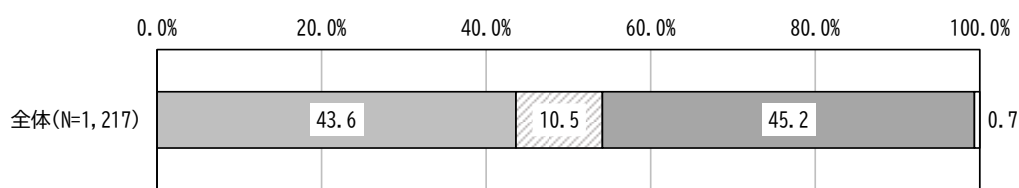


④ 甲賀市の居住歴

<問 4> あなたは、いつから甲賀市にお住まいですか。(〇は1つ)
 <問4-1> 問4で「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」または「市外で生まれて甲賀市に転入した」と回答された方におたずねします。
 転入後、何年ぐらい甲賀市にお住まいですか。(〇は1つ)

甲賀市の居住歴は、「市外で生まれて甲賀市に転入した」が 45.2%で最も多くなっており、以下、「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」が 43.6%、「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」が 10.5%と続いている。

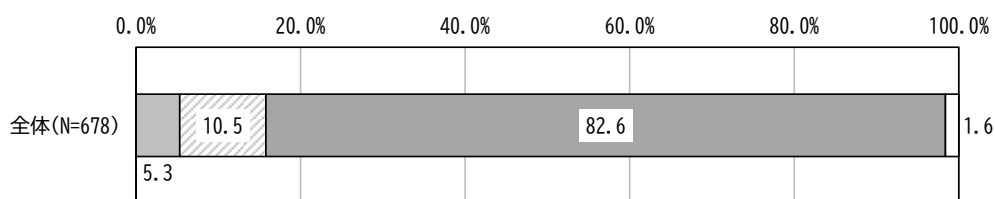
■ 甲賀市の居住歴 (単数回答)



- 生まれてからずっと甲賀市に住んでいる
- 甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した
- 市外で生まれて甲賀市に転入した
- 不明・無回答

転入後の居住年数は、「10 年以上」が 82.6%で最も多くなっており、以下、「3 年～10 年未満」が 10.5%、「3 年未満」が 5.3%と続いている。

■ 転入後の居住年数 (単数回答)



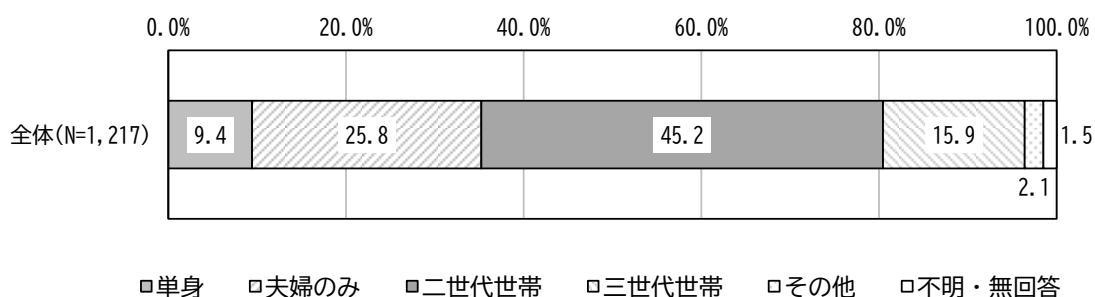
- 3年未満
- 3年から10年未満
- 10年以上
- 不明・無回答

⑤ 世帯(同居)構成

≪問 5≫ あなたの世帯(同居)はどのような構成ですか。(○は1つ)
 <問5-1> 問5で「二世帯世帯(親・子)」「三世帯世帯(親・子・孫)」「その他」のいずれかに回答された方におたずねします。
 あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。
 (○はいくつでも)※別居されているお子様・お孫様は含みません。

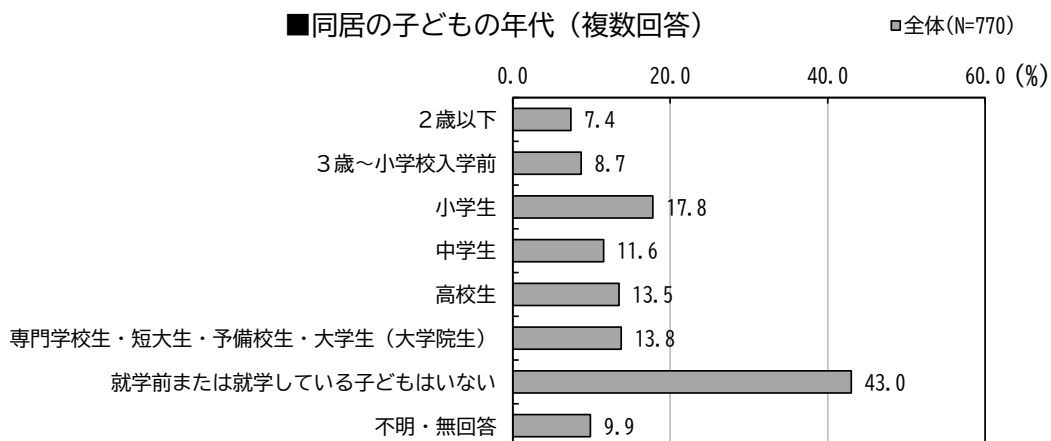
世帯(同居)構成は、「二世帯世帯(親・子)」が 45.2%で最も多くなっており、以下、「夫婦のみ」が 25.8%、「三世帯世帯(親・子・孫)」が 15.9%、「単身」が 9.4%と続いている。

■世帯(同居)構成(単数回答)



同居の子どもの年代は、「就学前または就学している子どもはいない」が 43.0%で最も多くなっており、以下、「小学生」が 17.8%、「専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生)」が 13.8%、「高校生」が 13.5%と続いている。

■同居の子どもの年代(複数回答)

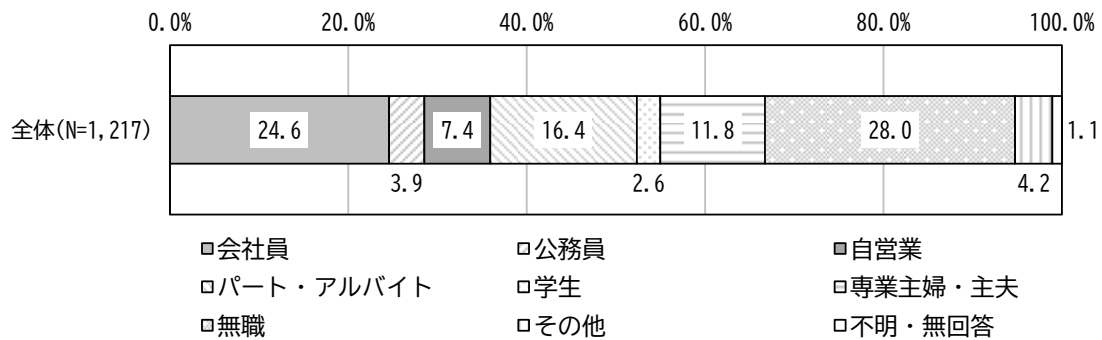


⑥ 職業

<<問 6>> あなたの職業等は何ですか。(○は1つ)
 <問6-1> 問6で「会社員」「公務員」「自営業」「パート・アルバイト」「学生」のいずれかに回答された方におたずねします。
 あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つ)

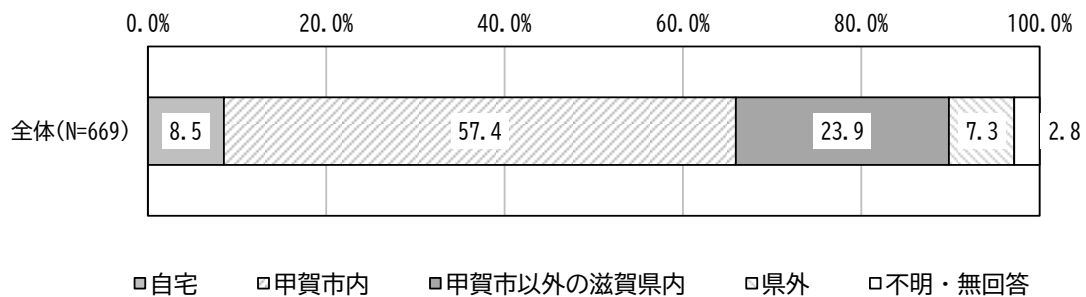
職業は、「無職」が 28.0%で最も多くなっており、以下、「会社員」が 24.6%、「パート・アルバイト」が 16.4%と続いている。

■職業（単数回答）



勤務地(通学地)は、「甲賀市内」が 57.4%で最も多くなっており、以下、「甲賀市以外の滋賀県内」が 23.9%、「自宅」が 8.5%、「県外」が 7.3%と続いている。

■勤務地・通学地（単数回答）



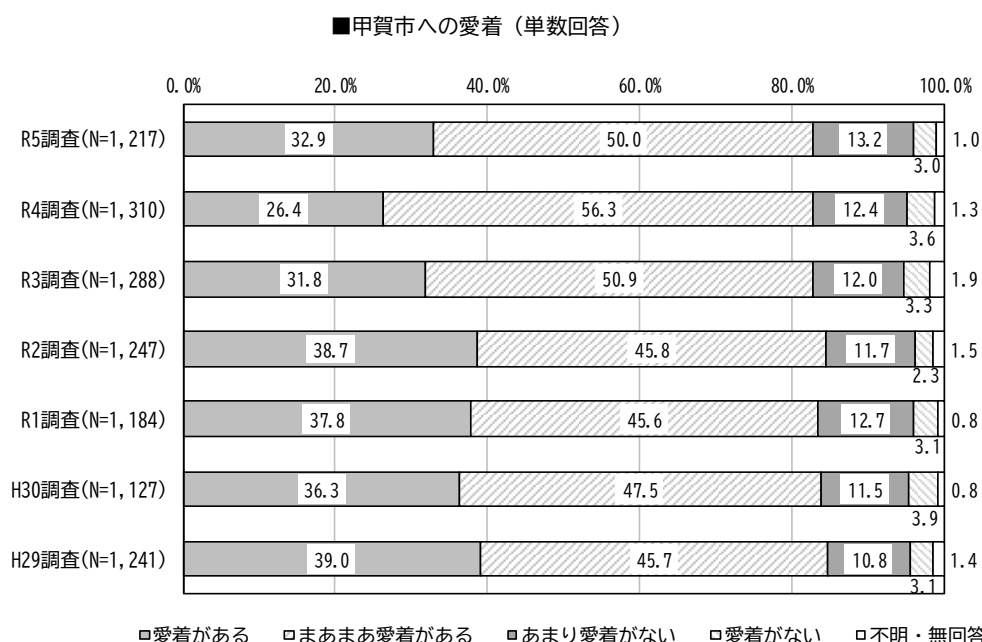
Ⅲ 調査結果

1 市政全体に関する満足度について

(1) 甲賀市への愛着

「問 7」 あなたは、甲賀市に愛着をお持ちですか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、「愛着がある」と「まあまあ愛着がある」を合わせた『愛着あり』の割合は、ほとんど変化はみられない。



●全体でみると、「まあまあ愛着がある」が 50.0%で最も多くなっており、以下、「愛着がある」が 32.9%、「あまり愛着がない」が 13.2%、「愛着がない」が 3.0%と続いている。『愛着あり』は 82.9%となっている。

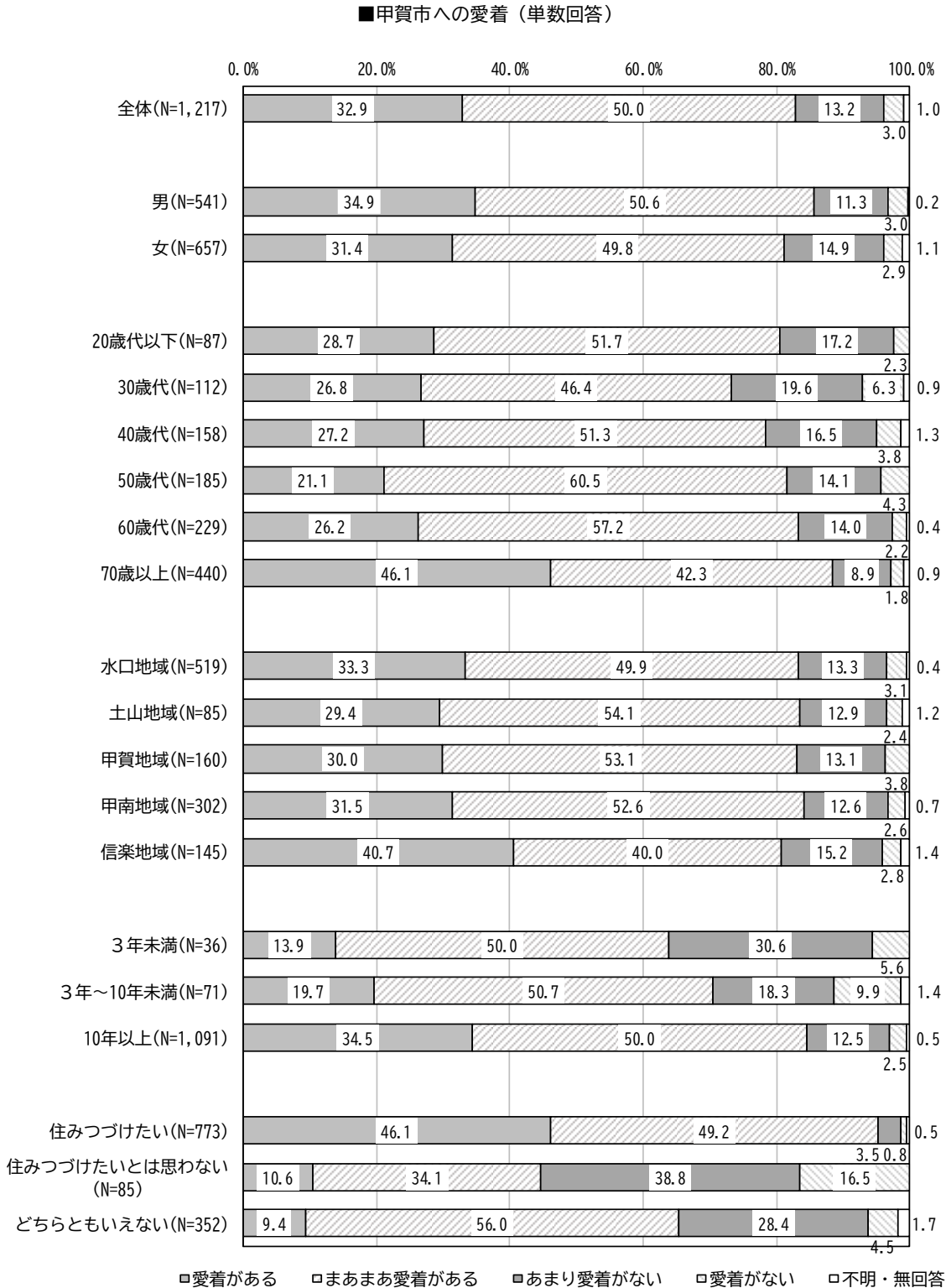
●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、男性は 85.5%、女性は 81.2%となっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「愛着がある」が、他の年代では「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 88.4%、以下、60 歳代で 83.4%、50 歳代で 81.6%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「愛着がある」が、他の地域では「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 84.1%、以下、土山地域で 83.5%、水口地域で 83.2%、甲賀地域で 83.1%、信楽地域で 80.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ愛着がある」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 84.5%、以下、3 年～10 年未満で 70.4%、3 年未満で 63.9%と続いており、居住年数が長くなるにつれて多くなっている。

●定住意向別にみると、住みつづけたい、どちらともいえないは「まあまあ愛着がある」が、住みつづけたいとは思わないは「あまり愛着がない」が最も多くなっている。『愛着あり』の割合をみると、最も多いのは住みつづけたいで 95.3%、以下、どちらともいえないで 65.4%、住みつづけたいと思わないで 44.7%と続いている。



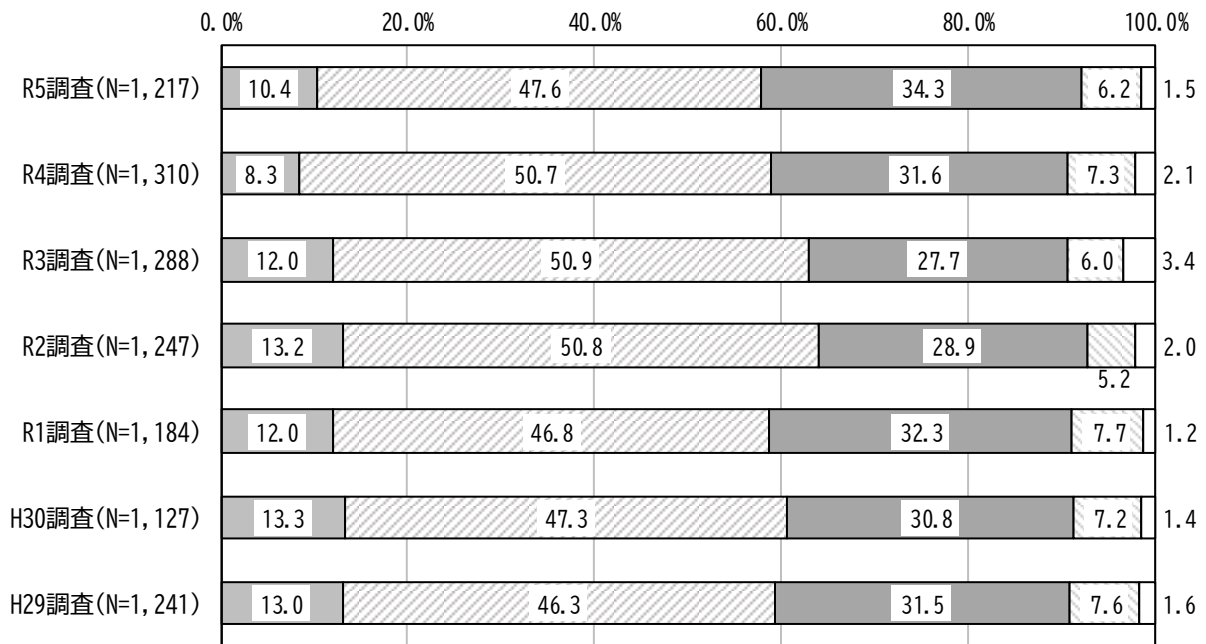
※「10年以上」は、「転入後の居住年数10年以上」と「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」の合計。
以下の図表すべてにおいて同様。

(2) 甲賀市の魅力を自慢できるか

◀問 8▶ あなたは、甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

■甲賀市の魅力を自慢できるか（単数回答）



□自慢できる □まあまあ自慢できる □あまり自慢できない □自慢できない □不明・無回答

●全体でみると、「まあまあ自慢できる」が 47.6%で最も多くなっており、以下、「あまり自慢できない」が 34.3%、「自慢できる」が 10.4%、「自慢できない」が 6.2%と続いている。「自慢できる」と「まあまあ自慢できる」を合わせた『自慢できる』は 58.0%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、男性は 56.9%、女性は 59.3%となっている。

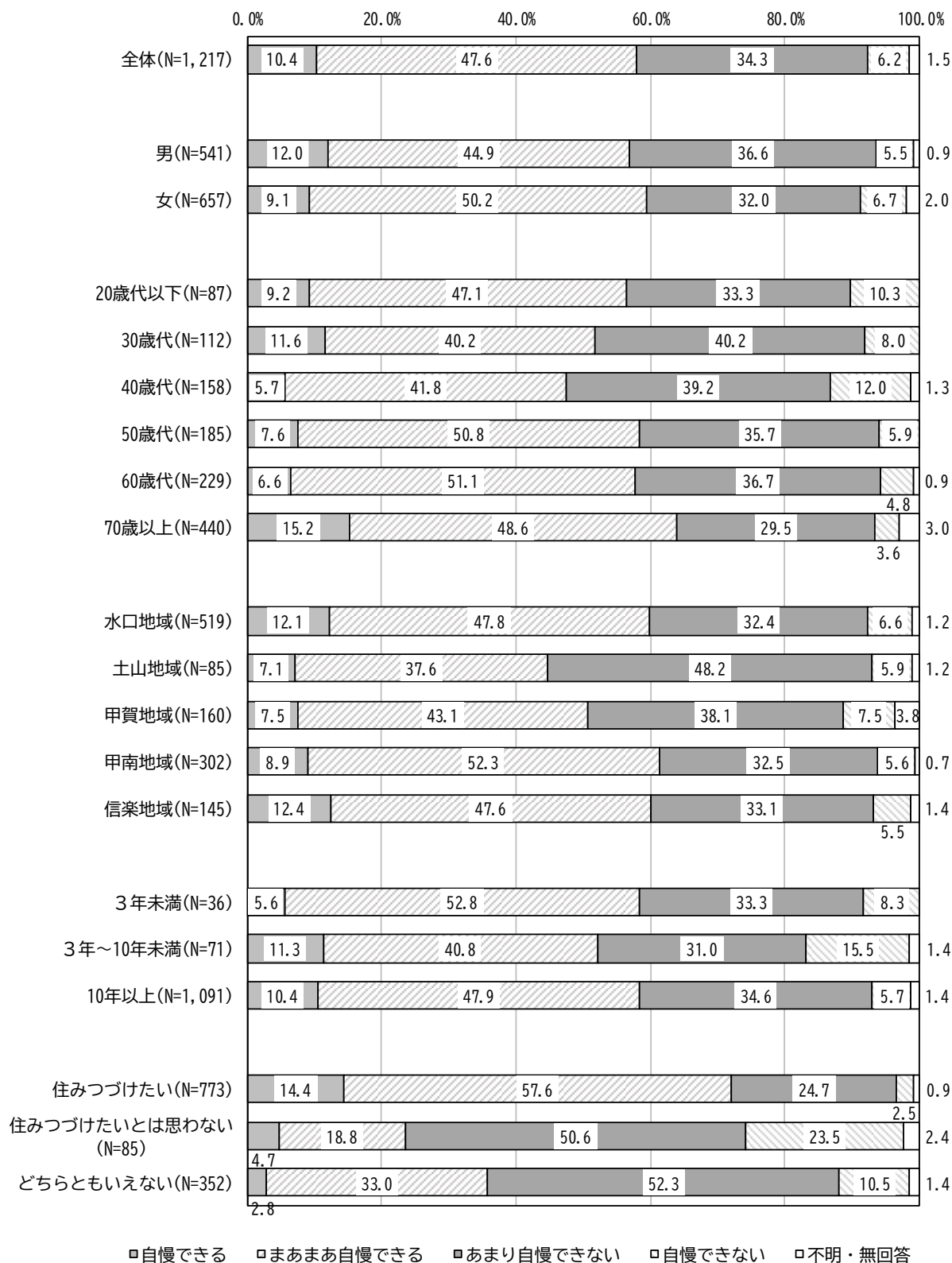
●年代別にみると、すべての年代において「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている(30歳代は「あまり自慢できない」と同率)。『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 63.8%、以下、50 歳代で 58.4%、60 歳代で 57.7%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「あまり自慢できない」が、他の地域では「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 61.2%、以下、信楽地域で 60.0%、水口地域で 59.9%、甲賀地域で 50.6%、土山地域で 44.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ自慢できる」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは3年未満で 58.4%、以下、10年以上で 58.3%、3年から 10 年未満で 52.1%と続いている。

●定住意向別にみると、住みつづけたいは「まあまあ自慢できる」が、他の定住意向は「あまり自慢できない」が最も多くなっている。『自慢できる』の割合をみると、最も多いのは住みつづけたいで72.0%、以下、どちらともいえないで35.8%、住みつづけたいと思わないで23.5%と続いている。

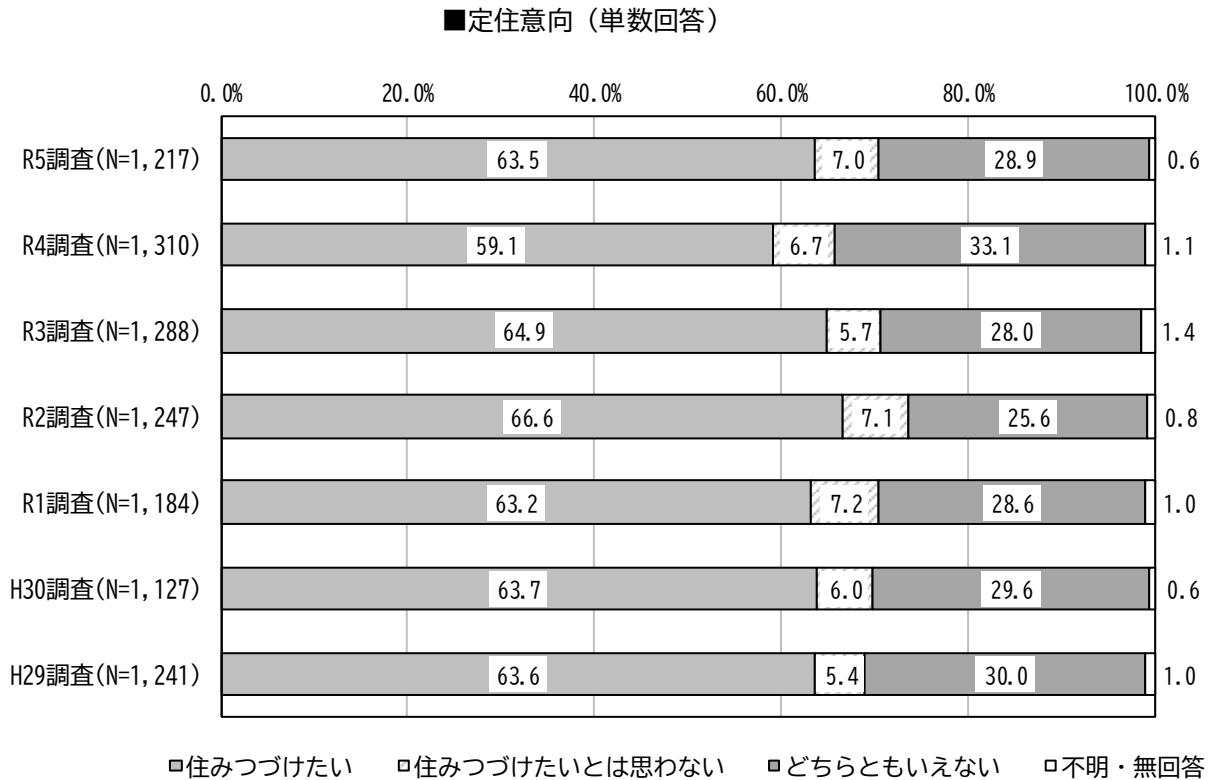
■甲賀市の魅力を自慢できるか（単数回答）



(3) 定住意向

「問 9」 あなたは、これからも甲賀市に住みつづけたいと思われませんか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 4 年度調査に比べて「住みつづけたい」の割合が増加している。



●全体でみると、「住みつづけたい」が 63.5%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 28.9%、「住みつづけたいとは思わない」が 7.0%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、男性が 67.5%、女性が 60.1%となっている。

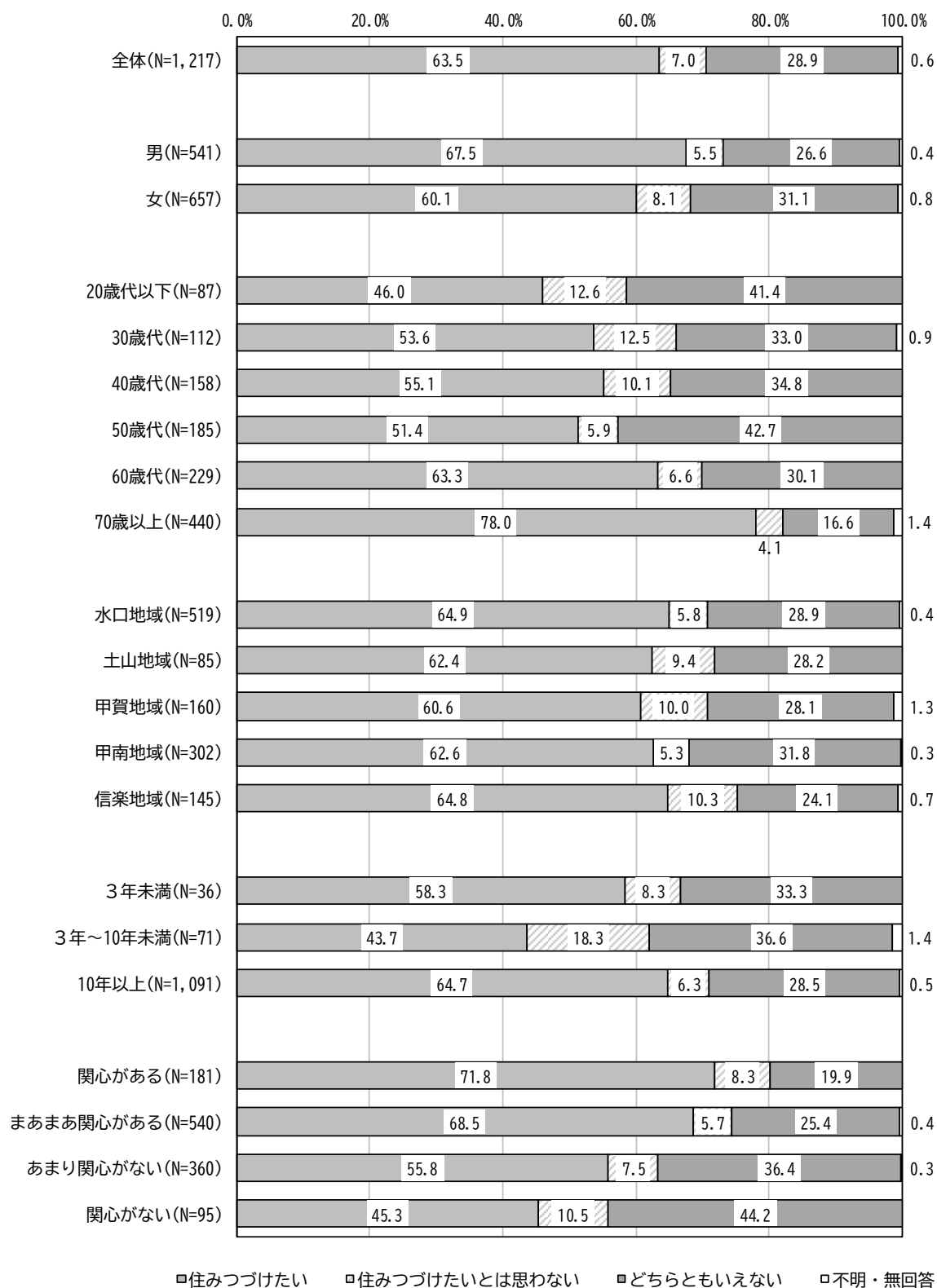
●年代別にみると、すべての年代において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 78.0%、以下、60 歳代で 63.3%、40 歳代で 55.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは水口地域で 64.9%、以下、信楽地域で 64.8%、甲南地域で 62.6%、土山地域で 62.4%、甲賀地域で 60.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 64.7%、以下、3 年未満で 58.3%、3 年～10 年未満で 43.7%と続いている。

● 市政への関心別にみると、すべての関心度において「住みつづけたい」が最も多くなっている。「住みつづけたい」の割合をみると、最も多いのは関心があるで 71.8%、以下、まあまあ関心があるで 68.5%、あまり関心がないで 55.8%と続いており、関心度が高くなるにつれて多くなっている。

■ 定住意向 (単数回答)



<問 9-1> 問 9 で「住みつづけたい」と回答された方におたずねします。
 あなたが甲賀市に住みつづけたいと思われるのはどのような理由(家族の事情も含めて)からですか。(〇はいくつでも)

令和元年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

■定住したい理由(複数回答)

	地域に個性がある	地域に愛着がある	交通の便がよい	買い物に便利	娯楽・遊戯施設がある	地域の人間関係がよい	(仕事の関係 がある)	(学校や進学 の関係 がある)	(結婚している (家族、親族が いる)から)	住宅がある	特に理由はない	その他	不明・無回答
R5調査(N=773)	6.7	46.1	11.5	23.2	0.9	24.1	22.1	3.9	34.2	57.4	7.5	4.0	0.6
R2調査(N=830)	8.4	49.4	13.0	26.1	2.2	30.0	23.1	4.1	38.1	54.9	6.6	6.0	0.7
R1調査(N=748)	7.1	47.1	10.4	21.5	1.6	24.3	19.0	3.7	33.7	59.0	4.3	5.7	0.9

●全体で見ると、「住宅がある」が 57.4%で最も多くなっており、以下、「地域に愛着がある」が 46.1%、「結婚している(家族、親族がいる)から」が 34.2%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「住宅がある」が最も多く、次いで、「地域に愛着がある」「結婚している(家族、親族がいる)から」が多くなっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「地域に愛着がある」が、他の年代は「住宅がある」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「地域に愛着がある」が、他の地域では「住宅がある」が最も多くなっている。土山地域、甲賀地域、信楽地域では「買い物に便利」が少なくなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「住宅がある」が最も多くなっている。

■定住したい理由（複数回答）

	地域に個性がある	地域に愛着がある	交通の便がよい	買い物に便利	娯楽・遊戯施設がある	地域の人間関係がよい	仕事の関係（仕事がある）	学校や進学の関係（学校がある）	結婚している（家族、親族がいる）から	住宅がある	特に理由はない	その他	不明・無回答
全体(N=773)	6.7	46.1	11.5	23.2	0.9	24.1	22.1	3.9	34.2	57.4	7.5	4.0	0.6
男(N=365)	8.5	46.6	13.2	22.7	1.1	24.1	23.3	4.1	28.5	59.2	7.7	2.5	0.5
女(N=395)	5.3	45.3	9.9	23.5	0.8	24.1	21.5	3.8	39.7	55.9	6.8	5.1	0.8
20歳代以下(N=40)	7.5	42.5	10.0	17.5	2.5	22.5	22.5	2.5	17.5	32.5	12.5	10.0	0.0
30歳代(N=60)	8.3	38.3	11.7	25.0	1.7	13.3	46.7	10.0	41.7	60.0	1.7	1.7	1.7
40歳代(N=87)	5.7	42.5	17.2	32.2	2.3	20.7	32.2	11.5	42.5	60.9	4.6	4.6	0.0
50歳代(N=95)	8.4	51.6	4.2	21.1	0.0	27.4	37.9	3.2	50.5	62.1	1.1	4.2	0.0
60歳代(N=145)	6.2	44.1	8.3	22.8	0.0	20.7	26.9	2.1	42.1	64.8	4.8	6.2	0.7
70歳以上(N=343)	6.4	47.8	13.7	21.9	0.9	27.4	8.7	2.0	24.5	55.1	11.4	2.6	0.9
水口地域(N=337)	5.3	43.3	13.9	35.6	1.2	23.7	26.1	4.2	36.8	57.6	5.3	3.0	0.6
土山地域(N=53)	3.8	45.3	1.9	3.8	0.0	22.6	18.9	0.0	30.2	67.9	7.5	0.0	1.9
甲賀地域(N=97)	6.2	46.4	10.3	7.2	1.0	24.7	21.6	9.3	38.1	55.7	14.4	4.1	1.0
甲南地域(N=189)	6.3	46.0	15.3	24.9	1.1	23.3	16.9	3.2	31.2	59.3	6.3	5.3	0.5
信楽地域(N=94)	14.9	55.3	2.1	2.1	0.0	26.6	20.2	1.1	27.7	51.1	9.6	7.4	0.0
3年未満(N=21)	14.3	19.0	19.0	28.6	4.8	28.6	19.0	9.5	42.9	47.6	4.8	14.3	0.0
3年～10年未満(N=31)	9.7	25.8	0.0	25.8	0.0	19.4	32.3	9.7	38.7	45.2	3.2	6.5	3.2
10年以上(N=706)	6.5	47.6	12.0	22.9	0.8	24.1	21.8	3.5	33.3	58.6	7.6	3.7	0.6

<問 9-2> 問 9 で「住みつづけたいとは思わない」と回答された方におたずねします。
 あなたが他の場所に移り住みたいと思われるのはどのような理由(家族の事情も含めて)からですか。(○はいくつでも)

前回の調査と比較すると、特に「買物に不便」「学校や進学の関係(学校がない)」の割合が増加している。

■定住したくない理由(複数回答)

	地域の個性に乏しい	地域に愛着がもてない	交通の便がよくない	買い物に不便	娯楽・遊戯施設が少ない	地域の人間関係になじめない	仕事の関係(仕事がない)	学校や進学の関係(学校がない)	結婚する(家族、親族が他の場所にいる)から	住宅の都合	特に理由はない	その他	不明・無回答
R5調査(N=85)	21.2	27.1	76.5	63.5	44.7	24.7	21.2	21.2	2.4	11.8	1.2	15.3	0.0
R2調査(N=88)	20.5	30.7	80.7	44.3	43.2	20.5	22.7	13.6	3.4	9.1	4.5	14.8	0.0
R1調査(N=85)	20.0	34.1	72.9	49.4	35.3	29.4	15.3	10.6	4.7	7.1	2.4	17.6	5.9

●全体で見ると、「交通の便がよくない」が 76.5%で最も多くなっており、以下、「買い物に不便」が 63.5%、「娯楽・遊戯施設が少ない」が 44.7%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「交通の便がよくない」が最も多く、次いで「買い物に不便」、男性は「地域に愛着がもてない」、女性は「娯楽・遊戯施設が少ない」が多くなっている。

●年代別にみると、すべての年代において「交通の便がよくない」が最も多くなっており(20 歳代以下は「娯楽・遊戯施設が少ない」、70 歳以上は「買い物に不便」と同率)、次いで「買い物に不便」が多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「交通の便がよくない」が最も多くなっており、次いで「買い物に不便」が多くなっている(甲賀地域は同率)。

●居住年数別にみると、すべての年数において「交通の便がよくない」が最も多くなっており、次いで「買い物に不便」が多くなっている(3年未満は「地域に愛着がもてない」「娯楽・遊戯施設が少ない」と同率)。

■定住したくない理由（複数回答）

	地域の個性に乏しい	地域に愛着がもてない	交通の便がよくない	買い物に不便	娯楽・遊戯施設が少ない	地域の人間関係になじめない	仕事の関係（仕事がない）	学校や進学の関係（学校がない）	結婚する（家族、親族が他の場所にいる）から	住宅の都合	特に理由はない	その他	不明・無回答
全体(N=85)	21.2	27.1	76.5	63.5	44.7	24.7	21.2	21.2	2.4	11.8	1.2	15.3	0.0
男(N=30)	23.3	40.0	66.7	56.7	36.7	33.3	30.0	20.0	0.0	10.0	3.3	13.3	0.0
女(N=53)	20.8	18.9	81.1	66.0	50.9	18.9	17.0	20.8	3.8	13.2	0.0	17.0	0.0
20歳代以下(N=11)	27.3	18.2	72.7	54.5	72.7	9.1	27.3	45.5	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=14)	21.4	21.4	64.3	42.9	35.7	21.4	21.4	21.4	0.0	7.1	0.0	35.7	0.0
40歳代(N=16)	25.0	43.8	75.0	62.5	50.0	25.0	12.5	31.3	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0
50歳代(N=11)	18.2	18.2	72.7	63.6	54.5	36.4	27.3	18.2	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0
60歳代(N=15)	13.3	33.3	80.0	60.0	40.0	26.7	33.3	6.7	13.3	6.7	0.0	26.7	0.0
70歳以上(N=18)	22.2	22.2	88.9	88.9	27.8	27.8	11.1	11.1	0.0	16.7	0.0	11.1	0.0
水口地域(N=30)	20.0	36.7	53.3	43.3	40.0	16.7	13.3	16.7	3.3	13.3	3.3	23.3	0.0
土山地域(N=8)	37.5	12.5	87.5	75.0	50.0	25.0	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
甲賀地域(N=16)	12.5	18.8	87.5	87.5	37.5	37.5	31.3	25.0	0.0	25.0	0.0	6.3	0.0
甲南地域(N=16)	18.8	25.0	87.5	62.5	43.8	18.8	12.5	18.8	6.3	6.3	0.0	18.8	0.0
信楽地域(N=15)	26.7	26.7	93.3	73.3	60.0	33.3	26.7	13.3	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0
3年未満(N=3)	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3年～10年未満(N=13)	15.4	30.8	69.2	46.2	38.5	38.5	23.1	38.5	0.0	23.1	0.0	23.1	0.0
10年以上(N=69)	20.3	23.2	76.8	65.2	43.5	21.7	20.3	18.8	2.9	10.1	1.4	14.5	0.0

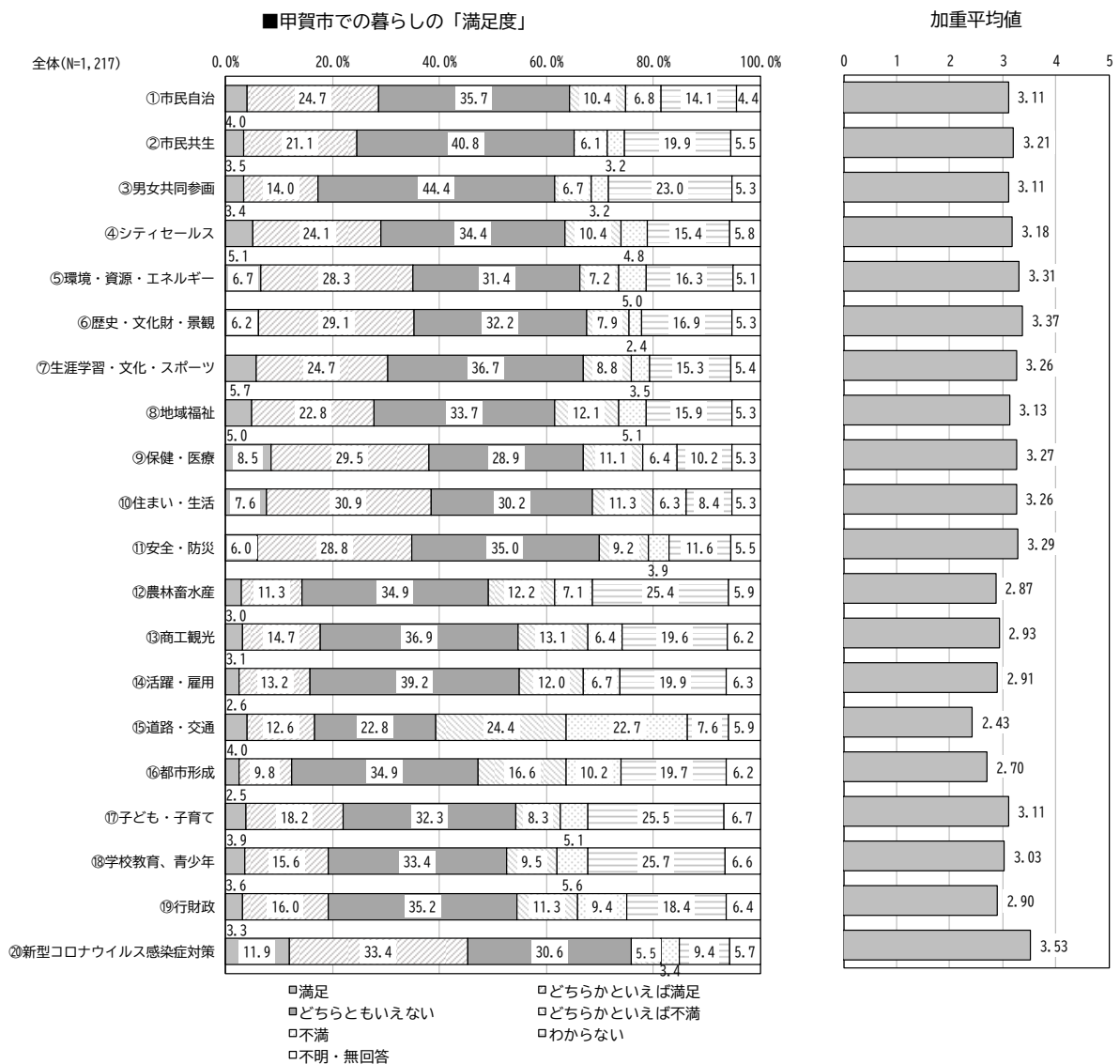
(4) 暮らしの「満足度」と「重要度」

「問 10」 あなたの甲賀市での暮らしの「満足度」と「重要度」についておたずねします。
 以下の①～⑳のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中から満足度合い、重要度合いに最も近いものを選んでください。(それぞれ〇は1つ)

【満足度】

●全体でみると、「満足」が最も多いのは「新型コロナウイルス感染症対策」で 11.9%、以下、「保健・医療」で 8.5%、「住まい・生活」で 7.6%と続いている。「不満」が最も多いのは「道路・交通」で 22.7%、以下、「都市形成」で 10.2%、「行財政」で 9.4%と続いている。

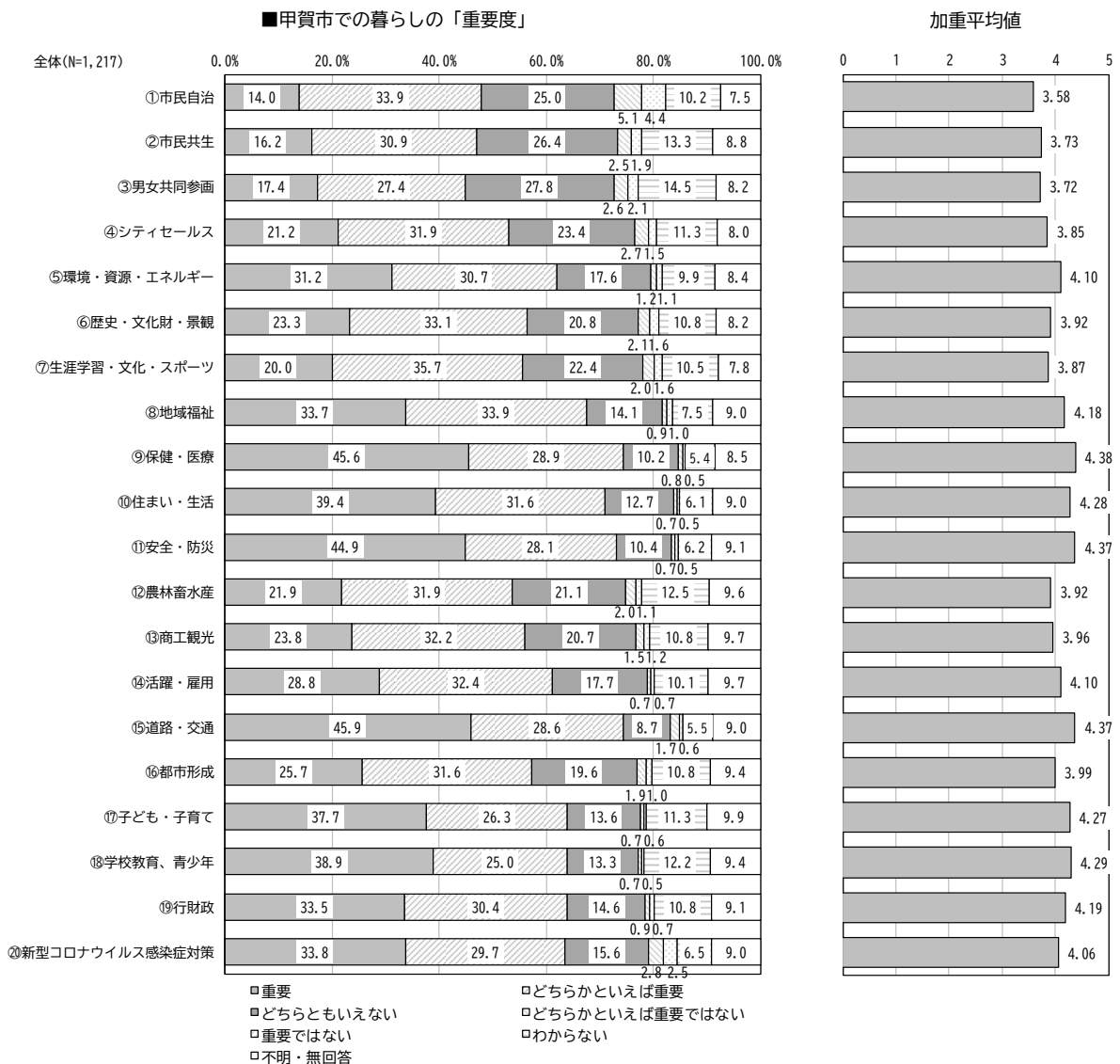
●加重平均値(「満足」を 5 点、「どちらかといえば満足」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「どちらかといえば不満」を 2 点、「不満」を 1 点とした場合)でみると、最も高いのは「新型コロナウイルス感染症対策」で 3.53 点、以下、「歴史・文化財・景観」で 3.37 点、「環境・資源・エネルギー」で 3.31 点と続いている。



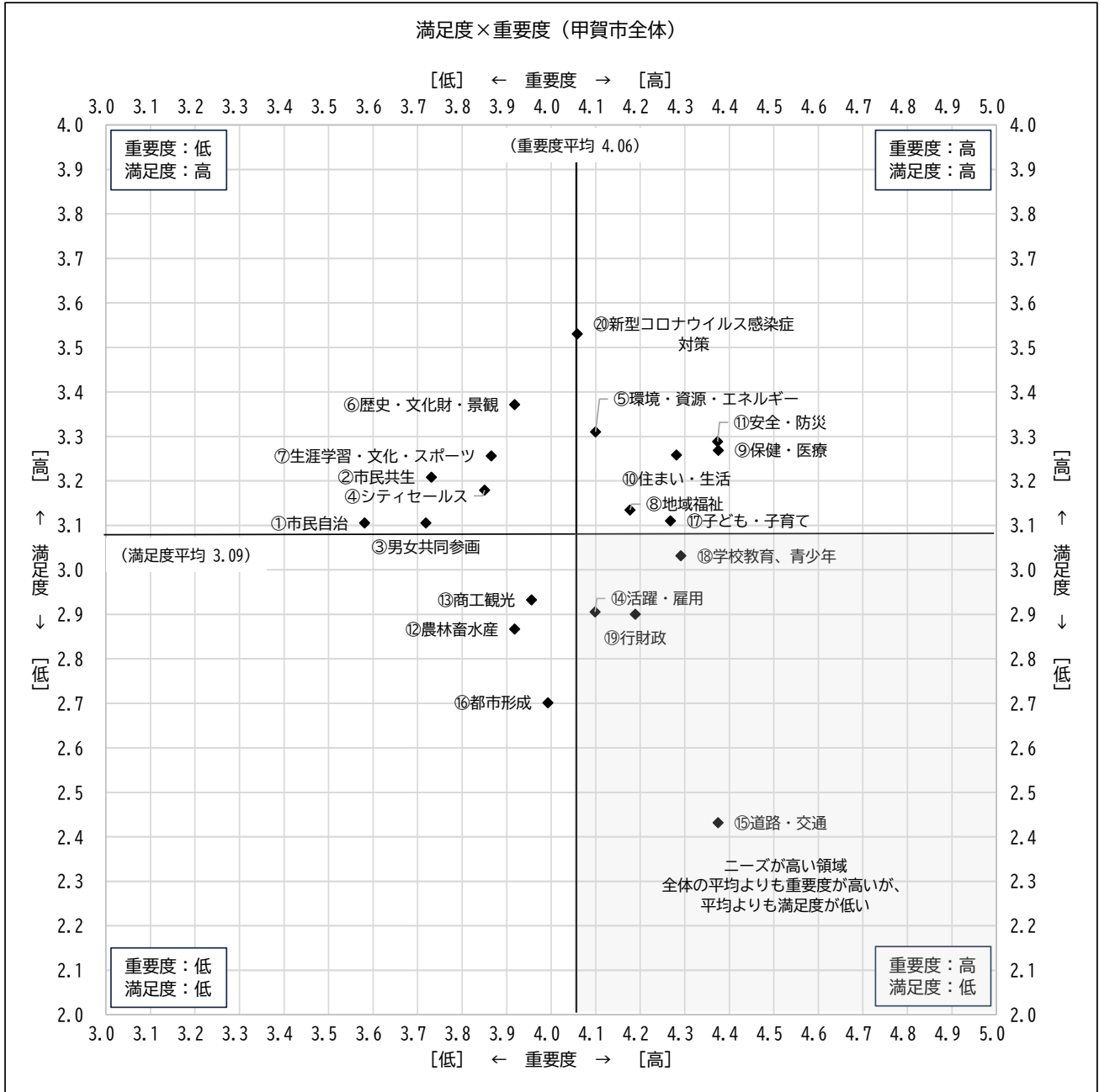
【重要度】

●全体でみると、「重要」が最も多いのは「道路・交通」で45.9%、以下、「保健・医療」で45.6%、「安全・防災」で44.9%と続いている。「重要ではない」が最も多いのは「市民自治」で4.4%、以下、「新型コロナウイルス感染症対策」で2.5%、「男女共同参画」で2.1%と続いている。

●加重平均値（「重要」を5点、「どちらかといえば重要」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえば重要ではない」を2点、「重要ではない」を1点とした場合）でみると、最も高いのは「保健・医療」で4.38点、以下、「安全・防災」「道路・交通」で4.37点と続いている。

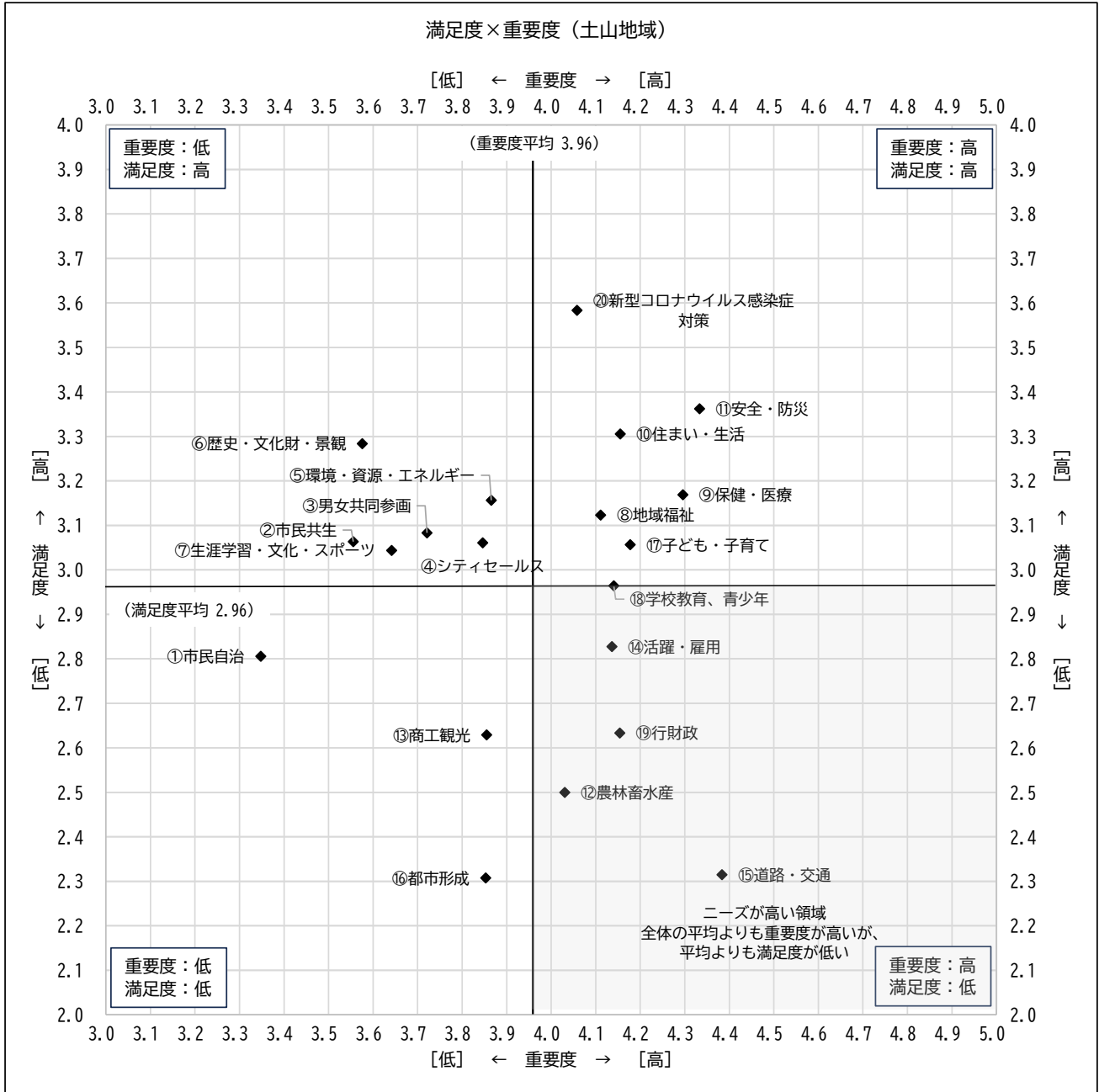


満足度を縦軸、重要度を横軸とし、全項目の加重平均値の平均を原点とした 2 次元上にそれぞれを配置した場合、「活躍・雇用」「道路・交通」「学校教育、青少年」「行財政」の 4 項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



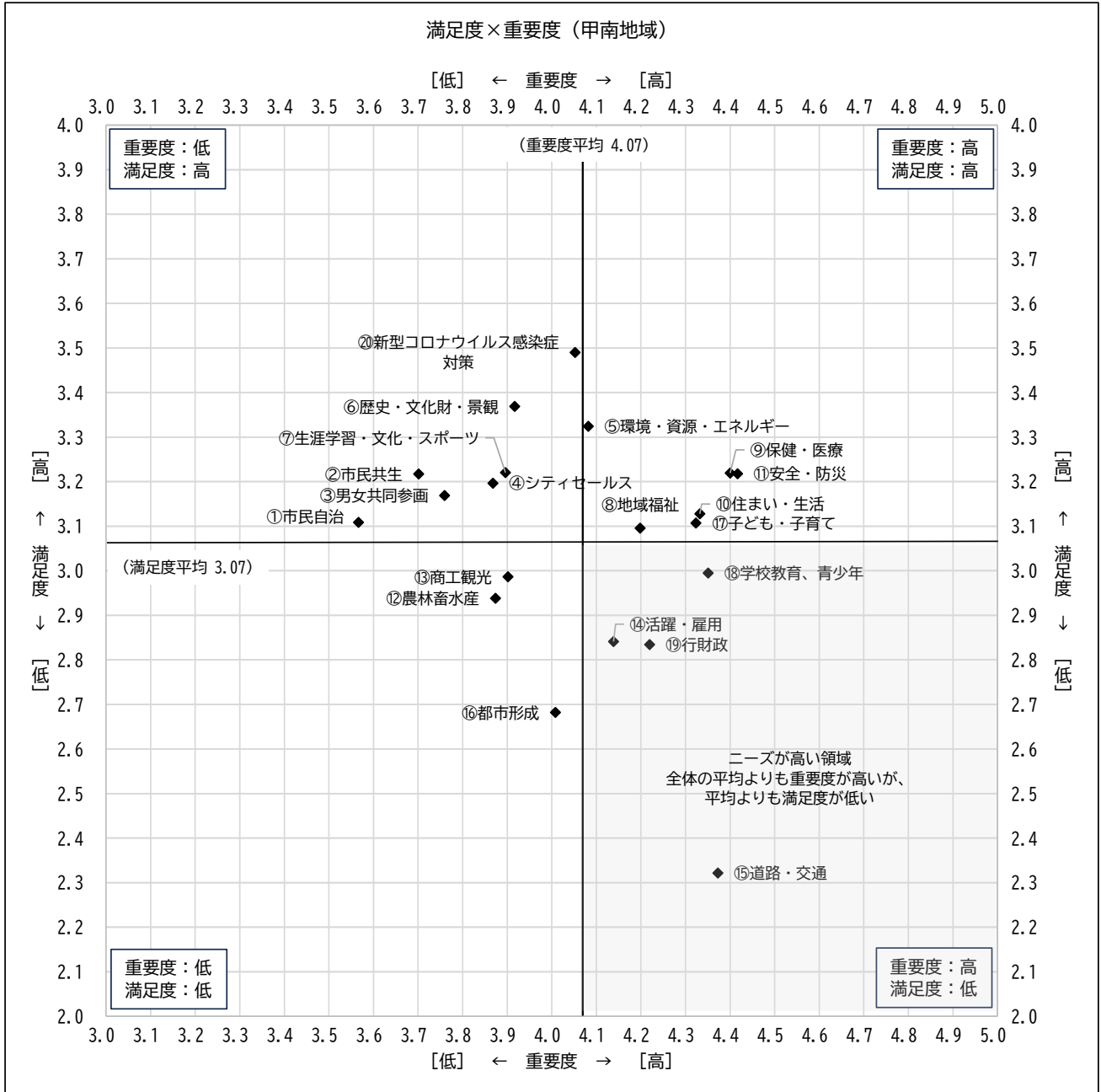
※全体の満足度平均 3.09 重要度平均 4.06 を中心として 2 軸 4 象限にプロットしている。

土山地域について、「農林畜水産」「活躍・雇用」「道路・交通」「学校教育、青少年」「行財政」の5項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



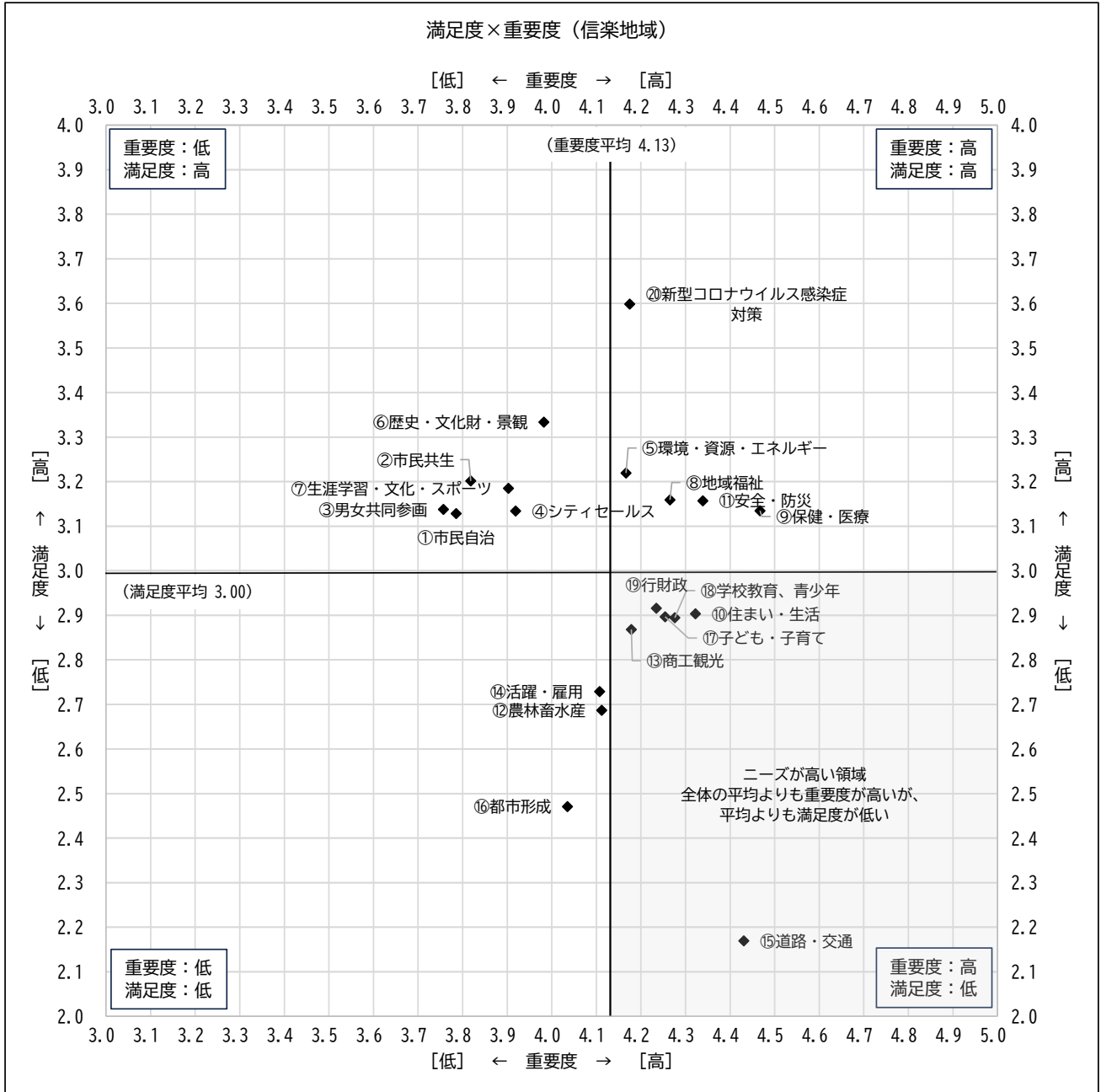
※土山地域の満足度平均 2.96 重要度平均 3.96 を中心として 2 軸 4 象限にプロットしている。

甲南地域について、「活躍・雇用」「道路・交通」「学校教育、青少年」「行財政」の4項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。



※甲南地域の満足度平均 3.07 重要度平均 4.07 を中心として 2 軸 4 象限にプロットしている。

信楽地域について、「住まい・生活」「商工観光」「道路・交通」「子ども・子育て」「学校教育、青少年」「行財政」の6項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。

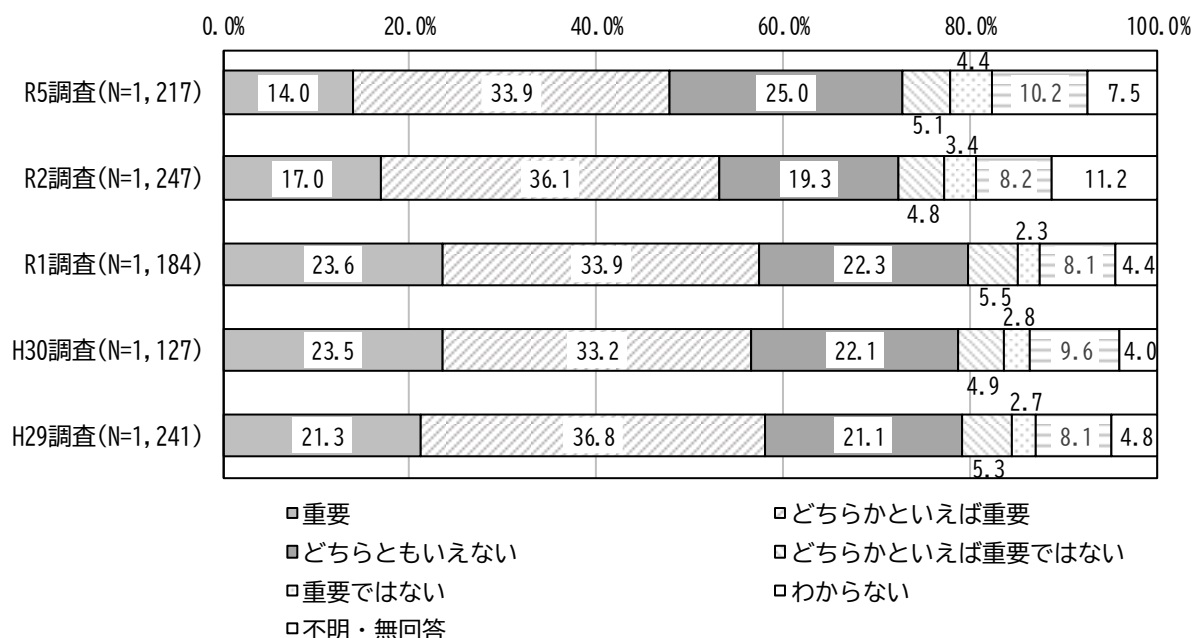


※信楽地域の満足度平均 3.00 重要度平均 4.13 を中心として 2 軸 4 象限にプロットしている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が最も減少している。

①市民自治 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 33.9%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 25.0%、「重要」が 14.0%、「わからない」が 10.2%、「どちらかといえば重要ではない」が 5.1%、「重要ではない」が 4.4%と続いている。『重要』は 47.9%となっている。

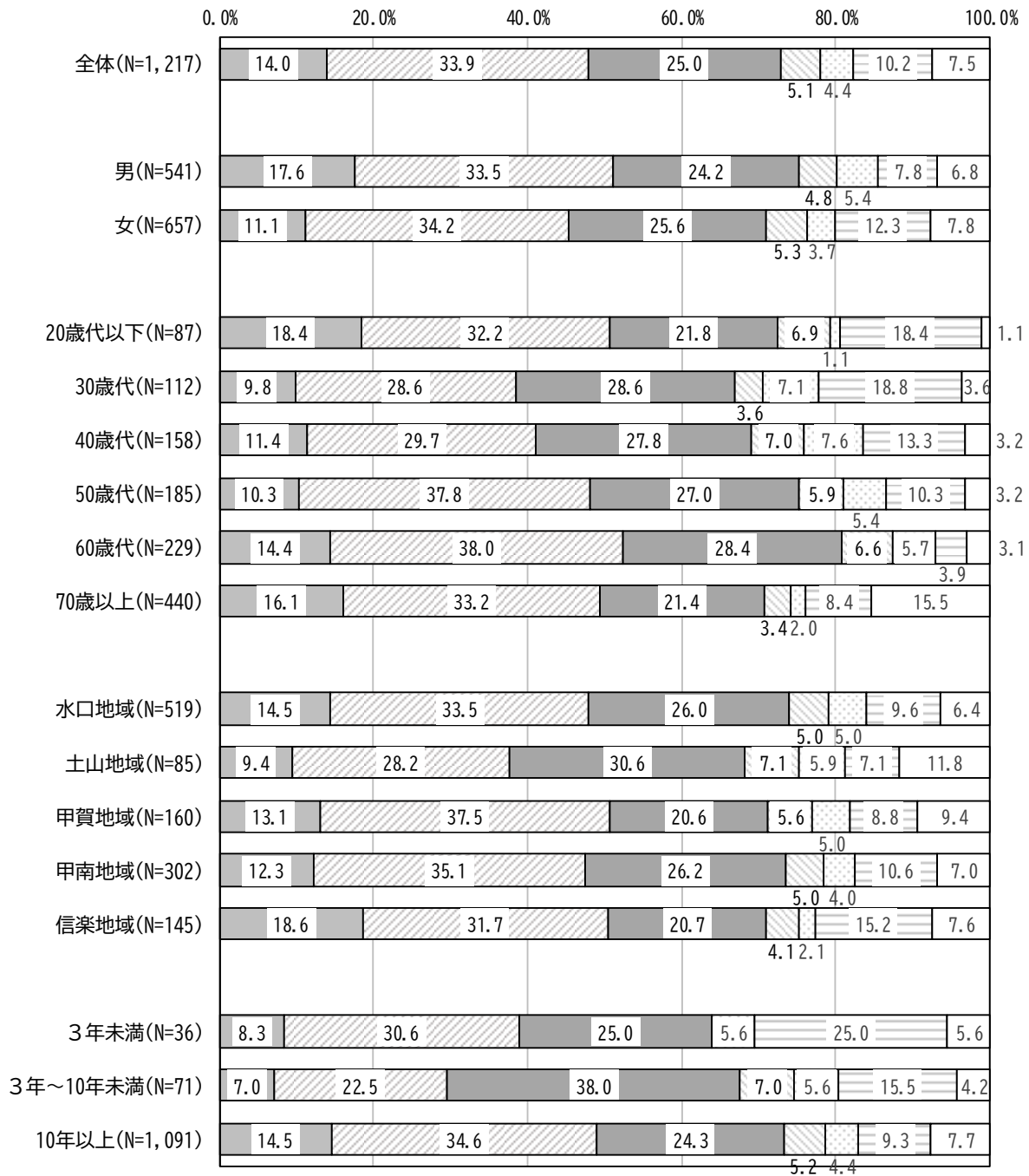
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 51.1%、女性は 45.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（30 歳代は「どちらともいえない」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 52.4%、以下、20 歳代以下で 50.6%、70 歳以上で 49.3%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「どちらともいえない」が、他の地域では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 50.6%、以下、信楽地域で 50.3%、水口地域で 48.0%、甲南地域で 47.4%、土山地域で 37.6%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 49.1%、以下、3 年未満で 38.9%、3 年～10 年未満で 29.5%と続いている。

①市民自治 重要度（単数回答）

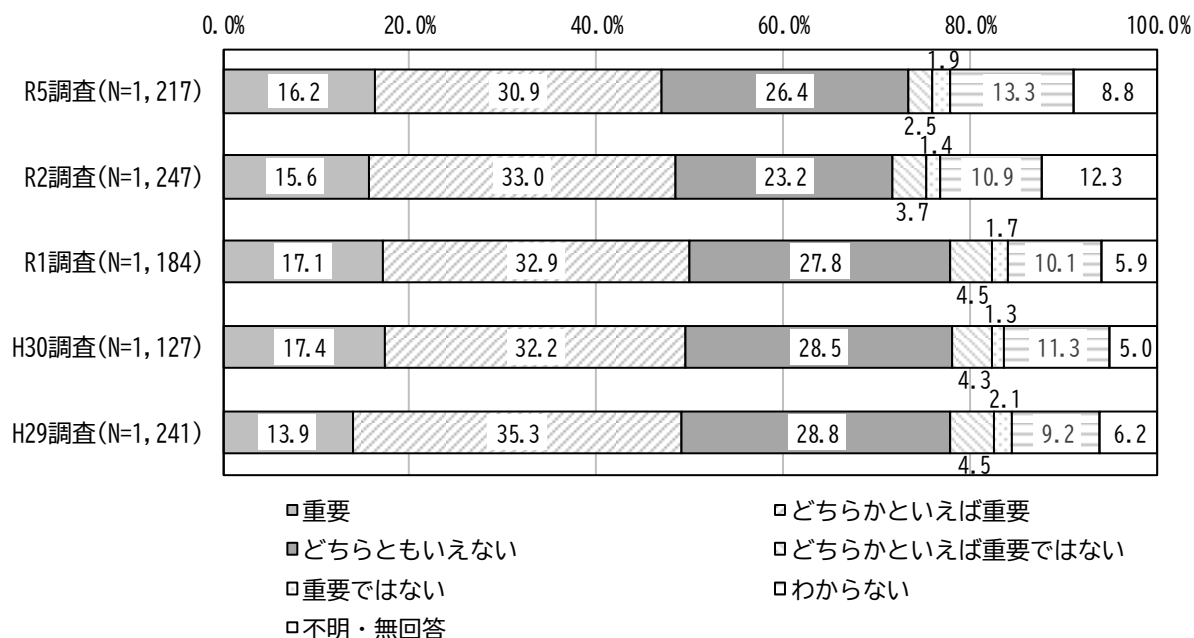


- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

②市民共生 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 30.9%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 26.4%、「重要」が 16.2%、「わからない」が 13.3%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.5%、「重要ではない」が 1.9%と続いている。「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は 47.1%となっている。

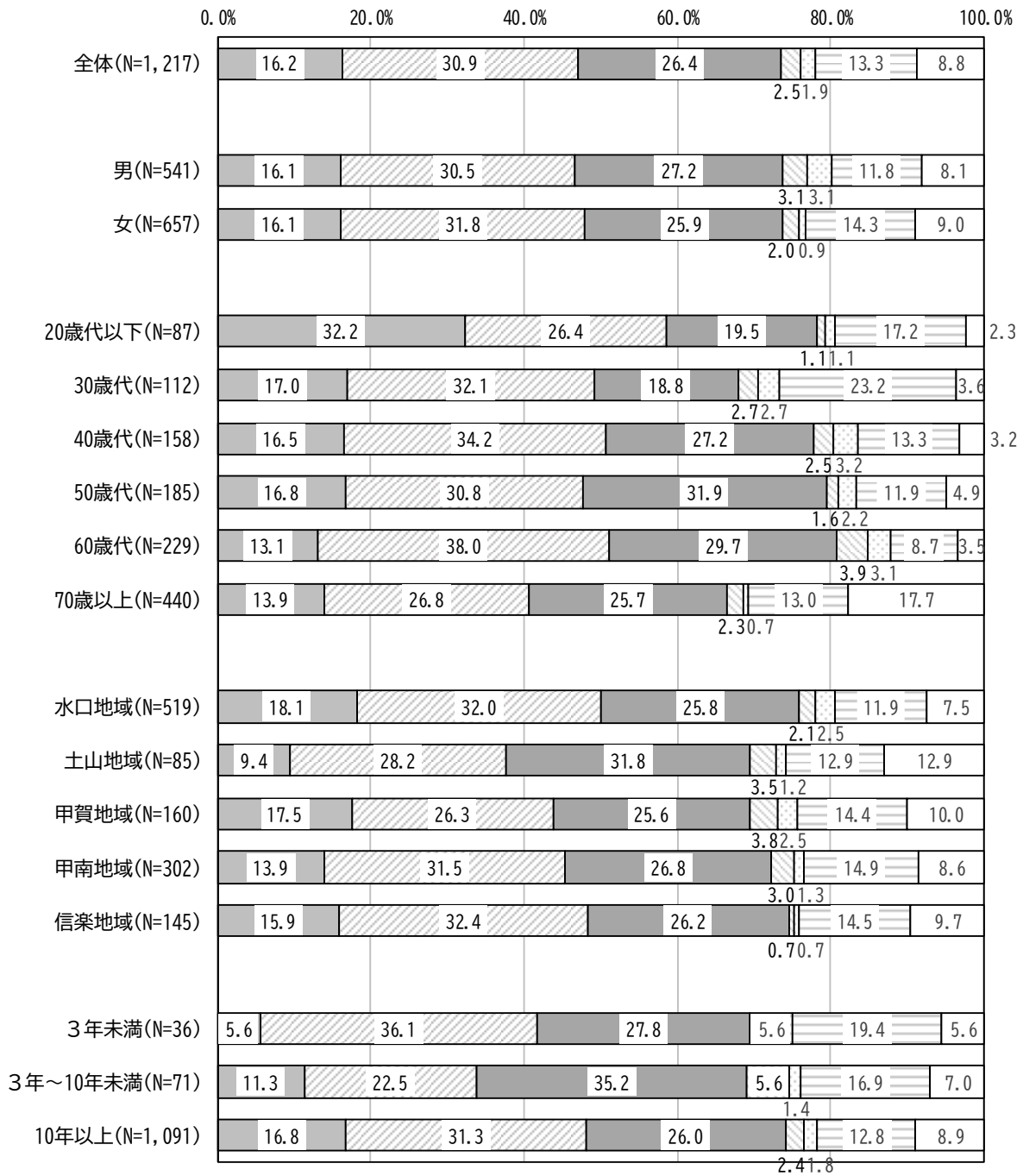
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 46.6%、女性は 47.9%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「重要」が、50 歳代は「どちらともいえない」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 58.6%、以下、60 歳代で 51.1%、40 歳代で 50.7%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「どちらともいえない」が、他の地域では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 50.1%、以下、信楽地域で 48.3%、甲南地域で 45.4%、甲賀地域で 43.8%、土山地域で 37.6%と続いている。

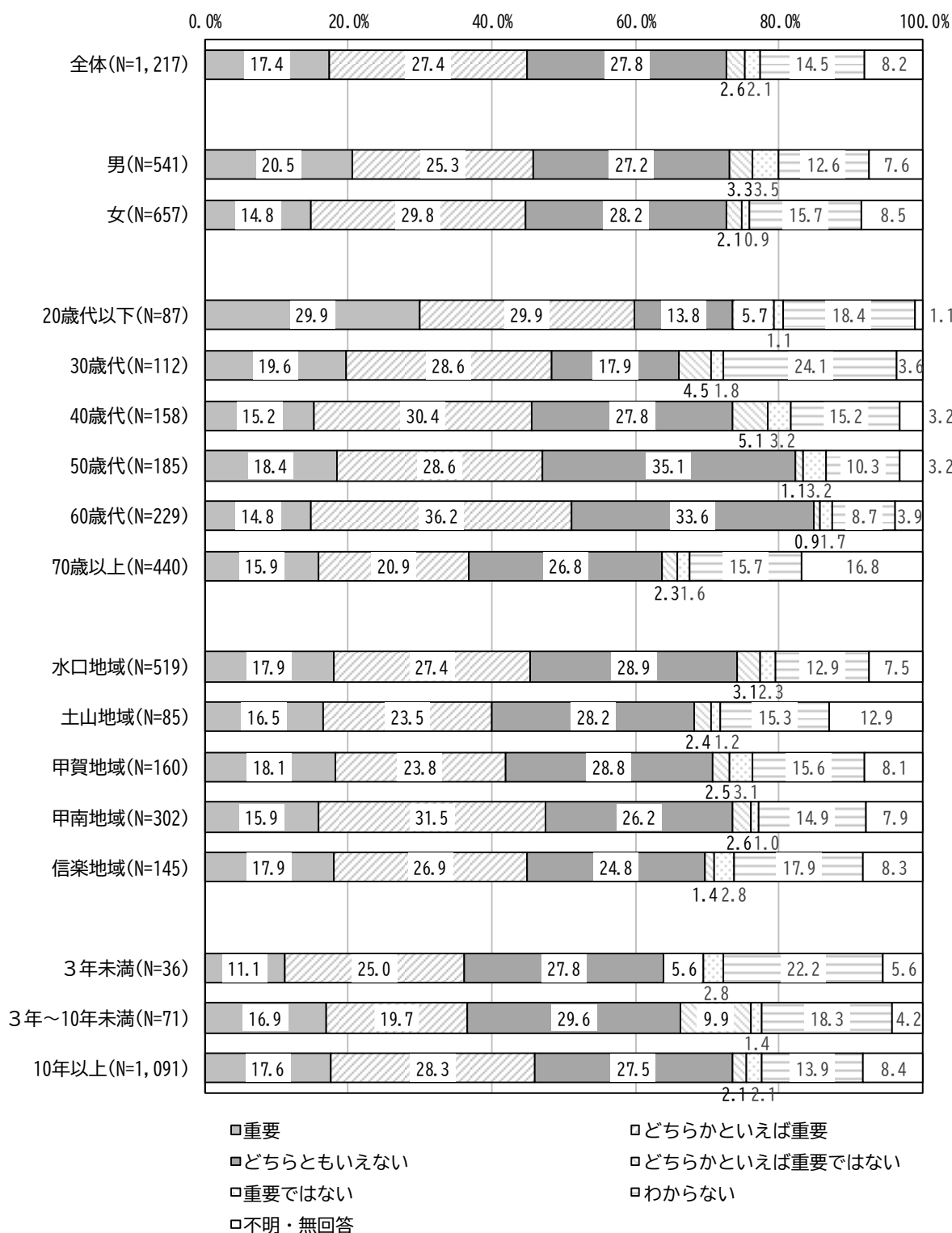
●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 48.1%、以下、3 年未満で 41.7%、3 年～10 年未満で 33.8%と続いている。

②市民共生 重要度 (単数回答)



- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

③男女共同参画 重要度 (単数回答)

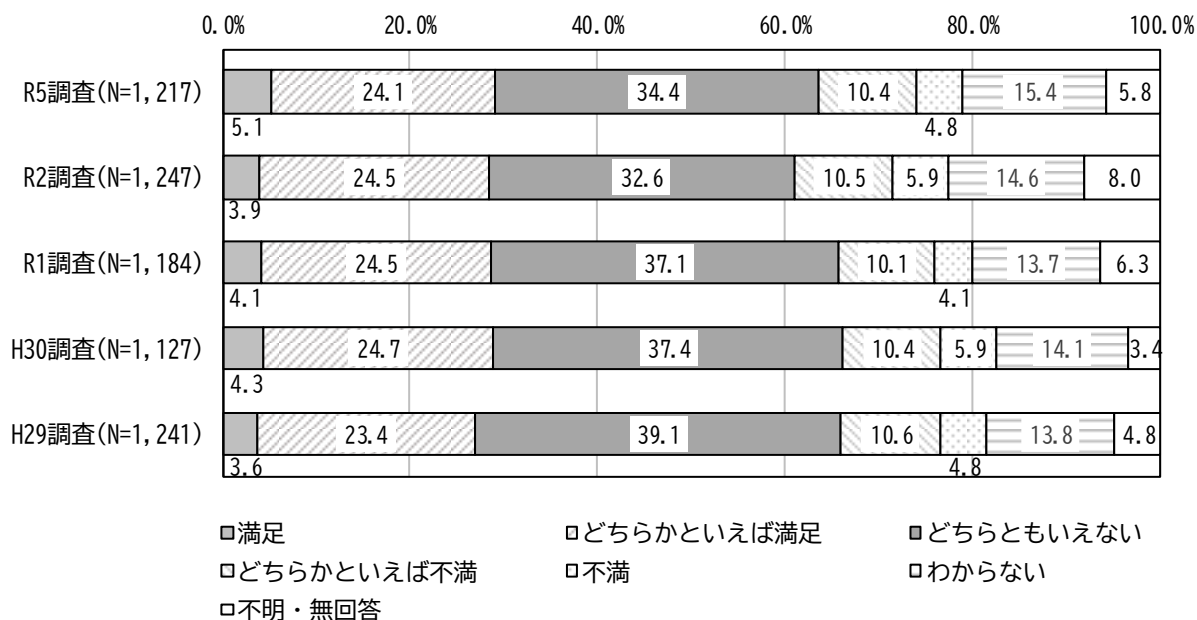


④ シティセールス(情報発信、広報広聴)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

④シティセールス 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらともいえない」が 34.4%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が24.1%、「わからない」が15.4%、「どちらかといえば不満」が10.4%、「満足」が5.1%、「不満」が4.8%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 29.2%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 27.2%、女性は 30.8%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「どちらかといえば満足」が、30 歳代は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 35.6%、以下、40 歳代で 35.4%、70 歳以上で 29.5%と続いている。

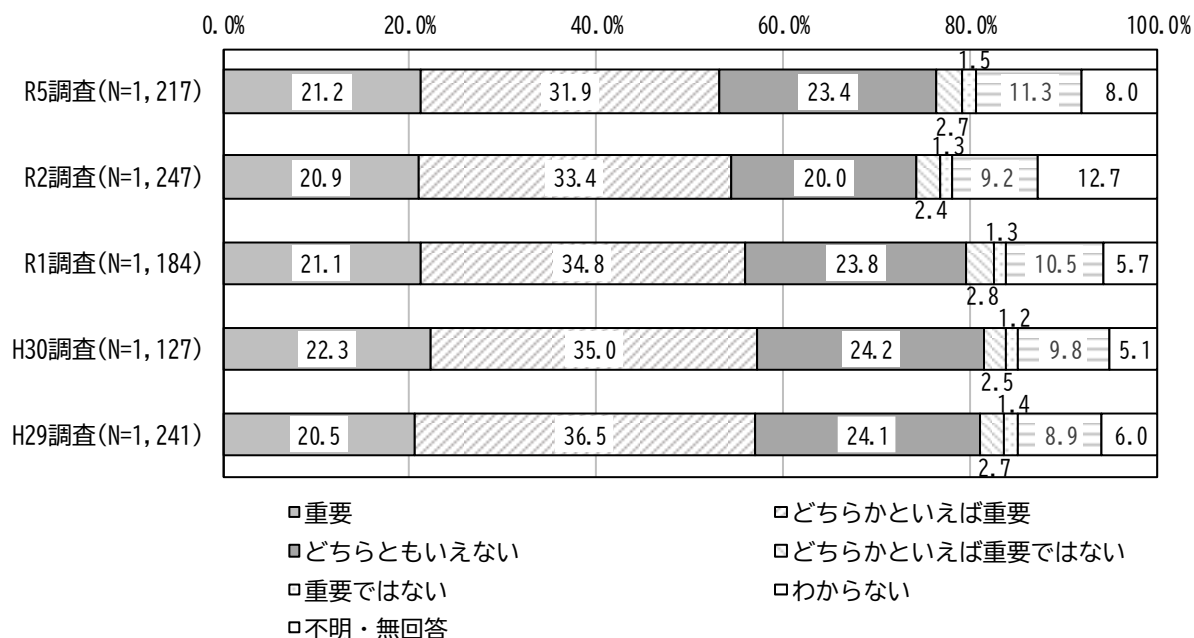
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 32.1%、以下、甲南地域で 29.8%、信楽地域で 26.2%、土山地域で 25.9%、甲賀地域で 22.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 29.3%、以下、3 年～10 年未満で 25.3%、3 年未満で 25.0%と続いている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

④シティセールス 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が31.9%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が23.4%、「重要」が21.2%、「わからない」が11.3%、「どちらかといえば重要ではない」が2.7%、「重要ではない」が1.5%と続いている。「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は53.1%となっている。

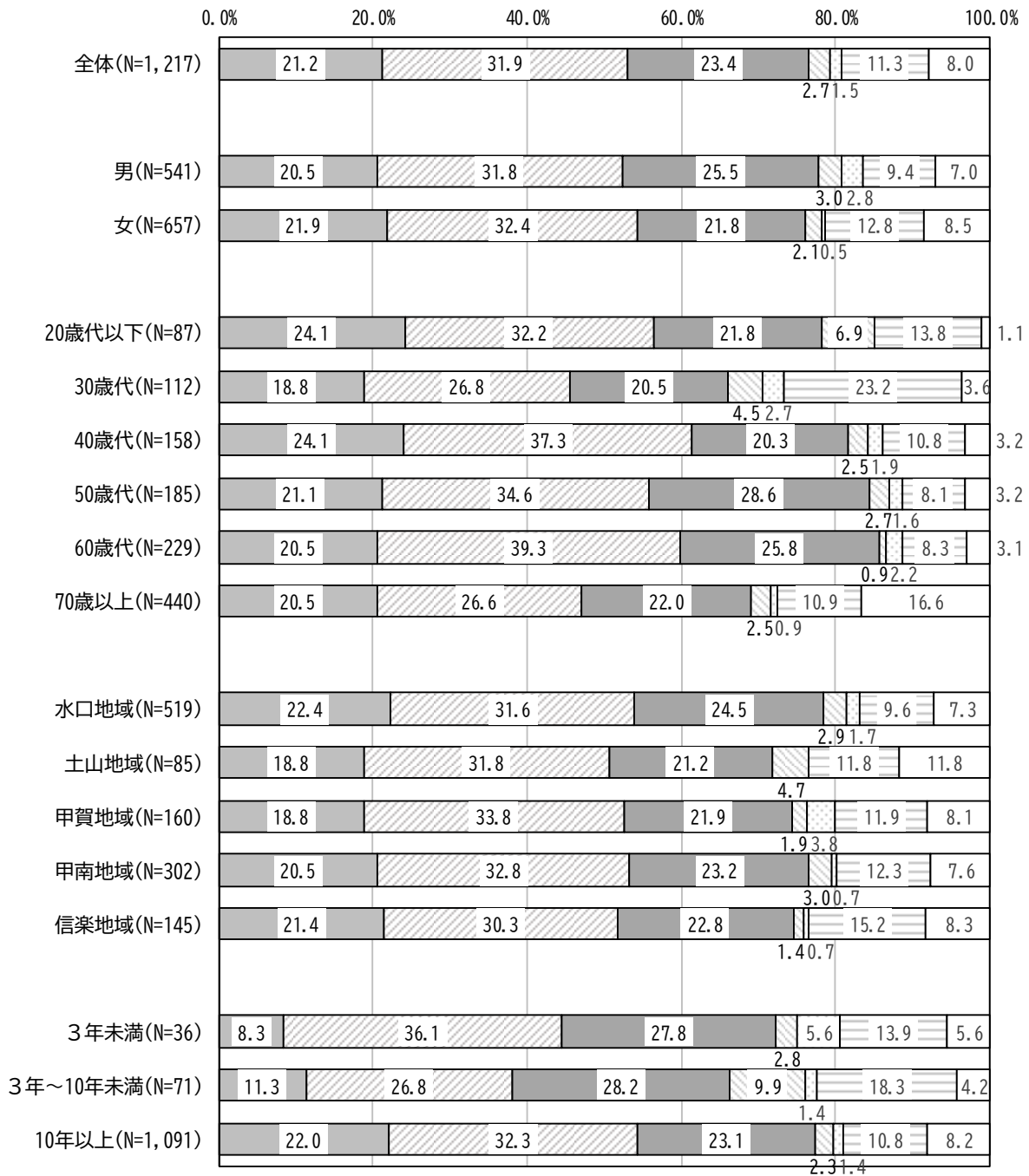
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は52.3%、女性は54.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは40歳代で61.4%、以下、60歳代で59.8%、20歳代以下で56.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で54.0%、以下、甲南地域で53.3%、甲賀地域で52.6%、信楽地域で51.7%、土山地域で50.6%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは10年以上で54.3%、以下、3年未満で44.4%、3年～10年未満で38.1%と続いている。

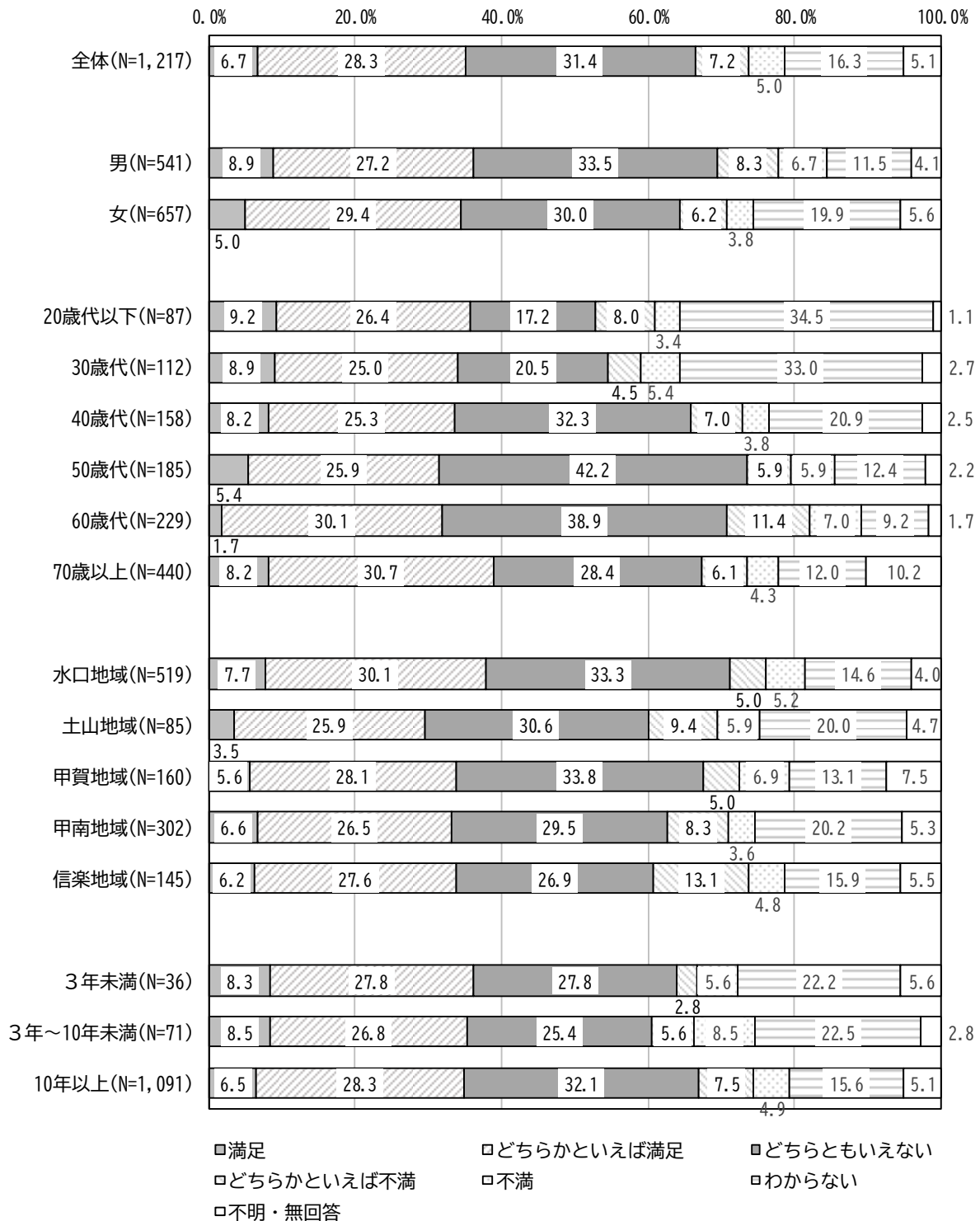
④シティセールス 重要度（単数回答）



- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない
- 不明・無回答

●居住年数別にみると、10年以上は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている(3年未満は「どちらともいえない」と同率)。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で36.1%、以下、3年～10年未満で35.3%、10年以上で34.8%と続いており、居住年数が短くなるにつれて多くなっている。

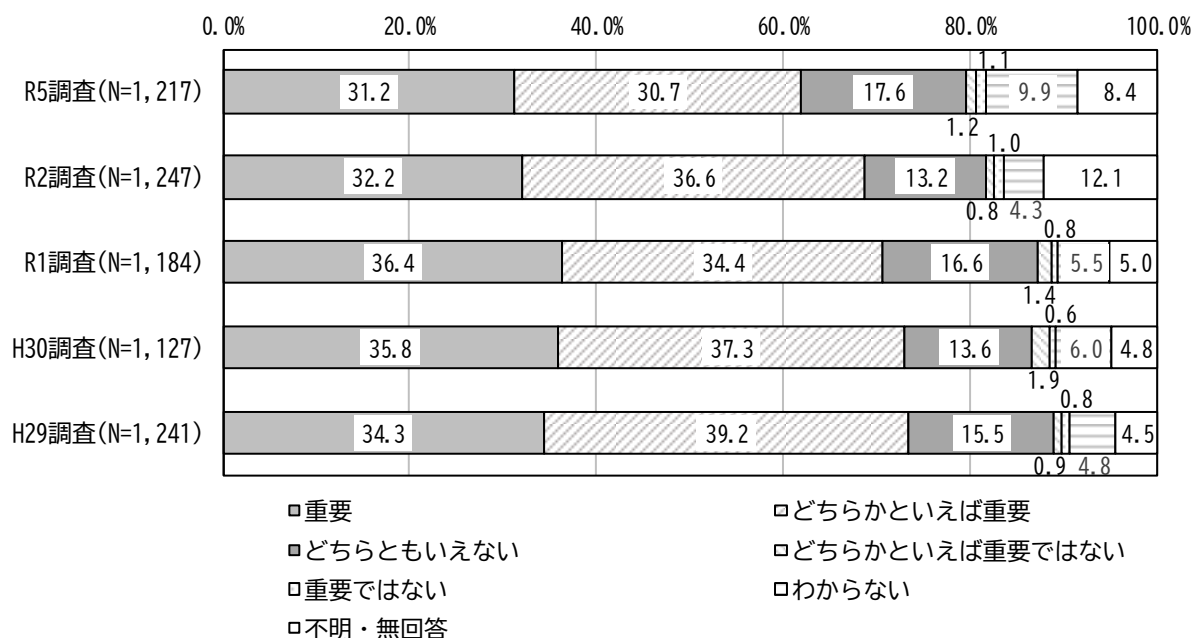
⑤環境・資源・エネルギー 満足度 (単数回答)



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』※の割合が減少している。

⑤環境・資源・エネルギー 重要度（単数回答）



※H29～R2調査は、「⑤環境・景観（自然保護、景観保全、公園整備、生活環境）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「重要」が 31.2%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 30.7%、「どちらともいえない」が 17.6%、「わからない」が 9.9%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.2%、「重要ではない」が 1.1%と続いている。『重要』は 61.9%となっている。

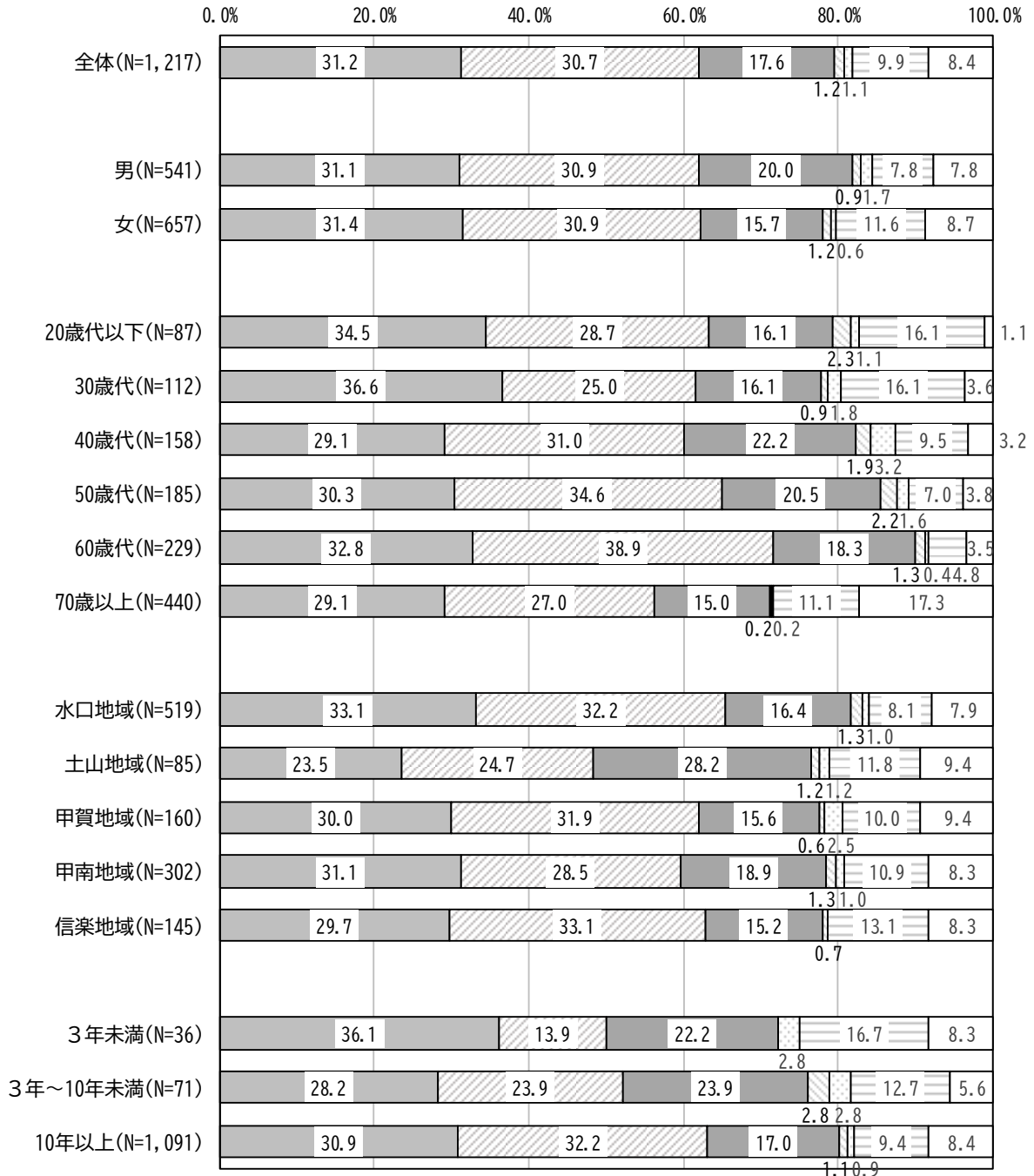
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 62.0%、女性は 62.3%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、70 歳以上は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 71.7%、以下、50 歳代で 64.9%、20 歳代以下で 63.2%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「重要」が、土山地域は「どちらともいえない」が、他の地域では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 65.3%、以下、信楽地域で 62.8%、甲賀地域で 61.9%、甲南地域で 59.6%、土山地域で 48.2%と続いている。

●居住年数別にみると、10 年以上は「どちらかといえば重要」が、他の年数では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 63.1%、以下、3 年～10 年未満で 52.1%、3 年未満で 50.0%と続いており、居住年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑤環境・資源・エネルギー 重要度 (単数回答)



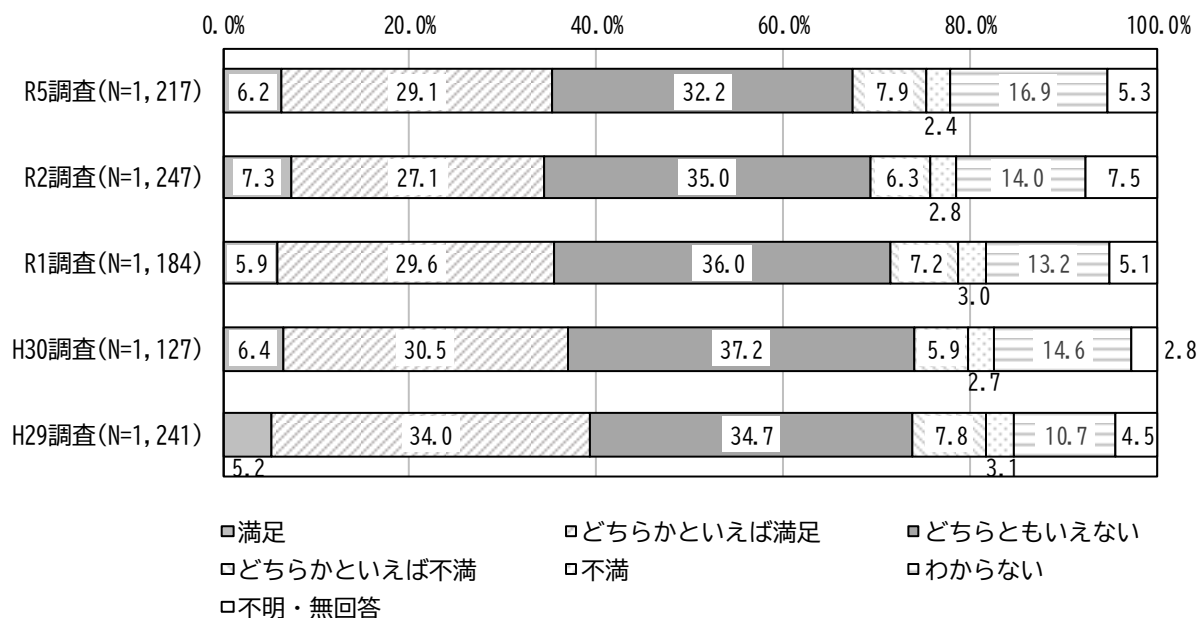
- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

⑥ 歴史・文化財・景観(文化財の調査、保護、活用、景観の保全)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑥歴史・文化財・景観 満足度 (単数回答)



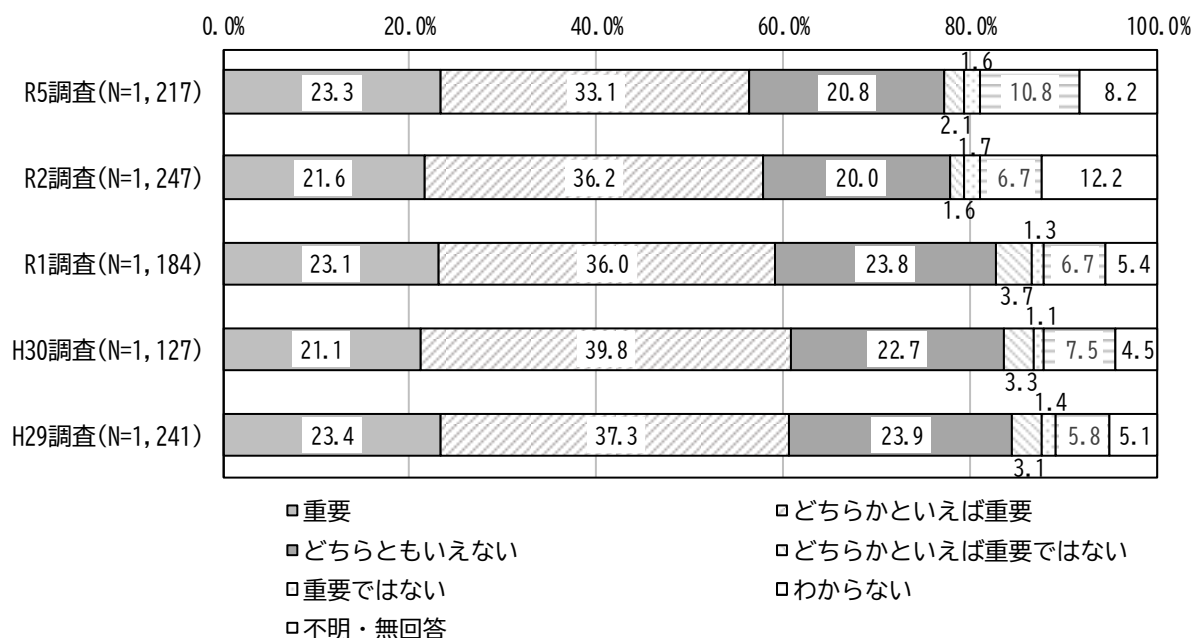
※H29～R2調査は、「⑥歴史・文化財（文化財の調査、保護、活用）」の調査項目で実施しています。

- 全体でみると、「どちらともいえない」が 32.2%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 29.1%、「わからない」が 16.9%、「どちらかといえば不満」が 7.9%、「満足」が 6.2%、「不満」が 2.4%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 35.3%となっている。
- 性別にみると、男性は「どちらともいえない」が、女性は「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 34.7%、女性は 36.2%となっている。
- 年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、40 歳代は「どちらかといえば満足」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 50.5%、以下、30 歳代で 43.7%、40 歳代で 41.1%と続いており、若くなるにつれて多くなっている。
- 居住地域別にみると、甲賀地域、信楽地域は「どちらかといえば満足」が、他の地域では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 39.4%、以下、水口地域で 37.5%、信楽地域で 34.4%、土山地域で 33.0%、甲南地域で 30.5%と続いている。
- 居住年数別にみると、10 年以上は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 50.0%、以下、3 年～10 年未満で 38.0%、10年以上で 34.5%と続いており、居住年数が短くなるにつれて多くなっている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』*の割合が減少している。

⑥歴史・文化財・景観 重要度（単数回答）



※H29～R2調査は、「⑥歴史・文化財（文化財の調査、保護、活用）」の調査項目で実施しています。

●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 33.1%で最も多くなっており、以下、「重要」が 23.3%、「どちらともいえない」が 20.8%、「わからない」が 10.8%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.1%、「重要ではない」が 1.6%と続いている。『重要』は 56.4%となっている。

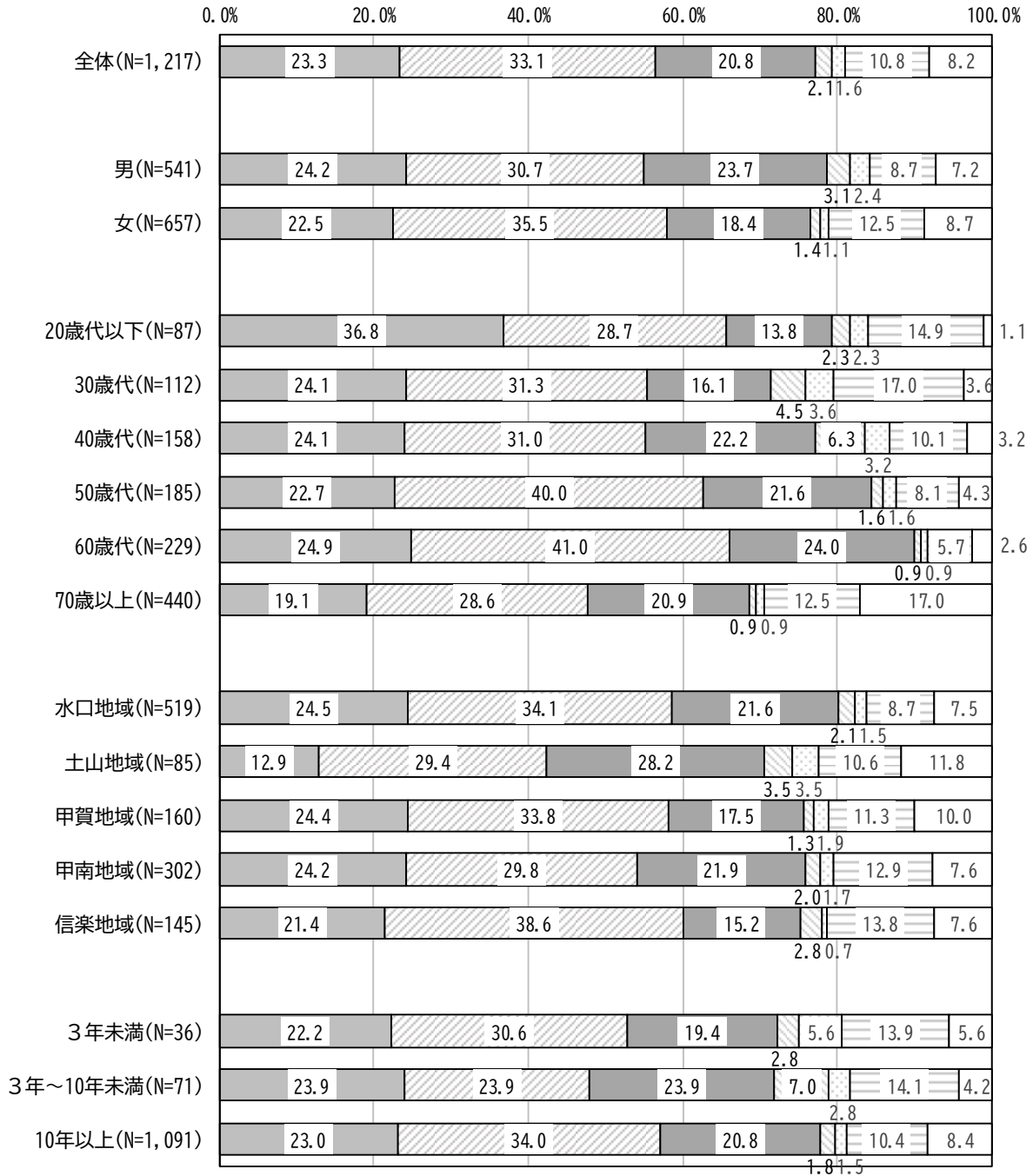
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 54.9%、女性は 58.0%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 65.9%、以下、20 歳代以下で 65.5%、50 歳代で 62.7%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 60.0%、以下、水口地域で 58.6%、甲賀地域で 58.2%、甲南地域で 54.0%、土山地域で 42.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（3 年～10 年未満は「重要」「どちらともいえない」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 57.0%、以下、3 年未満で 52.8%、3 年～10 年未満で 47.8%と続いている。

⑥歴史・文化財・景観 重要度 (単数回答)



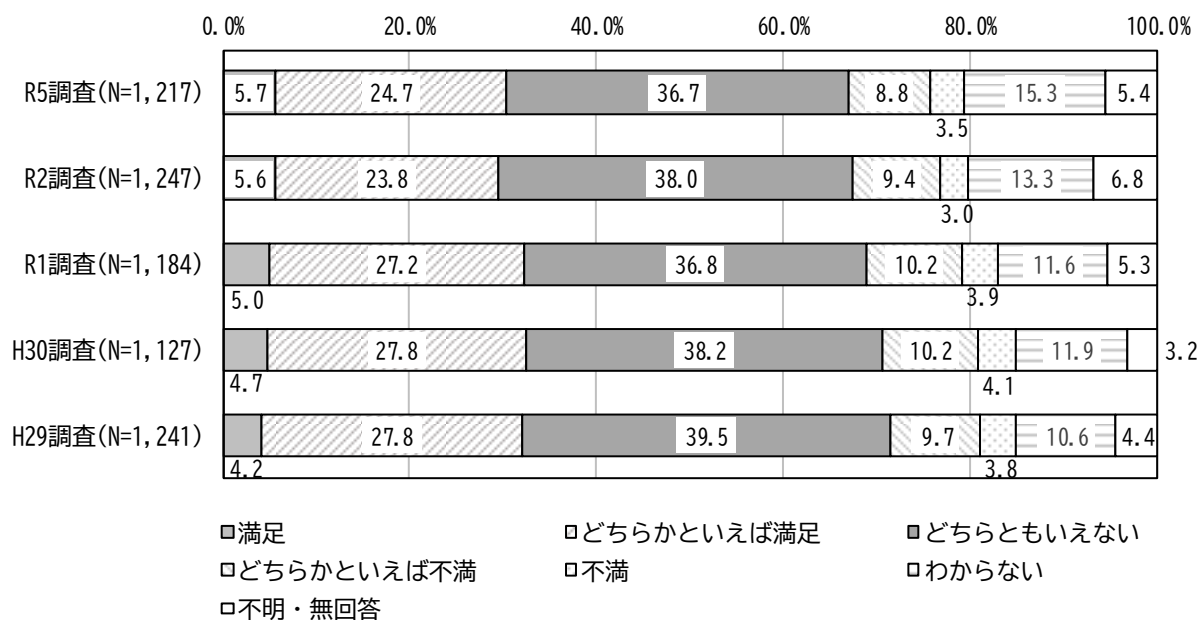
- 重要
- どちらかといえば重要
- 重要ではない
- どちらかといえば重要ではない
- 分からない
- 不明・無回答

⑦ 生涯学習・文化・スポーツ(生涯学習、文化、芸術、スポーツの振興)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑦生涯学習・文化・スポーツ 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらともいえない」が 36.7%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 24.7%、「わからない」が 15.3%、「どちらかといえば不満」が 8.8%、「満足」が 5.7%、「不満」が 3.5%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 30.4%となっている。

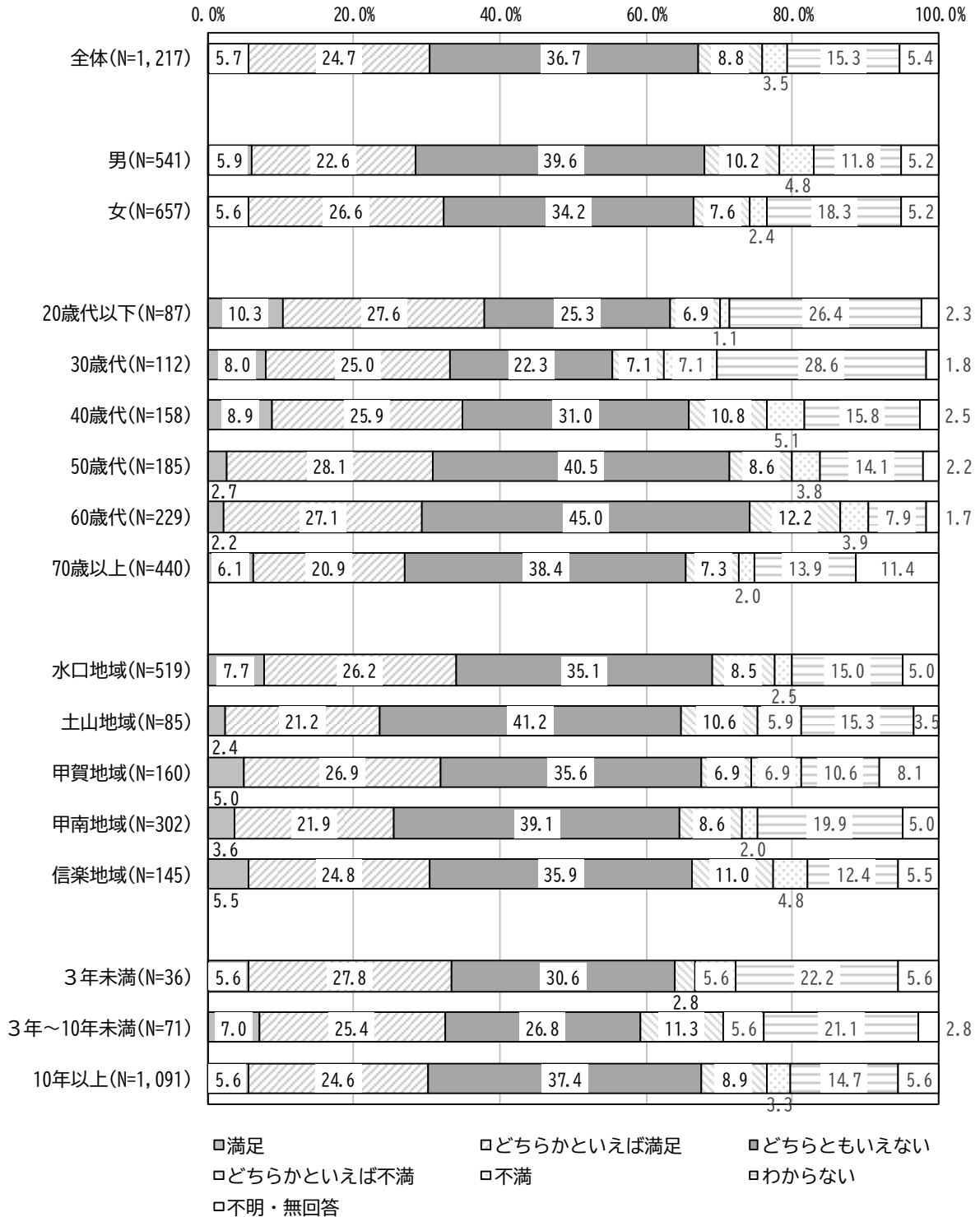
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 28.5%、女性は 32.2%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「どちらかといえば満足」が、30 歳代は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 37.9%、以下、40 歳代で 34.8%、30 歳代で 33.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 33.9%、以下、甲賀地域で 31.9%、信楽地域で 30.3%、甲南地域で 25.5%、土山地域で 23.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 33.4%、以下、3 年～10 年未満で 32.4%、10年以上で 30.2%と続いており、居住年数が短くなるにつれて多くなっている。

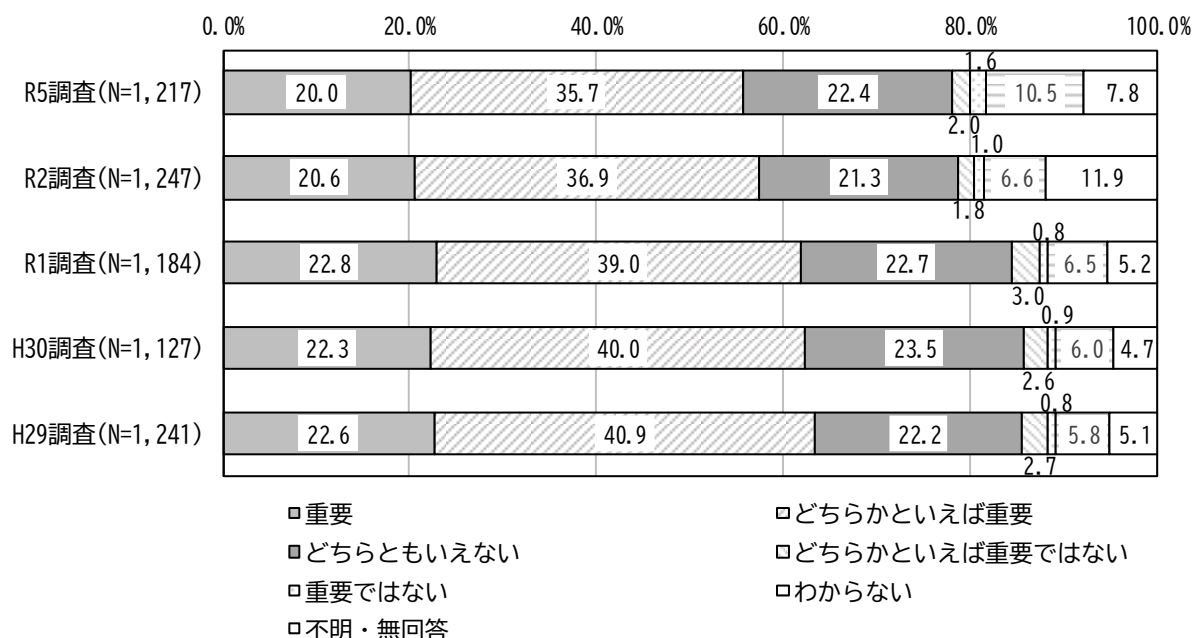
⑦生涯学習・文化・スポーツ 満足度（単数回答）



【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑦生涯学習・文化・スポーツ 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 35.7%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 22.4%、「重要」が 20.0%、「わからない」が 10.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.0%、「重要ではない」が 1.6%と続いている。『重要』は 55.7%となっている。

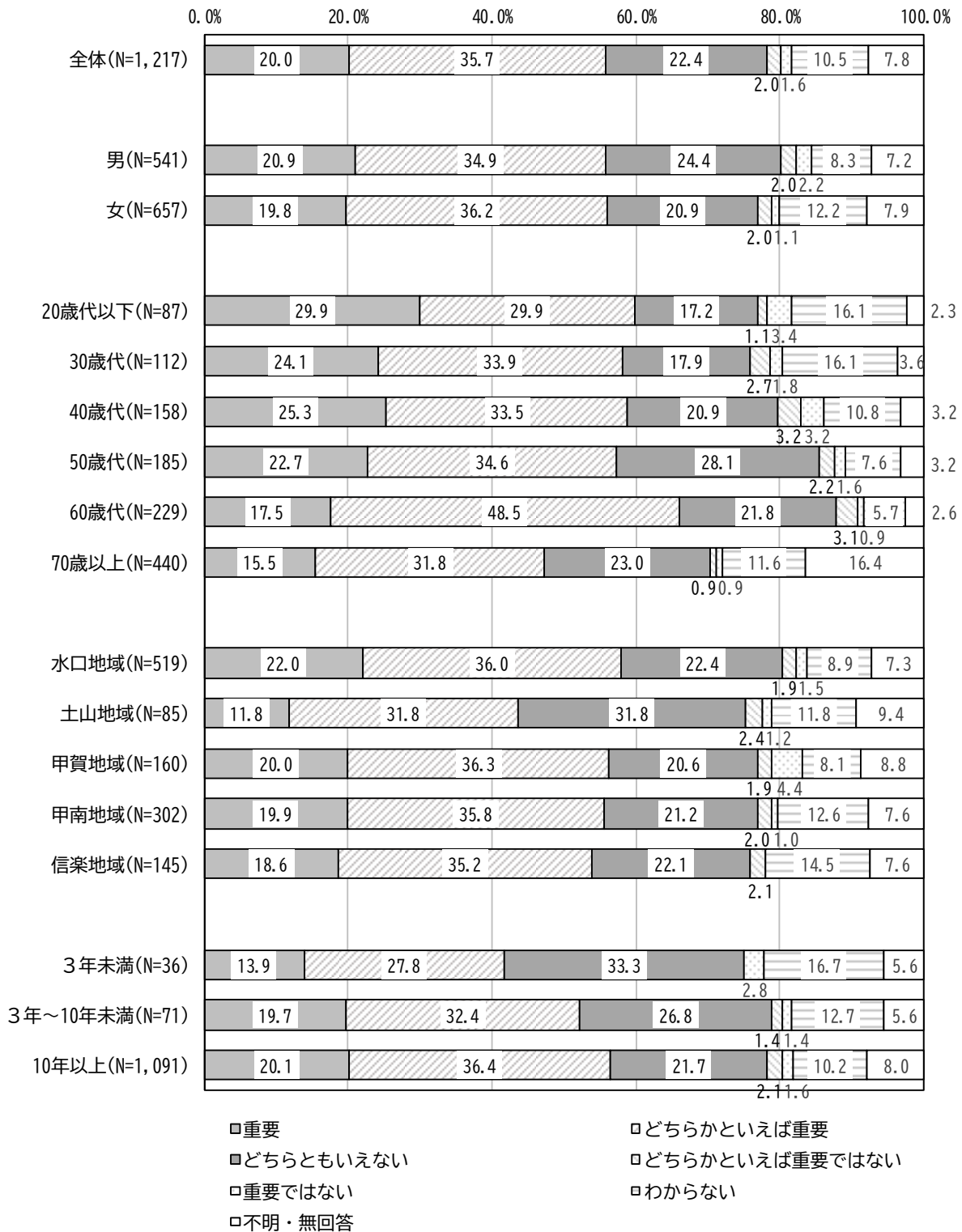
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 55.8%、女性は 56.0%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（20 歳代以下は「重要」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 66.0%、以下、20 歳代以下で 59.8%、40 歳代で 58.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている（土山地域は「どちらともいえない」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 58.0%、以下、甲賀地域で 56.3%、甲南地域で 55.7%、信楽地域で 53.8%、土山地域で 43.6%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 56.5%、以下、3 年～10 年未満で 52.1%、3 年未満で 41.7%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑦生涯学習・文化・スポーツ 重要度（単数回答）



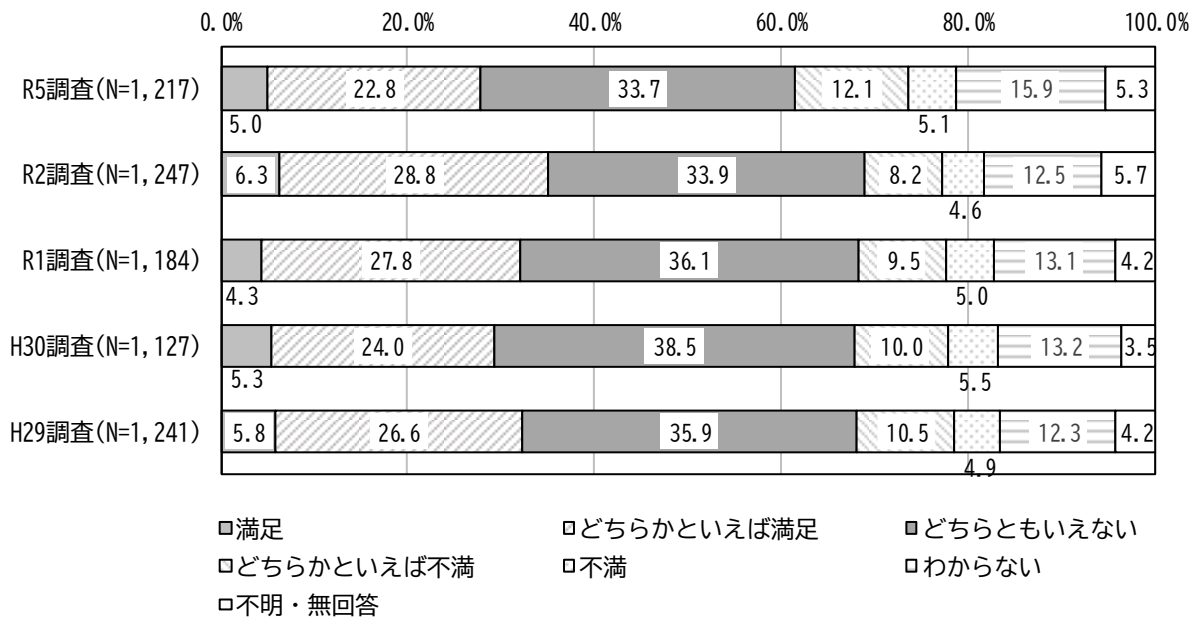
【3. こぼれる笑顔に応える安心】

⑧ 地域福祉(高齢者の生きがい、障がい福祉、地域福祉団体、ボランティア、セーフティネット)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満』の割合が増加し、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が減少している。

⑧地域福祉 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらともいえない」が 33.7%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が22.8%、「わからない」が15.9%、「どちらかといえば不満」が12.1%、「不満」が5.1%、「満足」が5.0%と続いている。『満足』は 27.8%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 27.5%、女性は 28.3%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは70 歳以上で33.2%、以下、20 歳代以下で 28.7%、40 歳代で 27.9%と続いている。

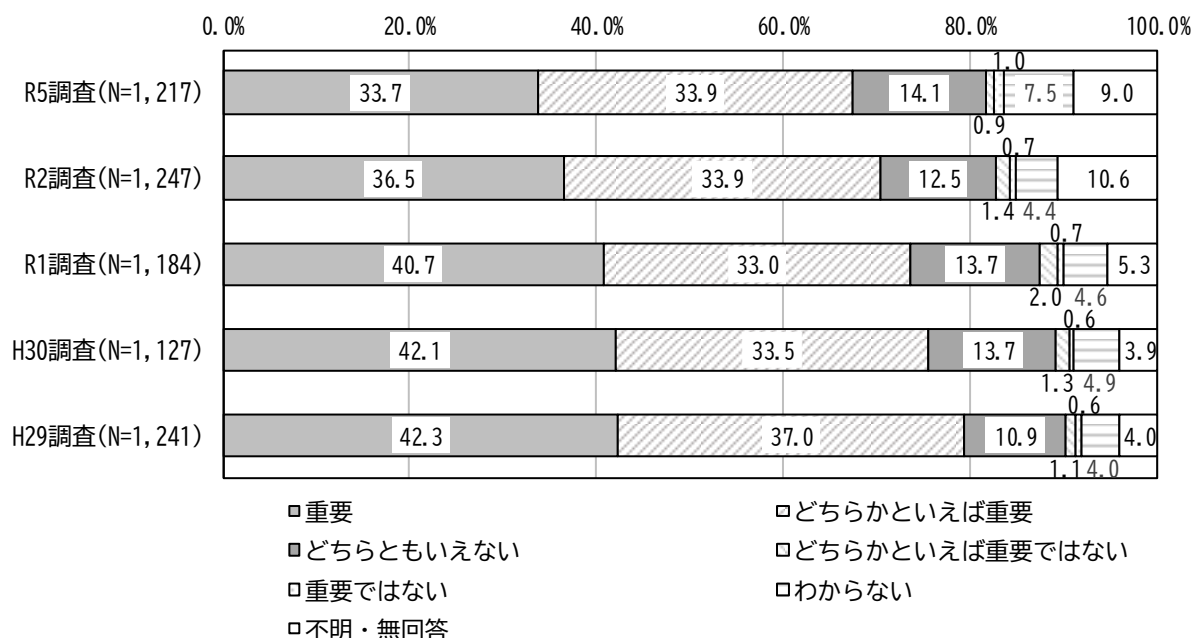
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 31.6%、以下、土山地域で 29.4%、信楽地域で 28.9%、甲賀地域で 23.2%、甲南地域で 23.1%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「わからない」が、他の年数では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは10年以上で 28.5%、以下、3 年～10 年未満で 25.3%、3年未満で 11.1%と続いており、居住年数が長くなるにつれて多くなっている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑧地域福祉 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 33.9%で最も多くなっており、以下、「重要」が 33.7%、「どちらともいえない」が 14.1%、「わからない」が 7.5%、「重要ではない」が 1.0%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.9%と続いている。『重要』は 67.6%となっている。

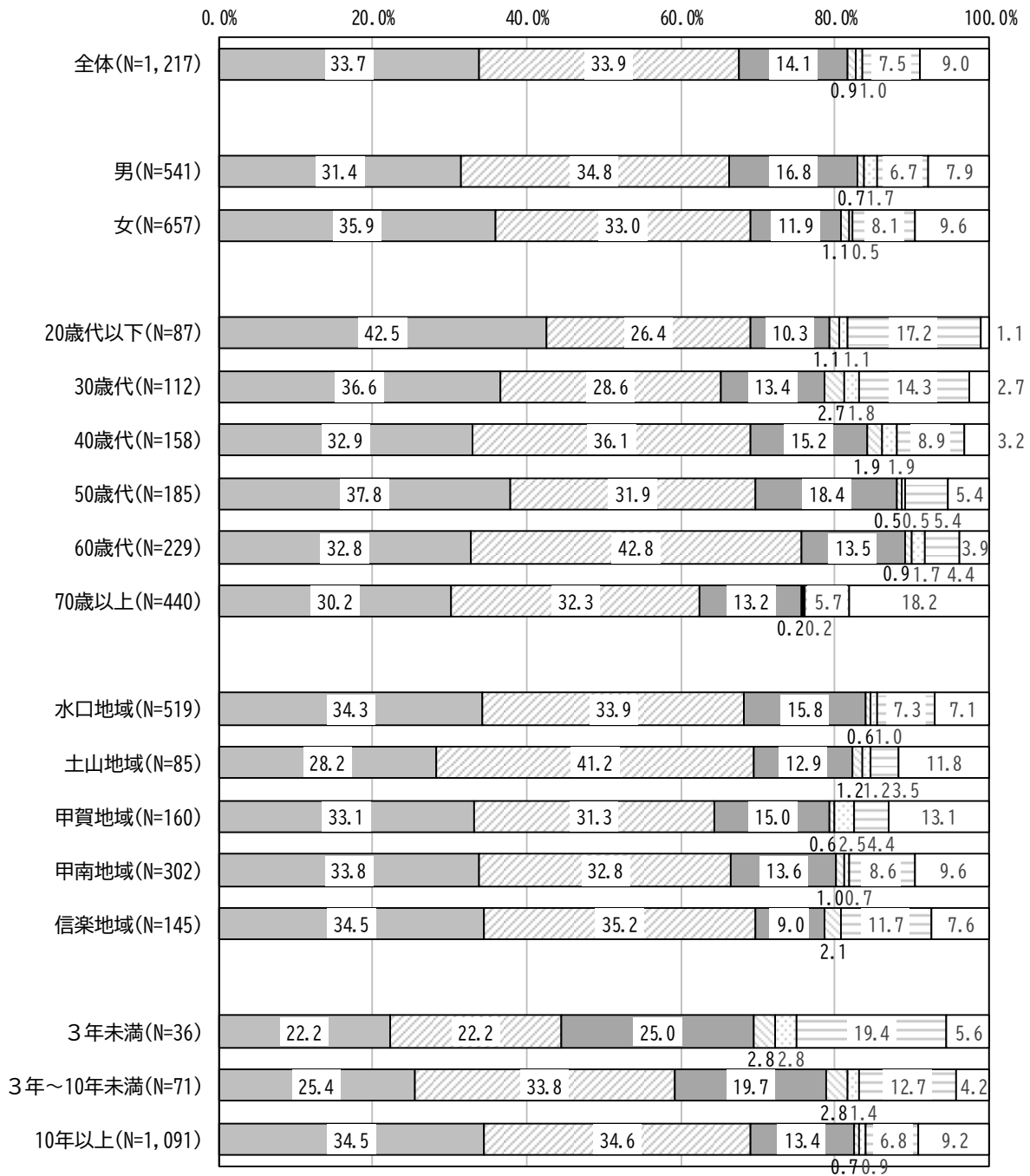
●性別にみると、男性は「どちらかといえば重要」が、女性は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 66.2%、女性は 68.9%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、50 歳代は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 75.6%、以下、50 歳代で 69.7%、40 歳代で 69.0%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲賀地域、甲南地域は「重要」が、他の地域では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 69.7%、以下、土山地域で 69.4%、水口地域で 68.2%、甲南地域で 66.6%、甲賀地域で 64.4%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 69.1%、以下、3 年～10 年未満で 59.2%、3 年未満で 44.4%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑧地域福祉 重要度（単数回答）



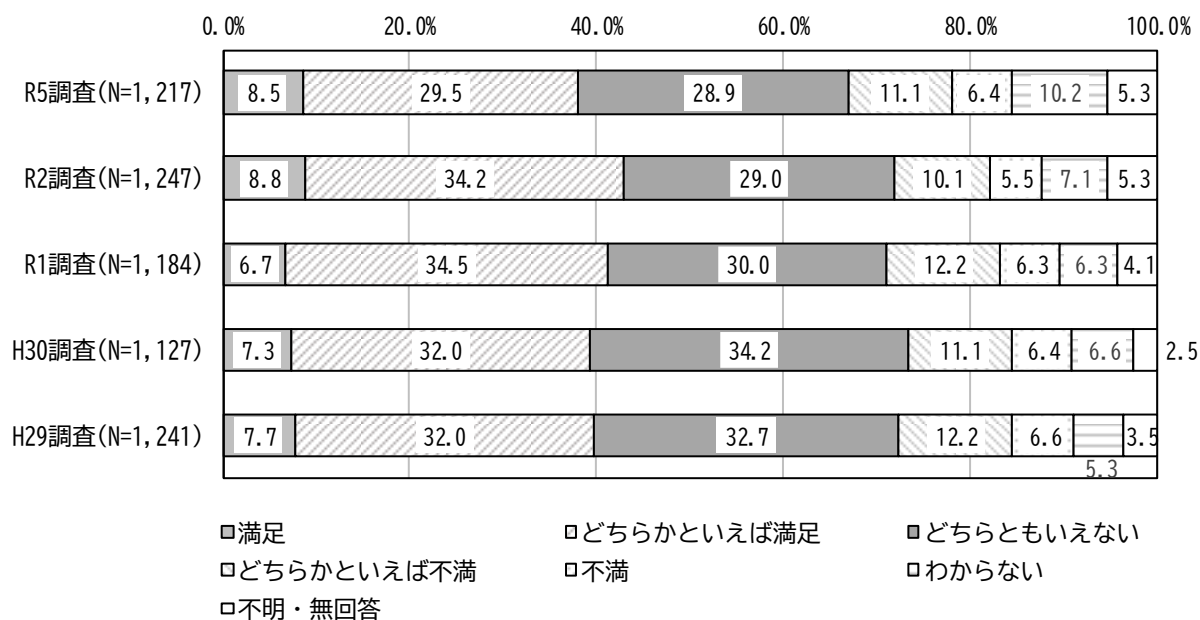
- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

⑨ 保健・医療(健康、疾病の予防と早期対策、地域医療体制、国民健康保険、後期高齢者医療保険)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑨保健・医療 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらかといえば満足」が 29.5%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が28.9%、「どちらかといえば不満」が11.1%、「わからない」が10.2%、「満足」が8.5%、「不満」が6.4%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 38.0%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば満足」が最も多くなっている(女性は「どちらともいえない」と同率)。『満足』の割合をみると、男性は 40.0%、女性は 36.5%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「わからない」が、40 歳代、70 歳以上は「どちらかといえば満足」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 46.2%、以下、40 歳代で 39.3%、60 歳代で 34.9%と続いている。

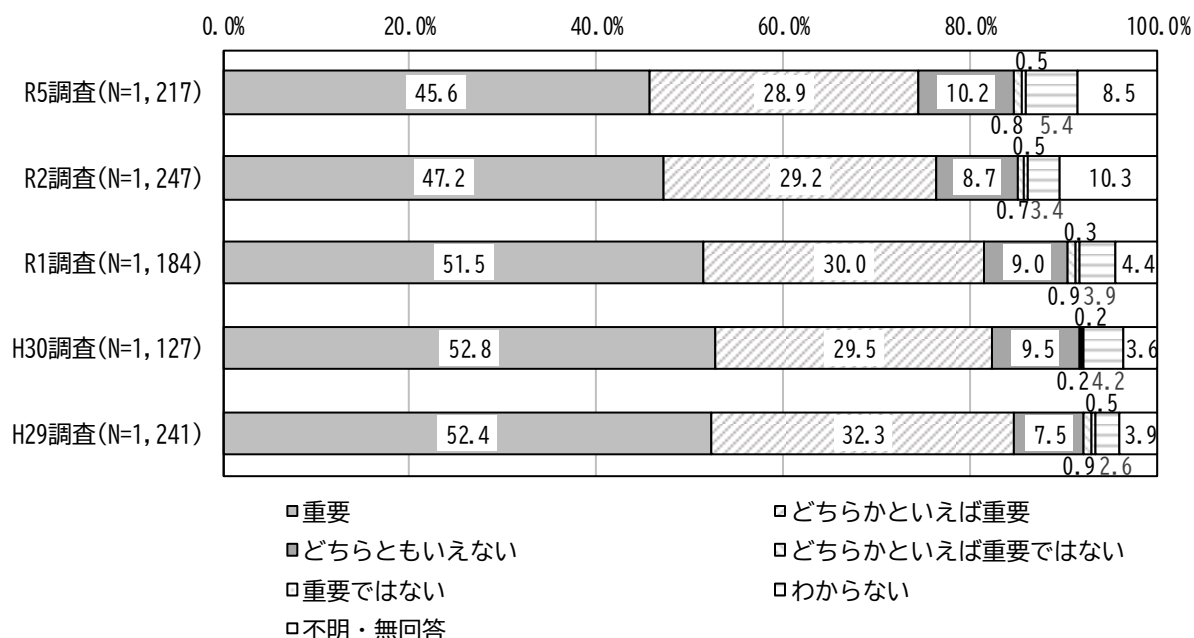
●居住地域別にみると、水口地域、土山地域は「どちらかといえば満足」が、他の地域では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 42.9%、以下、土山地域で 36.4%、甲南地域で 34.8%、甲賀地域で 34.4%、信楽地域で 33.1%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは10年以上で 38.5%、以下、3年未満で 33.3%、3 年～10 年未満で 32.4%と続いている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑨保健・医療 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 45.6%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 28.9%、「どちらともいえない」が 10.2%、「わからない」が 5.4%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.8%、「重要ではない」が 0.5%と続いている。『重要』は 74.5%となっている。

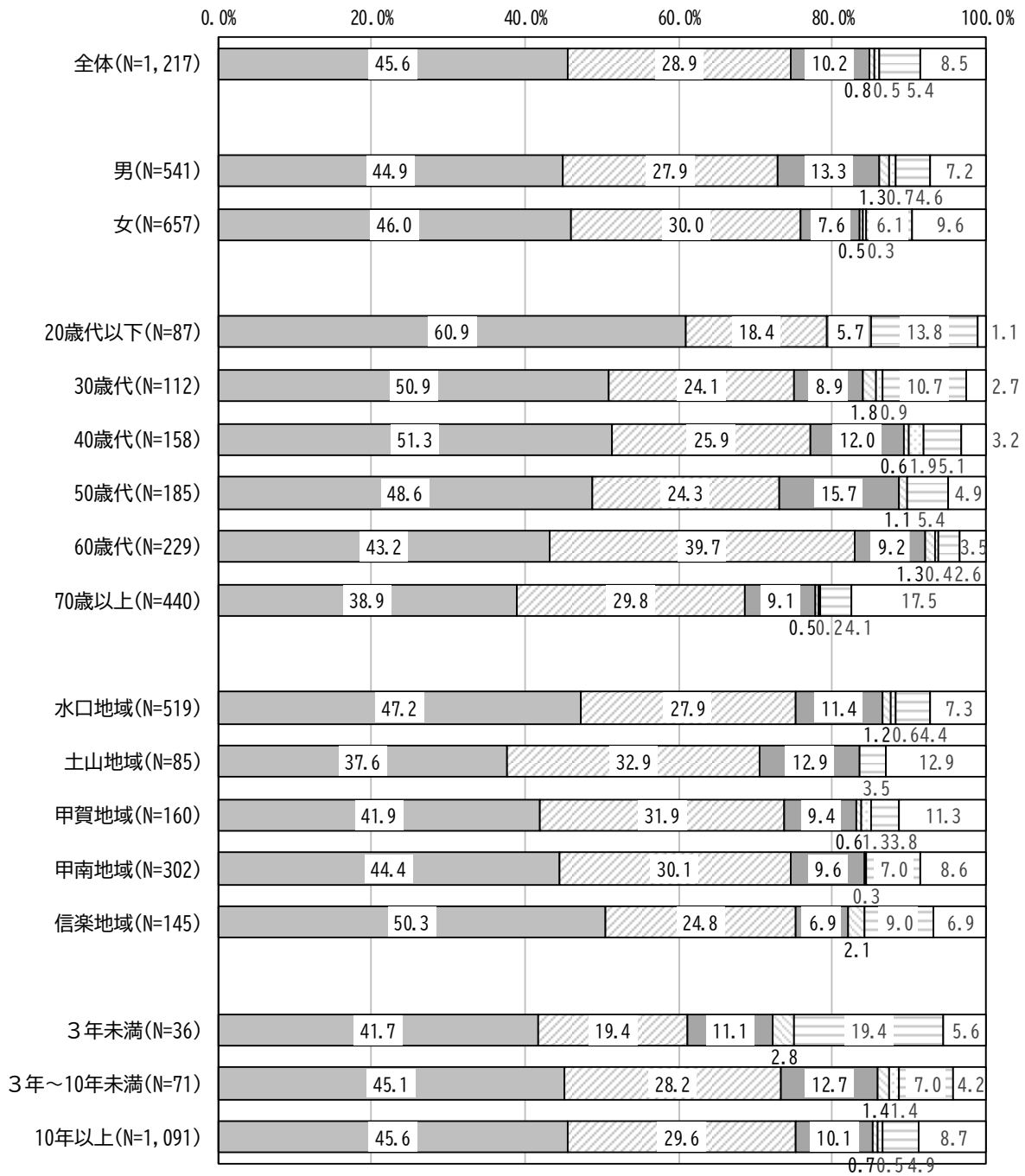
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 72.8%、女性は 76.0%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 82.9%、以下、20 歳代以下で 79.3%、40 歳代で 77.2%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域、信楽地域で 75.1%、以下、甲南地域で 74.5%、甲賀地域で 73.8%、土山地域で 70.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 75.2%、以下、3 年～10 年未満で 73.3%、3 年未満で 61.1%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

◎保健・医療 重要度 (単数回答)



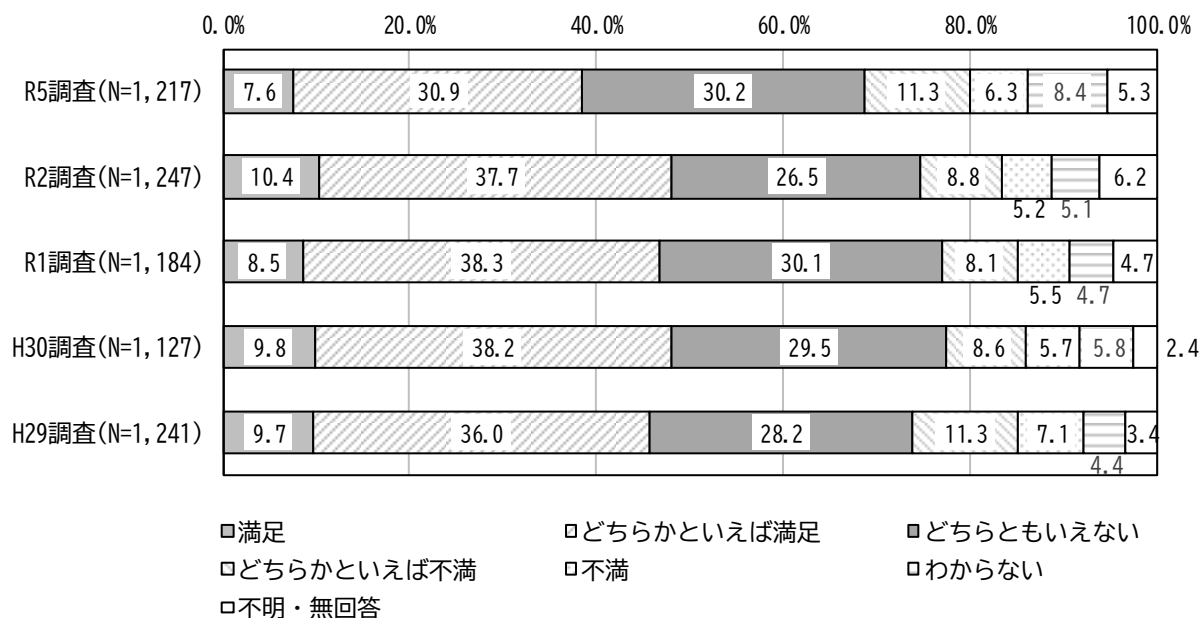
- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

⑩ 住まい・生活(良好な住環境、公営住宅、上下水道、公園整備)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が減少している。

⑩住まい・生活 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらかといえば満足」が 30.9%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が 30.2%、「どちらかといえば不満」が 11.3%、「わからない」が 8.4%、「満足」が 7.6%、「不満」が 6.3%と続いている。『満足』は 38.5%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 41.0%、女性は 36.6%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、40 歳代は「どちらかといえば満足」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 40.5%、以下、70 歳以上で 40.0%、20 歳代以下で 39.1%と続いている。

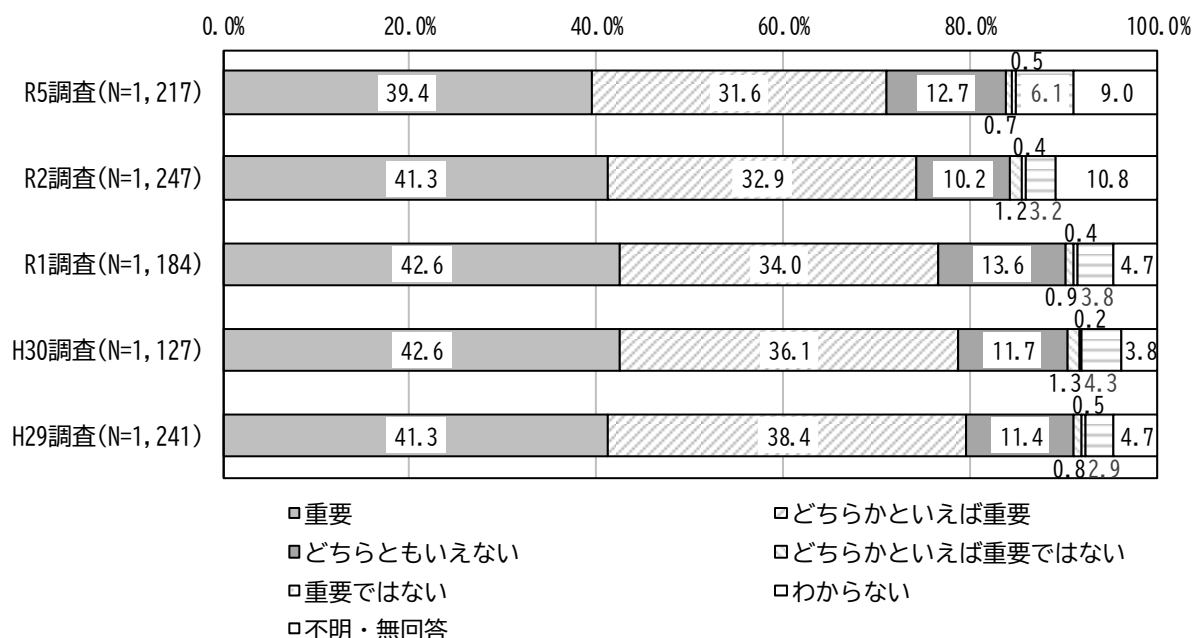
●居住地域別にみると、土山地域、信楽地域は「どちらともいえない」が、他の地域では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 45.3%、以下、甲賀地域で 40.7%、土山地域で 36.5%、甲南地域で 34.1%、信楽地域で 23.5%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 41.7%、以下、10 年以上で 38.9%、3 年～10 年未満で 29.6%と続いている。

【重要度】

平成29年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑩住まい・生活 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が39.4%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が31.6%、「どちらともいえない」が12.7%、「わからない」が6.1%、「どちらかといえば重要ではない」が0.7%、「重要ではない」が0.5%と続いている。『重要』は71.0%となっている。

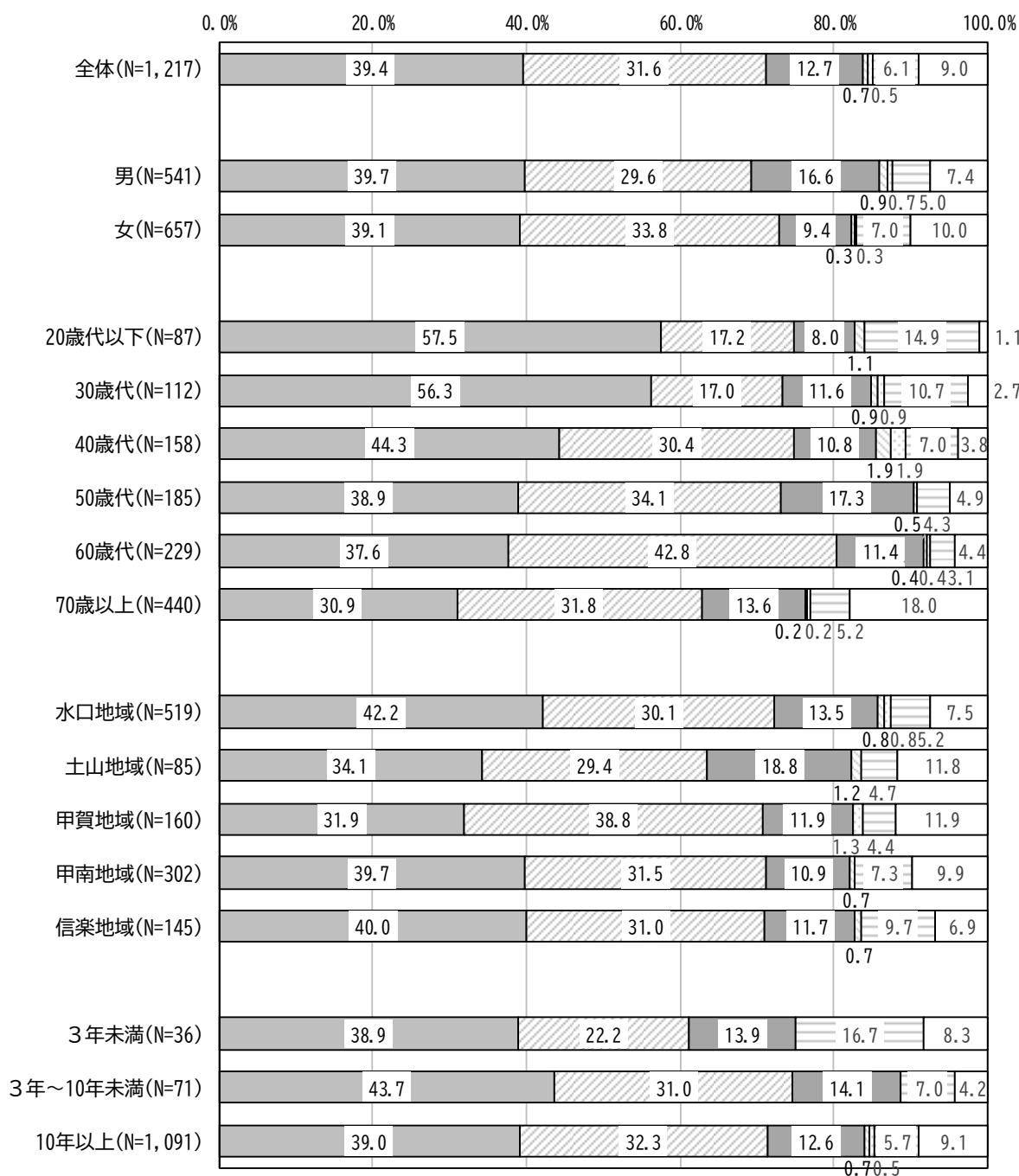
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は69.3%、女性は72.9%となっている。

●年代別にみると、60歳代、70歳以上は「どちらかといえば重要」が、他の年代では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは60歳代で80.4%、以下、20歳代以下、40歳代で74.7%、30歳代で73.3%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「どちらかといえば重要」が、他の地域では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で72.3%、以下、甲南地域で71.2%、信楽地域で71.0%、甲賀地域で70.7%、土山地域で63.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で74.7%、以下、10年以上で71.3%、3年未満で61.1%と続いている。

⑩住まい・生活 重要度 (単数回答)

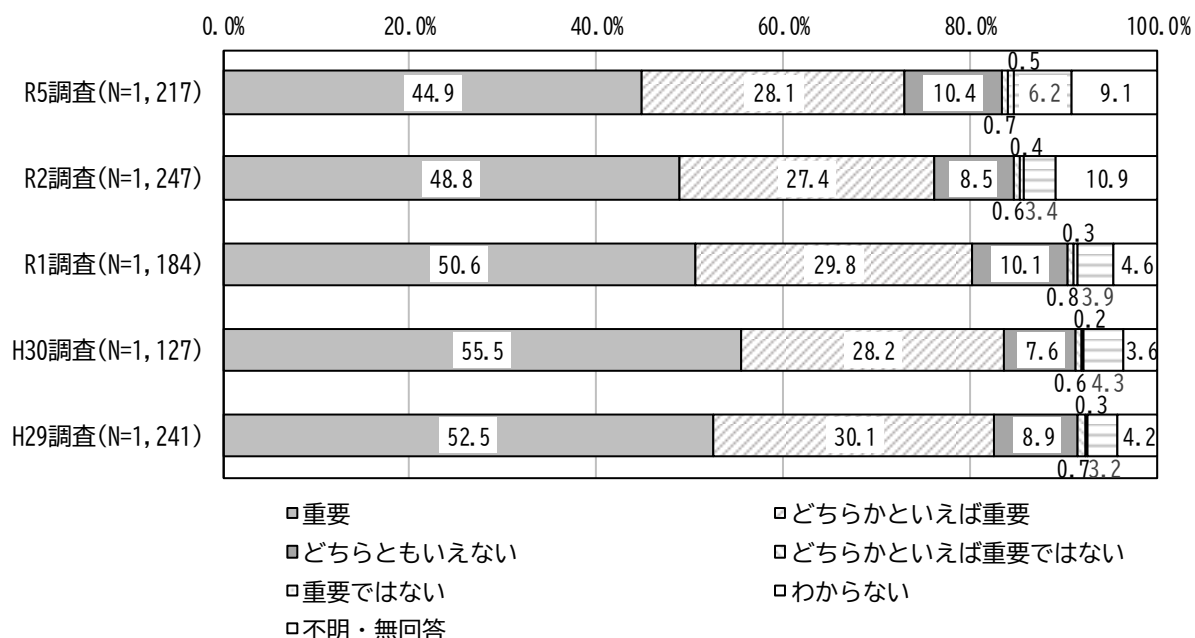


- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらともいえない
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない
- 不明・無回答

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

①安全・防災 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 44.9%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 28.1%、「どちらともいえない」が 10.4%、「わからない」が 6.2%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.7%、「重要ではない」が 0.5%と続いている。『重要』は 73.0%となっている。

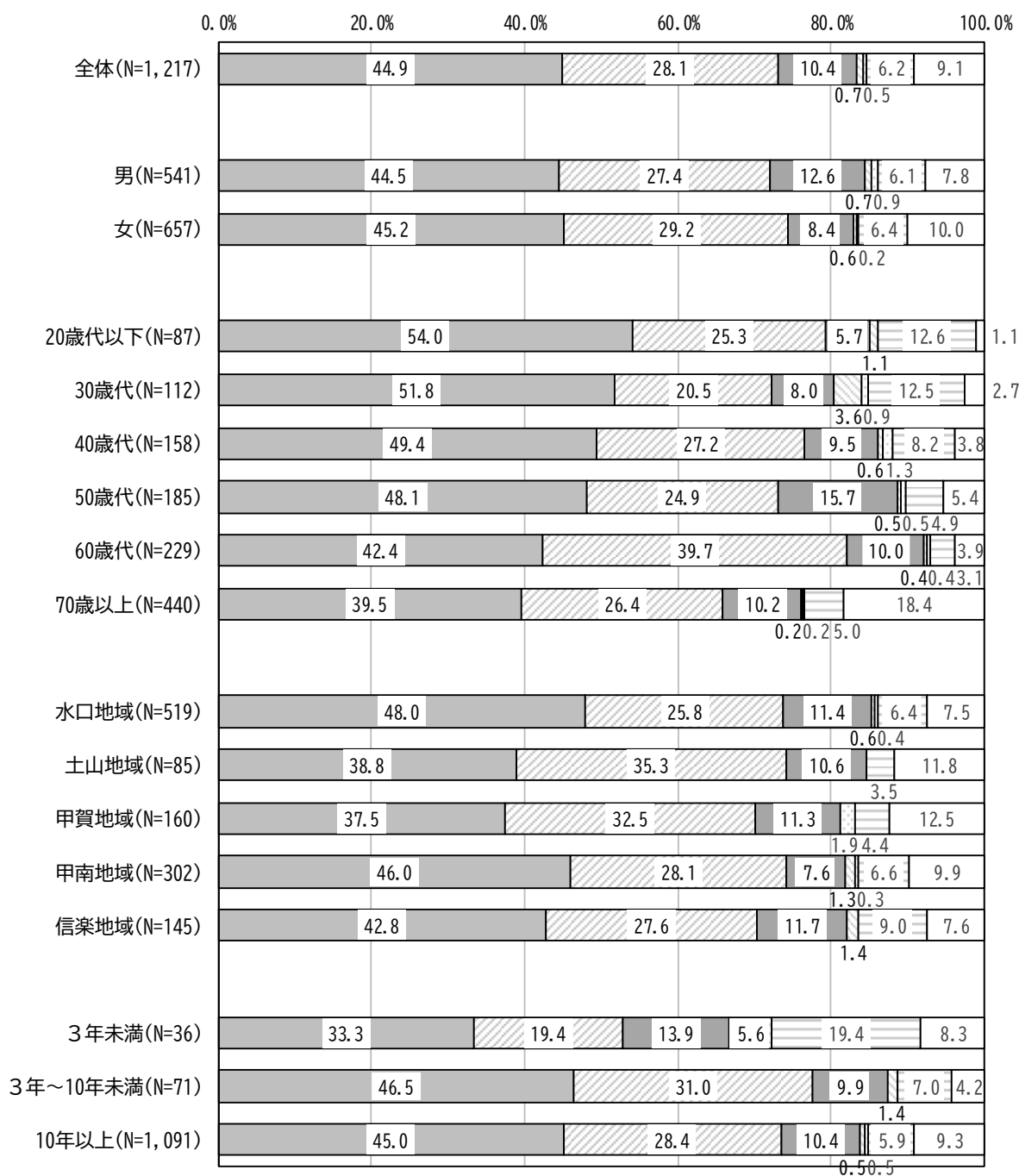
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 71.9%、女性は 74.4%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 82.1%、以下、20 歳代以下で 79.3%、40 歳代で 76.6%と続いている。

●居住地別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは土山地域、甲南地域で 74.1%、以下、水口地域で 73.8%、信楽地域で 70.4%、甲賀地域で 70.0%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 77.5%、以下、10 年以上で 73.4%、3 年未満で 52.7%と続いている。

①安全・防災 重要度 (単数回答)



- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

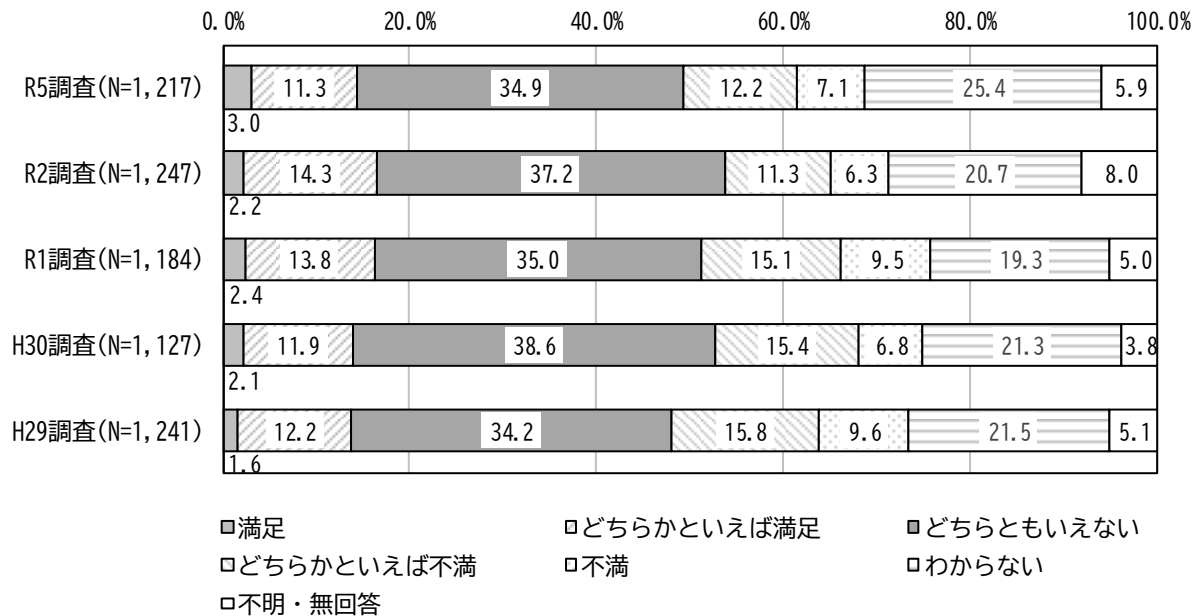
【4. うみだす活力受けつぐ伝統】

⑫ 農林畜水産(農林畜水産業振興、地域ブランド、鳥獣害対策)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑫農林畜水産 満足度 (単数回答)



●全体で見ると、「どちらともいえない」が 34.9%で最も多くなっており、以下、「わからない」が 25.4%、「どちらかといえば不満」が 12.2%、「どちらかといえば満足」が 11.3%、「不満」が 7.1%、「満足」が 3.0%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 14.3%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 16.1%、女性は 13.1%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 25.2%、以下、40 歳代で 20.9%、60 歳代で 12.7%と続いている。

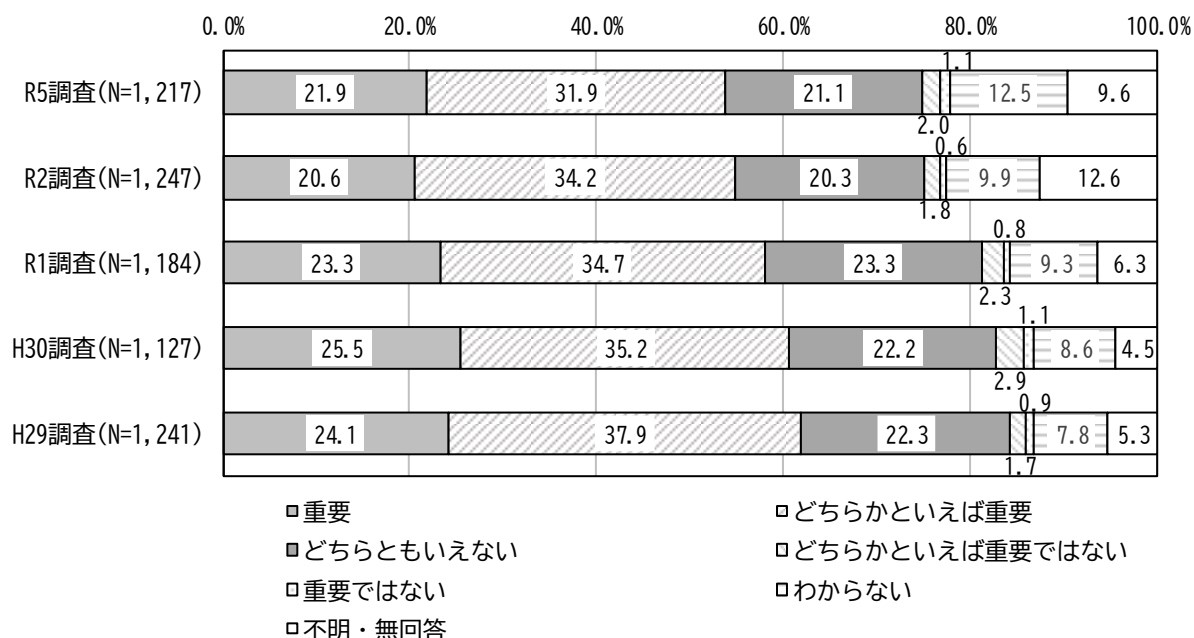
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 17.8%、以下、甲南地域で 13.5%、土山地域で 11.8%、信楽地域で 11.1%、甲賀地域で 9.4%と続いている。

●居住年数別にみると、10 年以上は「どちらともいえない」が、他の年数では「わからない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 16.9%、以下、10 年以上で 14.4%、3年未満で 8.3%と続いている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑫農林畜水産 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 31.9%で最も多くなっており、以下、「重要」が 21.9%、「どちらともいえない」が 21.1%、「わからない」が 12.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.0%、「重要ではない」が 1.1%と続いている。『重要』は 53.8%となっている。

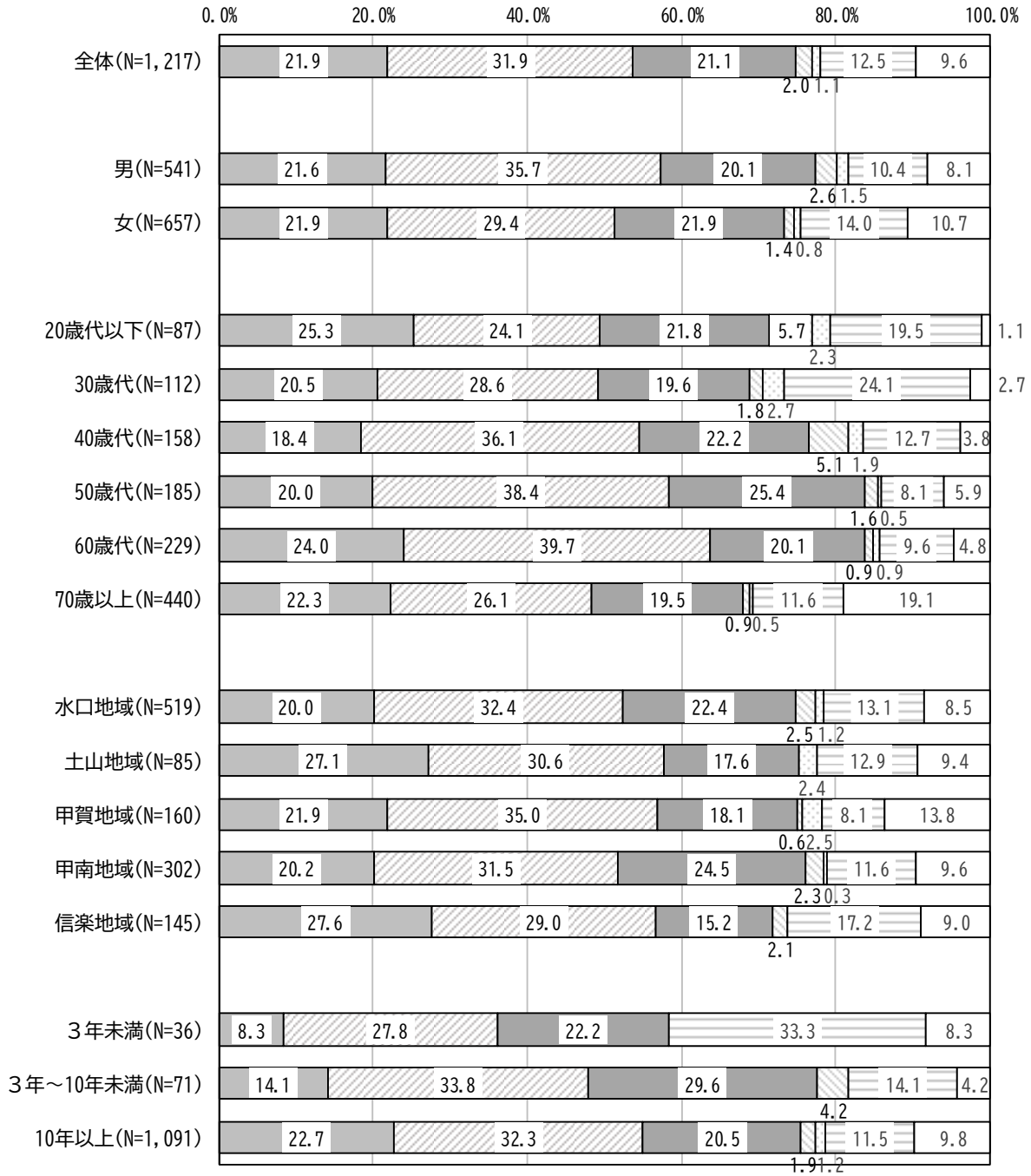
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 57.3%、女性は 51.3%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 63.7%、以下、50 歳代で 58.4%、40 歳代で 54.5%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 57.7%、以下、甲賀地域で 56.9%、信楽地域で 56.6%、水口地域で 52.4%、甲南地域で 51.7%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「わからない」が、他の年数では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 55.0%、以下、3 年～10 年未満で 47.9%、3 年未満で 36.1%と続いており、居住年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑫農林畜水産 重要度 (単数回答)

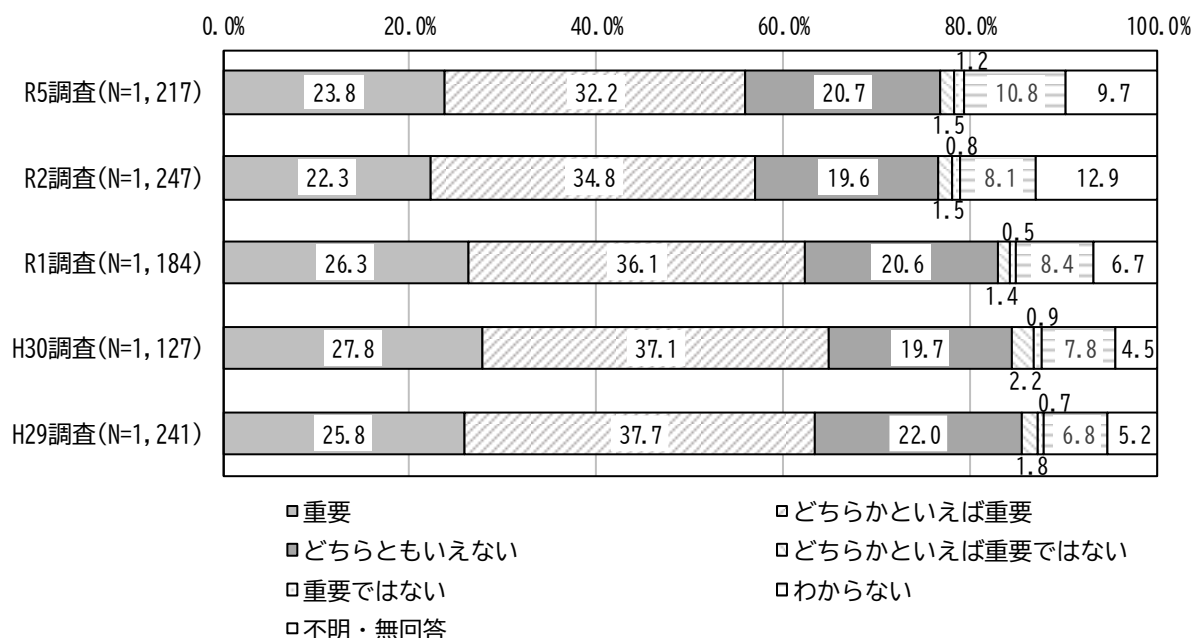


- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

③商工観光 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 32.2%で最も多くなっており、以下、「重要」が 23.8%、「どちらともいえない」が 20.7%、「わからない」が 10.8%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.5%、「重要ではない」が 1.2%と続いている。『重要』は 56.0%となっている。

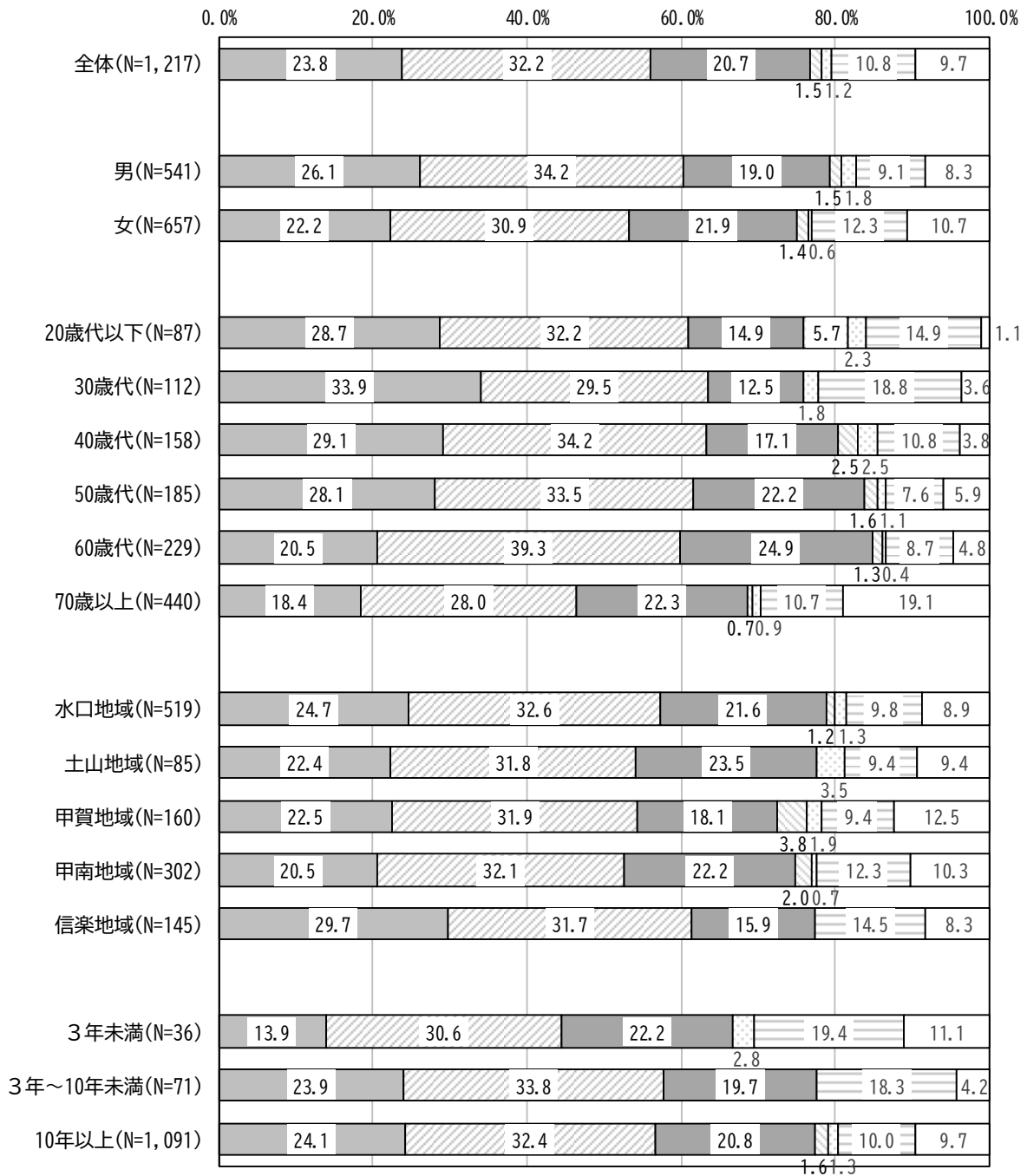
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 60.3%、女性は 53.1%となっている。

●年代別にみると、30 歳代は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 63.4%、以下、40 歳代で 63.3%、50 歳代で 61.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 61.4%、以下、水口地域で 57.3%、甲賀地域で 54.4%、土山地域で 54.2%、甲南地域で 52.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 57.7%、以下、10 年以上で 56.5%、3 年未満で 44.5%と続いている。

⑬商工観光 重要度 (単数回答)

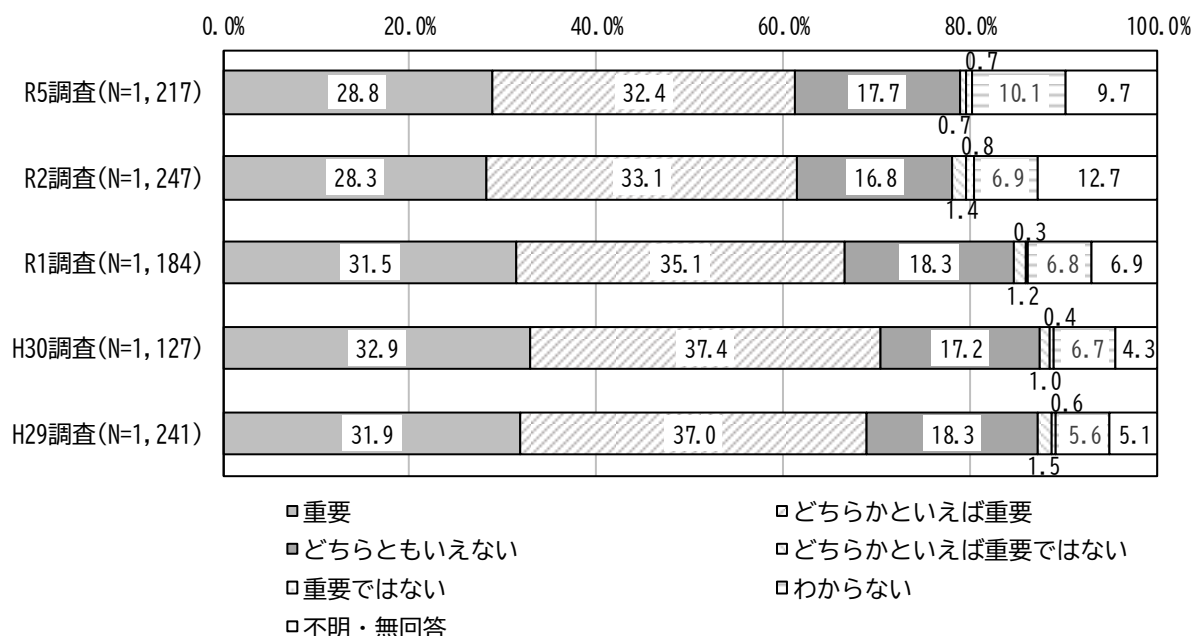


- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらともいえない
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない
- 不明・無回答

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑭活躍・雇用 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 32.4%で最も多くなっており、以下、「重要」が 28.8%、「どちらともいえない」が 17.7%、「わからない」が 10.1%、「どちらかといえば重要ではない」、「重要ではない」が 0.7%と続いている。『重要』は 61.2%となっている。

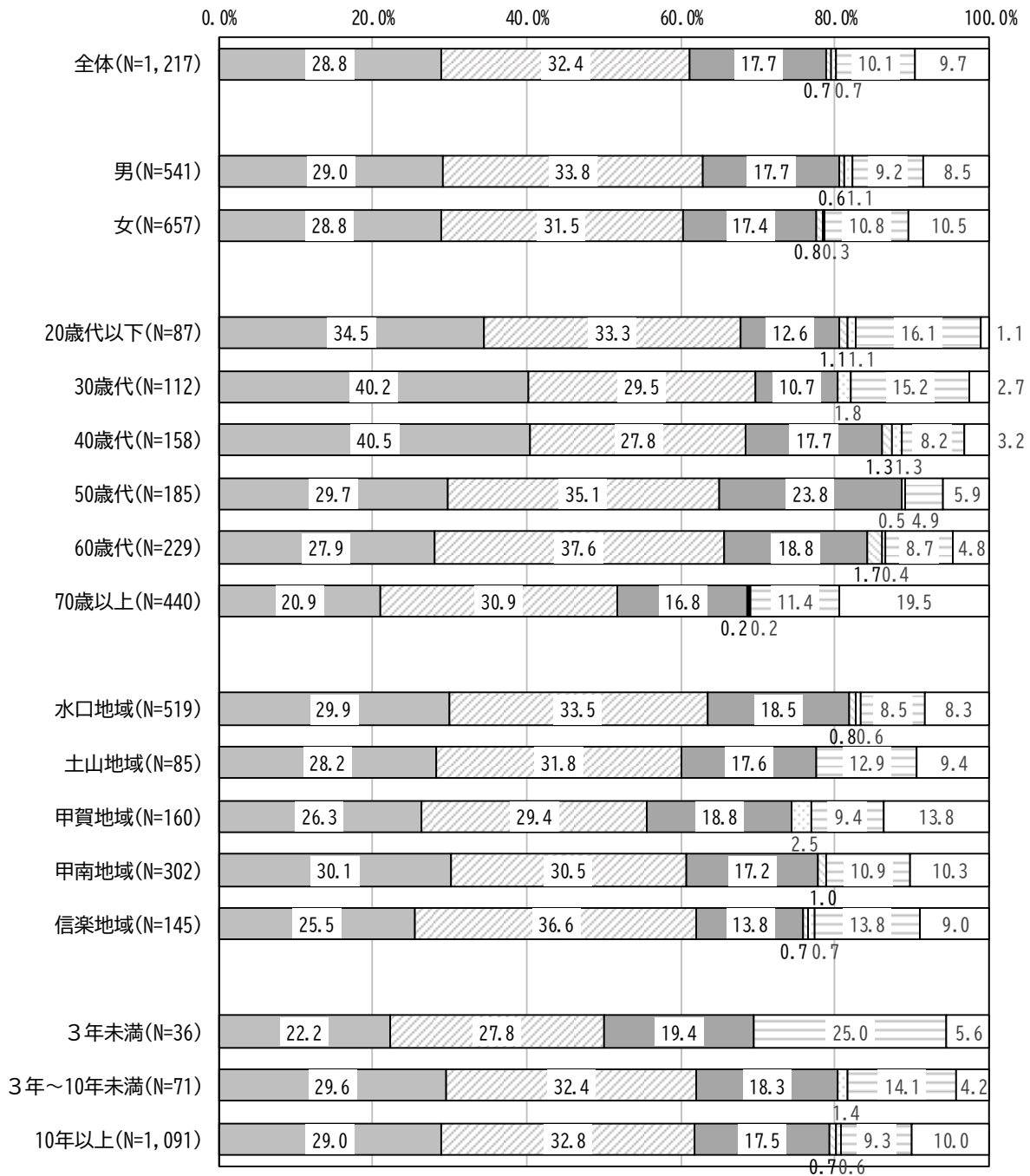
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 62.8%、女性は 60.3%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代、40 歳代は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 69.7%、以下、40 歳代で 68.3%、20 歳代以下で 67.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 63.4%、以下、信楽地域で 62.1%、甲南地域で 60.6%、土山地域で 60.0%、甲賀地域で 55.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 62.0%、以下、10 年以上で 61.8%、3 年未満で 50.0%と続いている。

⑭活躍・雇用 重要度 (単数回答)



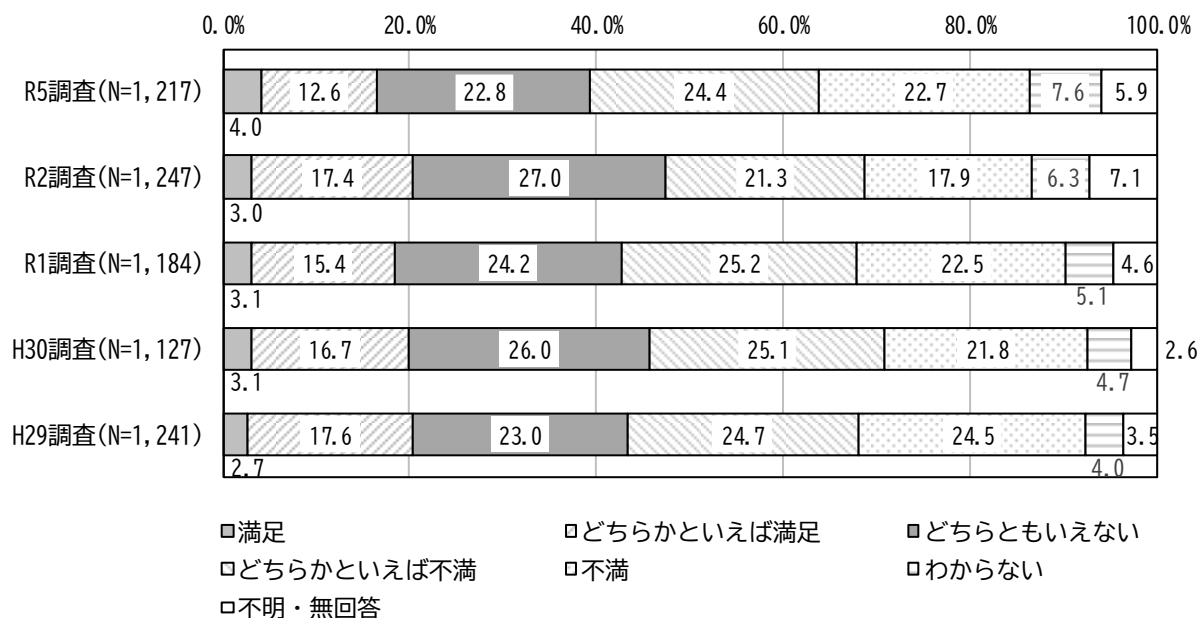
- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

⑮ 道路・交通(広域幹線道路、道路整備、鉄道、バス)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が減少している。

⑮道路・交通 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらかといえば不満」が 24.4%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が22.8%、「不満」が22.7%、「どちらかといえば満足」が12.6%、「わからない」が7.6%、「満足」が4.0%と続いている。『満足』は16.6%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は17.6%、女性は16.0%となっている。

●年代別にみると、70歳以上は「どちらともいえない」が、50歳代、60歳代は「どちらかといえば不満」が、他の年代では「不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で23.0%、以下、70歳以上で20.7%、30歳代で18.8%と続いている。

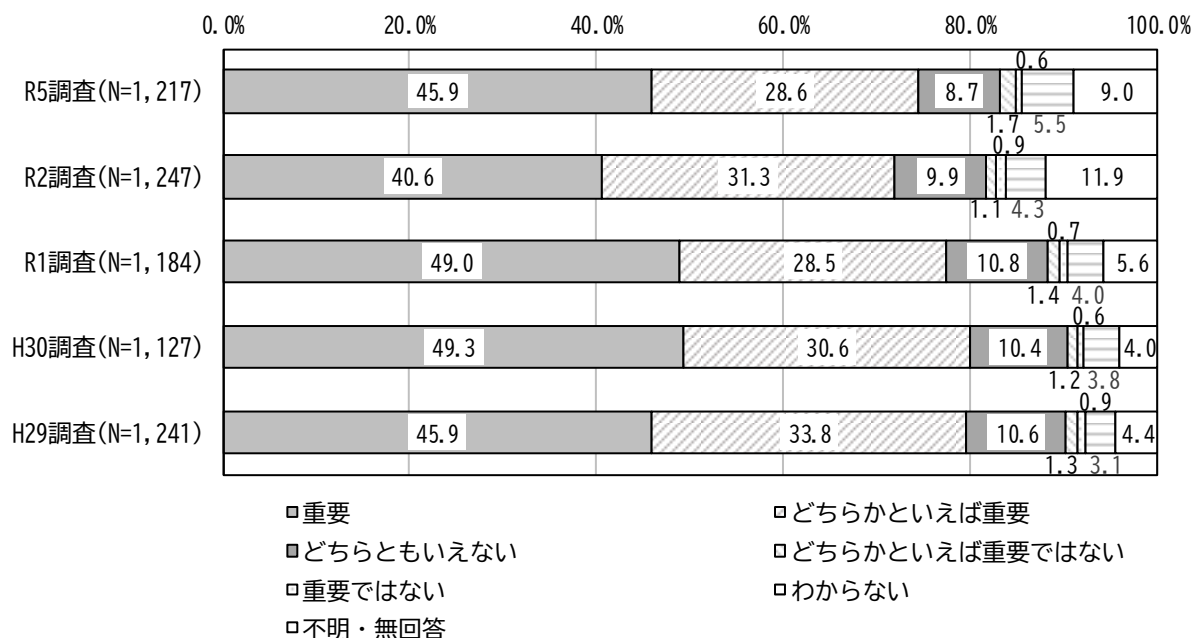
●居住地域別にみると、水口地域は「どちらともいえない」が、土山地域、甲南地域は「どちらかといえば不満」が、甲賀地域、信楽地域は「不満」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で21.6%、以下、甲賀地域で15.0%、土山地域で14.1%、甲南地域で13.9%、信楽地域で8.3%と続いている。

●居住年数別にみると、10年以上は「どちらかといえば不満」が、他の年数では「不満」が最も多くなっている(3年未満は「どちらともいえない」と同率)。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年~10年未満で16.9%、以下、10年以上で16.8%、3年未満で11.1%と続いている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑮道路・交通 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 45.9%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 28.6%、「どちらともいえない」が 8.7%、「わからない」が 5.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.7%、「重要ではない」が 0.6%と続いている。「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は 74.5%となっている。

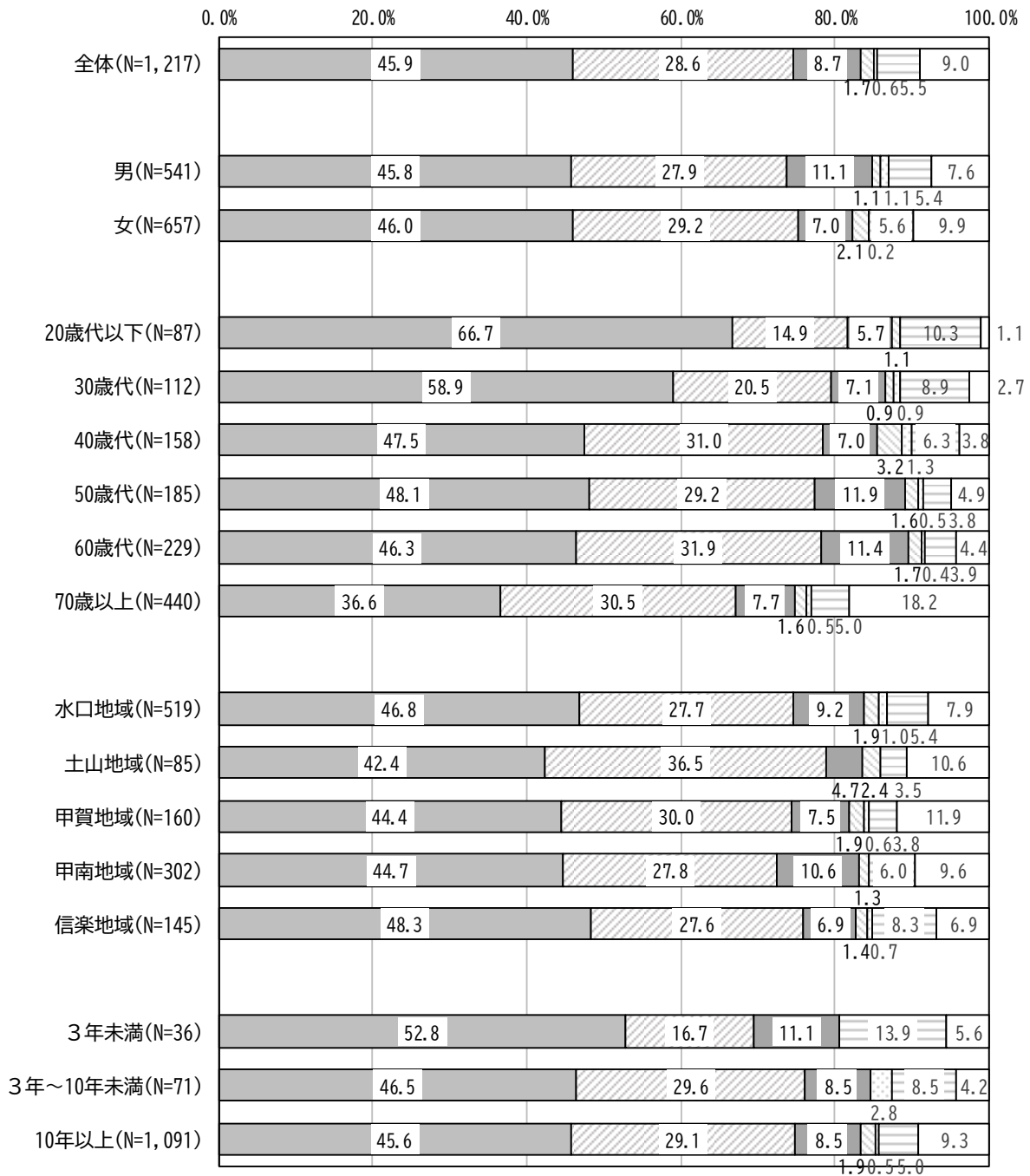
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 73.7%、女性は 75.2%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 81.6%、以下、30 歳代で 79.4%、40 歳代で 78.5%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 78.9%、以下、信楽地域で 75.9%、水口地域で 74.5%、甲賀地域で 74.4%、甲南地域で 72.5%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 76.1%、以下、10 年以上で 74.7%、3 年未満で 69.5%と続いている。

⑮道路・交通 重要度 (単数回答)



- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらともいえない
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない
- 不明・無回答

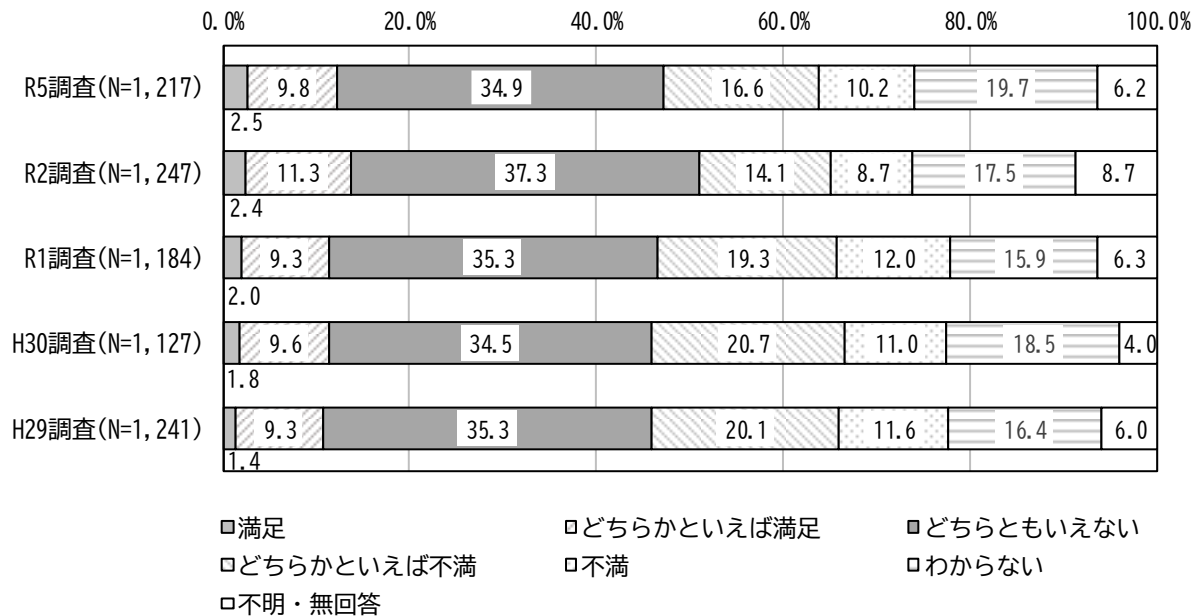
【5. かがやく未来に鹿深の夢を】

⑩ 都市形成(市街地整備、土地の有効利用)

【満足度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑩都市形成 満足度 (単数回答)



●全体でみると、「どちらともいえない」が 34.9%で最も多くなっており、以下、「わからない」が 19.7%、「どちらかといえば不満」が 16.6%、「不満」が 10.2%、「どちらかといえば満足」が 9.8%、「満足」が 2.5%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 12.3%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 14.4%、女性は 10.3%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている(30 歳代は「わからない」と同率)。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 23.0%、以下、40 歳代で 15.8%、70 歳以上で 12.8%と続いている。

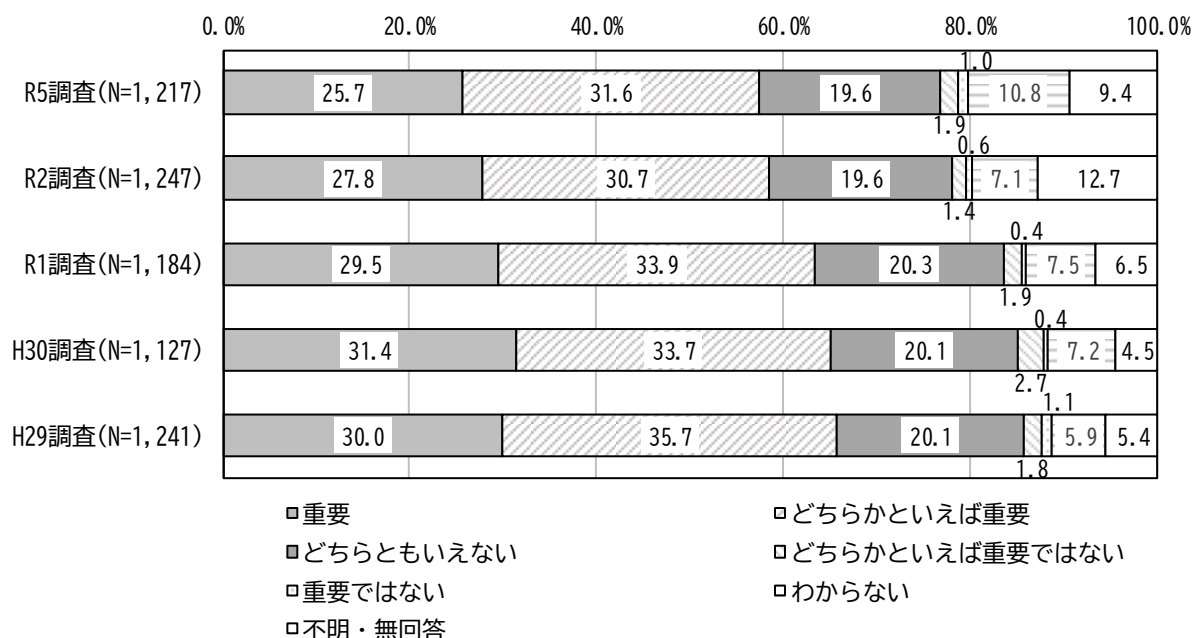
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 18.1%、以下、甲南地域で 10.9%、甲賀地域で 6.9%、土山地域で 5.9%、信楽地域で 4.2%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満は「わからない」が、他の年数では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは3年未満で 16.7%、以下、10年以上で 12.7%、3年～10年未満で 5.6%と続いている。

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑩都市形成 重要度（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえば重要」が 31.6%で最も多くなっており、以下、「重要」が 25.7%、「どちらともいえない」が 19.6%、「わからない」が 10.8%、「どちらかといえば重要ではない」が 1.9%、「重要ではない」が 1.0%と続いている。『重要』は 57.3%となっている。

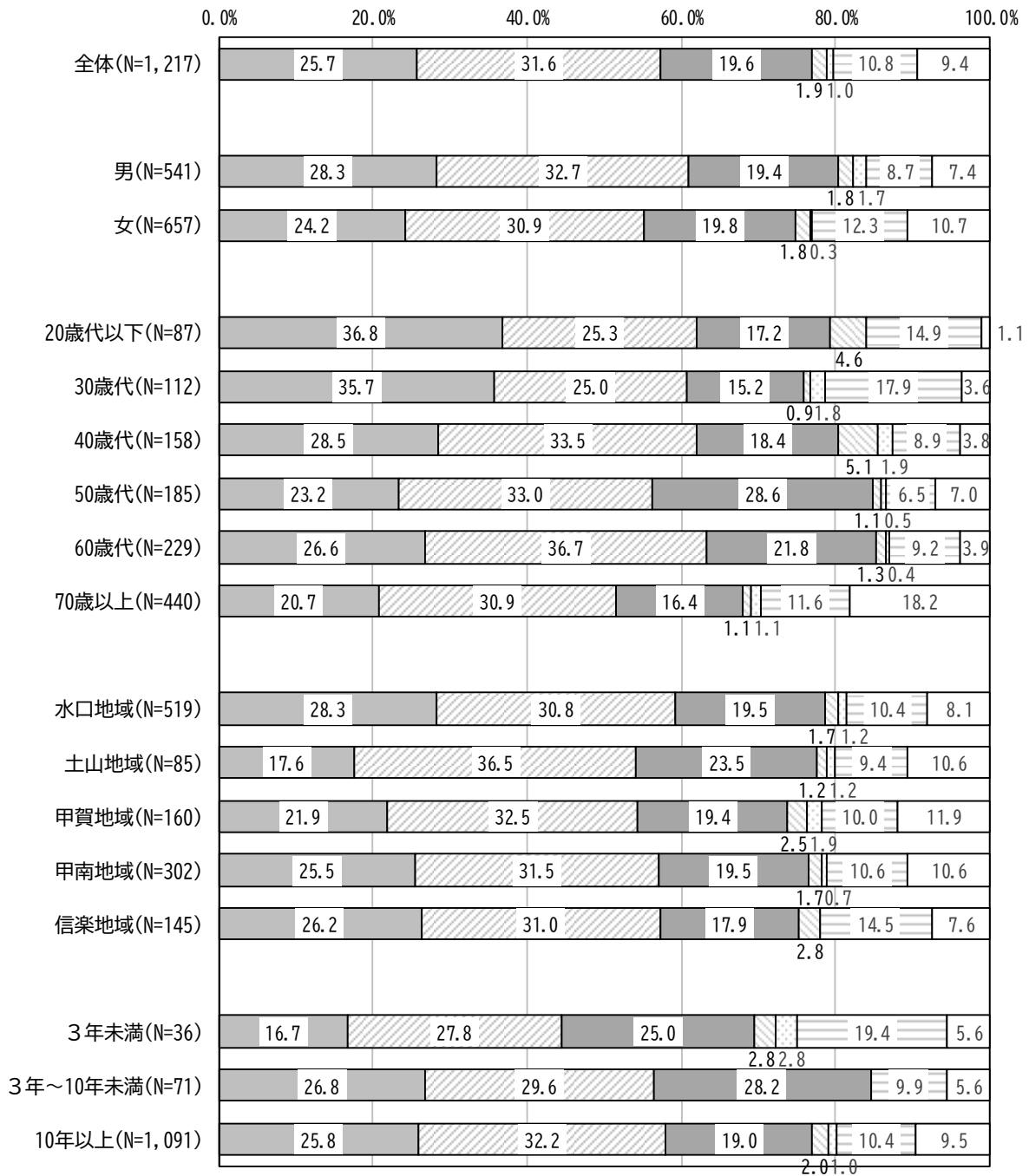
●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 61.0%、女性は 55.1%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「重要」が、他の年代では「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 63.3%、以下、20 歳代以下で 62.1%、40 歳代で 62.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 59.1%、以下、信楽地域で 57.2%、甲南地域で 57.0%、甲賀地域で 54.4%、土山地域で 54.1%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえば重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 58.0%、以下、3 年～10 年未満で 56.4%、3 年未満で 44.5%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑩都市形成 重要度 (単数回答)

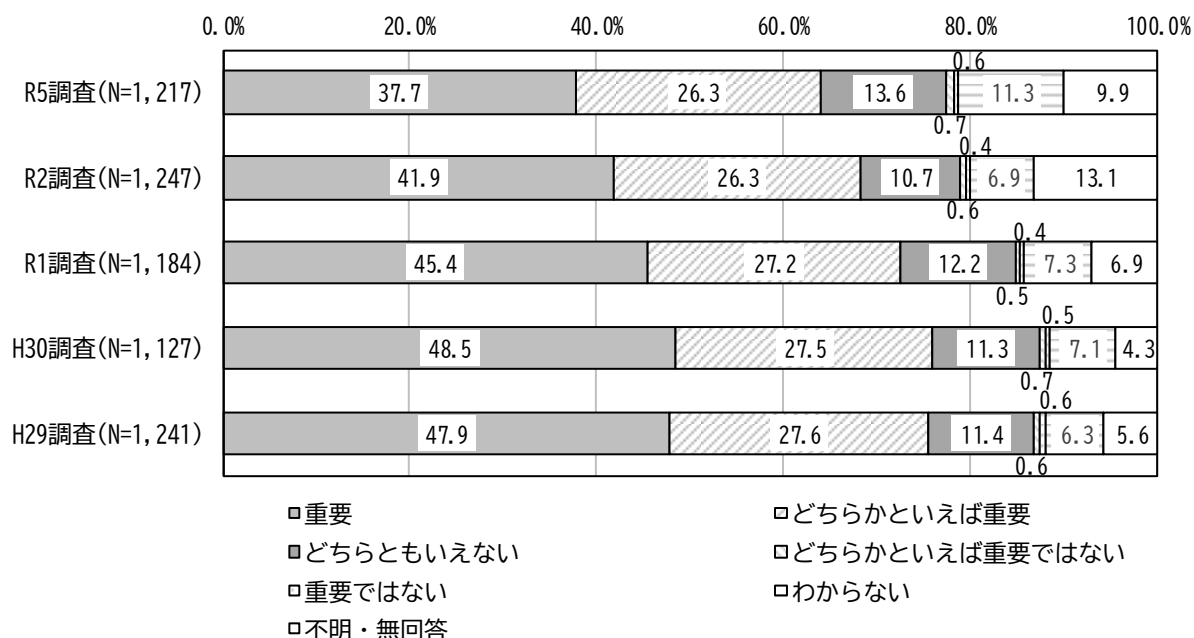


- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらともいえない
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない
- 不明・無回答

【重要度】

平成29年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑰子ども・子育て 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が37.7%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が26.3%、「どちらともいえない」が13.6%、「わからない」が11.3%、「どちらかといえば重要ではない」が0.7%、「重要ではない」が0.6%と続いている。『重要』は64.0%となっている。

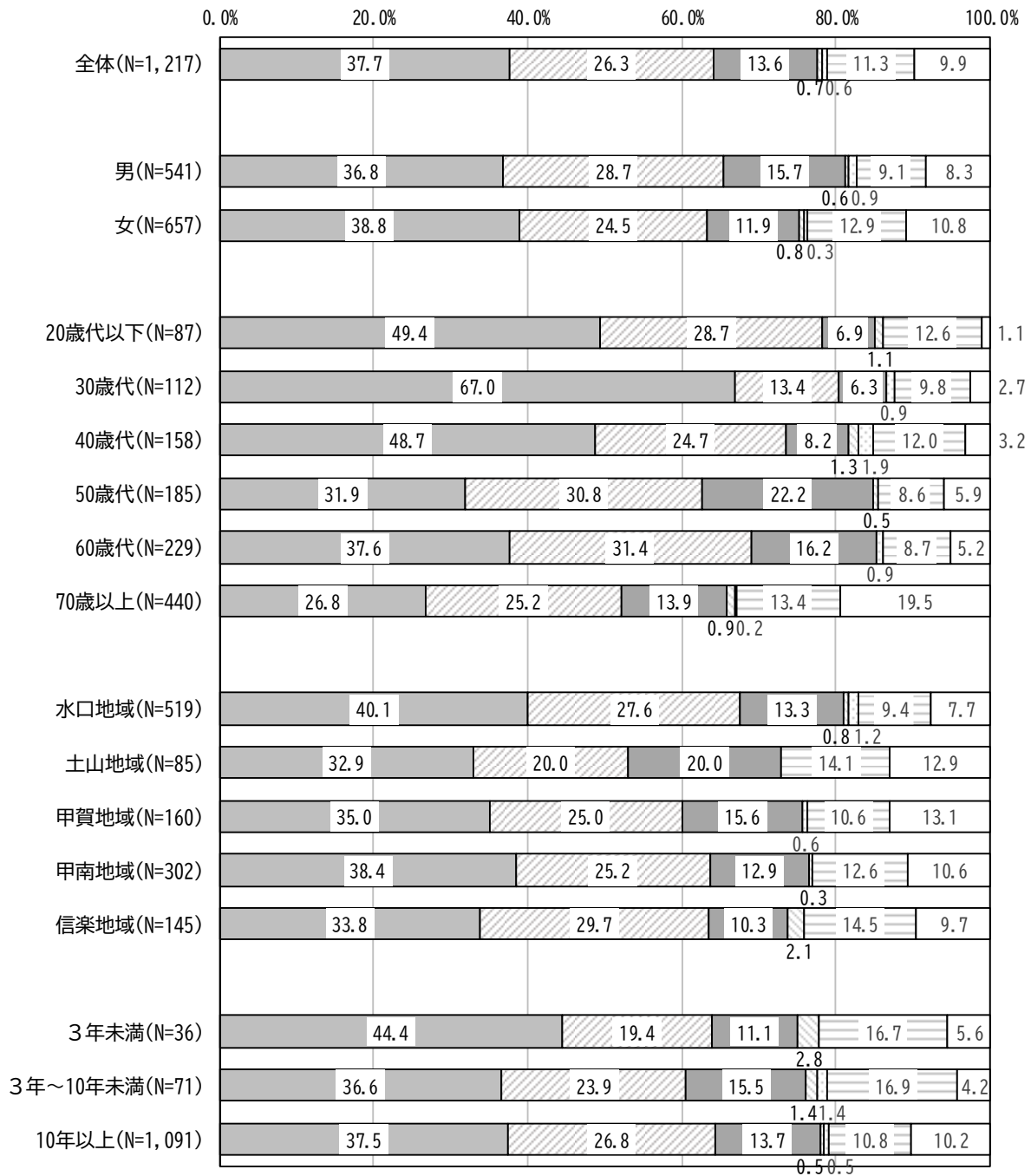
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は65.5%、女性は63.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは30歳代で80.4%、以下、20歳代以下で78.1%、40歳代で73.4%と続いている。

●居住地別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で67.7%、以下、甲南地域で63.6%、信楽地域で63.5%、甲賀地域で60.0%、土山地域で52.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは10年以上で64.3%、以下、3年未満で63.8%、3年～10年未満で60.5%と続いている。

⑰子ども・子育て 重要度（単数回答）

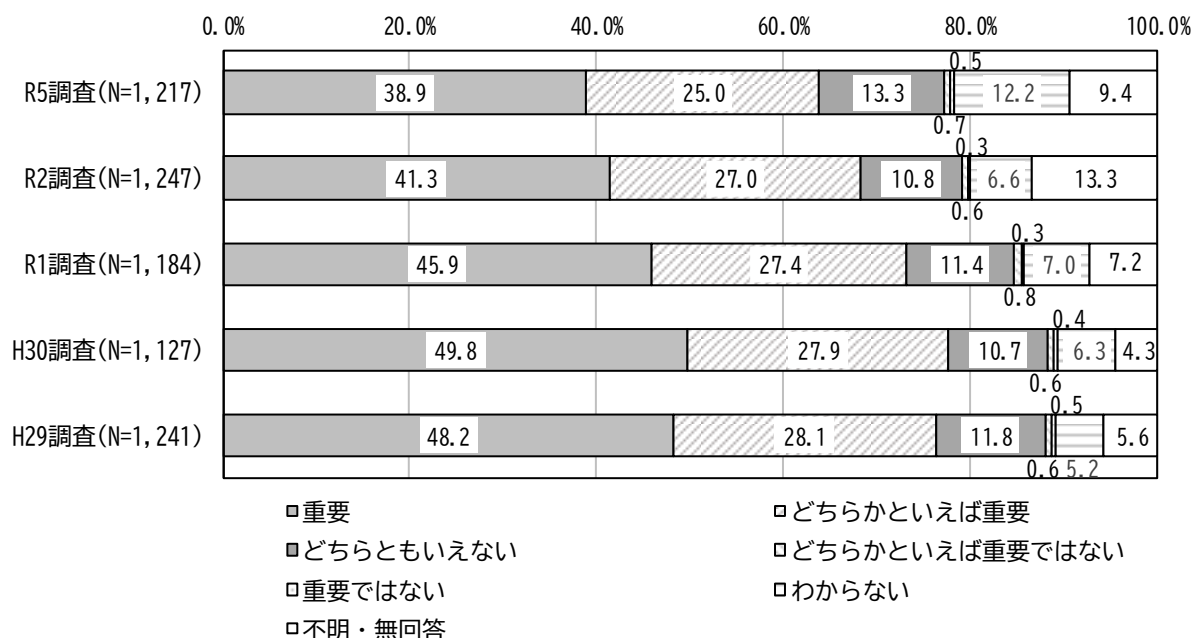


- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』の割合が減少している。

⑱学校教育、青少年 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 38.9%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 25.0%、「どちらともいえない」が 13.3%、「わからない」が 12.2%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.7%、「重要ではない」が 0.5%と続いている。『重要』は 63.9%となっている。

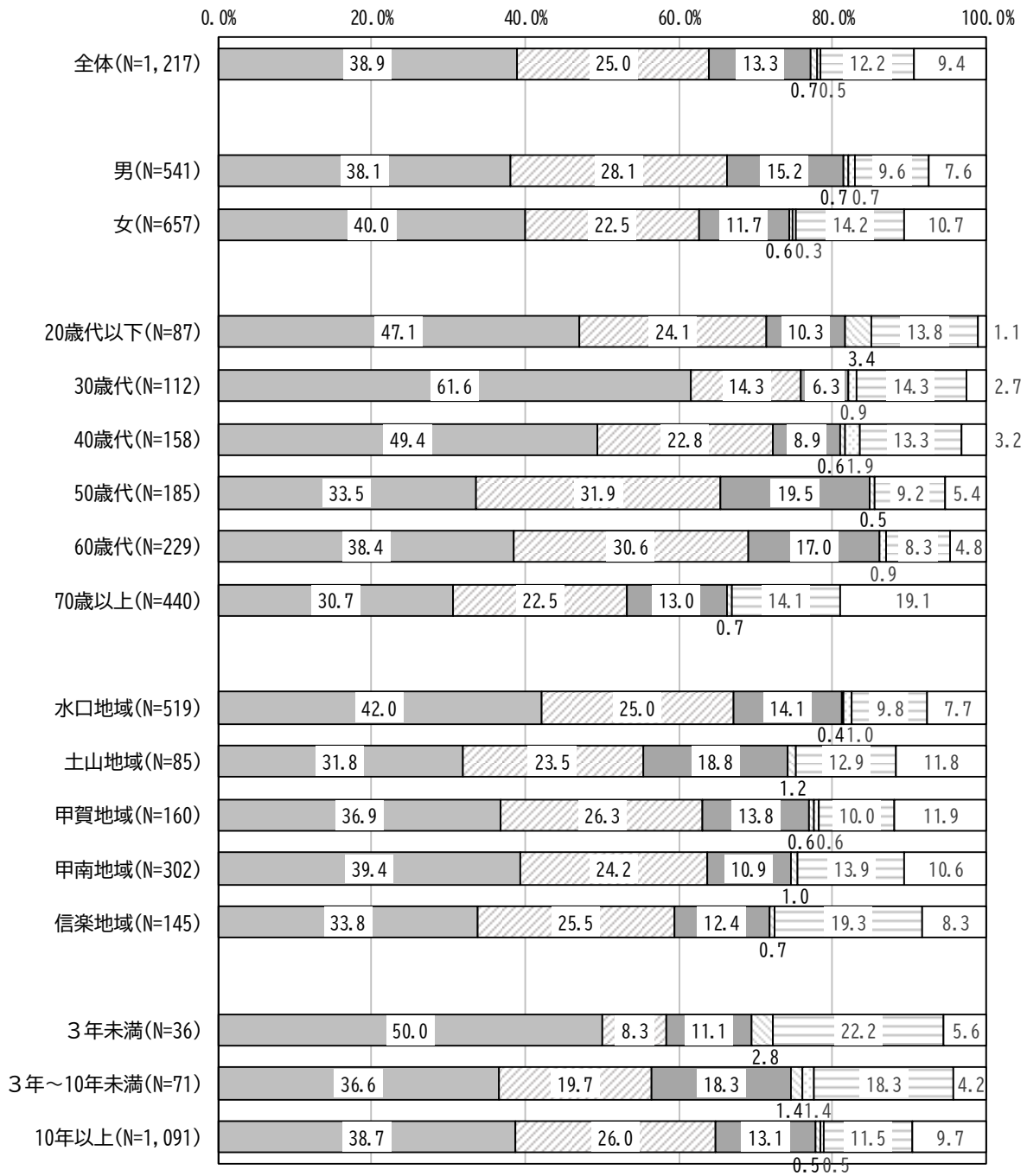
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 66.2%、女性は 62.5%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 75.9%、以下、40 歳代で 72.2%、20 歳代以下で 71.2%と続いている。

●居住地別にみると、すべての地域において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 67.0%、以下、甲南地域で 63.6%、甲賀地域で 63.2%、信楽地域で 59.3%、土山地域で 55.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 64.7%、以下、3 年未満で 58.3%、3 年～10 年未満で 56.3%と続いている。

⑱学校教育、青少年 重要度（単数回答）

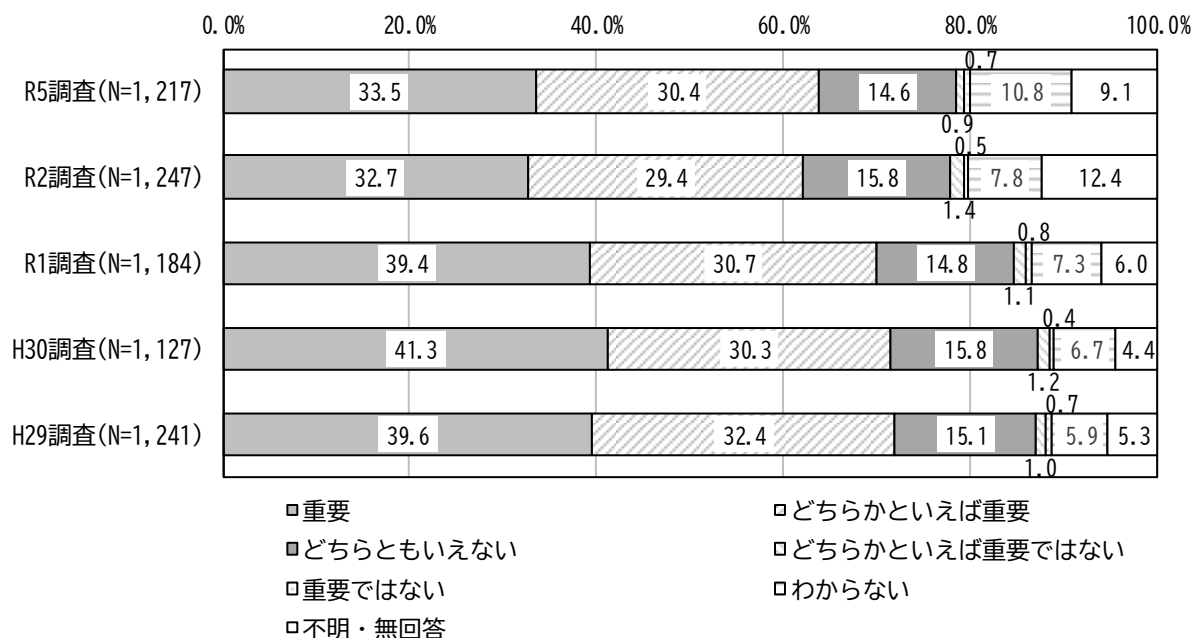


- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

【重要度】

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑨行財政 重要度（単数回答）



●全体でみると、「重要」が 33.5%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 30.4%、「どちらともいえない」が 14.6%、「わからない」が 10.8%、「どちらかといえば重要ではない」が 0.9%、「重要ではない」が 0.7%と続いている。「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は 63.9%となっている。

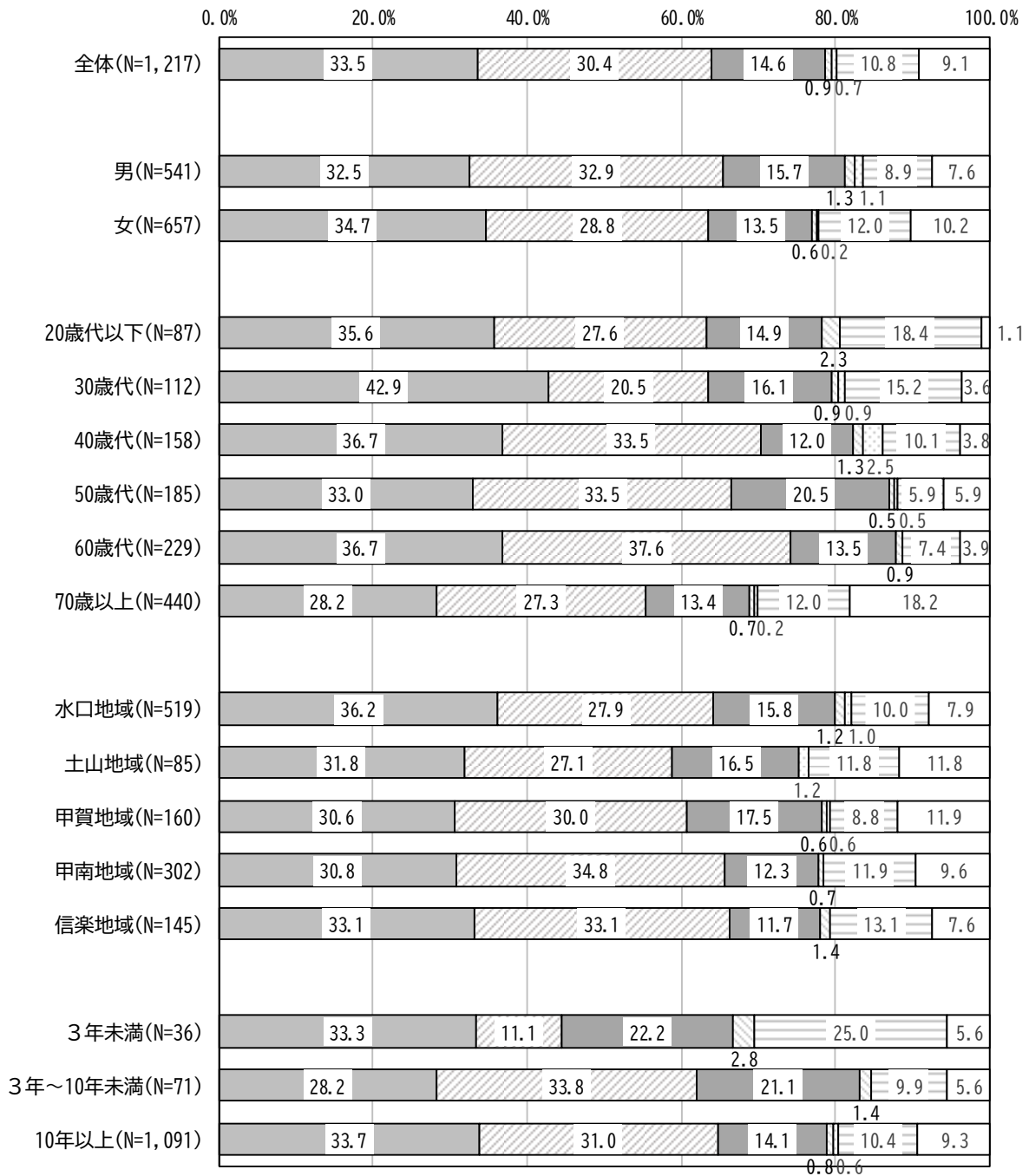
●性別にみると、男性は「どちらかといえば重要」が、女性は「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 65.4%、女性は 63.5%となっている。

●年代別にみると、50 歳代、60 歳代は「どちらかといえば重要」が、他の年代では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 74.3%、以下、40 歳代で 70.2%、50 歳代で 66.5%と続いている。

●居住地域別にみると、甲南地域は「どちらかといえば重要」が、他の地域では「重要」が最も多くなっている（信楽地域は「どちらかといえば重要」と同率）。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 66.2%、以下、甲南地域で 65.6%、水口地域で 64.1%、甲賀地域で 60.6%、土山地域で 58.9%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「どちらかといえば重要」が、他の年数では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 64.7%、以下、3 年～10 年未満で 62.0%、3 年未満で 44.4%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑨行財政 重要度 (単数回答)



- 重要
- どちらともいえない
- 重要ではない
- 不明・無回答
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要ではない
- わからない

⑳ 新型コロナウイルス感染症対策(市民生命、健康、安全、地域経済)

【満足度】

●全体で見ると、「どちらかといえば満足」が 33.4%で最も多くなっており、以下、「どちらともいえない」が30.6%、「満足」が11.9%、「わからない」が9.4%、「どちらかといえば不満」が5.5%、「不満」が3.4%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は45.3%となっている。

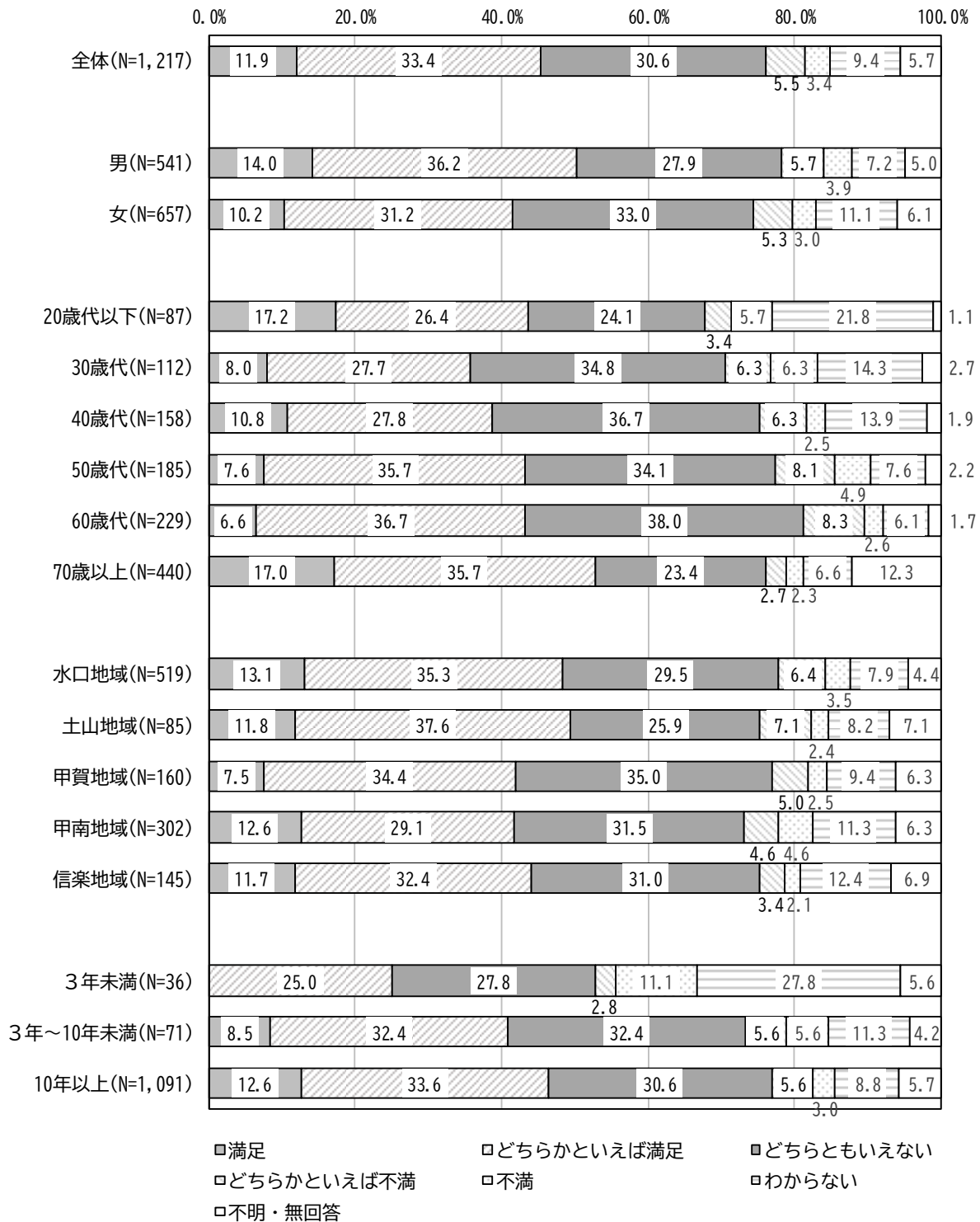
●性別にみると、男性は「どちらかといえば満足」が、女性は「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は50.2%、女性は41.4%となっている。

●年代別にみると、20歳代以下、50歳代、70歳以上は「どちらかといえば満足」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で52.7%、以下、20歳代以下で43.6%、50歳代、60歳代で43.3%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域、甲南地域は「どちらともいえない」が、他の地域では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは土山地域で49.4%、以下、水口地域で48.4%、信楽地域で44.1%、甲賀地域で41.9%、甲南地域で41.7%と続いている。

●居住年数別にみると、3年未満が「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている(3年未満は「わからない」、3年～10年未満は「どちらともいえない」と同率)。『満足』の割合をみると、最も多いのは10年以上で46.2%、以下、3年～10年未満で40.9%、3年未満で25.0%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑳新型コロナウイルス感染症対策 満足度（単数回答）



【重要度】

●全体で見ると、「重要」が 33.8%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば重要」が 29.7%、「どちらともいえない」が 15.6%、「わからない」が 6.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.8%、「重要ではない」が 2.5%と続いている。「重要」と「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は 63.5%となっている。

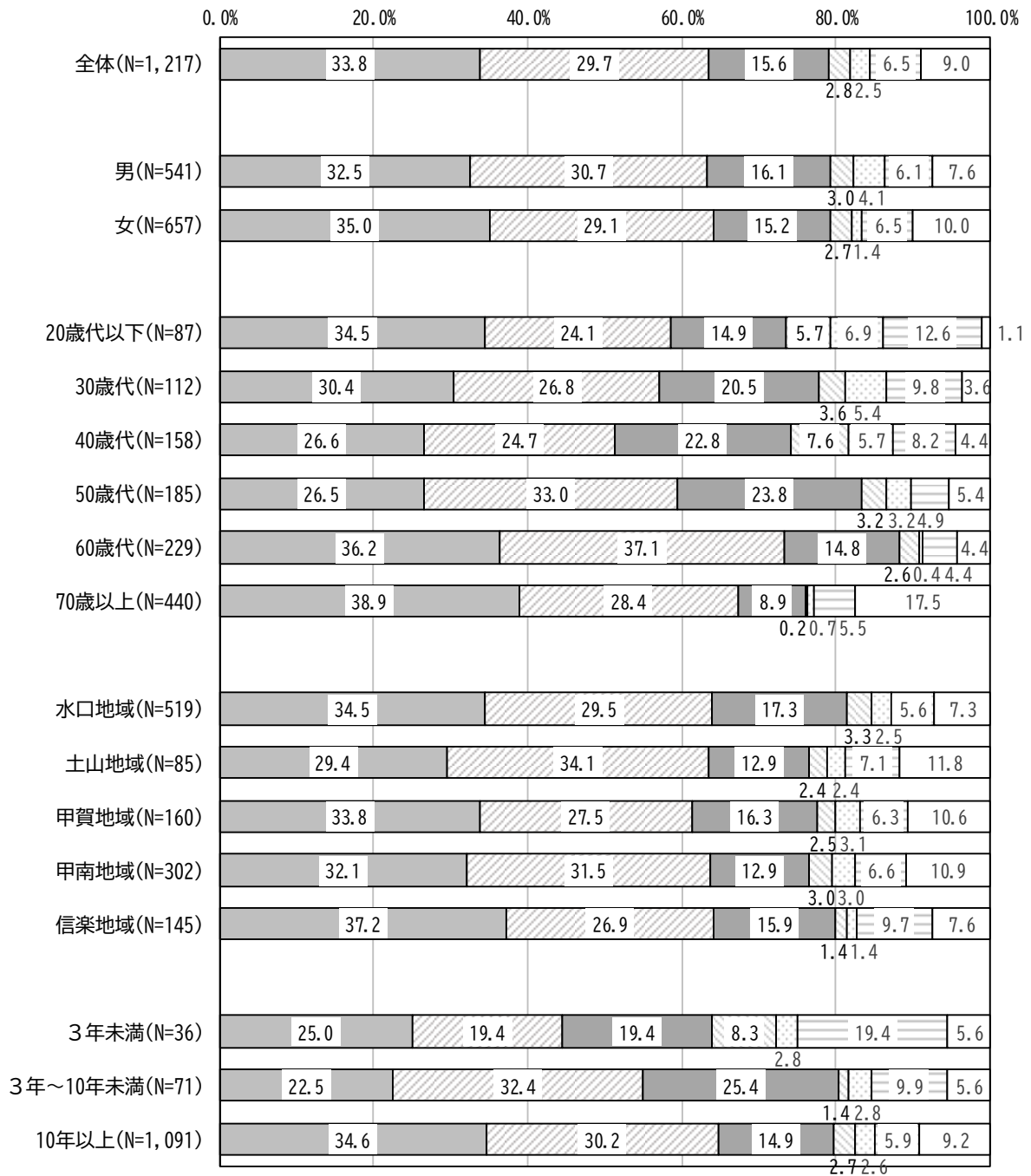
●性別にみると、男性、女性ともに「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、男性は 63.2%、女性は 64.1%となっている。

●年代別にみると、50 歳代、60 歳代は「どちらかといえば重要」が、他の年代では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 73.3%、以下、70 歳以上で 67.3%、50 歳代で 59.5%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「どちらかといえば重要」が、他の地域では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 64.1%、以下、水口地域で 64.0%、甲南地域で 63.6%、土山地域で 63.5%、甲賀地域で 61.3%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「どちらかといえば重要」が、他の年数では「重要」が最も多くなっている。『重要』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 64.8%、以下、3 年～10 年未満で 54.9%、3 年未満で 44.4%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑳新型コロナウイルス感染症対策 重要度（単数回答）



- 重要
- どちらかといえば重要
- どちらともいえない
- どちらかといえば重要ではない
- 重要ではない
- わからない
- 不明・無回答

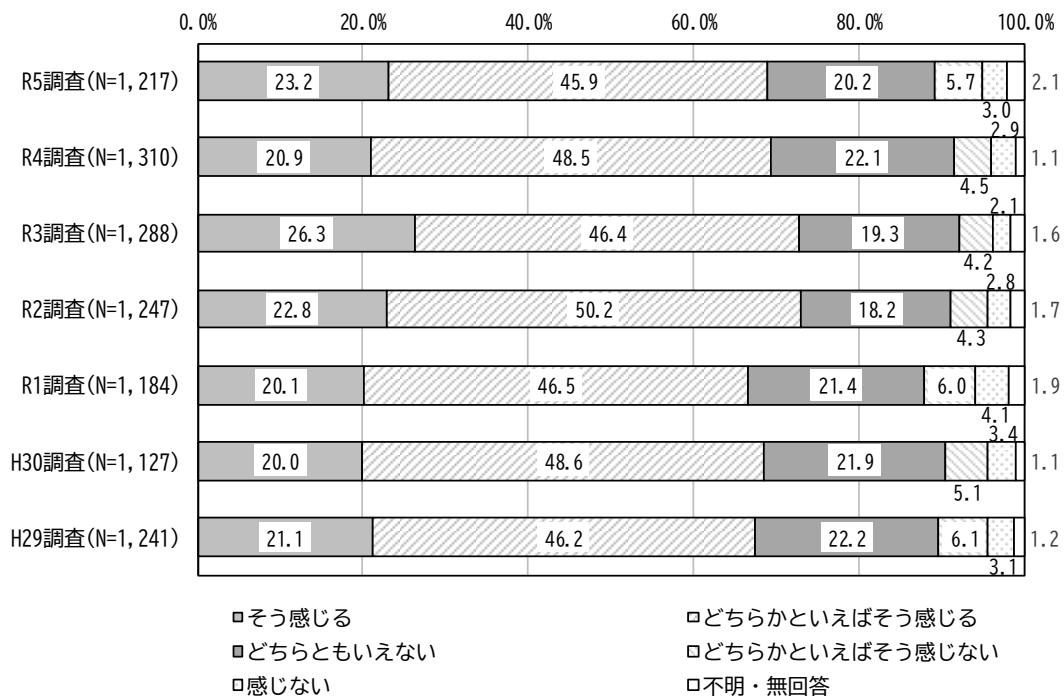
(5) 現在の暮らしに幸せを感じるか

① 現在の暮らしに幸せを感じるか

「問 11」 あなたは、現在の暮らしに幸せを感じますか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

■現在の暮らしに幸せを感じるか（単数回答）



●全体でみると、「どちらかといえばそう感じる」が 45.9%で最も多くなっており、以下、「そう感じる」が 23.2%、「どちらともいえない」が 20.2%、「どちらかといえばそう感じない」が 5.7%、「感じない」が 3.0%と続いている。「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる』は 69.1%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、男性は 68.2%、女性は 70.5%となっている。

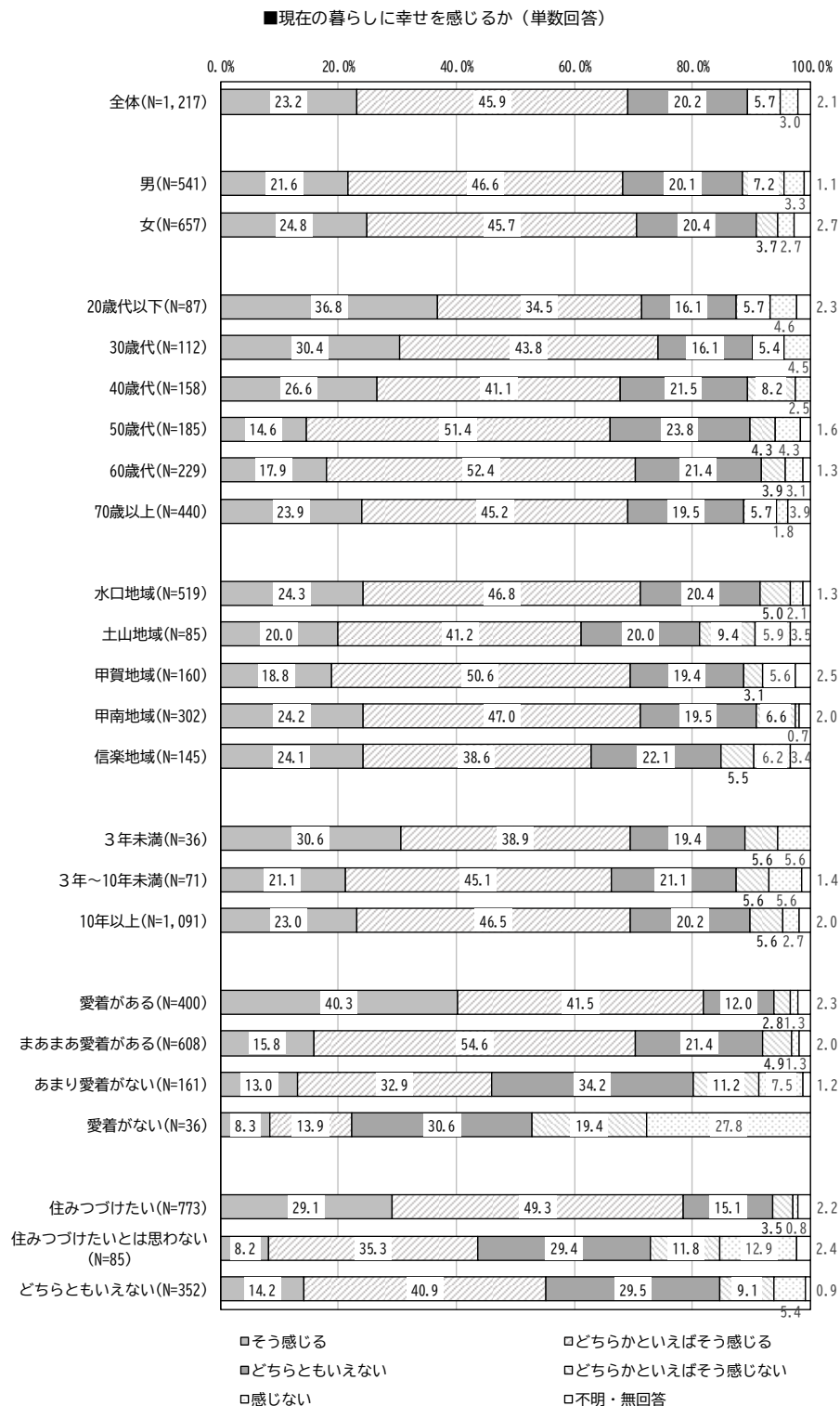
●年代別にみると、20 歳代以下は「そう感じる」が、他の年代では「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 74.2%、以下、20 歳代以下で 71.3%、60 歳代で 70.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 71.2%、以下、水口地域で 71.1%、甲賀地域で 69.4%、信楽地域で 62.7%、土山地域で 61.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満、10年以上で 69.5%、以下、3 年～10 年未満で 66.2%と続いている。

●甲賀市への愛着別にみると、愛着がある、まあまあ愛着があるは「どちらかといえばそう感じる」が、あまり愛着がない、愛着がないは「どちらともいえない」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは愛着があるで 81.8%、以下、まあまあ愛着があるで 70.4%、あまり愛着がないで 45.9%と続いており、愛着があるにつれて多くなっている。

●定住意向別にみると、すべての定住意向において「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。『感じる』の割合をみると、最も多いのは住みつづけたいで 78.4%、以下、どちらともいえないで 55.1%、住みつづけたいとは思わないで 43.5%と続いている。



② どんなことに幸せを感じるか

<問 11-1> 問 11 で「そう感じる」「どちらかといえばそう感じる」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたは、どのようなことに幸せを感じますか。(〇はいくつでも)

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて大きい変化はみられないが、「健康」「家族関係」が他の項目と比べ多く、5割を超えている。

■どのようなことに幸せを感じるか（複数回答）

	収入（お金）	就業状況（仕事の有無・安定）	健康	自由な時間、充実した余暇	社会貢献	家族関係	友人関係	職場や学校等での人間関係	地域コミュニティ、ご近所との関係	その他	不明・無回答
R5調査(N=840)	24.4	23.3	61.8	45.7	9.6	62.9	29.8	15.8	23.6	1.4	1.1
R4調査(N=909)	17.8	19.1	52.0	47.7	6.6	53.7	27.7	12.1	21.3	2.0	1.1
R3調査(N=937)	19.9	24.1	57.5	44.0	7.7	55.9	27.2	14.6	23.3	2.2	1.2
R2調査(N=910)	25.7	24.8	68.0	48.1	10.1	64.1	36.9	17.8	15.6	1.9	0.5
R1調査(N=789)	13.1	16.1	54.1	42.1	9.1	58.8	30.3	12.4	12.5	2.2	0.9
H30調査(N=773)	14.6	14.7	55.0	38.0	7.5	59.4	31.0	10.9	11.9	2.1	1.0
H29調査(N=835)	13.7	14.9	57.7	36.2	6.6	56.6	31.7	9.1	11.3	1.8	1.4

●全体でみると、「家族関係」が 62.9%で最も多くなっており、以下、「健康」が 61.8%、「自由な時間、充実した余暇」が 45.7%と続いている。

●性別にみると、男性は「家族関係」が、女性は「健康」が最も多くなっている。

●年代別にみると、60 歳代、70 歳以上は「健康」が、他の年代では「家族関係」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「家族関係」が、他の地域では「健康」が最も多くなっている。土山地域で「職場や学校等での人間関係」が少なくなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「家族関係」が最も多くなっている。

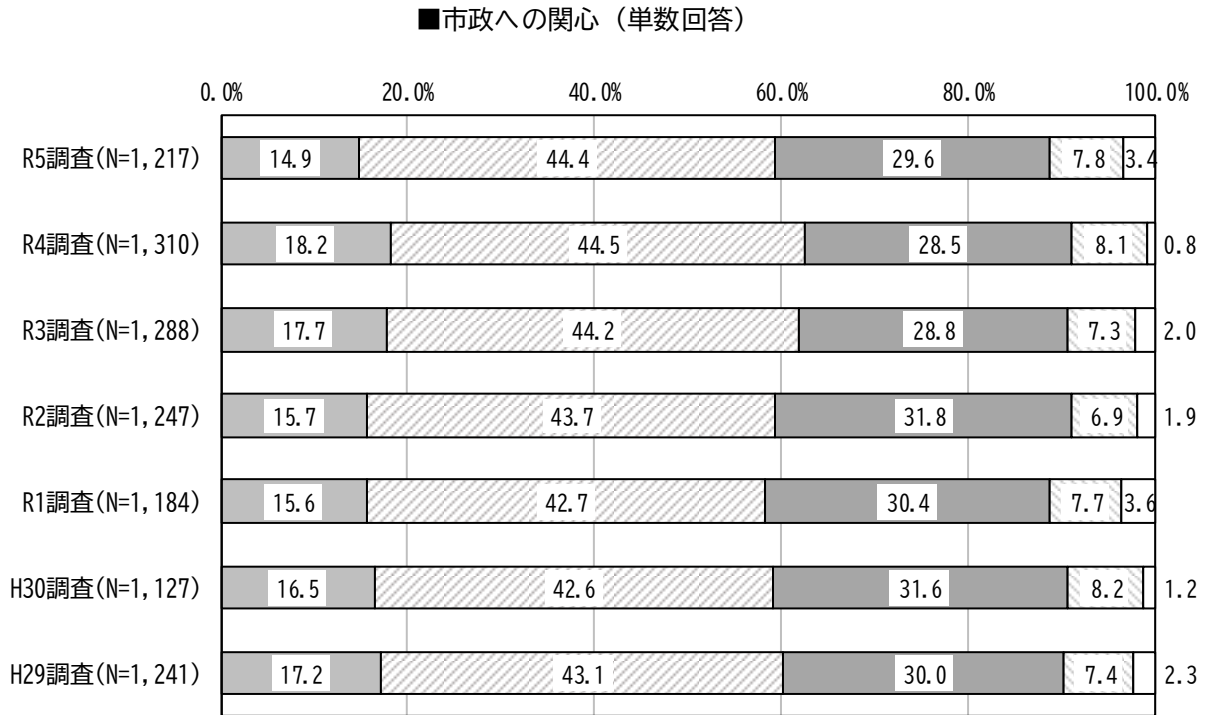
■どのようなことに幸せを感じるか（複数回答）

	収入（お金）	就業状況（仕事の有無・安定）	健康	自由な時間、充実した余暇	社会貢献	家族関係	友人関係	職場や学校等での人間関係	地域コミュニティ、ご近所との関係	その他	不明・無回答
全体(N=840)	24.4	23.3	61.8	45.7	9.6	62.9	29.8	15.8	23.6	1.4	1.1
男(N=369)	20.9	23.3	58.5	45.0	10.6	62.9	19.8	13.0	19.8	0.8	1.9
女(N=463)	27.2	23.3	64.8	46.4	9.1	62.9	37.8	18.1	27.0	1.7	0.4
20歳代以下(N=62)	19.4	17.7	48.4	59.7	1.6	69.4	41.9	35.5	16.1	0.0	0.0
30歳代(N=83)	26.5	28.9	51.8	41.0	12.0	85.5	39.8	21.7	20.5	1.2	0.0
40歳代(N=107)	28.0	37.4	59.8	35.5	9.3	77.6	23.4	26.2	15.9	1.9	0.0
50歳代(N=122)	26.2	39.3	64.8	47.5	9.0	70.5	29.5	27.9	20.5	0.8	1.6
60歳代(N=161)	24.2	29.8	60.9	47.2	9.3	54.7	24.8	13.0	20.5	0.6	1.2
70歳以上(N=304)	22.7	8.2	67.1	46.1	11.2	51.3	29.6	3.3	31.6	2.3	1.6
水口地域(N=369)	26.3	26.0	61.8	46.6	8.1	64.2	30.1	16.5	22.8	1.6	0.0
土山地域(N=52)	23.1	25.0	65.4	42.3	7.7	61.5	32.7	5.8	26.9	0.0	1.9
甲賀地域(N=111)	26.1	23.4	61.3	51.4	13.5	58.6	28.8	18.0	22.5	2.7	1.8
甲南地域(N=215)	20.0	19.1	60.9	47.0	9.3	65.1	28.4	14.9	23.7	0.9	1.9
信楽地域(N=91)	25.3	22.0	62.6	34.1	13.2	57.1	31.9	18.7	26.4	1.1	2.2
3年未満(N=25)	16.0	16.0	56.0	52.0	8.0	64.0	32.0	16.0	24.0	0.0	0.0
3年～10年未満(N=47)	34.0	36.2	61.7	44.7	6.4	80.9	34.0	25.5	17.0	2.1	0.0
10年以上(N=758)	23.9	22.8	61.7	45.8	10.0	61.9	29.3	15.4	24.0	1.5	1.2

(6) 市政への関心

「問 12」 あなたは、市政(市役所のしていること)に関心をお持ちですか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。



□関心がある □まあまあ関心がある □あまり関心がない □関心がない □不明・無回答

●全体でみると、「まあまあ関心がある」が 44.4%で最も多くなっており、以下、「あまり関心がない」が 29.6%、「関心がある」が 14.9%、「関心がない」が 7.8%と続いている。「関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた『関心あり』は 59.3%と続いている。

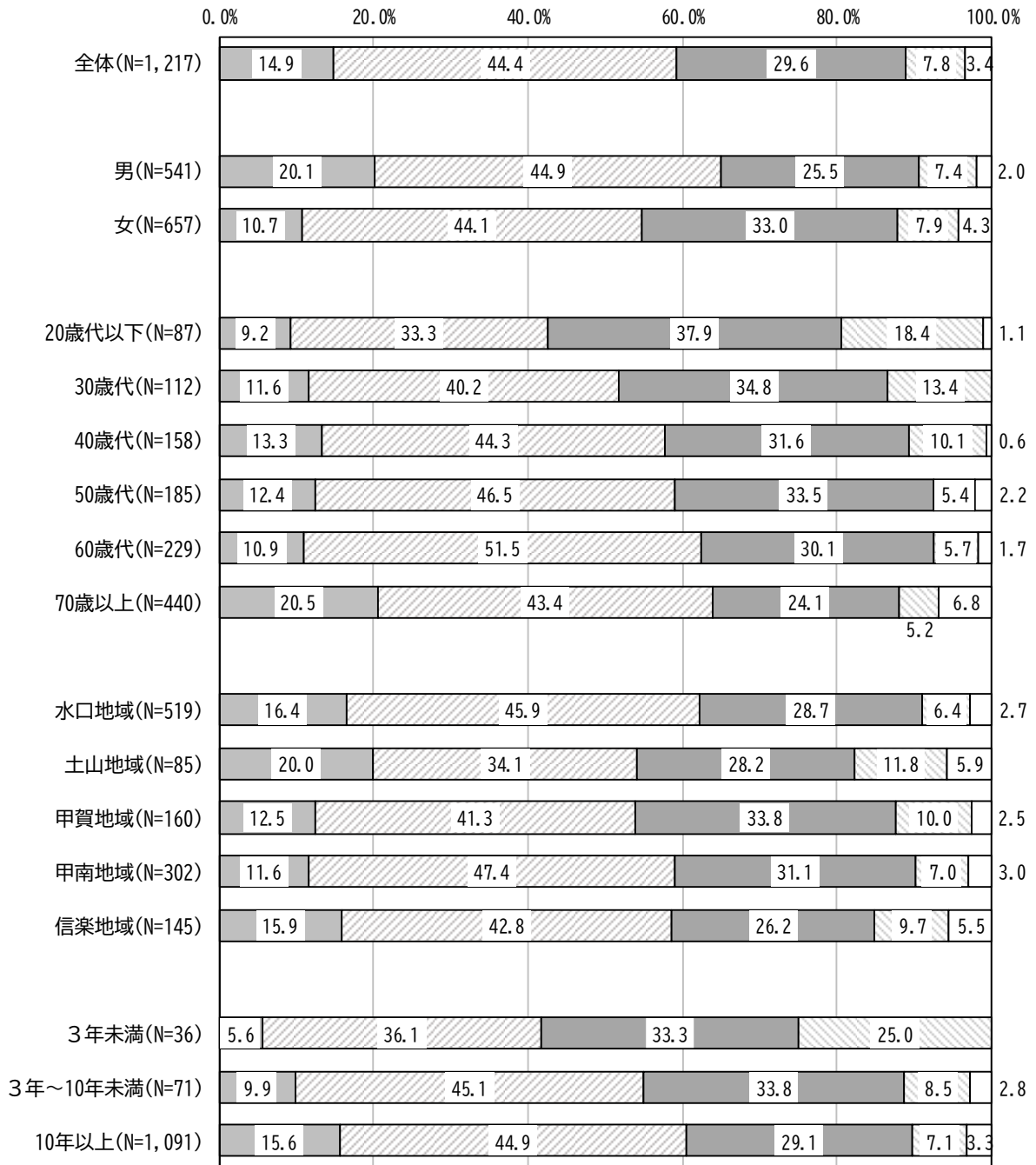
●性別にみると、男性、女性ともに「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合をみると、男性は 65.0%、女性は 54.8%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「あまり関心がない」が、他の年代では「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 63.9%、以下、60 歳代で 62.4%、50 歳代で 58.9%と続いており、年代が高くなるにつれて多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 62.3%、以下、甲南地域で 59.0%、信楽地域で 58.7%、土山地域で 54.1%、甲賀地域で 53.8%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「まあまあ関心がある」が最も多くなっている。『関心あり』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 60.5%、以下、3 年～10 年未満で 55.0%、3 年未満で 41.7%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■ 市政への関心（単数回答）



□ 関心がある □ まあまあ関心がある □ あまり関心がない □ 関心がない □ 不明・無回答

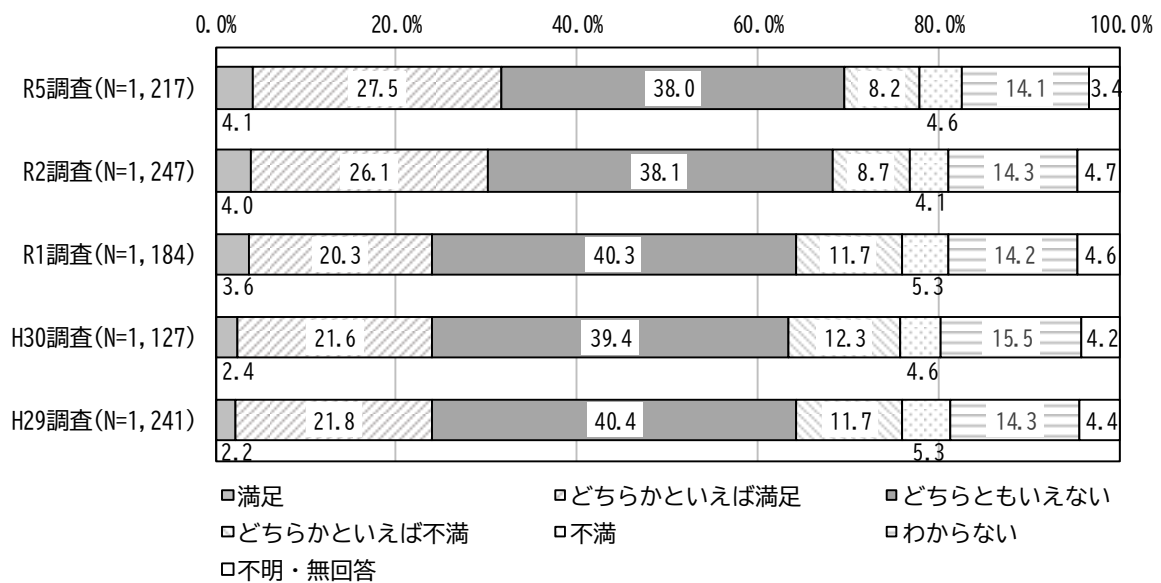
(7) 市政に関する満足度

「問 13」 あなたは、市政に関する次の項目について、どの程度満足されていますか。
以下の①～⑤のそれぞれの項目について選んでください。(それぞれ○は1つ)

① 行政サービスの水準

平成 29 年度調査からの推移をみると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

①行政サービスの水準 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 38.0%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 27.5%、「わからない」が 14.1%、「どちらかといえば不満」が 8.2%、「不満」が 4.6%、「満足」が 4.1%と続いている。『満足』は 31.6%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 33.1%、女性は 30.4%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代、70 歳以上で 34.8%、以下、20 歳代以下で 33.3%、50 歳代で 30.8%と続いている。

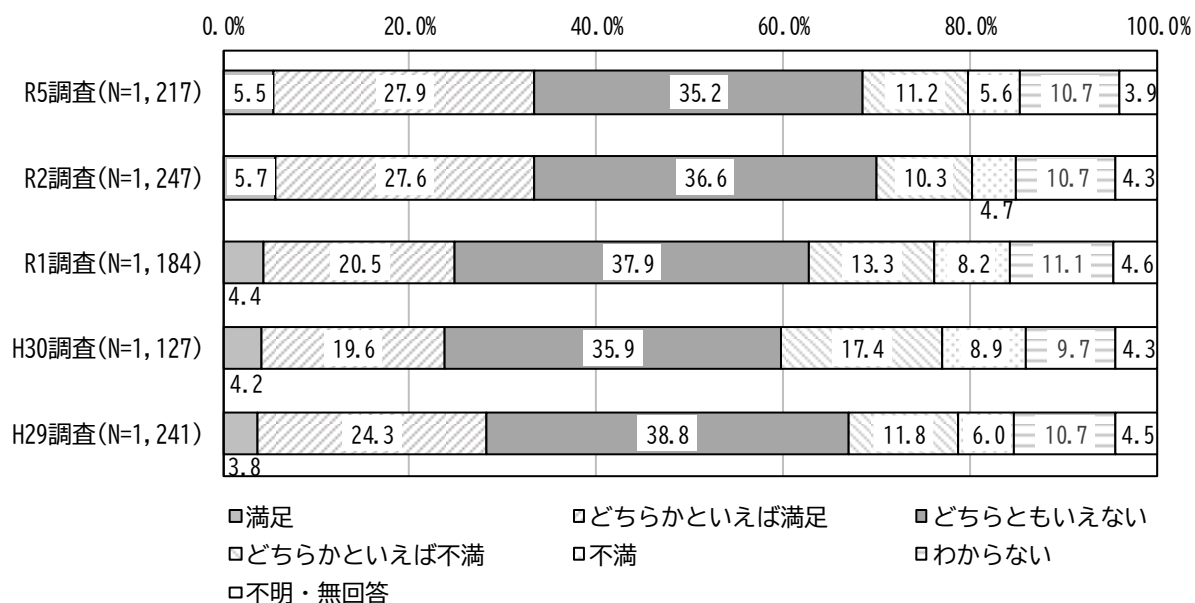
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 34.1%、以下、信楽地域で 31.7%、甲南地域で 30.1%、甲賀地域で 29.4%、土山地域で 25.9%と続いている。

●居住年数別にみると、10 年以上は「どちらともいえない」が、他の年数では「どちらかといえば満足」が最も多くなっている(3 年～10 年未満は「どちらともいえない」と同率)。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年未満で 36.1%、以下、10 年以上で 31.6%、3 年～10 年未満で 31.0%と続いている。

③ 行政(市役所)の信頼度

平成 29 年度調査からの推移をみると、平成 30 年度以降から「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』の割合が増加している。

③行政（市役所）の信頼度 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 35.2%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば満足」が 27.9%、「どちらかといえば不満」が 11.2%、「わからない」が 10.7%、「不満」が 5.6%、「満足」が 5.5%と続いている。『満足』は 33.4%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 33.3%、女性は 34.0%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「どちらかといえば満足」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 39.0%、以下、50 歳代で 37.9%、40 歳代で 36.1%と続いている。

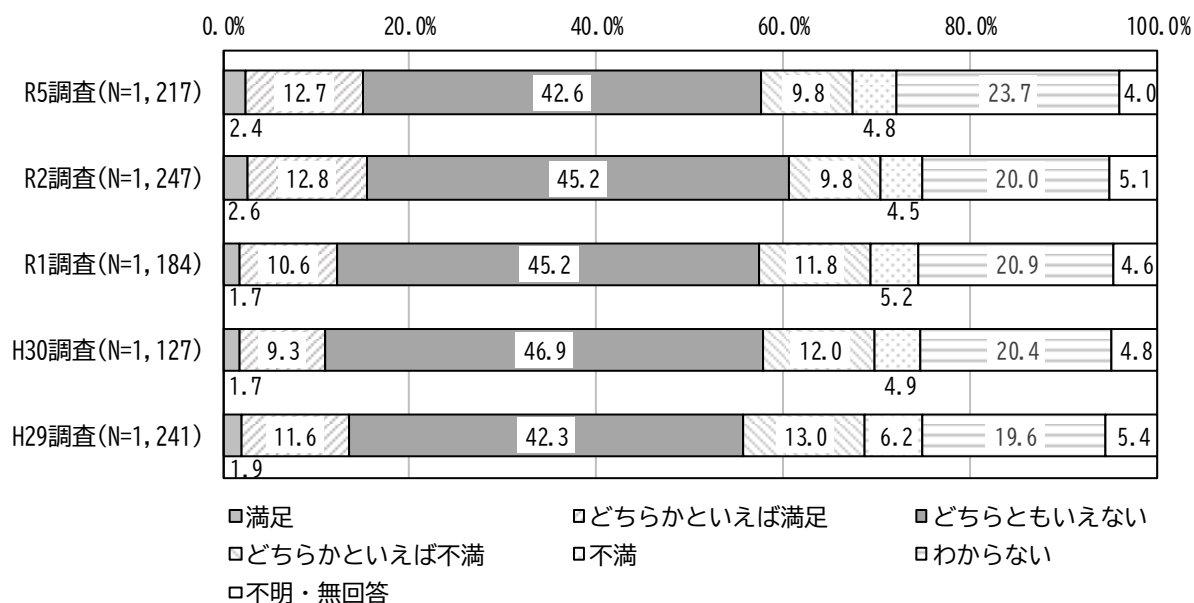
●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは、信楽地域で 36.5%、以下、水口地域で 36.0%、甲賀地域で 35.0%、甲南地域で 29.8%、土山地域で 24.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 33.7%、以下、3 年未満で 33.4%、3 年～10 年未満で 32.4%と続いている。

⑤ 市政への住民参画のしやすさ

平成 29 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

⑤市政への住民参画のしやすさ 満足度（単数回答）



●全体でみると、「どちらともいえない」が 42.6%で最も多くなっており、以下、「わからない」が 23.7%、「どちらかといえば満足」が 12.7%、「どちらかといえば不満」が 9.8%、「不満」が 4.8%、「満足」が 2.4%と続いている。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足』は 15.1%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、男性は 14.4%、女性は 15.8%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「わからない」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 20.9%、以下、20 歳代以下で 20.6%、70 歳以上で 17.5%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 18.1%、以下、甲南地域で 14.2%、信楽地域で 13.1%、土山地域で 11.8%、甲賀地域で 10.7%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「わからない」が、他の年数では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『満足』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 19.7%、以下、10 年以上で 15.0%、3 年未満で 13.9%と続いている。

(8) これからの4年間で重点的に取り組むべき施策

「問 14」 あなたは、これからの4年間で重点的に取り組むべき施策は、どのようなことだと考えますか。各分野より1つずつ選択してください。

① 子育て・教育

■これからの4年間で重点的に取り組むべき施策 (1) 子育て・教育 (単数回答)

	子育てに経済的負担への助成	「多様な保育ニーズに応じた質」の向上	屋内遊び場の整備	子どものメンタルケア教育と起業家精神の育成	ICT教育の取り組み強化	地域産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」の推進	「ものづくり」の魅力を伝えるための職場体験	外国人児童・生徒に対する教育支援	学校と地域の連携促進	コミュニティスクールなど、づくり	フリースクールなどの居場所	結婚支援に対する取り組みの強化	歩道整備などの交通安全対策	不明・無回答
R5調査(N=1,217)	29.7	5.7	3.6	3.0	3.8	6.2	3.0	1.6	3.0	5.3	5.4	22.4	7.1	
R2調査(N=1,247)	36.5	6.5	6.0	-	-	10.7	5.9	1.5	4.7	-	7.4	-	9.6	

●子育て・教育は、「子育てにかかる医療費／学費などの経済的負担への助成」が29.7%で最も多くなっており、以下、「歩道整備などの交通安全対策」が22.4%、「地域産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」の推進」が6.2%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「子育てにかかる医療費／学費などの経済的負担への助成」が最も多くなっている。

●年代別にみると、60歳代、70歳以上は「歩道整備などの交通安全対策」が、他の年代では「子育てにかかる医療費／学費などの経済的負担への助成」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「子育てにかかる医療費／学費などの経済的負担への助成」が最も多くなっている(甲南地域は「歩道整備などの交通安全対策」と同率)。

●居住年数別にみると、すべての年数において「子育てにかかる医療費／学費などの経済的負担への助成」が最も多くなっており、次いで、「歩道整備などの交通安全対策」が多くなっている。

■これからの4年間で重点的に取り組むべき施策 (1) 子育て・教育 (単数回答)

	子育てにかかるとの経済的負担への医療費／学費	「多様な保育ニーズに応じた「質」の向上	屋内遊戯施設など、子どもの遊び場の整備	子どものメンタルケア教育と起業家精神の育成	ICT教育の取り組み強化	進める「ふるさと教育」の推進	地域産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」の推進	「ものづくり」の魅力を伝えるための職場体験	外国人児童・生徒に対する教育支援	学校と地域の連携促進	コミュニティスクールなど、学校と地域の連携促進	フリースクールなどの居場所づくり	結婚支援に対する取り組みの強化	歩道整備などの交通安全対策	不明・無回答
全体(N=1,217)	29.7	5.7	3.6	3.0	3.8	6.2	3.0	1.6	3.0	5.3	5.4	22.4	7.1		
男(N=541)	29.0	5.9	3.0	3.7	3.9	7.4	4.6	2.4	2.4	3.1	7.6	22.0	5.0		
女(N=657)	30.4	5.6	4.3	2.3	3.7	5.3	1.8	1.1	3.7	6.7	3.7	22.7	8.8		
20歳代以下(N=87)	35.6	3.4	9.2	2.3	5.7	8.0	3.4	3.4	1.1	11.5	3.4	11.5	1.1		
30歳代(N=112)	50.0	3.6	6.3	2.7	8.0	0.9	0.9	2.7	3.6	5.4	3.6	10.7	1.8		
40歳代(N=158)	39.9	3.8	3.8	2.5	5.1	2.5	3.8	0.6	1.9	8.9	3.2	20.3	3.8		
50歳代(N=185)	29.7	3.2	3.8	3.8	5.9	3.8	2.2	1.6	2.7	4.9	5.4	28.1	4.9		
60歳代(N=229)	24.5	10.0	4.4	2.2	2.2	6.1	1.7	1.3	3.9	5.7	8.3	24.9	4.8		
70歳以上(N=440)	22.5	6.1	1.4	3.4	1.6	9.8	4.3	1.6	3.4	2.7	5.7	24.8	12.7		
水口地域(N=519)	31.6	6.4	4.0	3.5	3.9	3.3	2.7	1.7	3.5	6.4	5.0	22.5	5.6		
土山地域(N=85)	23.5	9.4	1.2	3.5	5.9	9.4	3.5	2.4	5.9	1.2	5.9	16.5	11.8		
甲賀地域(N=160)	32.5	3.8	3.8	2.5	4.4	8.1	1.9	1.3	3.1	6.3	7.5	17.5	7.5		
甲南地域(N=302)	27.8	4.0	3.3	2.0	3.6	7.9	3.3	1.3	2.3	5.0	4.3	27.8	7.3		
信楽地域(N=145)	28.3	6.9	4.1	3.4	1.4	9.7	4.8	2.1	1.4	3.4	6.9	19.3	8.3		
3年未満(N=36)	30.6	5.6	2.8	2.8	11.1	5.6	2.8	5.6	0.0	0.0	2.8	27.8	2.8		
3年～10年未満(N=71)	40.8	7.0	7.0	7.0	1.4	1.4	0.0	1.4	4.2	7.0	1.4	18.3	2.8		
10年以上(N=1,091)	28.9	5.7	3.5	2.7	3.7	6.6	3.3	1.5	3.1	5.4	5.9	22.5	7.3		

② 地域経済

■これからの4年間で重点的に取り組むべき施策 (2) 地域経済 (単数回答)

	環境に配慮したまちづくりの推進	地域経済の担い手の確保・育成への支援	興「茶」などを活用した観光振興	「忍者」や「信楽焼」、といった農業経営支援	6次産業化やスマート農業と	「お試し居住」などの移住・定住施策の推進	スタートアップ支援といった起業支援	テレワークなど、企業に対する「多様な働き方」への支援	新たな道路整備	JR草津線の利便性向上	信楽高原鉄道や近江鉄道への支援、対策検討の存続	コミュニティバス・コミタクの利便性向上	コンバクトシティによる効率的な行政経営の推進	空き家、空き地などの活用・除却に向けた費用助成	不明・無回答
R5調査(N=1,217)	9.8	10.8	5.8	4.0	3.5	1.1	2.1	6.2	21.4	2.6	14.3	1.8	12.5	4.3	
R2調査(N=1,247)	-	-	5.9	3.7	3.4	1.7	2.6	-	18.7	4.7	16.2	4.8	14.0	6.6	

●「JR草津線の利便性向上」が21.4%で最も多くなっており、以下、「コミュニティバス・コミタクの利便性向上」が14.3%、「空き家、空き地などの活用・除却に向けた費用助成」が12.5%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「JR草津線の利便性向上」が最も多くなっている。次いで、男性は「地域経済の担い手の確保・育成への支援」が、女性は「コミュニティバス・コミタクの利便性向上」が多くなっている。

●年代別にみると、70歳以上は「コミュニティバス・コミタクの利便性向上」が、他の年代では「JR草津線の利便性向上」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、土山地域、信楽地域は「地域経済の担い手の確保・育成への支援」が、他の地域では「JR草津線の利便性向上」が最も多くなっている（信楽地域は「空き家、空き地などの活用・除却に向けた費用助成」と同率）。

●居住年数別にみると、すべての年数において「JR草津線の利便性向上」が最も多くなっている。

■これからの4年間で重点的に取り組むべき施策 (2) 地域経済 (単数回答)

	環境に配慮したまちづくりの推進	地域経済の担い手の確保・育成への支援	興「茶」や「信楽焼」、などを活用した観光振	6次産業化やスマート農業といった農業経営支援	「お試し居住」などの移住・定住施策の推進	起業支援	テレワークなど、企業に対する「多様な働き方」への支援	新たな道路整備	J R草津線の利便性向上	信楽高原鉄道や近江鉄道の存続に向けた支援、対策検討	コミュニティバス・コミタクの利便性向上	コンパクトシティによる効率的な行政経営の推進	空き家、空き地などの活用・除却に向けた費用助成	不明・無回答
全体(N=1,217)	9.8	10.8	5.8	4.0	3.5	1.1	2.1	6.2	21.4	2.6	14.3	1.8	12.5	4.3
男(N=541)	11.5	11.6	7.0	4.6	4.1	1.7	1.7	6.5	21.1	3.5	10.9	3.0	10.5	2.4
女(N=657)	8.1	10.2	4.7	3.7	3.0	0.6	2.4	5.8	21.8	1.8	17.0	0.9	14.3	5.6
20歳以下(N=87)	10.3	5.7	10.3	0.0	2.3	0.0	3.4	6.9	41.4	2.3	8.0	0.0	6.9	2.3
30歳代(N=112)	10.7	9.8	7.1	3.6	4.5	0.9	5.4	5.4	31.3	1.8	8.0	0.0	10.7	0.9
40歳代(N=158)	8.9	12.0	7.0	2.5	2.5	2.5	3.8	7.0	31.0	1.9	8.9	1.3	8.9	1.9
50歳代(N=185)	8.6	10.3	9.7	3.8	4.9	1.1	3.2	5.9	21.6	5.4	10.3	2.7	10.3	2.2
60歳代(N=229)	10.5	10.9	3.5	8.7	2.6	0.9	0.9	5.7	19.2	1.7	12.7	3.5	16.6	2.6
70歳以上(N=440)	9.8	11.8	3.9	3.2	3.6	0.9	0.5	6.1	12.5	2.5	21.8	1.6	14.3	7.5
水口地域(N=519)	11.6	8.3	4.6	3.7	2.5	1.3	1.9	6.7	23.7	3.3	13.7	2.1	12.7	3.9
土山地域(N=85)	11.8	21.2	4.7	4.7	4.7	0.0	1.2	4.7	5.9	1.2	16.5	1.2	16.5	5.9
甲賀地域(N=160)	8.8	8.1	4.4	8.1	5.6	0.6	3.1	3.8	27.5	0.0	10.6	1.3	12.5	5.6
甲南地域(N=302)	7.0	10.9	8.9	2.3	2.6	1.3	2.3	5.0	26.5	1.0	18.5	2.0	9.3	2.3
信楽地域(N=145)	9.0	16.6	6.2	4.1	5.5	0.7	1.4	9.7	4.8	7.6	10.3	1.4	16.6	6.2
3年未満(N=36)	5.6	11.1	2.8	0.0	5.6	2.8	2.8	2.8	38.9	2.8	8.3	0.0	11.1	5.6
3年～10年未満(N=71)	15.5	7.0	2.8	1.4	1.4	1.4	4.2	5.6	36.6	2.8	7.0	1.4	9.9	2.8
10年以上(N=1,091)	9.3	11.1	6.2	4.4	3.6	1.0	1.8	6.1	20.0	2.7	15.0	1.9	12.7	4.0

③ 福祉・介護

■これからの4年間で重点的に取り組むべき施策 (3) 福祉・介護 (単数回答)

	ヤングケアラーや引きこもり対策の強化	高齢者から若者、子どもまでが交流できる「多世代交流」の推進	健康寿命延伸に向けた高齢者への取り組み	高齢者の見守りなど、地域で支えあう取り組み	福祉施設等の充実	介護人材の確保と就労環境の改善	障がい者や高齢者が農業分野で活躍する「農福連携」の取組み	不明・無回答
R5調査(N=1, 217)	9.6	8.7	8.5	18.0	25.1	22.3	4.2	3.7
R2調査(N=1, 247)	-	9.9	19.4	-	-	39.7	9.2	5.3

●「福祉施設等の充実」が25.1%で最も多くなっており、以下、「介護人材の確保と就労環境の改善」が22.3%、「高齢者の見守りなど、地域で支えあう取り組み」が18.0%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「福祉施設等の充実」が最も多くなっており、次いで、「介護人材の確保と就労環境の改善」が多くなっている。

●年代別にみると、20歳代以下は「ヤングケアラーや引きこもり対策の強化」が、50歳代は「介護人材の確保と就労環境の改善」が、他の年代では「福祉施設等の充実」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「福祉施設等の充実」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「福祉施設等の充実」が最も多くなっており、次いで、「介護人材の確保と就労環境の改善」が多くなっている(3年未満は「ヤングケアラーや引きこもり対策の強化」「高齢者から若者、子どもまでが交流できる「多世代交流」の推進」と同率)。

■これからの4年間で重点的に取り組むべき施策 (3) 福祉・介護 (単数回答)

	ヤングケアラーや引きこもりの強化	高齢者から若者、多世代交流の推進	健康寿命延伸に向けた高齢者の健康づくりへの取り組み	高齢者の見守りなど、地域で支えあう取り組み	福祉施設等の充実	介護人材の確保と就労環境の改善	障がい者や高齢者が農業分野で活躍する「農福連携」の取組み	不明・無回答
全体(N=1,217)	9.6	8.7	8.5	18.0	25.1	22.3	4.2	3.7
男(N=541)	9.4	10.0	10.0	17.4	23.8	22.2	4.4	2.8
女(N=657)	9.7	7.9	7.2	18.4	25.9	22.8	3.8	4.3
20歳代以下(N=87)	23.0	13.8	3.4	16.1	21.8	18.4	2.3	1.1
30歳代(N=112)	14.3	7.1	6.3	14.3	29.5	26.8	1.8	0.0
40歳代(N=158)	15.2	8.9	3.8	14.6	25.3	24.1	8.2	0.0
50歳代(N=185)	10.3	8.1	5.9	16.8	24.9	26.5	3.8	3.8
60歳代(N=229)	6.6	7.9	8.3	18.3	28.4	22.3	4.8	3.5
70歳以上(N=440)	5.2	8.9	13.0	21.1	23.0	19.5	3.4	5.9
水口地域(N=519)	11.0	9.2	6.9	18.3	26.0	21.8	3.5	3.3
土山地域(N=85)	9.4	9.4	15.3	17.6	21.2	20.0	2.4	4.7
甲賀地域(N=160)	10.0	5.6	8.8	22.5	23.1	20.6	4.4	5.0
甲南地域(N=302)	7.3	8.9	8.6	16.6	25.8	24.8	6.0	2.0
信楽地域(N=145)	9.7	9.7	9.7	15.9	24.1	22.1	3.4	5.5
3年未満(N=36)	16.7	16.7	2.8	13.9	25.0	16.7	2.8	5.6
3年～10年未満(N=71)	9.9	12.7	4.2	18.3	23.9	22.5	4.2	4.2
10年以上(N=1,091)	9.5	8.2	8.9	18.2	25.0	22.5	4.2	3.4

2 市民自治について

(1) 自治振興会への活動参加

「問 15」 あなたは、自治振興会の活動に参加されていますか。(○は1つ)

●全体で見ると、「参加していない」が 43.7%で最も多くなっており、以下、「なるべく参加している」が 34.8%、「活動自体を知らない」が 14.0%、「積極的に参加している」が 4.1%と続いている。「積極的に参加している」と「なるべく参加している」を合わせた『参加』は 38.9%となっている。

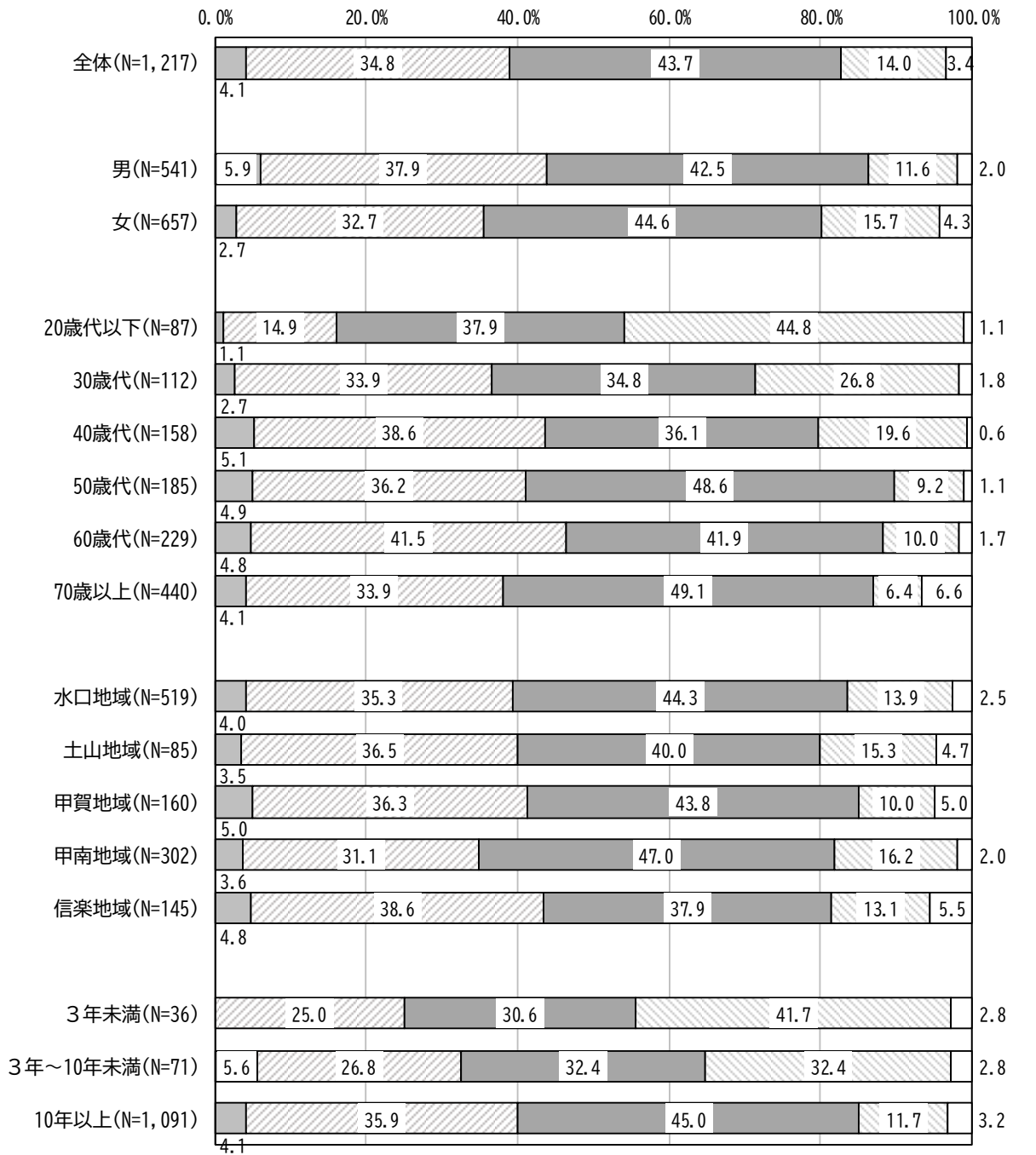
●性別にみると、男性、女性ともに「参加していない」が最も多くなっている。『参加』の割合をみると、男性は 43.8%、女性は 35.4%となっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「活動自体を知らない」が、40 歳代は「なるべく参加している」が、他の年代では「参加していない」が最も多くなっている。『参加』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 46.3%、以下、40 歳代で 43.7%、50 歳代で 41.1%と続いている。

●居住地域別にみると、信楽地域は「なるべく参加している」が、他の地域では「参加していない」が最も多くなっている。『参加』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 43.4%、以下、甲賀地域で 41.3%、土山地域で 40.0%、水口地域で 39.3%、甲南地域で 34.7%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「活動自体を知らない」が、他の年数では「参加していない」が最も多くなっている(3 年～10 年未満は「活動自体を知らない」と同率)。『参加』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 40.0%、以下、3 年～10 年未満で 32.4%、3 年未満で 25.0%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■自治振興会への活動参加（単数回答）



□積極的に参加している □なるべく参加している □参加していない □活動自体を知らない □不明・無回答

(2) 自治振興会や区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容

《問 16》 今後、自治振興会、もしくは区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容はどのようなものですか。それぞれあてはまるものを1つ選んで番号を記入してください。

① 自治振興会が重点的に取り組んでほしい事業内容

前回の調査と比較すると、総じて変化はみられない。

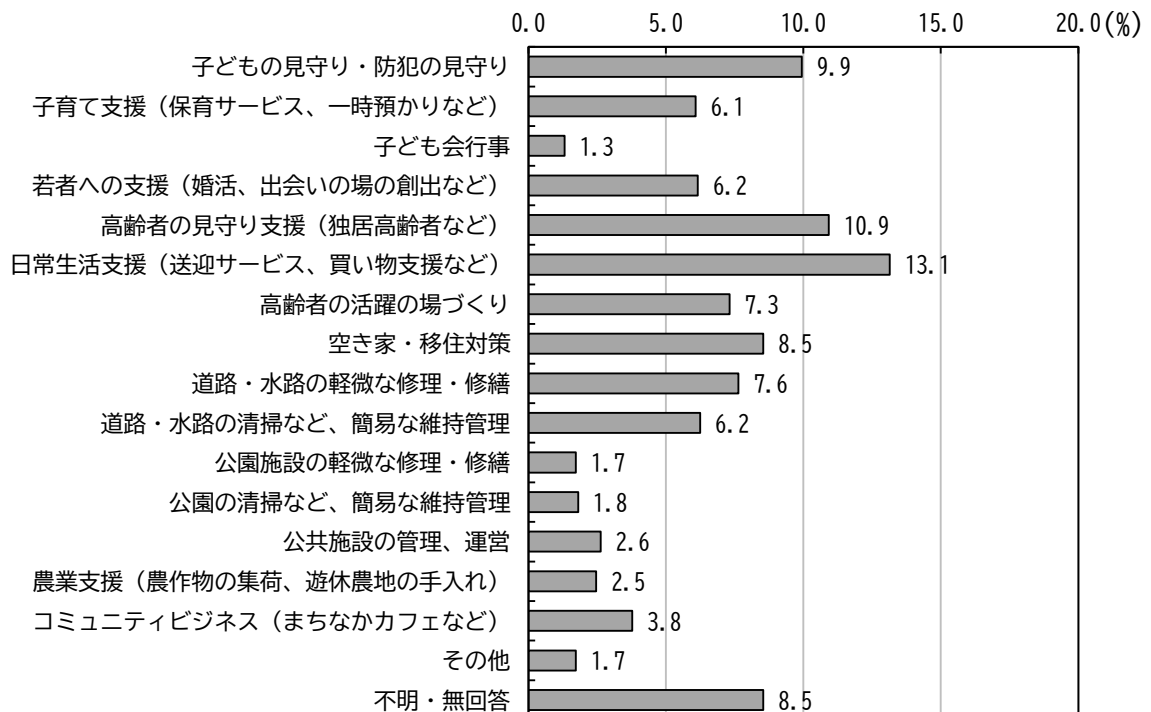
■自治振興会が重点的に取り組んでほしい事業内容（単数回答）

	子どもの見守り・防犯の見守り	子育て支援（保育サービス、一時預かりなど）	子ども会行事	若者への支援（婚活、出会いの場の創出など）	高齢者の見守り支援（独居高齢者など）	日常生活支援（送迎サービス、買い物支援など）	高齢者の活躍の場づくり	空き家・移住対策	道路・水路の軽微な修理・修繕	道路・水路の清掃など、簡易な維持管理	公園施設の軽微な修理・修繕	公園の清掃など、簡易な維持管理	公共施設の管理、運営	農業支援（農作物の集荷、遊休農地の手入れ）	コミュニティビジネス（まちなかカフェなど）	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,217)	9.9	6.1	1.3	6.2	10.9	13.1	7.3	8.5	7.6	6.2	1.7	1.8	2.6	2.5	3.8	1.7	8.5
R2調査(N=1,247)	11.9	6.9	0.6	5.0	12.8	12.1	7.5	8.3	8.3	5.6	1.4	2.6	3.4	3.0	3.4	2.0	5.1

自治振興会が重点的に取り組んでほしい事業内容は、「日常生活支援」が 13.1%で最も多くなっており、以下、「高齢者の見守り支援」が 10.9%、「子どもの見守り・防犯の見守り」が 9.9%と続いている。

■自治振興会が重点的に取り組んでほしい事業内容（単数回答）

□全体(N=1,217)



●性別にみると、男性、女性ともに「日常生活支援」が最も多くなっており、次いで、「高齢者の見守り支援」が多くなっている。

●年代別にみると、50歳代は「高齢者の見守り支援」が、60歳代、70歳以上は「日常生活支援」が、他の年代では「子どもの見守り・防犯の見守り」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、甲南地域は「高齢者の見守り支援」が、信楽地域は「空き家・移住対策」が、他の地域では「日常生活支援」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、3年未満は「子育て支援」が、3年～10年未満では「子どもの見守り・防犯の見守り」が、10年以上では「日常生活支援」が最も多くなっている。

■自治振興会が重点的に取り組んでほしい事業内容（単数回答）

	子どもの見守り・防犯の見守り	子育て支援（保育サービス、一時預かりなど）	子ども会行事	若者への支援（婚活、出会いの場の創出など）	高齢者の見守り支援（同居高齢者など）	日常生活支援（送迎サービス、買い物支援など）	高齢者の活躍の場づくり	空き家・移住対策	道路・水路の軽微な修理・修繕	道路・水路の清掃など、簡易な維持管理	公園施設の軽微な修理・修繕	公園の清掃など、簡易な維持管理	公共施設の管理、運営	農業支援（農作物の集荷、遊休農地の手入れ）	コミュニティビジネス（まちなかカフェなど）	その他	不明・無回答
全体(N=1,217)	9.9	6.1	1.3	6.2	10.9	13.1	7.3	8.5	7.6	6.2	1.7	1.8	2.6	2.5	3.8	1.7	8.5
男(N=541)	9.8	5.5	1.5	7.4	10.7	12.0	7.4	9.1	9.1	5.9	2.0	1.1	2.6	2.8	2.8	2.0	8.3
女(N=657)	10.0	6.7	1.2	5.2	10.8	13.5	7.5	8.4	6.5	6.7	1.5	2.4	2.7	2.3	4.6	1.5	8.4
20歳以下(N=87)	17.2	10.3	3.4	10.3	3.4	11.5	5.7	4.6	4.6	4.6	2.3	1.1	2.3	1.1	9.2	4.6	3.4
30歳代(N=112)	20.5	16.1	1.8	4.5	2.7	5.4	2.7	8.0	6.3	7.1	6.3	2.7	2.7	1.8	3.6	2.7	5.4
40歳代(N=158)	14.6	6.3	3.2	3.2	11.4	10.1	8.2	5.7	8.9	10.1	0.0	4.4	3.2	1.3	2.5	2.5	4.4
50歳代(N=185)	5.4	4.3	0.5	5.9	16.2	12.4	7.0	8.1	11.4	8.1	2.7	1.1	3.2	2.7	4.9	0.5	5.4
60歳代(N=229)	6.6	7.0	0.4	6.6	9.2	12.7	8.7	11.4	8.3	6.6	2.2	1.7	2.6	3.1	4.4	2.2	6.6
70歳以上(N=440)	8.0	3.0	0.9	6.8	13.0	17.3	8.0	9.3	6.1	4.1	0.5	1.1	2.3	3.0	2.5	0.9	13.4
水口地域(N=519)	11.2	7.1	1.3	6.4	10.4	14.3	7.9	7.7	7.3	5.4	2.5	1.5	3.3	1.2	3.7	1.3	7.5
土山地域(N=85)	10.6	3.5	1.2	4.7	9.4	15.3	7.1	14.1	1.2	5.9	1.2	2.4	2.4	4.7	3.5	1.2	11.8
甲賀地域(N=160)	9.4	3.1	0.0	5.0	9.4	14.4	6.9	11.3	6.3	10.0	0.6	3.1	0.0	3.8	4.4	1.3	11.3
甲南地域(N=302)	10.6	8.3	2.3	6.0	12.9	11.9	6.6	5.6	9.3	5.3	1.7	2.3	3.6	2.6	4.0	2.3	4.6
信楽地域(N=145)	4.8	2.8	0.7	8.3	11.0	9.7	7.6	11.7	10.3	7.6	0.7	0.0	1.4	4.1	3.4	2.8	13.1
3年未満(N=36)	8.3	13.9	0.0	5.6	5.6	8.3	8.3	5.6	8.3	5.6	2.8	2.8	0.0	0.0	8.3	2.8	13.9
3年～10年未満(N=71)	12.7	8.5	4.2	5.6	4.2	8.5	7.0	11.3	7.0	11.3	1.4	1.4	0.0	0.0	7.0	1.4	8.5
10年以上(N=1,091)	9.5	5.8	1.2	6.3	11.5	13.6	7.2	8.5	7.7	6.0	1.7	1.7	2.9	2.7	3.5	1.7	8.2

② 区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容

前回の調査と比較すると、総じて変化はみられない。

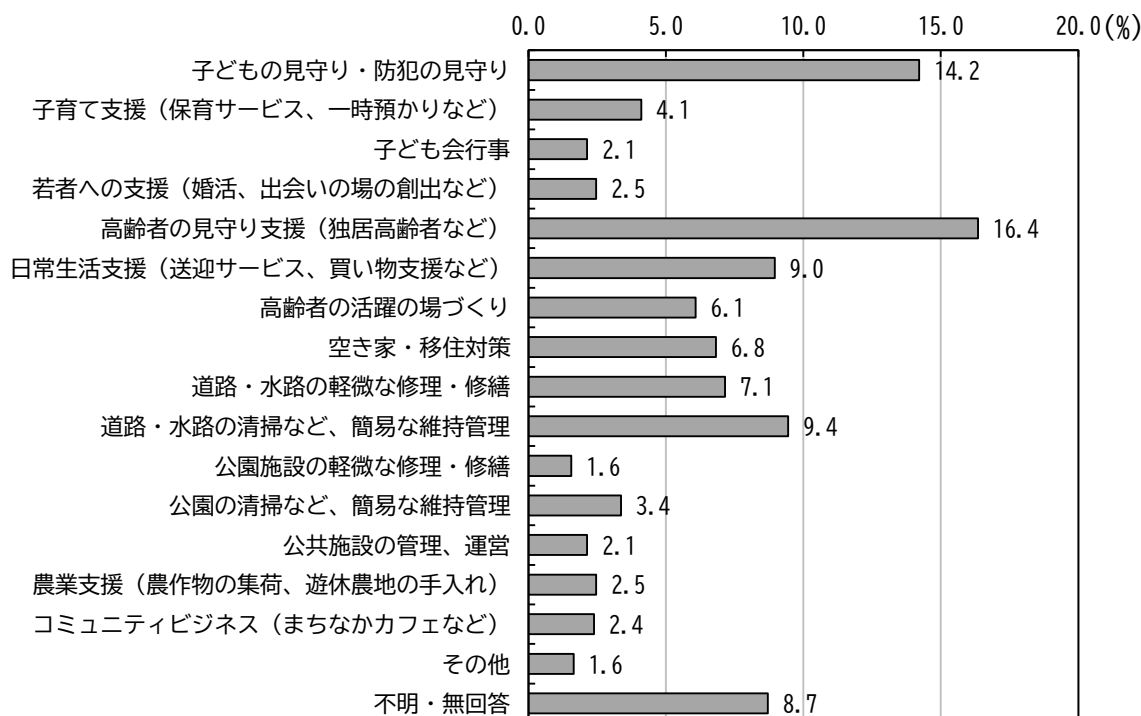
■区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容（単数回答）

	子どもの見守り・防犯の見守り	子育て支援（保育サービス、一時預かりなど）	子ども会行事	若者への支援（婚活、出会いの場の創出など）	高齢者の見守り支援（独居高齢者など）	日常生活支援（送迎サービス、買い物支援など）	高齢者の活躍の場づくり	空き家・移住対策	道路・水路の軽微な修理・修繕	道路・水路の清掃など、簡易な維持管理	公園施設の軽微な修理・修繕	公園の清掃など、簡易な維持管理	公共施設の管理、運営	農業支援（農作物の集荷、遊休農地の手入れ）	コミュニティビジネス（まちなかカフェなど）	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,217)	14.2	4.1	2.1	2.5	16.4	9.0	6.1	6.8	7.1	9.4	1.6	3.4	2.1	2.5	2.4	1.6	8.7
R2調査(N=1,247)	15.5	5.0	1.0	3.4	14.7	10.0	8.3	5.8	7.1	6.5	1.8	3.8	2.1	3.4	2.6	1.7	7.5

区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容は、「高齢者の見守り支援」が16.4%で最も多くなっており、以下、「子どもの見守り・防犯の見守り」が14.2%、「道路・水路の清掃など、簡易な維持管理」が9.4%と続いている。

■区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容（単数回答）

□全体(N=1,217)



●性別にみると、男性、女性ともに「高齢者の見守り支援」が最も多くなっており、次いで、男性は「道路・水路の清掃など、簡易な維持管理」が、女性は「子どもの見守り・防犯の見守り」が多くなっている。

●年代別にみると、60歳代、70歳以上は「高齢者の見守り支援」が、他の年代では「子どもの見守り・防犯の見守り」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「子どもの見守り・防犯の見守り」が、他の地域では「高齢者の見守り支援」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、10年以上は「高齢者の見守り支援」が、他の年数では「子どもの見守り・防犯の見守り」が最も多くなっている（3年未満は「子育て支援」「高齢者の見守り支援（独居高齢者など）」と同率）。

■区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容（単数回答）

	子どもの見守り・防犯の見守り	子育て支援（保育サービス、一時預かりなど）	子ども会行事	若者への支援（婚活、出会いの場の創出など）	高齢者の見守り支援（独居高齢者など）	日常生活支援（送迎サービス、買い物支援など）	高齢者の活躍の場づくり	空き家・移住対策	道路・水路の軽微な修理・修繕	道路・水路の清掃など、簡易な維持管理	公園施設の軽微な修理・修繕	公園の清掃など、簡易な維持管理	公共施設の管理、運営	農業支援（農作物の集荷、遊休農地の手入れ）	コミュニティビジネス（まちなかカフェなど）	その他	不明・無回答
全体(N=1,217)	14.2	4.1	2.1	2.5	16.4	9.0	6.1	6.8	7.1	9.4	1.6	3.4	2.1	2.5	2.4	1.6	8.7
男(N=541)	11.1	3.5	2.4	3.1	15.2	8.5	5.4	7.8	8.5	12.6	1.1	3.1	2.8	2.0	2.4	2.0	8.5
女(N=657)	16.9	4.7	2.0	1.8	17.4	9.1	6.7	5.9	5.9	7.0	2.0	3.7	1.7	2.9	2.4	1.4	8.5
20歳以下(N=87)	21.8	8.0	4.6	4.6	8.0	6.9	3.4	9.2	6.9	6.9	2.3	2.3	3.4	0.0	5.7	2.3	3.4
30歳代(N=112)	28.6	11.6	2.7	2.7	5.4	3.6	0.9	5.4	3.6	8.9	6.3	4.5	4.5	0.9	0.9	3.6	6.3
40歳代(N=158)	24.7	6.3	7.0	5.7	13.9	8.2	1.9	3.2	5.1	7.0	0.6	2.5	1.9	1.9	3.8	3.2	3.2
50歳代(N=185)	15.7	4.3	0.5	3.2	14.1	10.8	7.0	5.9	11.4	9.7	1.6	4.3	2.2	2.2	1.6	0.5	4.9
60歳代(N=229)	9.2	3.9	0.4	2.6	24.0	7.9	8.3	7.9	8.7	6.6	1.3	0.9	2.2	3.9	2.2	2.6	7.4
70歳以上(N=440)	7.5	0.7	1.4	0.5	18.9	10.7	8.0	8.0	6.1	12.5	0.7	4.5	1.4	3.0	2.0	0.5	13.9
水口地域(N=519)	17.0	5.2	2.5	2.9	16.0	7.7	6.2	5.6	6.7	9.6	1.5	4.2	2.7	1.9	2.1	0.8	7.3
土山地域(N=85)	12.9	5.9	0.0	2.4	16.5	12.9	3.5	9.4	4.7	4.7	0.0	5.9	2.4	3.5	2.4	1.2	11.8
甲賀地域(N=160)	8.1	1.3	2.5	1.9	18.8	11.9	7.5	5.6	6.9	10.0	1.9	1.9	0.6	2.5	5.0	1.3	12.5
甲南地域(N=302)	17.9	4.6	1.7	1.3	14.6	8.6	6.3	5.0	7.3	11.3	2.0	3.3	2.6	3.0	2.3	3.0	5.3
信楽地域(N=145)	4.8	1.4	2.8	4.1	19.3	8.3	5.5	15.2	9.7	7.6	1.4	0.7	0.7	2.8	0.7	2.8	12.4
3年未満(N=36)	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	5.6	5.6	5.6	5.6	8.3	2.8	5.6	2.8	0.0	5.6	2.8	16.7
3年～10年未満(N=71)	22.5	5.6	4.2	5.6	4.2	8.5	2.8	7.0	7.0	14.1	1.4	2.8	2.8	1.4	2.8	0.0	7.0
10年以上(N=1,091)	13.8	3.8	2.1	2.4	17.2	9.1	6.4	7.0	7.2	9.3	1.5	3.4	2.1	2.7	2.1	1.7	8.2

(3) 地域コミュニティについて

「問 17」 地域コミュニティに関してどのように考えていますか。(自由記述)

地域コミュニティについて 260 人、延べ 271 件の回答があった。

区分	件数
地域コミュニティのあり方と方針、活性化	85
地域コミュニティの必要性	32
地域コミュニティの参加のあり方	31
自治役員・運営の負担と担い手不足	25
自治役員の高齢化、少子高齢化	24
若者や参加者の減少	12
環境整備、交通整備	11
新型コロナウイルス感染症による地域コミュニティへの影響	9
行政との連携、支援等	8
近所つき合いの希薄化	3
外国人の増加と関わり	3
その他	28
合計	271

(4) 10年後に求める新しい豊かさについて

「問 18」 あなたが 10 年後に求める「豊かさ」とはどのようなことでしょうか。
(〇はいくつでも)

■10年後に求める「豊かさ」について（複数回答）

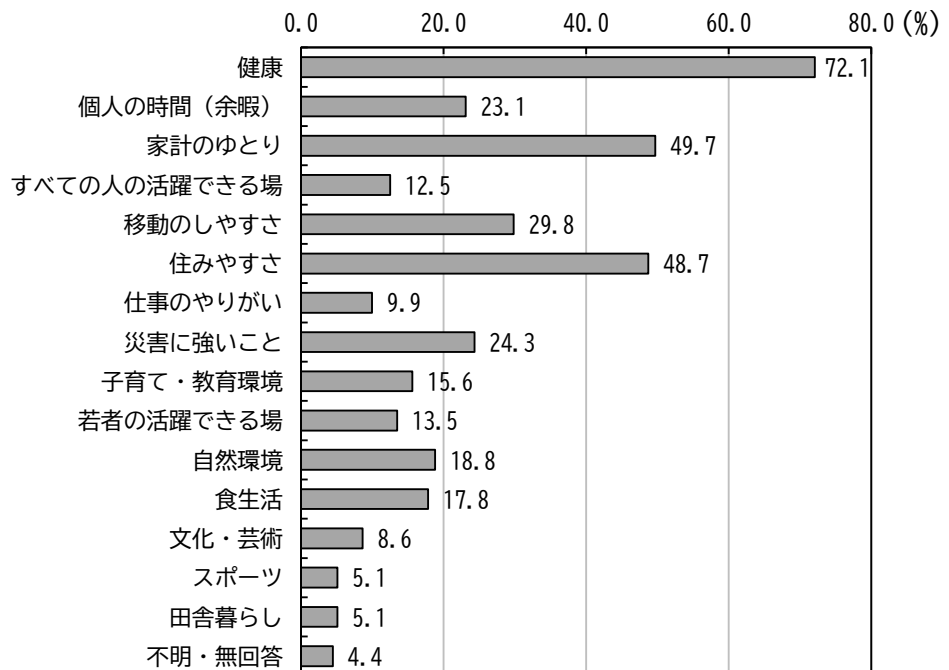
	健康	個人の時間（余暇）	家計のゆとり	すべての人の活躍できる場	移動のしやすさ	住みやすさ	仕事のやりがい	災害に強いこと	子育て・教育環境	若者の活躍できる場	自然環境	食生活	文化・芸術	スポーツ	田舎暮らし	不明・無回答
R5調査(N=1,217)	72.1	23.1	49.7	12.5	29.8	48.7	9.9	24.3	15.6	13.5	18.8	17.8	8.6	5.1	5.1	4.4
R2調査(N=1,247)	66.5	33.2	44.6	17.5	26.5	53.2	11.9	34.7	21.5	17.3	24.5	17.8	11.0	7.3	-	0.0

※R2調査「個人の時間（余暇）」は、「個人の時間」（16.5%）、「余暇」（16.7%）の合算で記載しています。

10 年後に求める豊かさは、「健康」が 72.1%で最も多くなっており、以下、「家計のゆとり」が 49.7%、「住みやすさ」が 48.7%と続いている。

■10年後に求める「豊かさ」（複数回答）

□全体(N=1,217)



●性別にみると、男性、女性ともに「健康」が最も多くなっており、次いで、男性は「住みやすさ」、女性は「家計のゆとり」が多くなっている。

●年代別にみると、すべての年代において「健康」が最も多くなっており、次いで、70 歳以上は「住みやすさ」が、他の年代では「家計のゆとり」が多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「健康」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、3 年～10 年未満は「家計のゆとり」が、他の年数では「健康」が最も多くなっている。

■10年後に求める「豊かさ」について（複数回答）

	健康	個人の時間（余暇）	家計のゆとり	すべての人の活躍できる場	移動のしやすさ	住みやすさ	仕事のやりがい	災害に強いこと	子育て・教育環境	若者の活躍できる場	自然環境	食生活	文化・芸術	スポーツ	田舎暮らし	不明・無回答
全体(N=1,217)	72.1	23.1	49.7	12.5	29.8	48.7	9.9	24.3	15.6	13.5	18.8	17.8	8.6	5.1	5.1	4.4
男(N=541)	71.7	22.6	44.9	13.1	24.4	48.8	10.2	22.0	16.8	15.3	18.7	16.3	7.8	6.8	6.1	4.4
女(N=657)	72.1	23.4	53.7	12.0	34.4	49.0	9.6	26.6	14.9	12.2	19.3	18.9	9.4	3.8	4.3	4.4
20歳代以下(N=87)	54.0	37.9	52.9	14.9	27.6	49.4	24.1	19.5	28.7	21.8	18.4	23.0	12.6	11.5	8.0	1.1
30歳代(N=112)	64.3	36.6	63.4	19.6	30.4	57.1	25.9	26.8	52.7	17.0	17.9	25.9	8.9	10.7	6.3	2.7
40歳代(N=158)	74.1	32.3	68.4	15.8	33.5	58.9	12.7	27.8	21.5	13.9	15.2	19.6	8.9	7.0	5.1	0.6
50歳代(N=185)	71.4	31.4	64.3	13.0	34.6	55.1	9.7	21.6	9.7	8.1	23.2	19.5	11.4	5.9	3.8	2.2
60歳代(N=229)	81.2	21.0	50.7	9.2	35.8	48.9	5.7	26.6	9.6	14.0	19.2	16.2	8.3	3.9	3.5	0.9
70歳以上(N=440)	72.3	11.1	32.7	10.7	23.9	40.2	4.5	23.6	7.3	13.0	18.6	14.3	6.6	2.0	5.7	9.5
水口地域(N=519)	74.0	24.5	52.0	12.3	29.3	50.3	10.0	25.2	17.3	11.4	18.7	17.3	10.8	5.4	3.3	3.3
土山地域(N=85)	78.8	21.2	44.7	12.9	29.4	40.0	8.2	22.4	12.9	20.0	18.8	17.6	3.5	3.5	3.5	4.7
甲賀地域(N=160)	73.1	21.3	47.5	14.4	26.9	48.8	16.3	19.4	12.5	11.9	18.1	20.6	8.1	4.4	10.0	3.8
甲南地域(N=302)	72.8	24.8	50.0	11.9	31.1	51.7	7.9	28.1	17.9	14.9	19.9	19.9	7.3	5.3	6.6	4.0
信楽地域(N=145)	58.6	18.6	47.6	12.4	33.1	42.8	8.3	20.0	10.3	16.6	18.6	12.4	6.9	5.5	4.1	9.0
3年未満(N=36)	69.4	27.8	47.2	19.4	33.3	44.4	13.9	22.2	38.9	16.7	25.0	25.0	11.1	11.1	2.8	0.0
3年～10年未満(N=71)	66.2	40.8	69.0	11.3	31.0	49.3	18.3	21.1	33.8	14.1	21.1	25.4	12.7	7.0	8.5	4.2
10年以上(N=1,091)	72.5	21.9	48.9	12.6	29.9	49.1	9.4	24.6	13.8	13.6	18.7	17.3	8.2	4.7	5.0	4.4

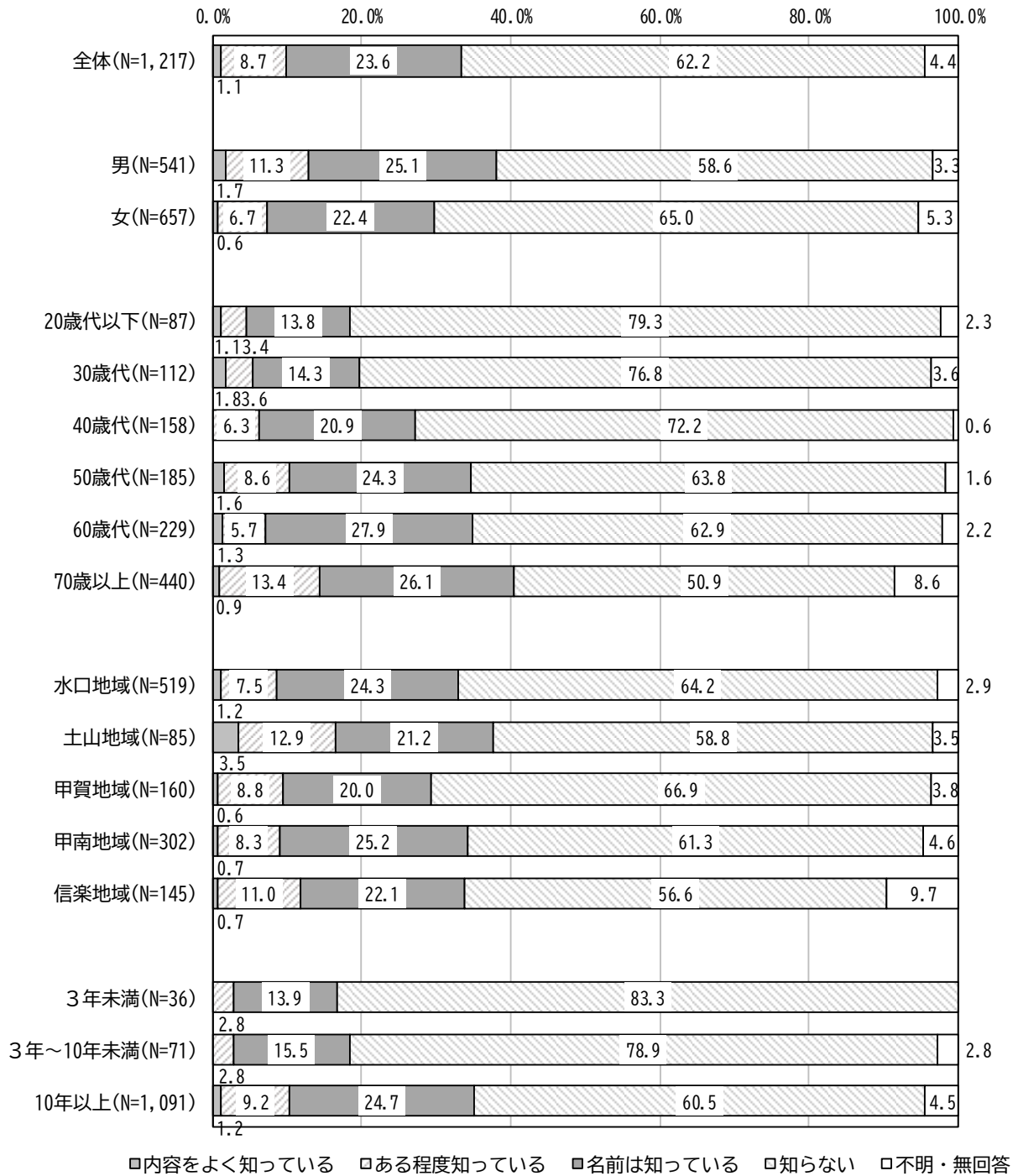
(5) まちづくりについて

「問 19」 平成 28 年に制定された「甲賀市まちづくり基本条例」をご存じですか。(○は1つ)

① 「甲賀市まちづくり基本条例」の認知度

- 全体で見ると、「知らない」が 62.2%で最も多くなっており、以下、「名前は知っている」が 23.6%、「ある程度知っている」が 8.7%、「内容をよく知っている」が 1.1%と続いている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「知らない」が最も多くなっており、男性は 58.6%、女性は 65.0%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「知らない」が最も多くなっている。最も多いのは 20 歳代以下で 79.3%、以下、30 歳代 76.8%、40 歳代で 72.2%と続いており、年代が低くなるにつれて多くなっている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「知らない」が最も多くなっている。最も多いのは甲賀地域で 66.9%、以下、水口地域で 64.2%、甲南地域で 61.3%、土山地域で 58.8%、信楽地域で 56.6%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年代において「知らない」が最も多くなっている。最も多いのは3年未満で 83.3%、以下、3年～10年未満で 78.9%、10年以上で 60.5%と続いており、年数が短くなるにつれて多くなっている。

■「甲賀市まちづくり基本条例」の認知度（単数回答）

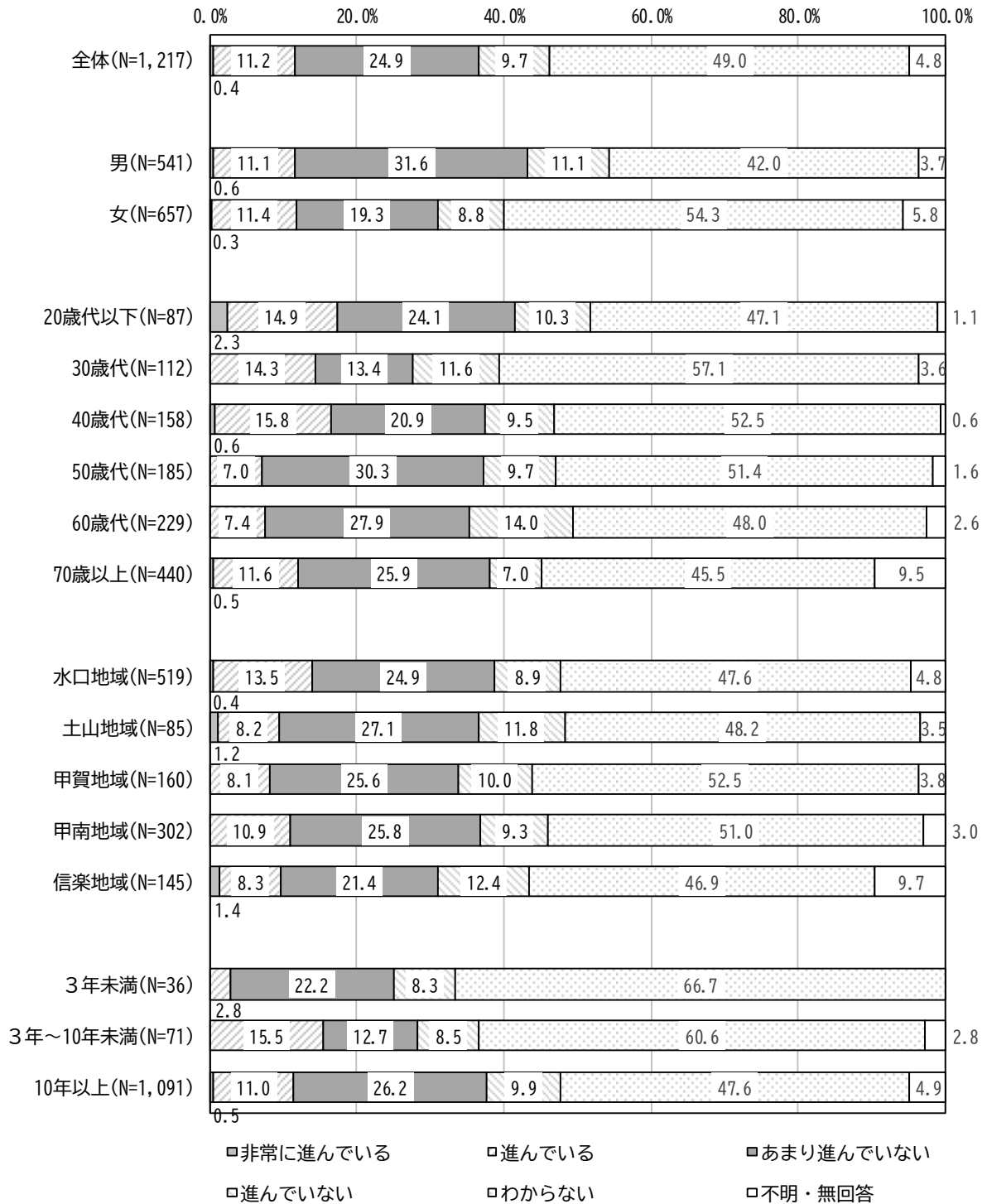


「問 20」 まちづくり基本条例第 19 条には、「市民、議会及び市長等は、相互に信頼関係を築き、協働によるまちづくりを推進します」とあります。甲賀市は「協働」によるまちづくりが進んでいると思いますか。(○は1つ)

② 甲賀市の「協働」によるまちづくりの進み具合

- 全体で見ると、「わからない」が 49.0%で最も多くなっており、以下、「あまり進んでいない」が 24.9%、「進んでいる」が 11.2%、「進んでいない」が 9.7%、「非常に進んでいる」が 0.4%と続いている。「非常に進んでいる」と「進んでいる」を合わせた『進んでいる』は 11.6%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「わからない」が最も多くなっている。『進んでいる』の割合をみると、男性、女性ともに 11.7%となっている。
- 年代別にみると、すべて年代において「わからない」が最も多くなっている。『進んでいる』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 17.2%、以下、40 歳代で 16.4%、30 歳代で 14.3%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「わからない」が最も多くなっている。『進んでいる』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 13.9%、以下、甲南地域で 10.9%、信楽地域で 9.7%、土山地域で 9.4%、甲賀地域で 8.1%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「わからない」が最も多くなっている。『進んでいる』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 15.5%、以下、10 年以上で 11.5%、3 年未満で 2.8%と続いている。

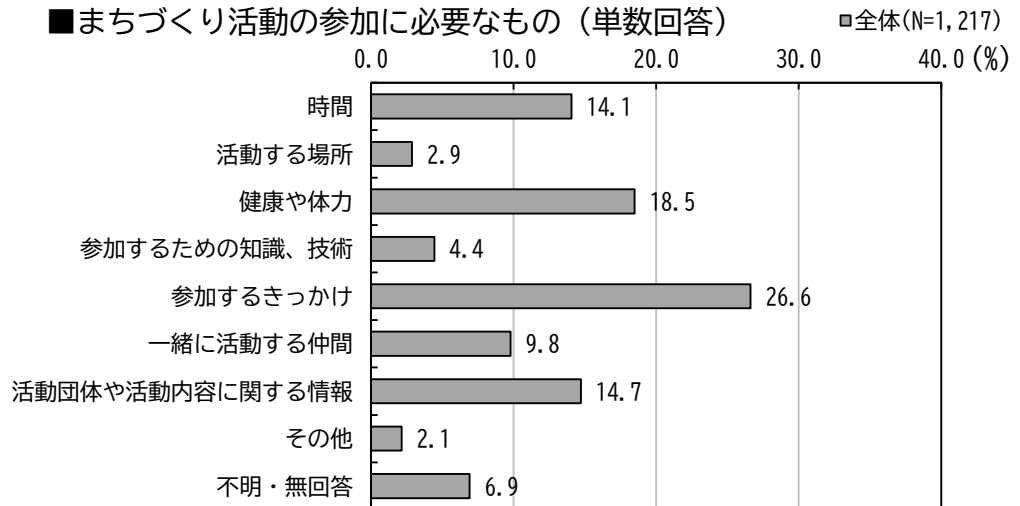
■甲賀市の「協働」によるまちづくりの進み具合（単数回答）



「問 21」 まちづくり活動に参加するにあたり、何が必要だと思いますか。(〇は1つ)

③ まちづくり活動の参加に必要なもの

まちづくり活動の参加に必要なものは、「参加するきっかけ」が 26.6%で最も多くなっており、以下、「健康や体力」が 18.5%、「活動団体や活動内容に関する情報」が 14.7%と続いている。



●性別にみると、男性、女性ともに「参加するきっかけ」が最も多くなっており、次いで、「健康や体力」が多くなっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「健康や体力」が、他の年代では「参加するきっかけ」が最も多くなっており、次いで、20 歳代以下、30 歳代、40 歳代、50 歳代は「時間」が多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「参加するきっかけ」が最も多くなっており、次いで、「健康や体力」が多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「参加するきっかけ」が最も多くなっており、次いで、3 年～10 年未満は「時間」「活動団体や活動内容に関する情報」が、他の年数では「健康や体力」が多くなっている。

■まちづくり活動の参加に必要なもの（単数回答）

	時間	活動する場所	健康や体力	参加するための知識、技術	参加するきっかけ	一緒に活動する仲間	情報 活動団体や活動内容に関する	その他	不明・無回答
全体(N=1,217)	14.1	2.9	18.5	4.4	26.6	9.8	14.7	2.1	6.9
男(N=541)	16.5	2.4	17.2	4.6	27.4	9.2	15.0	1.8	5.9
女(N=657)	12.5	3.3	19.6	4.1	25.9	10.4	14.6	2.1	7.5
20歳代以下(N=87)	16.1	5.7	4.6	2.3	42.5	12.6	11.5	3.4	1.1
30歳代(N=112)	24.1	2.7	8.0	2.7	33.0	8.0	12.5	2.7	6.3
40歳代(N=158)	25.3	3.2	5.1	3.2	34.2	7.6	15.2	3.8	2.5
50歳代(N=185)	22.7	3.8	12.4	3.8	26.5	10.3	15.1	1.6	3.8
60歳代(N=229)	13.5	2.6	19.7	7.4	25.8	9.6	15.3	2.6	3.5
70歳以上(N=440)	3.9	2.0	30.5	4.5	19.5	10.5	15.5	1.1	12.5
水口地域(N=519)	14.5	3.3	16.8	3.7	28.1	10.4	14.8	2.5	6.0
土山地域(N=85)	9.4	4.7	24.7	4.7	29.4	8.2	9.4	2.4	7.1
甲賀地域(N=160)	14.4	0.6	20.0	3.8	25.0	12.5	15.6	1.9	6.3
甲南地域(N=302)	15.2	2.6	18.9	4.6	27.2	8.6	14.6	2.0	6.3
信楽地域(N=145)	13.1	3.4	18.6	7.6	19.3	8.3	17.2	1.4	11.0
3年未満(N=36)	13.9	0.0	16.7	0.0	36.1	13.9	13.9	2.8	2.8
3年～10年未満(N=71)	18.3	5.6	11.3	5.6	28.2	5.6	18.3	1.4	5.6
10年以上(N=1,091)	13.8	2.7	19.0	4.4	26.3	10.1	14.6	2.2	6.9

3 市に関する情報の入手について

「問 22」市に関する次の情報を、どの程度読んだり、見たり、また音声等で聞いたりしておられますか。(それぞれ○は1つ)

市に関する情報の入手について、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合は、「広報紙「広報こうか」」で 85.8%と最も多くなっており、以下、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧」で 72.6%、「市議会だより」で 56.8%と続いている。

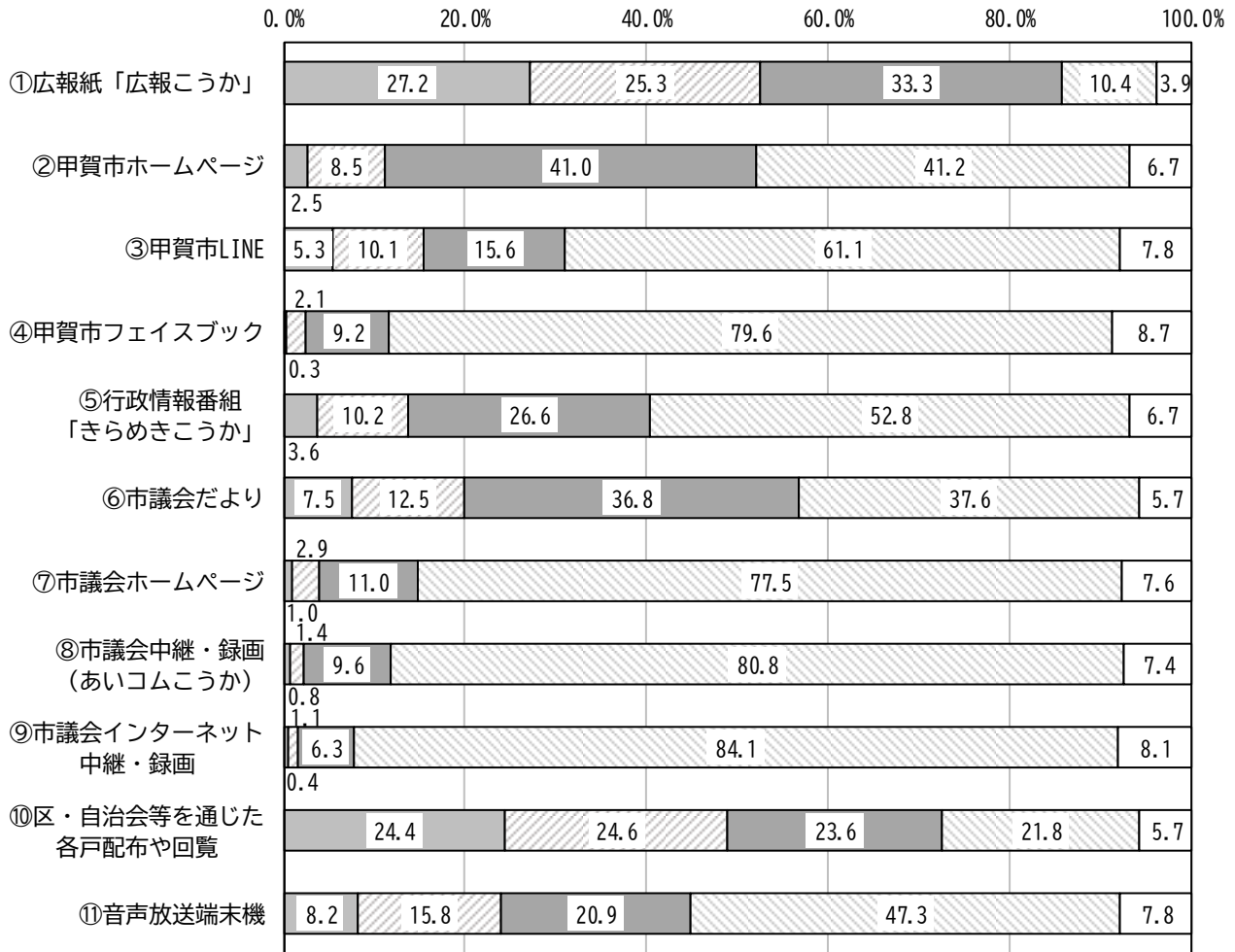
「必ず読む、見る、聞く」が最も多いのは「広報紙「広報こうか」」で 27.2%、以下、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧」で 24.4%、「音声放送端末機」で 8.2%と続いている。

「よく読む、見る、聞く」が最も多いのは「広報紙「広報こうか」」で 25.3%、以下、「区・自治会等を通じた各戸配布や回覧」で 24.6%、「音声放送端末機」で 15.8%と続いている。

「たまに読む、見る、聞く」が最も多いのは「甲賀市ホームページ」で 41.0%、以下、「市議会だより」で 36.8%、「広報紙「広報こうか」」で 33.3%と続いている。

「読まない、見ない、聞かない」が最も多いのは「市議会インターネット中継・録画」で 84.1%、以下、「市議会中継・録画(あいコムこうか)」で 80.8%、「甲賀市フェイスブック」で 79.6%と続いている。

■市に関する情報の入手について

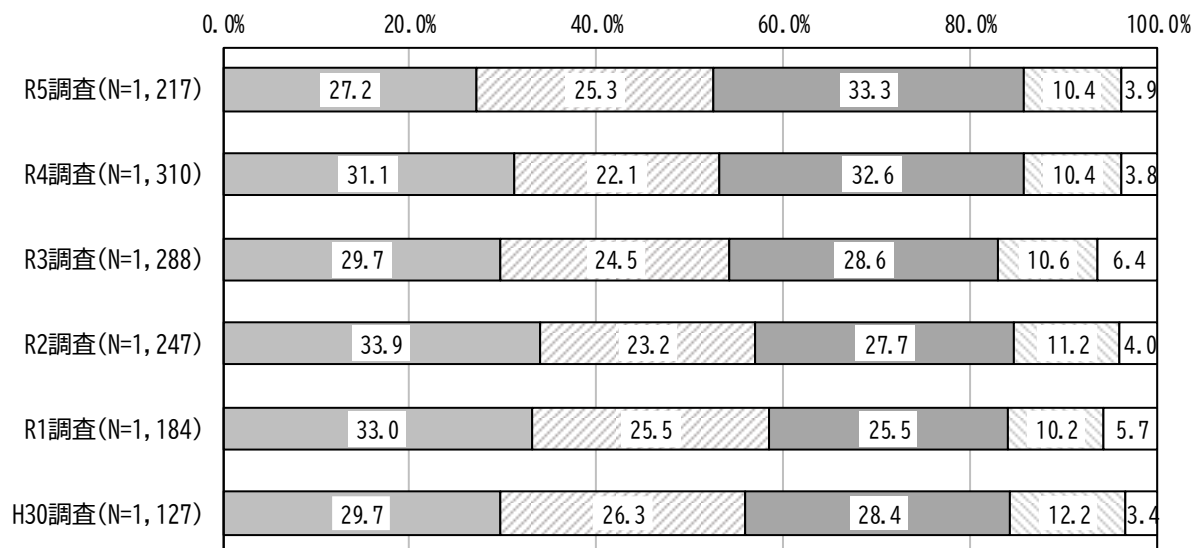


- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

① 広報紙「広報こうか」

平成 30 年度調査からの推移をみると、総じて変化はみられない。

①広報紙「広報こうか」（単数回答）



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

●全体でみると、「たまに読む、見る、聞く」が 33.3%で最も多くなっており、以下、「必ず読む、見る、聞く」が 27.2%、「よく読む、見る、聞く」が 25.3%、「読まない、見ない、聞かない」が 10.4%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は 85.8%と続いている。

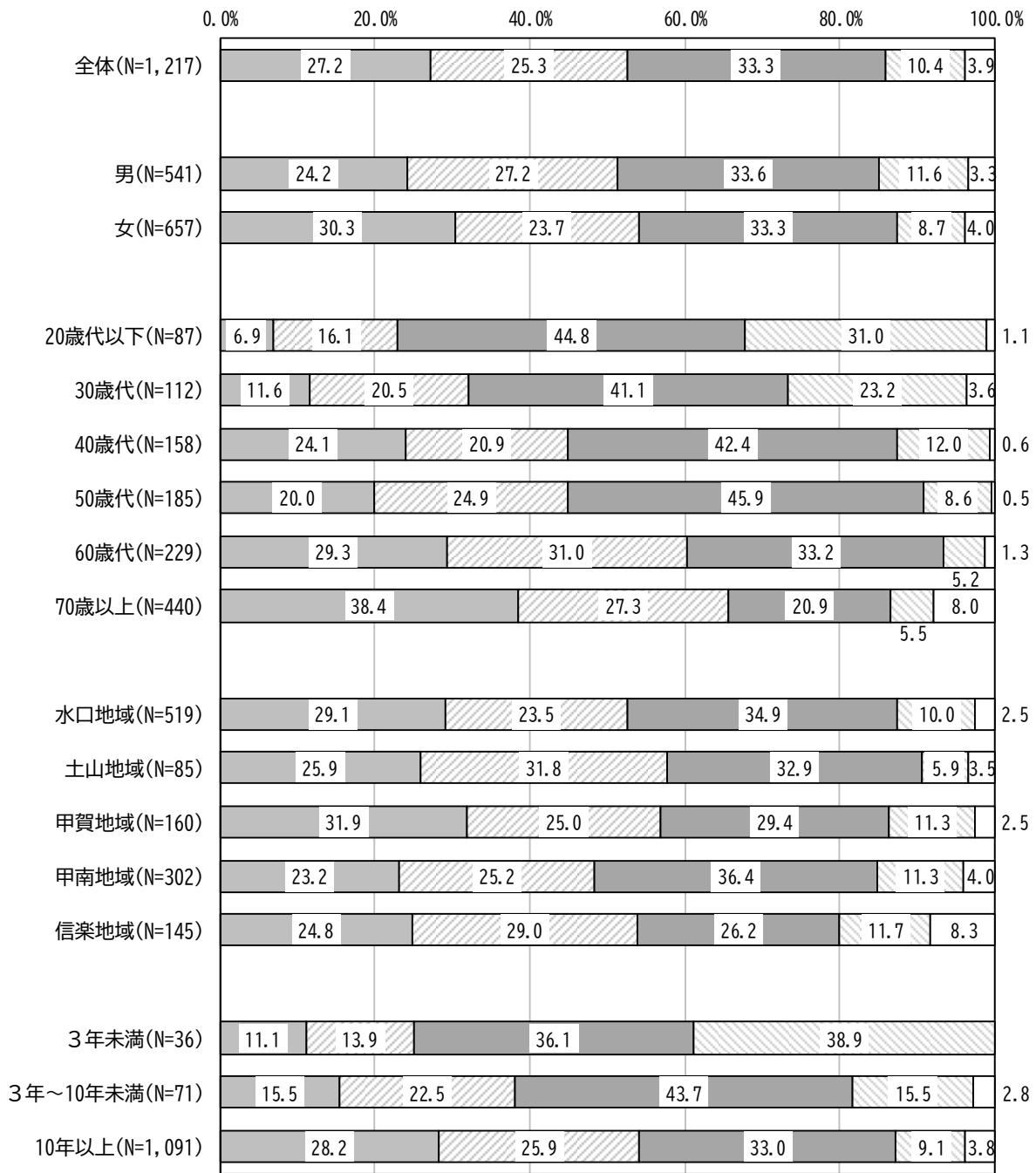
●性別にみると、男性、女性ともに「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 85.0%、女性は 87.3%となっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「必ず読む、見る、聞く」が、他の年代では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 93.5%、以下、50 歳代で 90.8%、40 歳代で 87.4%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「必ず読む、見る、聞く」が、信楽地域は「よく読む、見る、聞く」が、他の地域では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 90.6%、以下、水口地域で 87.5%、甲賀地域で 86.3%、甲南地域で 84.8%、信楽地域で 80.0%と続いている。

●居住年数別にみると、3 年未満は「読まない、見ない、聞かない」が、他の年数では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 87.1%、以下、3 年～10 年未満で 81.7%、3 年未満で 61.1%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

①広報紙「広報こうか」（単数回答）

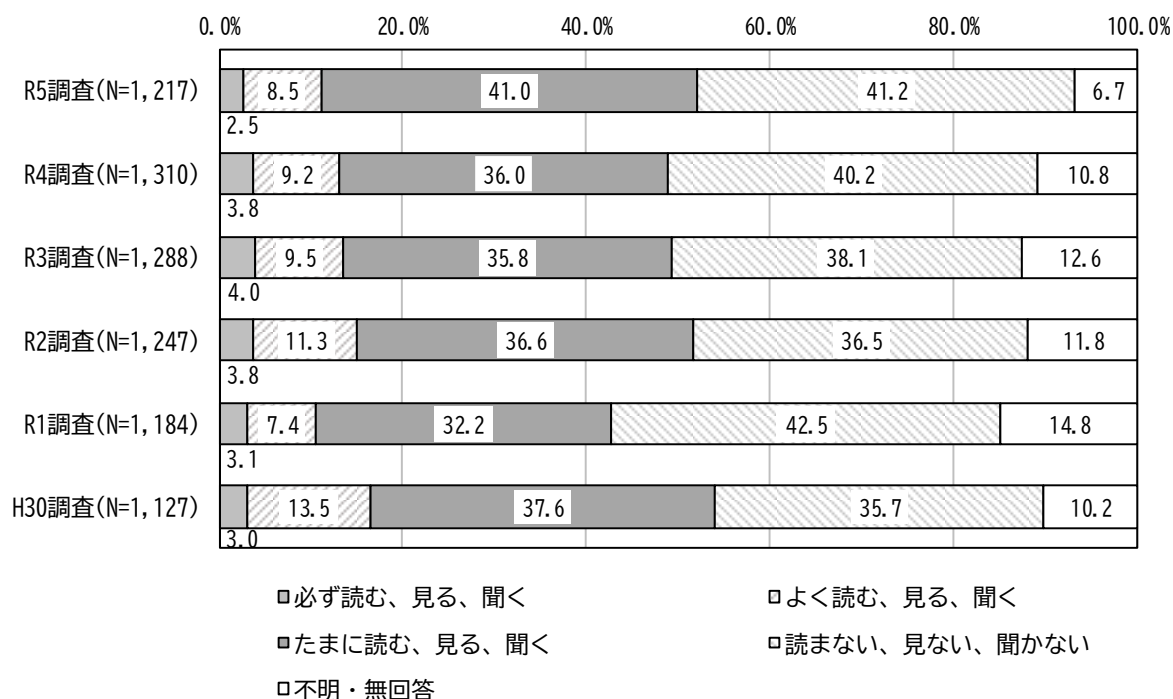


- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

② 甲賀市ホームページ

平成30年度調査からの推移をみると、令和3年度以降「読まない、見ない、聞かない」の割合が増加している。

②甲賀市ホームページ（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が41.2%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が41.0%、「よく読む、見る、聞く」が8.5%、「必ず読む、見る、聞く」が2.5%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は52.0%となっている。

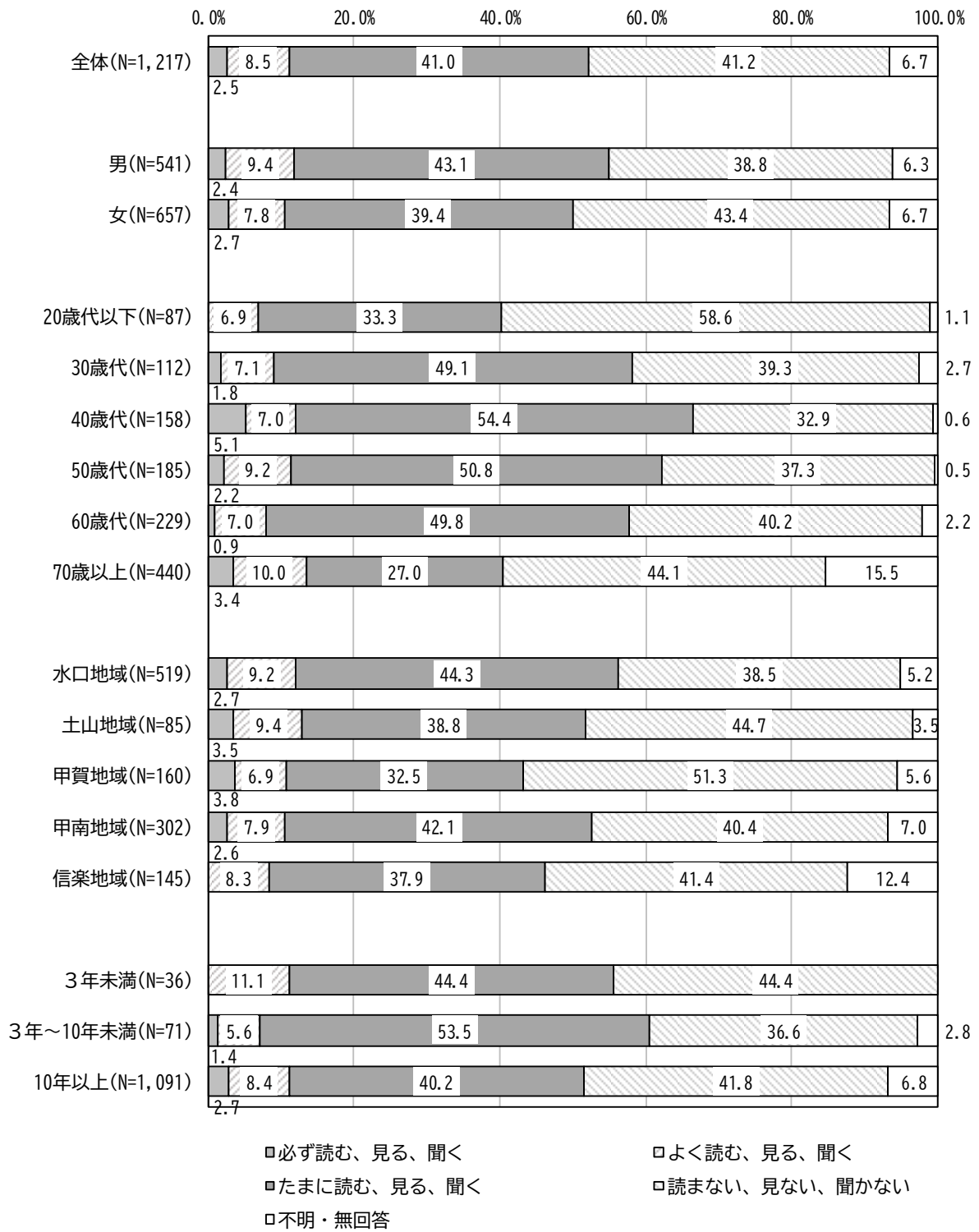
●性別にみると、男性は「たまに読む、見る、聞く」が、女性は「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は54.9%、女性は49.9%となっている。

●年代別にみると、20歳代以下、70歳以上は「読まない、見ない、聞かない」が、他の年代では「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは40歳代で66.5%、以下、50歳代で62.2%、30歳代で58.0%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「たまに読む、見る、聞く」が、他の地域では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは水口地域で56.2%、以下、甲南地域で52.6%、土山地域で51.7%、信楽地域で46.2%、甲賀地域で43.2%と続いている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「たまに読む、見る、聞く」が、他の年数では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている(3年未満は「たまに読む、見る、聞く」と同率)。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で60.5%、以下、3年未満で55.5%、10年以上で51.3%と続いている。

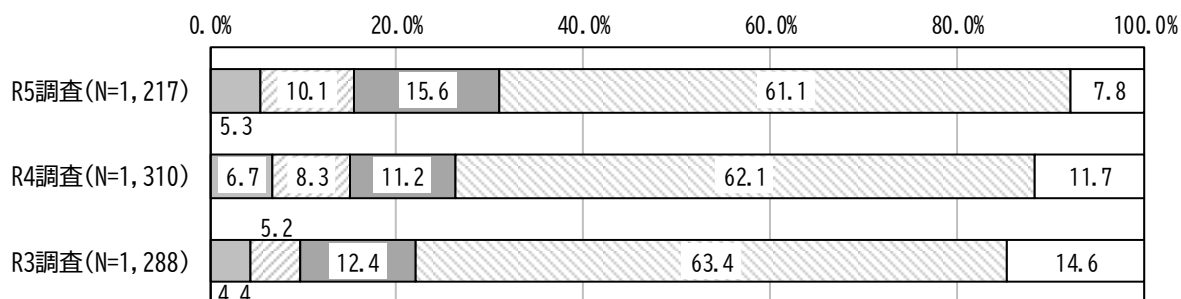
②甲賀市ホームページ（単数回答）



③ 甲賀市 LINE

令和 3 年度調査からの推移をみると、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が増加している。

③甲賀市LINE（単数回答）



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が 61.1%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が 15.6%、「よく読む、見る、聞く」が 10.1%、「必ず読む、見る、聞く」が 5.3%と続いている。『読む、見る、聞く』は 31.0%となっている。

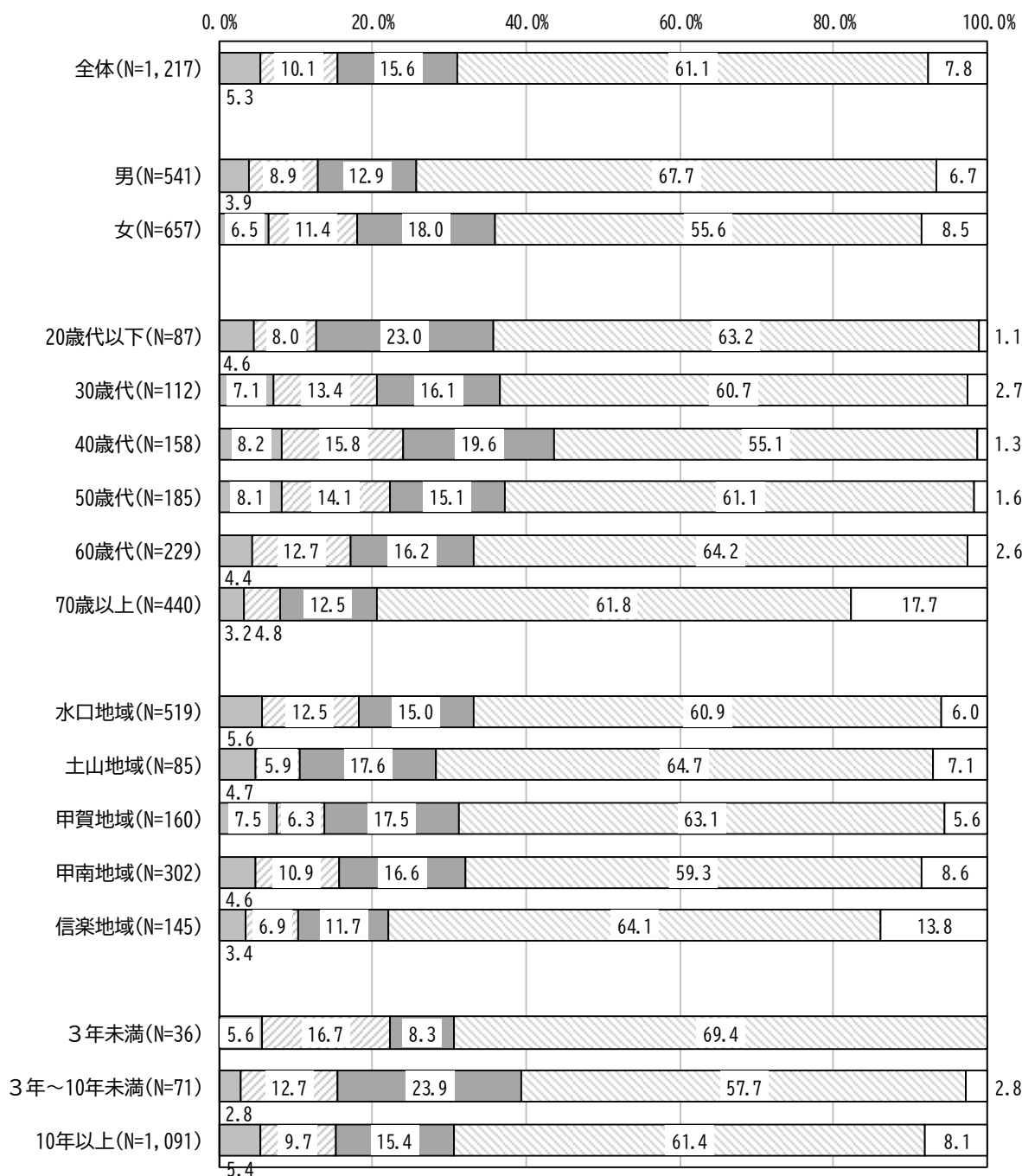
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 25.7%、女性は 35.9%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 43.6%、以下、50 歳代で 37.3%、30 歳代で 36.6%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 33.1%、以下、甲南地域で 32.1%、甲賀地域で 31.3%、土山地域で 28.2%、信楽地域で 22.0%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 3 年～10 年未満で 39.4%、以下、3 年未満で 30.6%、10 年以上で 30.5%と続いている。

③甲賀市LINE（単数回答）

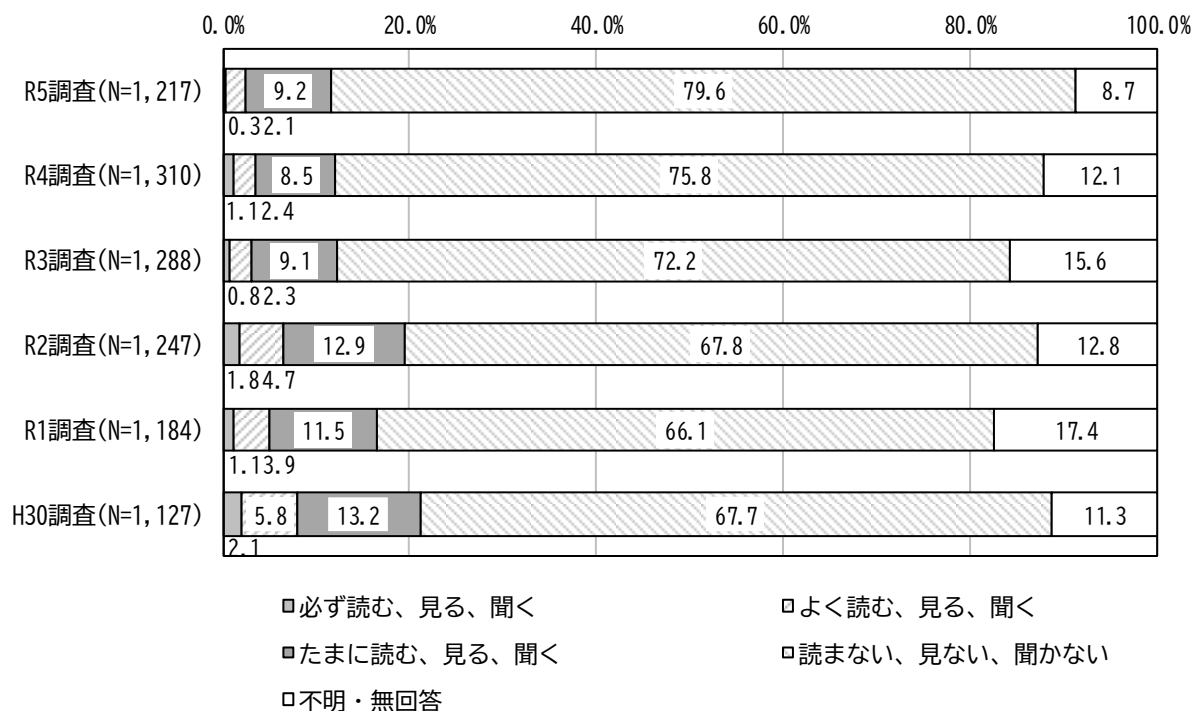


- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

④ 甲賀市フェイスブック

平成 30 年度調査からの推移をみると、令和 2 年度以降「読まない、見ない、聞かない」の割合が増加している。

④甲賀市フェイスブック（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が 79.6%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が9.2%、「よく読む、見る、聞く」が2.1%、「必ず読む、見る、聞く」が0.3%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は 11.6%となっている。

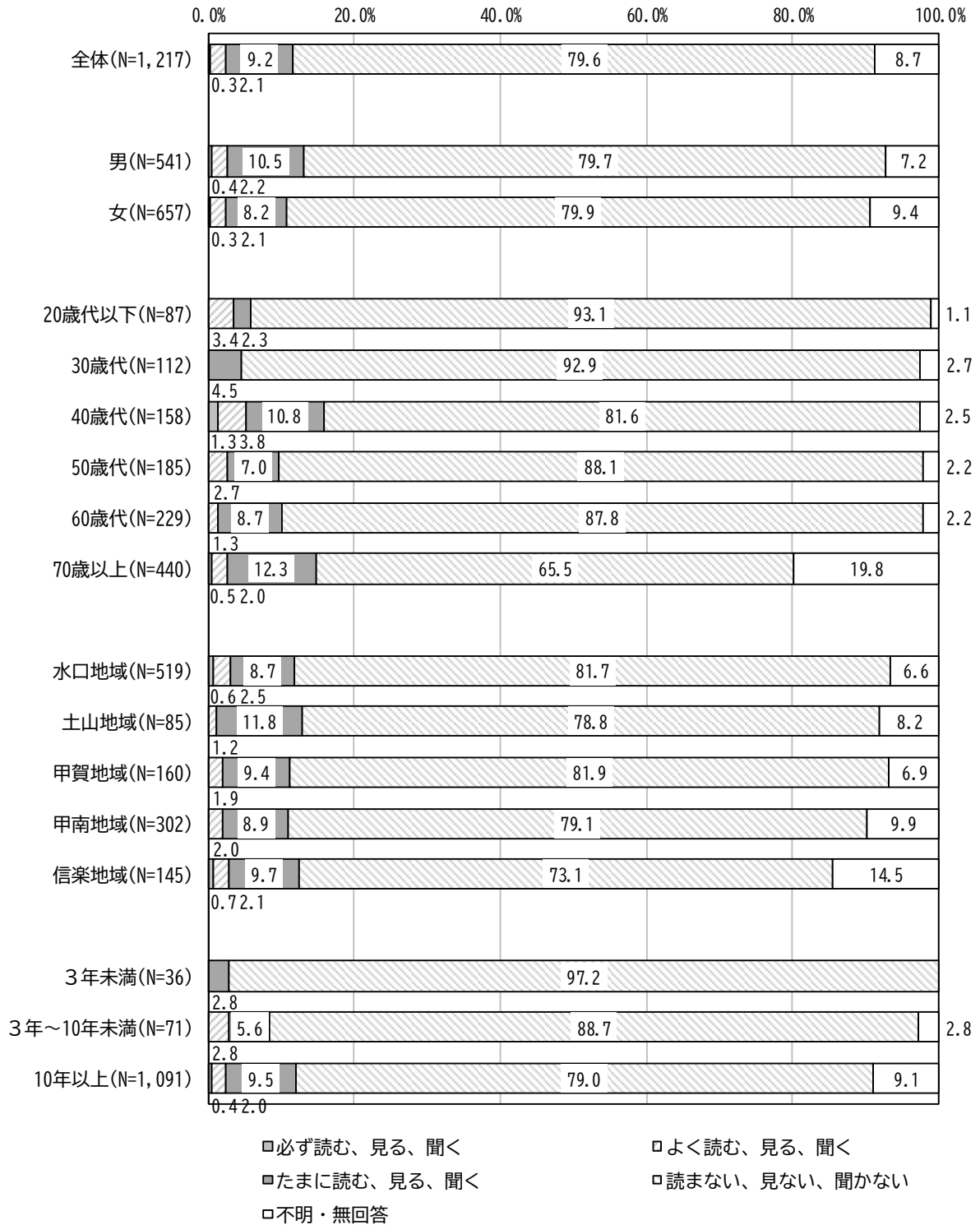
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 13.1%、女性は 10.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 15.9%、以下、70 歳以上で 14.8%、60 歳代で 10.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 13.0%、以下、信楽地域で 12.5%、水口地域で 11.8%、甲賀地域で 11.3%、甲南地域で 10.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 11.9%、以下、3 年～10 年未満で 8.4%、3 年未満で 2.8%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

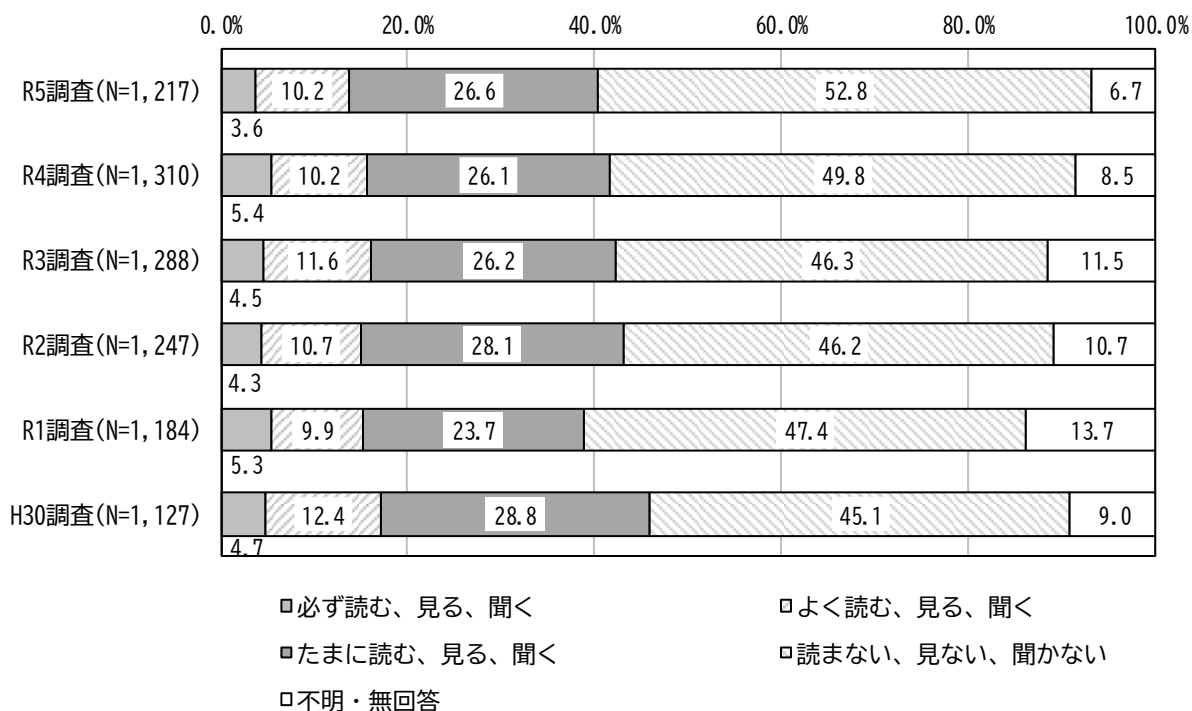
④甲賀市フェイスブック（単数回答）



⑤ 行政情報番組「きらめきこうか」(あいコムこうか)

平成 30 年度調査からの推移をみると、令和 3 年度以降「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が減少している。

⑤行政情報番組「きらめきこうか」(あいコムこうか) (単数回答)



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が 52.8%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が 26.6%、「よく読む、見る、聞く」が 10.2%、「必ず読む、見る、聞く」が 3.6%と続いている。『読む、見る、聞く』は 40.4%となっている。

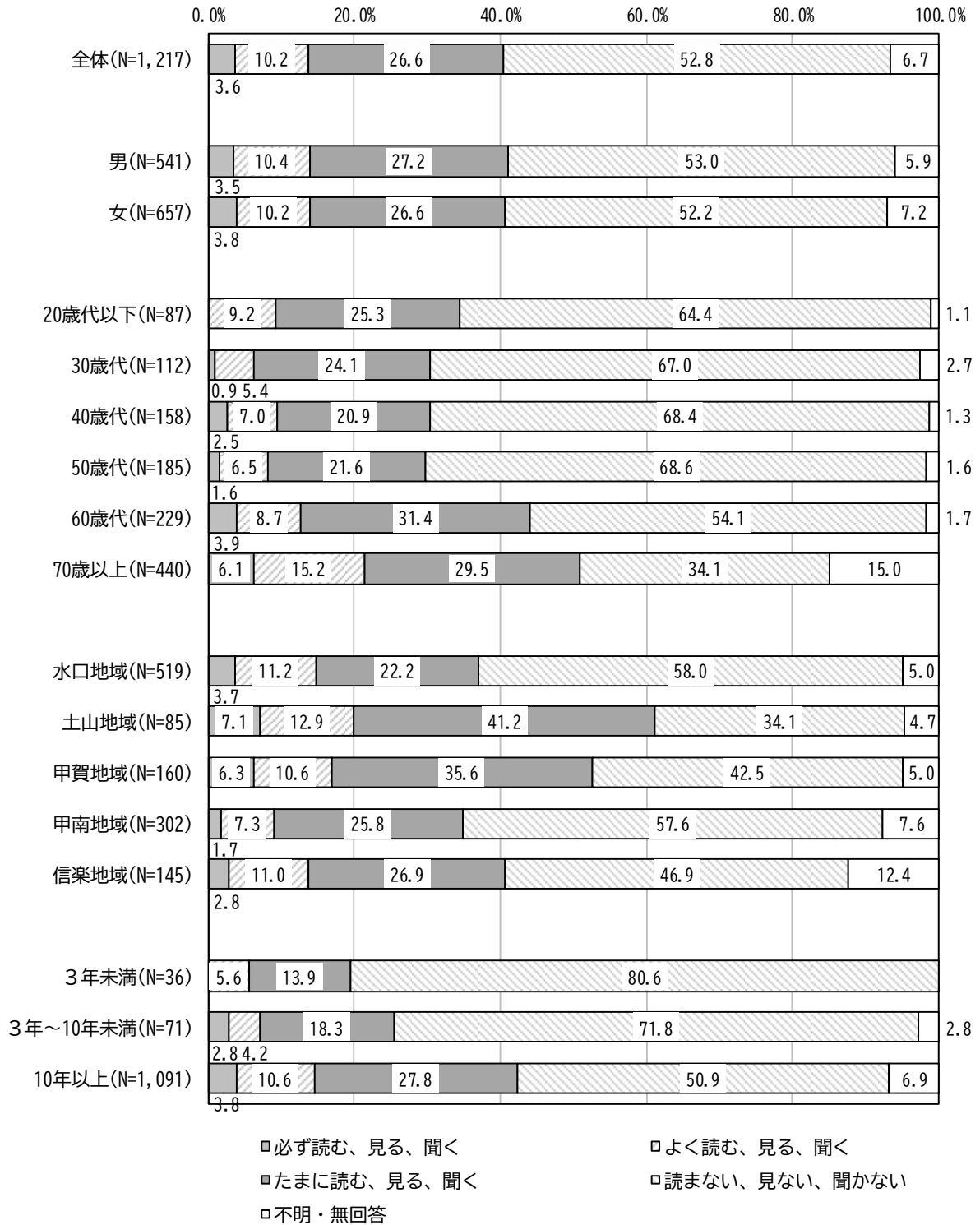
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 41.1%、女性は 40.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 50.8%、以下、60 歳代で 44.0%、20 歳代以下で 34.5%と続いている。

●居住地域別にみると、土山地域は「たまに読む、見る、聞く」が、他の地域では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 61.2%、以下、甲賀地域で 52.5%、信楽地域で 40.7%、水口地域で 37.1%、甲南地域で 34.8%と続いている。

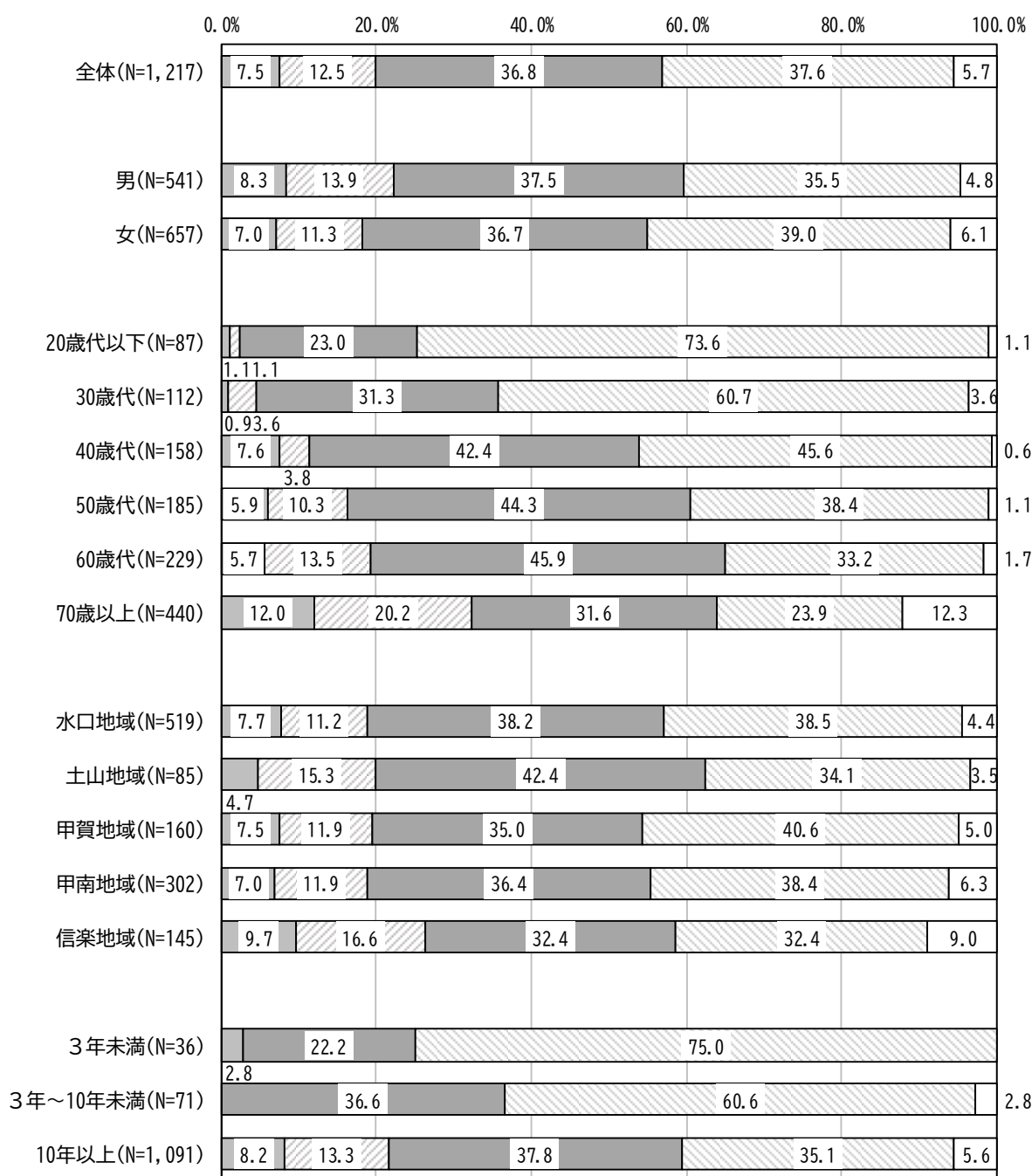
●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 42.2%、以下、3 年～10 年未満で 25.3%、3 年未満で 19.5%と続いている。年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑤行政情報番組「きらめきこうか」（あいコムこうか）（単数回答）



れて多くなっている。

⑥市議会だより（単数回答）

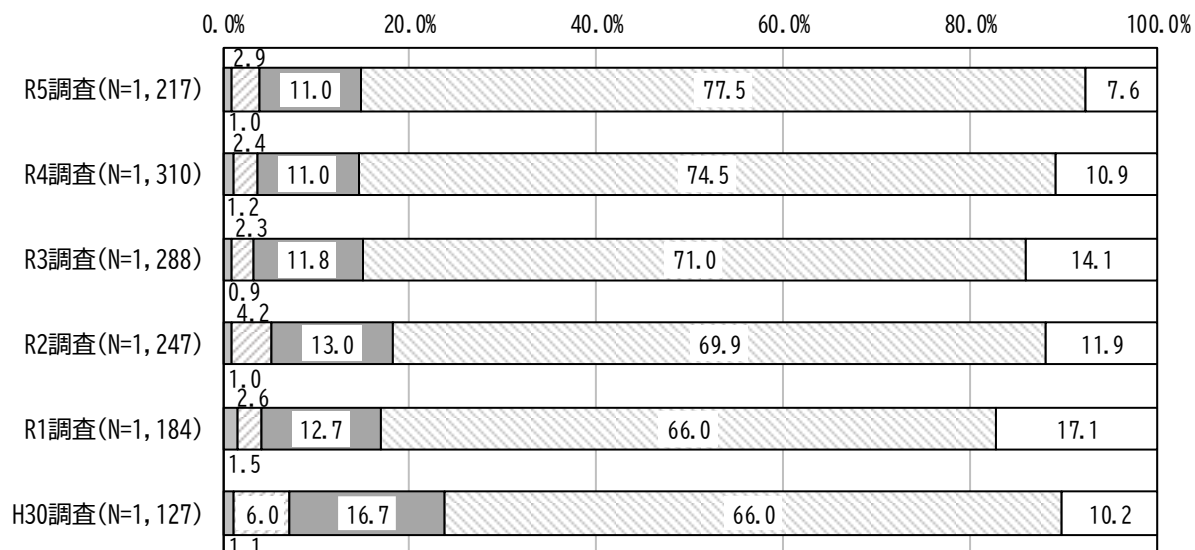


- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

⑦ 市議会ホームページ

平成 30 年度調査からの推移をみると、「読まない、見ない、聞かない」の割合が増加している。

⑦市議会ホームページ（単数回答）



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

●全体で見ると、「読まない、見ない、聞かない」が 77.5%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が 11.0%、「よく読む、見る、聞く」が 2.9%、「必ず読む、見る、聞く」が 1.0%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は 14.9%となっている。

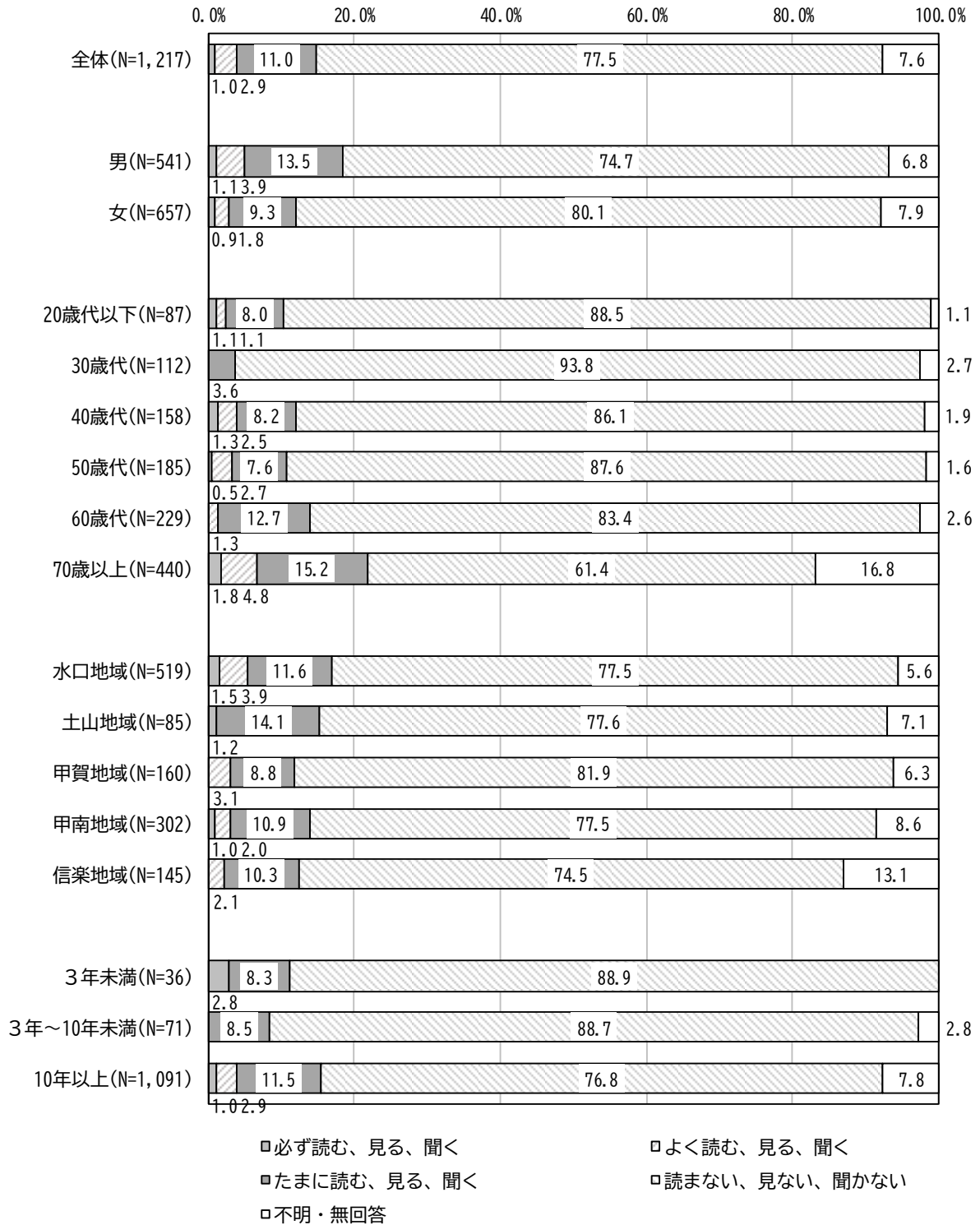
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 18.5%、女性は 12.0%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 21.8%、以下、60 歳代で 14.0%、40 歳代で 12.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 17.0%、以下、土山地域で 15.3%、甲南地域で 13.9%、信楽地域で 12.4%、甲賀地域で 11.9%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 15.4%、以下、3 年未満で 11.1%、3 年～10 年未満で 8.5%と続いている。

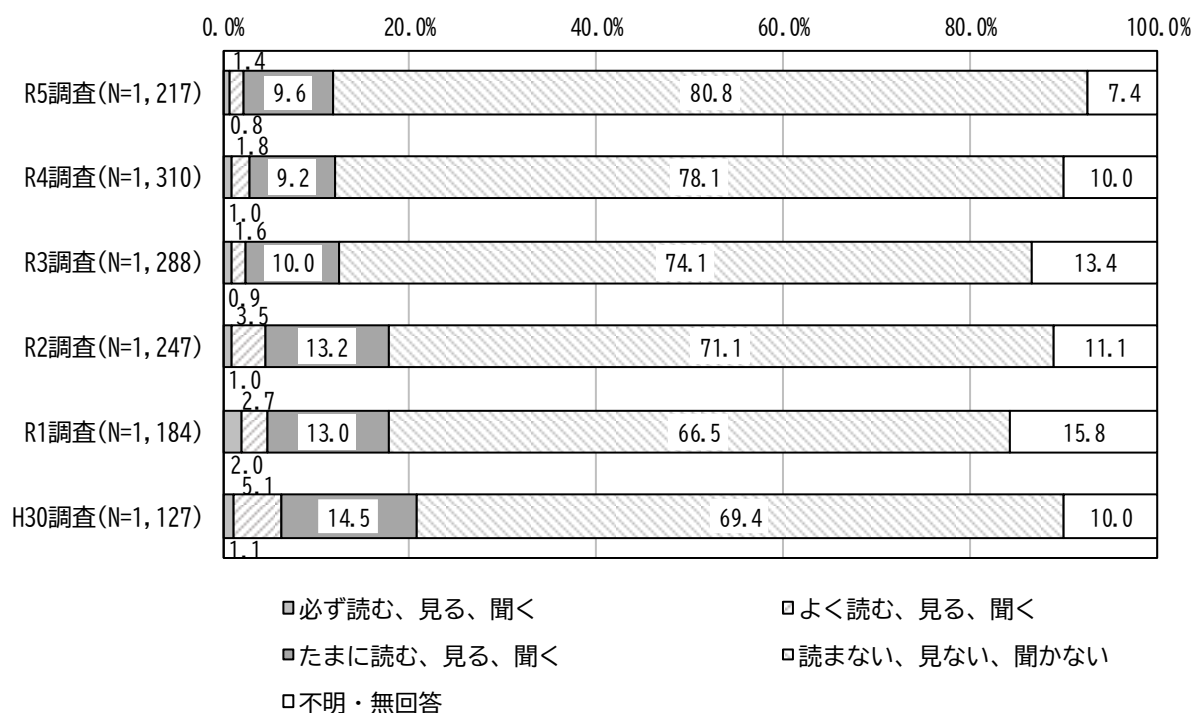
⑦市議会ホームページ（単数回答）



⑧ 市議会中継・録画(あいコムこうか)

平成 30 年度調査からの推移をみると、「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が減少している。

⑧市議会中継・録画(あいコムこうか) (単数回答)



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が 80.8%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が 9.6%、「よく読む、見る、聞く」が 1.4%、「必ず読む、見る、聞く」が 0.8%と続いている。『読む、見る、聞く』は 11.8%となっている。

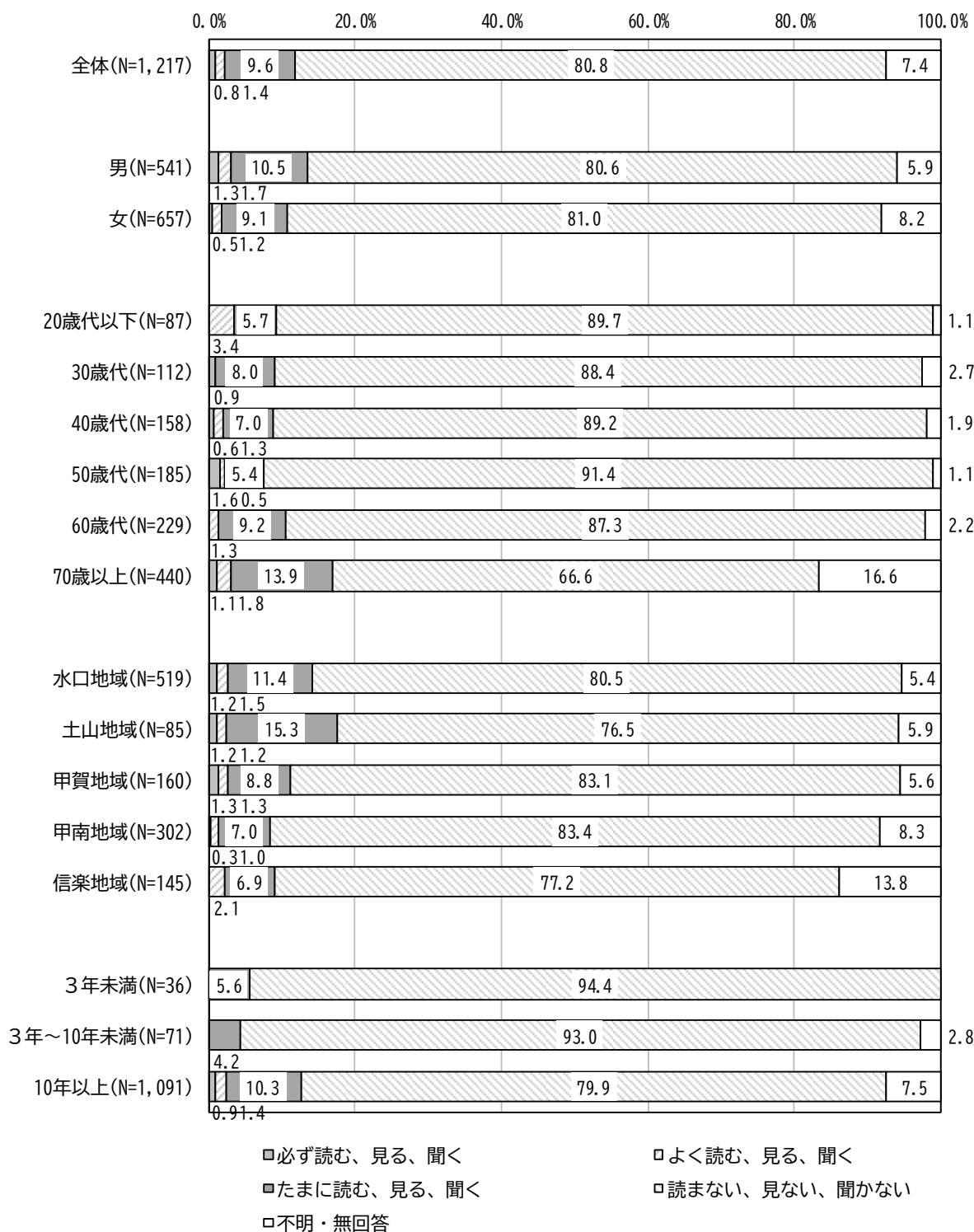
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 13.5%、女性は 10.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 16.8%、以下、60 歳代で 10.5%、20 歳代以下で 9.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 17.7%、以下、水口地域で 14.1%、甲賀地域で 11.4%、信楽地域で 9.0%、甲南地域で 8.3%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 12.6%、以下、3 年未満で 5.6%、3 年～10 年未満で 4.2%と続いている。

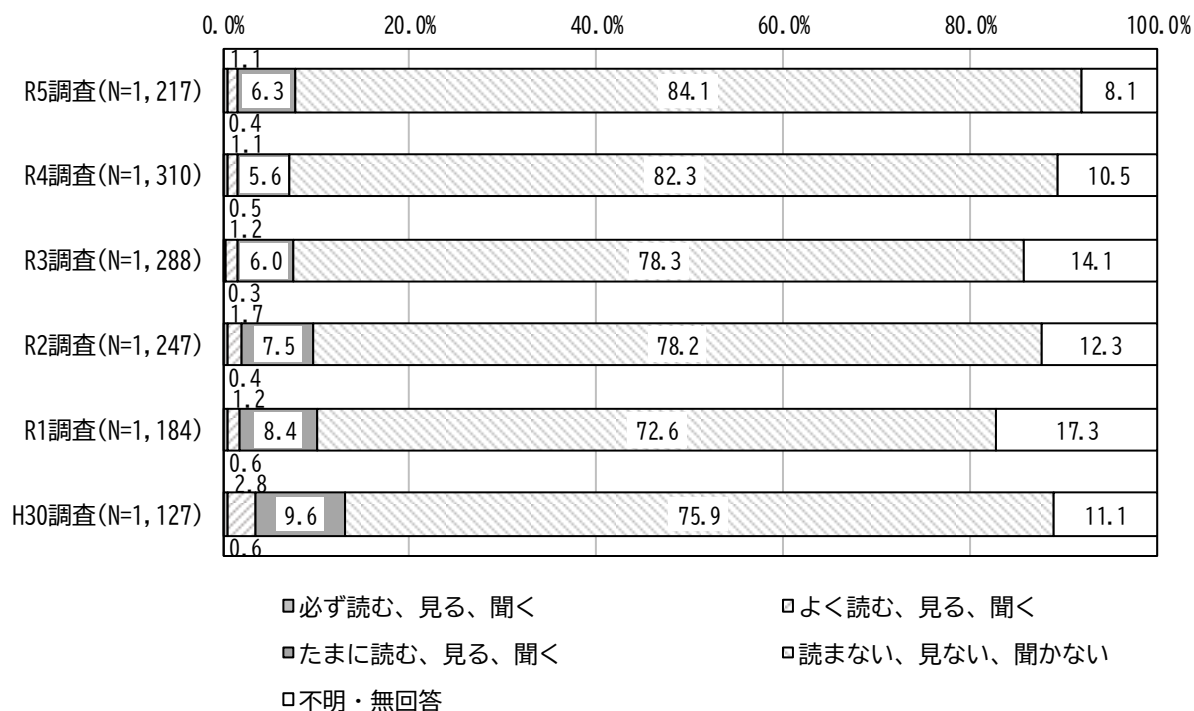
⑧市議会中継・録画（あいコムこうか）（単数回答）



⑨ 市議会インターネット中継・録画

平成30年度調査からの推移をみると、令和2年度以降「読まない、見ない、聞かない」の割合が増加している。

⑨市議会インターネット中継・録画（単数回答）



●全体でみると、「読まない、見ない、聞かない」が84.1%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が6.3%、「よく読む、見る、聞く」が1.1%、「必ず読む、見る、聞く」が0.4%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は7.8%となっている。

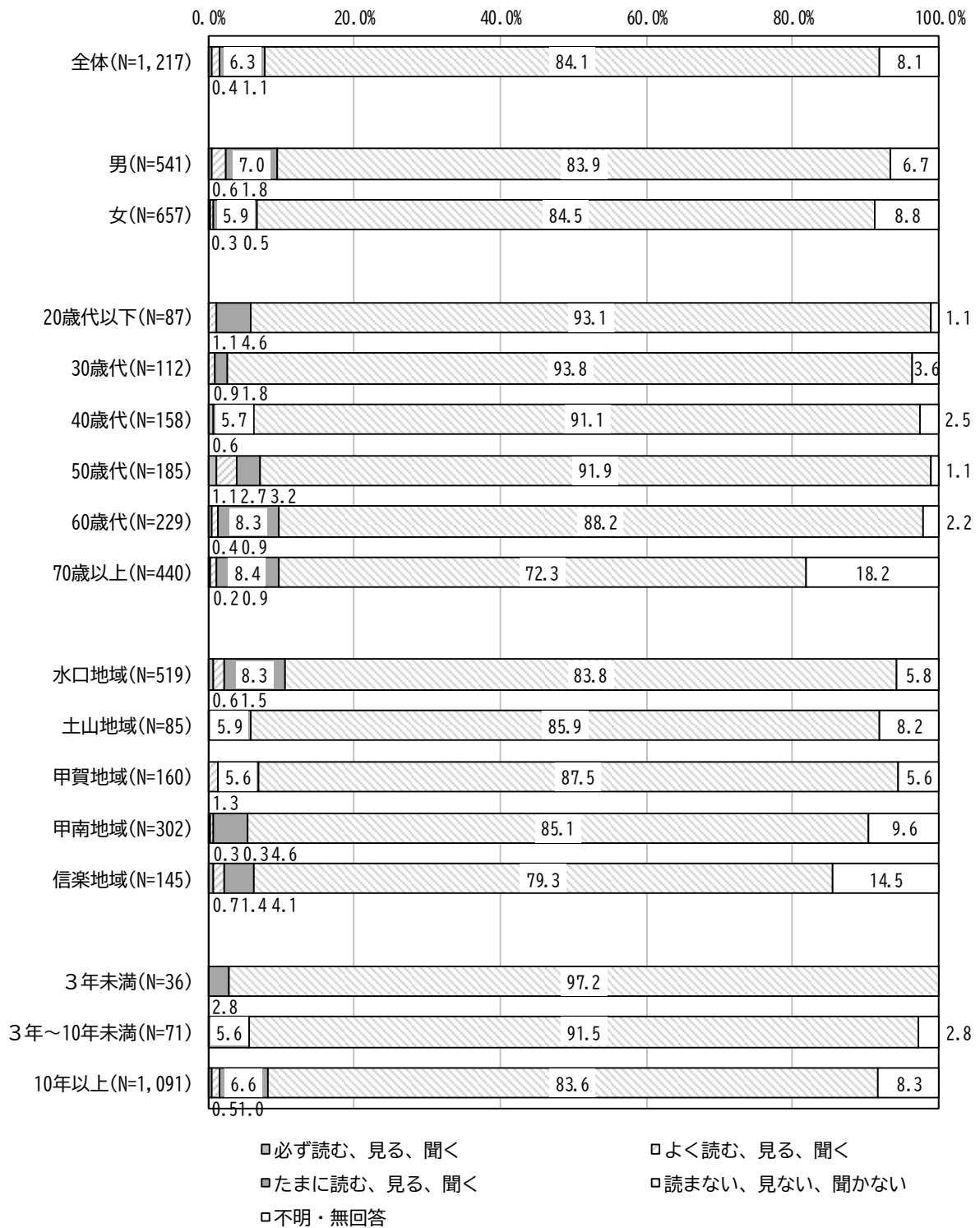
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は9.4%、女性は6.7%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは60歳代で9.6%、以下、70歳以上で9.5%、50歳代で7.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは水口地域で10.4%、以下、甲賀地域で6.9%、信楽地域で6.2%、土山地域で5.9%、甲南地域で5.2%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で8.1%、以下、3年～10年未満で5.6%、3年未満で2.8%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

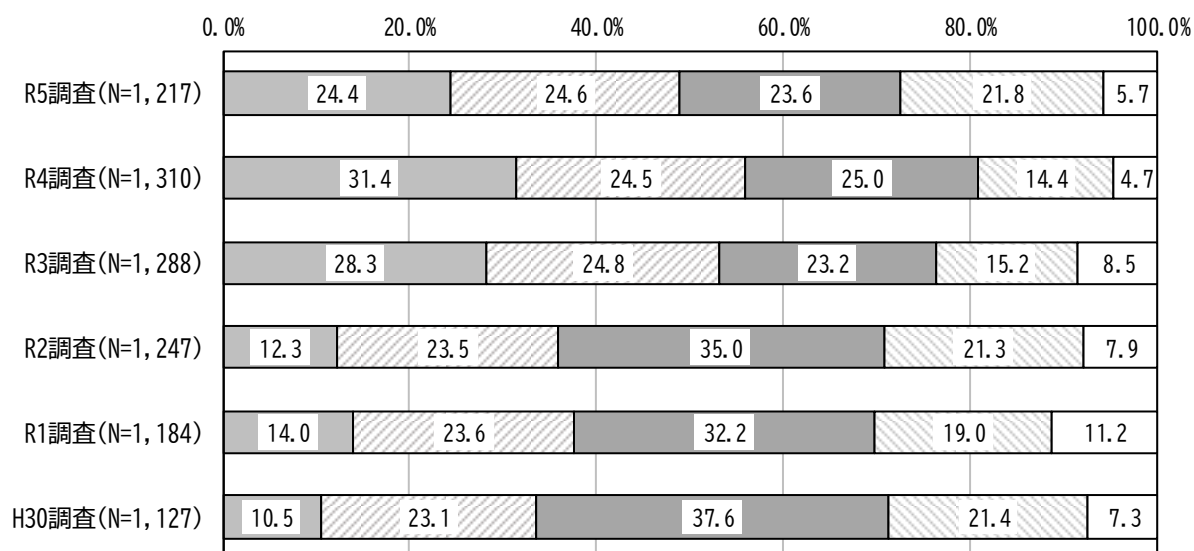
◎市議会インターネット中継・録画（単数回答）



⑩ 区・自治会等を通じた各戸配布や回覧(文書、チラシ、ポスターなど)

平成 30 年度調査からの推移をみると、前回に比べ「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』の割合が減少し、「読まない、見ない、聞かない」の割合が増加している。

⑩区・自治会等を通じた各戸配布や回覧 (単数回答)



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

※R2調査までは「市の行事等のチラシ、ポスター（回覧、掲示、配布等）」で調査を行っているため、R2調査以降との比較には注意が必要です。

●全体でみると、「よく読む、見る、聞く」が 24.6%で最も多くなっており、以下、「必ず読む、見る、聞く」が 24.4%、「たまに読む、見る、聞く」が 23.6%、「読まない、見ない、聞かない」が 21.8%と続いている。『読む、見る、聞く』は 72.6%となっている。

●性別にみると、男性は「よく読む、見る、聞く」が、女性は「必ず読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は 72.9%、女性は 73.2%となっている。

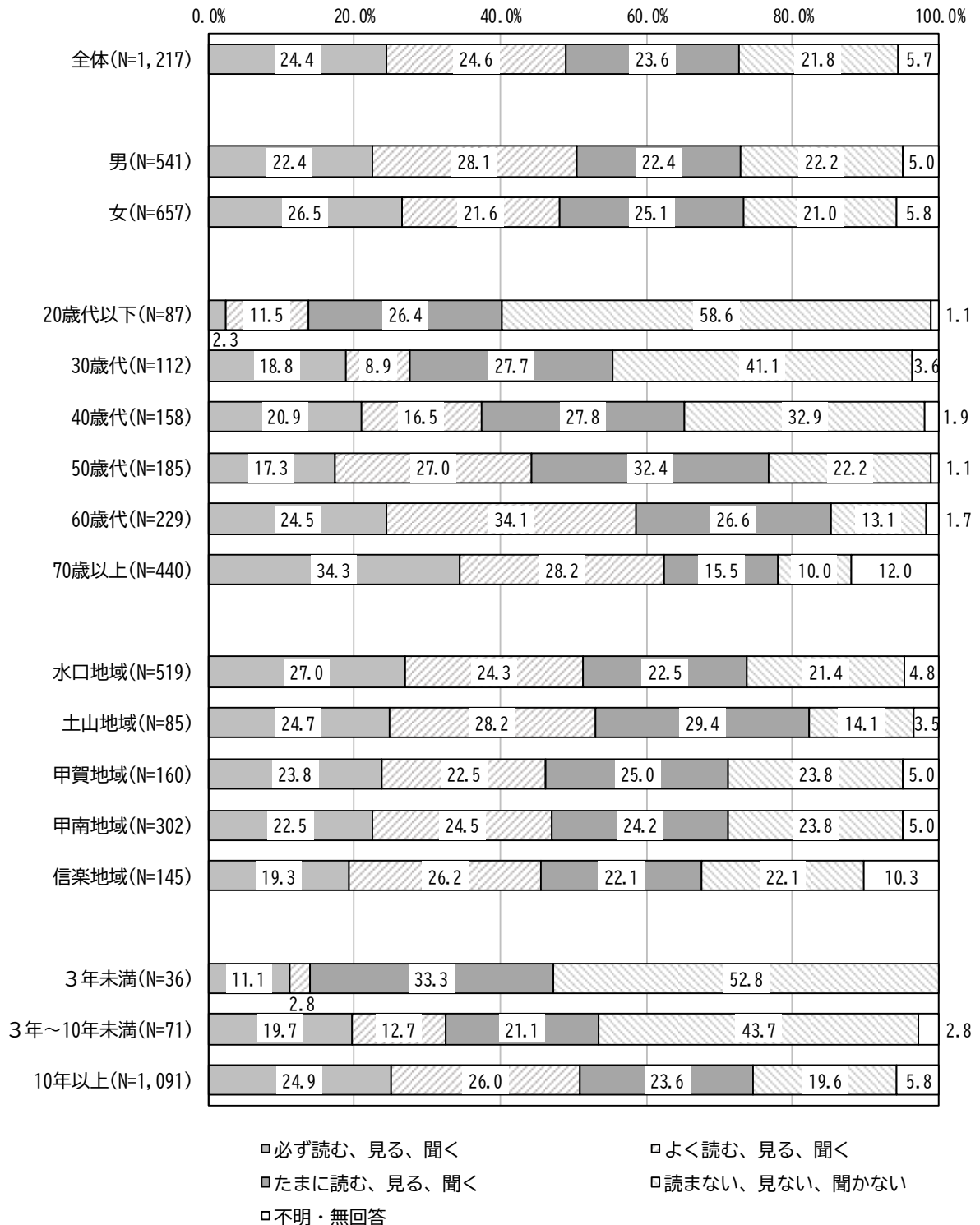
●年代別にみると、70 歳以上は「必ず読む、見る、聞く」が、60 歳代は「よく読む、見る、聞く」が、50 歳代は「たまに読む、見る、聞く」が、他の年代では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 85.2%、以下、70 歳以上で 78.0%、50 歳代で 76.7%と続いている。

●居住地域別にみると、水口地域は「必ず読む、見る、聞く」が、甲南地域、信楽地域は「よく読む、見る、聞く」が、土山地域、甲賀地域は「たまに読む、見る、聞く」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 82.3%、以下、水口地域で 73.8%、甲賀地域で 71.3%、甲南地域で 71.2%、信楽地域で 67.6%と続いている。

●居住年数別にみると、10 年以上は「よく読む、見る、聞く」が、他の年数では「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。

い」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で74.5%、以下、3年～10年未満で53.5%、3年未満で47.2%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

⑩区・自治会等を通じた各戸配布や回覧（単数回答）



⑪ 音声放送端末機

●全体で見ると、「読まない、見ない、聞かない」が47.3%で最も多くなっており、以下、「たまに読む、見る、聞く」が20.9%、「よく読む、見る、聞く」が15.8%、「必ず読む、見る、聞く」が8.2%と続いている。「必ず読む、見る、聞く」と「よく読む、見る、聞く」と「たまに読む、見る、聞く」を合わせた『読む、見る、聞く』は44.9%となっている。

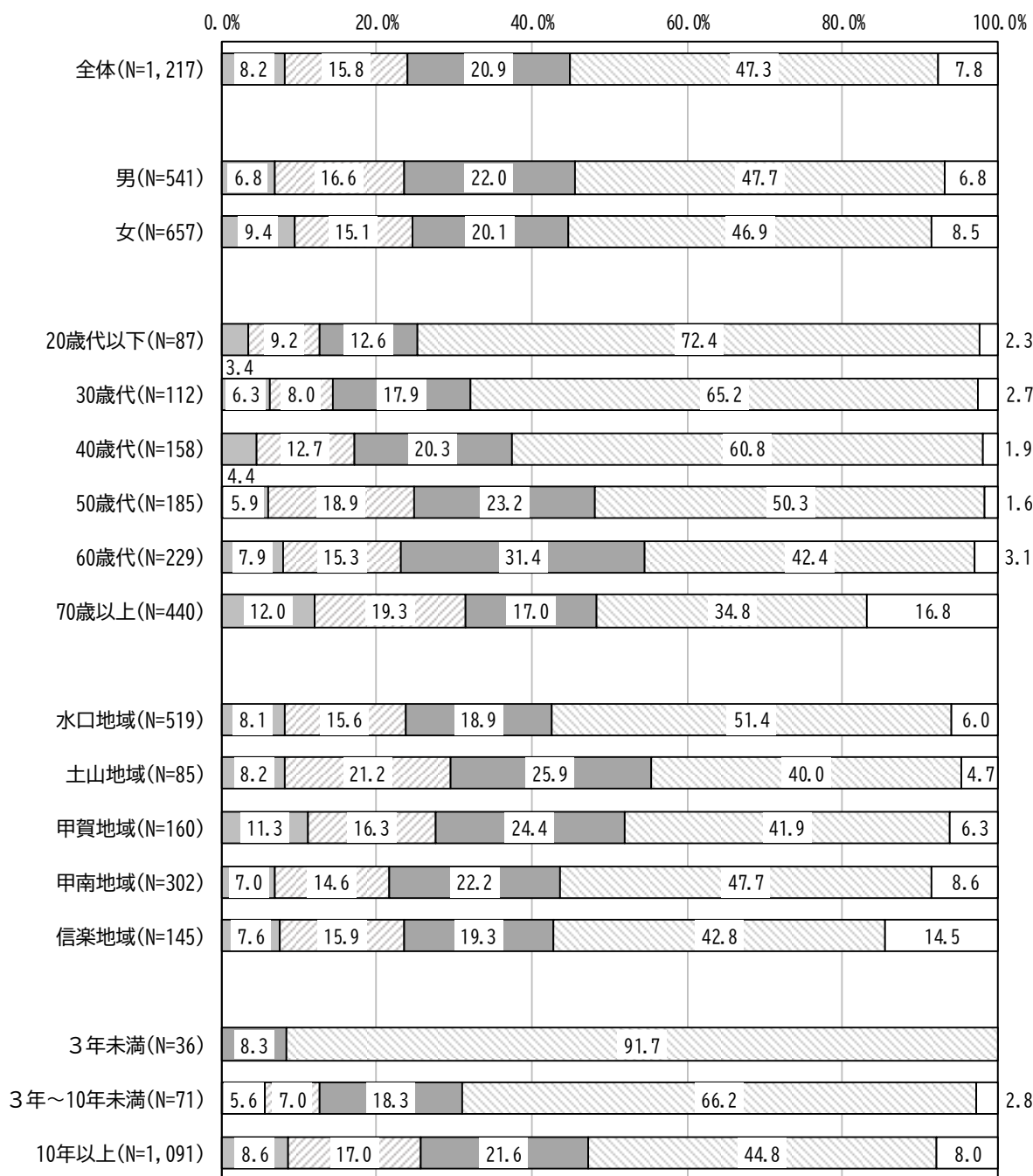
●性別にみると、男性、女性ともに「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、男性は45.4%、女性は44.6%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは60歳代で54.6%、以下、70歳以上で48.3%、50歳代で48.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは土山地域で55.3%、以下、甲賀地域で52.0%、甲南地域で43.8%、信楽地域で42.8%、水口地域で42.6%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「読まない、見ない、聞かない」が最も多くなっている。『読む、見る、聞く』の割合をみると、最も多いのは10年以上で47.2%、以下、3年～10年未満で30.9%、3年未満で8.3%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

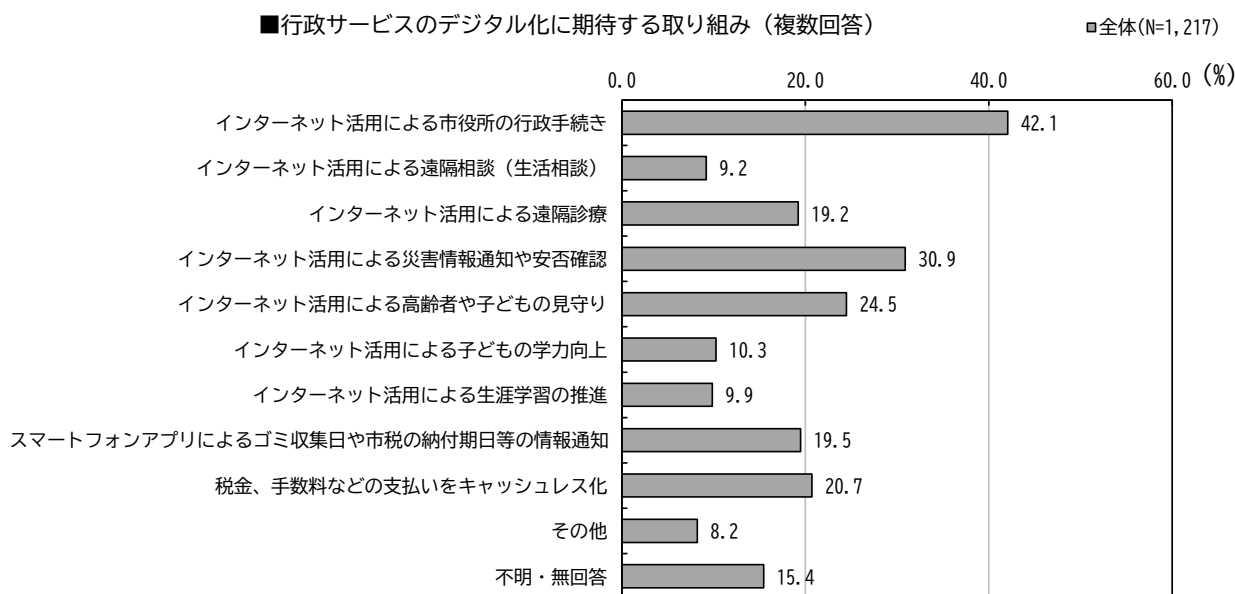
①音声放送端末機（単数回答）



- 必ず読む、見る、聞く
- よく読む、見る、聞く
- たまに読む、見る、聞く
- 読まない、見ない、聞かない
- 不明・無回答

「問 23」 行政サービスがデジタル化されることで、あなたが期待する取り組みはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

行政サービスのデジタル化に期待する取り組みは、「インターネット活用による市役所の行政手続き」が 42.1%で最も多くなっており、以下、「インターネット活用による災害情報通知や安否確認」が 30.9%、「インターネット活用による高齢者や子どもの見守り」が 24.5%と続いている。



●性別にみると、男性、女性ともに「インターネット活用による市役所の行政手続き」が最も多くなっており、次いで、「インターネット活用による災害情報通知や安否確認」が多くなっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「インターネット活用による災害情報通知や安否確認」が、他の年代では「インターネット活用による市役所の行政手続き」が最も多くなっている。その他特に、20 歳代以下、30 歳代は「税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化」も多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「インターネット活用による市役所の行政手続き」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「インターネット活用による市役所の行政手続き」が最も多くなっており、次いで、3 年未満、3 年～10 年未満は「税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化」が、10 年以上は「インターネット活用による災害情報通知や安否確認」が多くなっている。

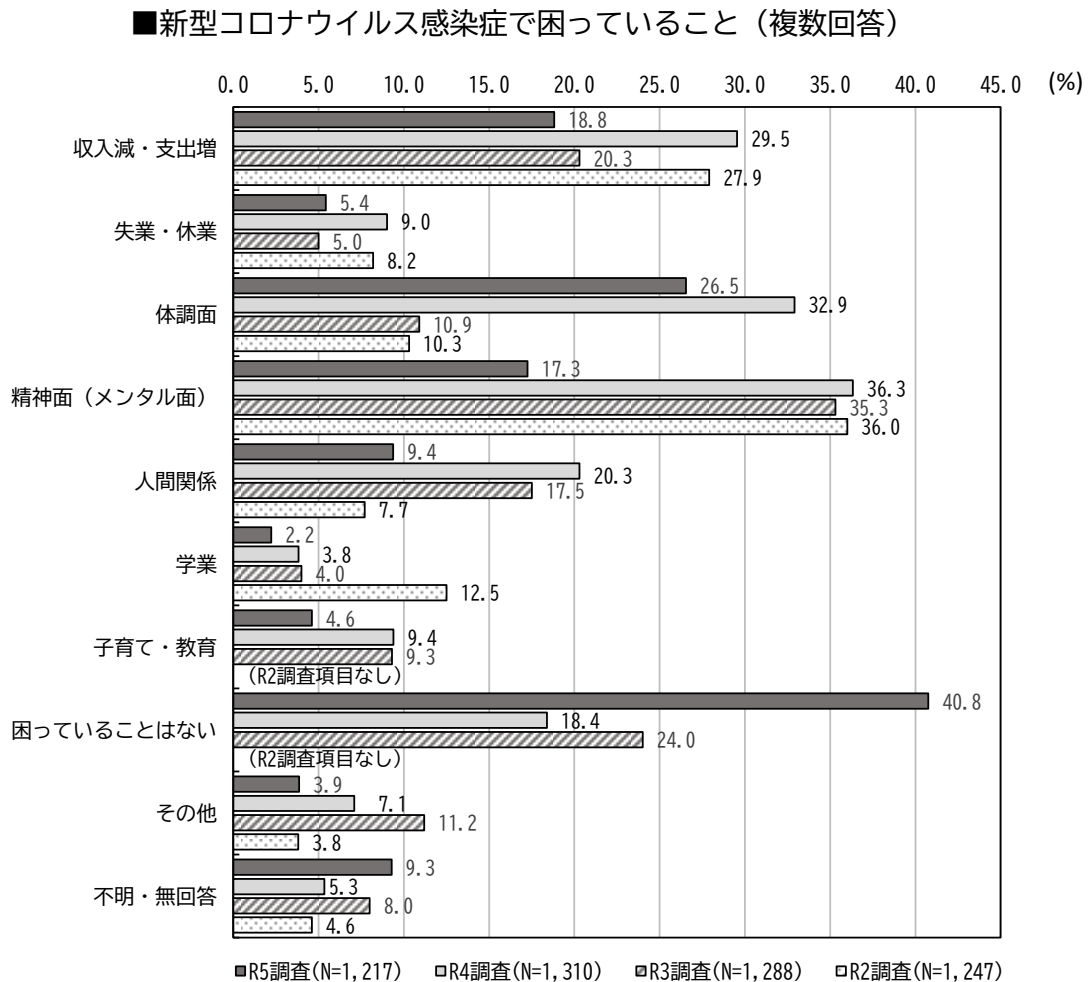
■行政サービスのデジタル化に期待する取り組み（複数回答）

	役所の行政手続 インターネット活用による市	隔 インターネット活用による遠 隔相談（生活相談）	隔 インターネット活用による遠 隔診療	イン ター ネット活用による災 害情報通知や安否確認	イン ター ネット活用による高 齢者や子ども見守り	イン ター ネット活用による子 どもの学力向上	イン ター ネット活用による生 涯学習の推進	スマ ート フォンアプリによる ゴミ収集日や市税の納付期日 等の情報通知	税金、手数料などの支払いを キャッシュレス化	その他	不明・無回答
全体(N=1,217)	42.1	9.2	19.2	30.9	24.5	10.3	9.9	19.5	20.7	8.2	15.4
男(N=541)	46.4	10.2	20.1	31.8	27.7	12.0	13.1	19.6	22.4	7.9	12.6
女(N=657)	38.8	8.4	18.7	30.4	22.2	8.8	7.3	19.8	19.8	8.2	17.2
20歳代以下(N=87)	58.6	13.8	21.8	26.4	21.8	17.2	11.5	27.6	35.6	5.7	2.3
30歳代(N=112)	59.8	8.9	19.6	31.3	25.0	27.7	11.6	21.4	37.5	1.8	3.6
40歳代(N=158)	56.3	15.2	19.0	31.6	26.6	18.4	8.9	21.5	30.4	3.2	7.0
50歳代(N=185)	58.4	13.5	28.6	37.3	25.9	8.6	12.4	25.9	25.9	5.9	4.9
60歳代(N=229)	44.1	6.1	16.6	34.9	28.8	7.4	11.4	19.2	16.2	10.0	10.5
70歳以上(N=440)	21.1	5.9	15.9	27.0	21.6	3.4	7.5	14.3	10.2	12.3	30.7
水口地域(N=519)	48.2	8.9	20.0	33.9	24.9	11.4	11.6	20.2	22.0	6.2	13.7
土山地域(N=85)	28.2	7.1	16.5	24.7	17.6	10.6	9.4	20.0	17.6	14.1	23.5
甲賀地域(N=160)	28.1	13.1	20.6	26.3	27.5	8.1	8.1	18.1	24.4	8.1	15.6
甲南地域(N=302)	43.4	9.3	18.9	31.5	27.2	10.9	10.6	17.9	21.2	9.6	12.6
信楽地域(N=145)	41.4	6.9	17.2	29.0	19.3	6.9	4.1	22.1	13.1	9.0	21.4
3年未満(N=36)	55.6	13.9	13.9	30.6	22.2	16.7	5.6	19.4	33.3	13.9	2.8
3年～10年未満(N=71)	54.9	8.5	11.3	26.8	23.9	21.1	15.5	21.1	39.4	7.0	5.6
10年以上(N=1,091)	41.0	9.2	19.9	31.3	25.0	9.3	9.7	19.6	19.1	8.1	16.2

4 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症で困っていること

「問 24」 新型コロナウイルス感染症で、困っていることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



●令和 2 年度調査からの推移をみると、困っていることは全体的に少なくなっている。

●新型コロナウイルス感染症で困っていることは、「困っていることはない」が 40.8%で最も多くなっており、以下、「体調面」が 26.5%、「収入減・支出増」が 18.8%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「困っていることはない」が最も多くなっており、次いで、「体調面」が多くなっている。

●年代別にみると、40 歳代は「収入減・支出増」が、30 歳代は「体調面」が、他の年代では「困っていることはない」が最も多くなっている(40 歳代は「困っていることはない」と同率)。また、30 歳代と 40 歳代では「子育て・教育」の割合が全体に比べて多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「困っていることはない」が最も多くなっており、次いで、「体調面」が多くなっている。また、土山地域では「失業・休業」「精神面(メンタル面)」「子育て・教育」の割合が全体と比べて少なくなっている。

●居住年数別にみると、3年～10年未満は「体調面」が、他の年数では「困っていることはない」が最も多くなっている。

●世帯(同居)構成別にみると、すべての構成において「困っていることはない」が最も多くなっており、次いで、「体調面」が多くなっている。

●職業別にみると、専業主婦・主夫は「体調面」が、他の職業では「困っていることはない」が最も多くなっている。また、会社員、自営業、パート・アルバイトでは「収入減・支出増」が全体に比べて多くなっている。

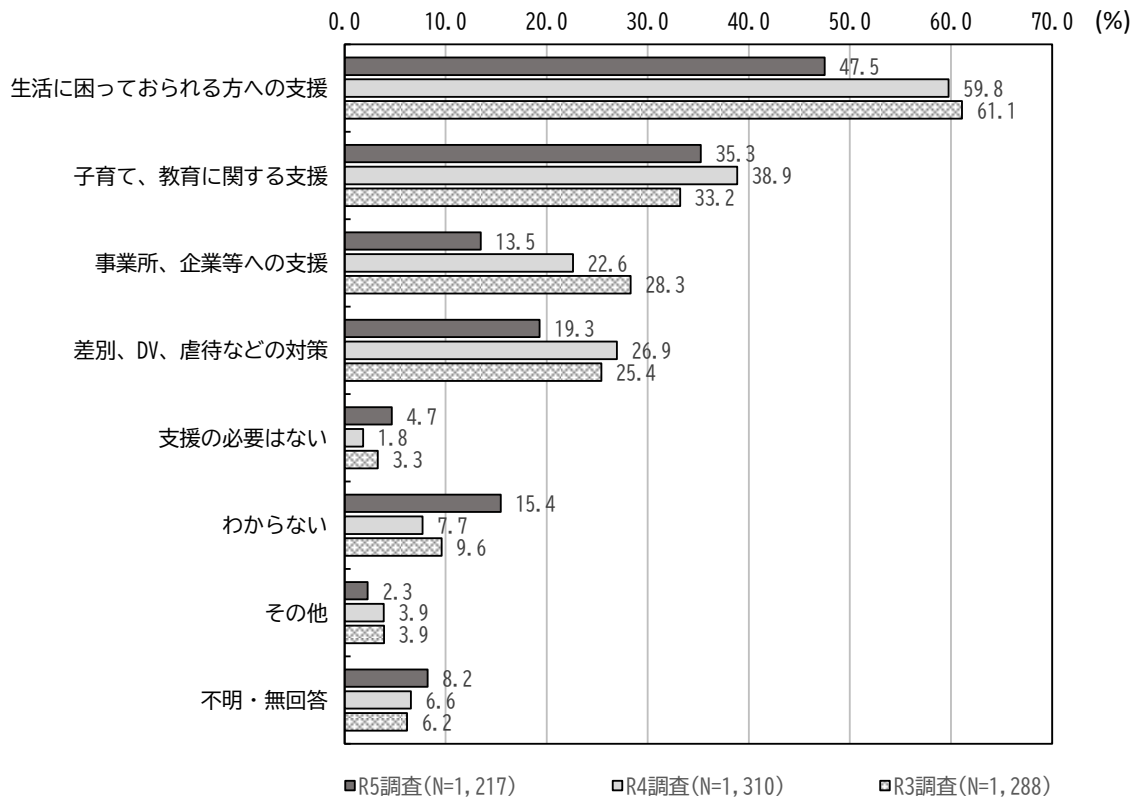
■新型コロナウイルス感染症で困っていること（複数回答）

	収入減・支出増	失業・休業	体調面	精神面（メンタル面）	人間関係	学業	子育て・教育	困っていることはない	その他	不明・無回答
全体(N=1,217)	18.8	5.4	26.5	17.3	9.4	2.2	4.6	40.8	3.9	9.3
男(N=541)	20.1	5.7	25.9	16.3	10.9	1.5	3.7	43.6	2.4	7.8
女(N=657)	18.0	5.2	26.9	17.5	8.1	2.9	5.5	38.8	4.9	10.2
20歳以下(N=87)	24.1	8.0	26.4	18.4	10.3	6.9	5.7	43.7	3.4	2.3
30歳代(N=112)	27.7	7.1	34.8	25.0	10.7	4.5	20.5	29.5	1.8	1.8
40歳代(N=158)	37.3	12.7	26.6	19.6	12.0	5.7	13.3	37.3	1.9	2.5
50歳代(N=185)	18.4	6.5	30.3	19.5	7.6	1.1	1.6	42.7	4.9	6.5
60歳代(N=229)	16.6	4.4	26.6	14.8	8.7	1.3	0.9	40.2	4.8	7.9
70歳以上(N=440)	10.5	1.8	23.0	14.3	9.1	0.5	0.5	44.1	4.3	16.4
水口地域(N=519)	20.6	6.2	28.7	20.4	9.4	1.7	4.8	39.9	4.0	6.7
土山地域(N=85)	18.8	1.2	21.2	8.2	7.1	1.2	1.2	44.7	2.4	14.1
甲賀地域(N=160)	19.4	7.5	24.4	18.8	10.0	1.9	5.0	41.9	3.8	11.3
甲南地域(N=302)	16.6	4.6	24.2	14.6	7.6	4.0	5.6	43.4	3.3	8.6
信楽地域(N=145)	17.2	4.8	29.7	15.2	13.8	1.4	3.4	35.9	4.8	13.1
3年未満(N=36)	22.2	8.3	30.6	16.7	8.3	0.0	11.1	41.7	2.8	0.0
3年～10年未満(N=71)	32.4	2.8	36.6	23.9	7.0	5.6	12.7	35.2	4.2	4.2
10年以上(N=1,091)	18.0	5.5	25.8	17.0	9.6	2.1	3.8	41.0	3.9	9.7
单身(N=115)	18.3	6.1	27.0	20.0	6.1	0.0	0.0	42.6	3.5	9.6
夫婦のみ(N=314)	14.0	3.2	27.1	14.0	9.9	0.3	1.0	44.6	4.8	9.2
二世帯世帯(N=550)	22.5	6.0	26.4	18.2	9.5	2.7	6.9	39.8	2.5	7.3
三世帯世帯(N=194)	16.0	6.2	23.7	17.5	9.8	5.2	6.7	37.1	6.2	13.4
その他(N=26)	26.9	7.7	38.5	26.9	15.4	3.8	7.7	42.3	3.8	3.8
会社員(N=299)	25.8	8.4	28.1	20.4	7.0	2.7	9.0	41.5	2.7	3.3
公務員(N=48)	6.3	2.1	18.8	16.7	14.6	2.1	4.2	47.9	4.2	2.1
自営業(N=90)	32.2	8.9	26.7	14.4	7.8	2.2	3.3	36.7	3.3	6.7
パート・アルバイト(N=200)	26.0	9.0	27.5	15.5	9.0	4.0	7.0	38.5	3.5	8.0
学生(N=32)	15.6	3.1	15.6	15.6	3.1	9.4	0.0	46.9	3.1	6.3
専業主婦・主夫(N=143)	13.3	0.7	35.0	21.0	11.9	0.7	4.9	32.2	5.6	13.3
無職(N=341)	9.4	3.5	23.2	13.8	11.1	0.9	0.6	44.0	4.7	14.7
その他(N=51)	23.5	0.0	27.5	25.5	9.8	2.0	2.0	47.1	3.9	5.9

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援

◀問 25▶ 今後、どのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

■新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援（複数回答）



- 令和3年度調査からの推移をみると、支援の必要性は全体的に少なくなっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援は、「生活に困っておられる方への支援」が47.5%で最も多くなっており、以下、「子育て、教育に関する支援」が35.3%、「差別、DV、虐待などの対策」が19.3%と続いている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっており、次いで、「子育て、教育に関する支援」が多くなっている。
- 年代別にみると、30歳代、40歳代は「子育て、教育に関する支援」が、他の年代では「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっており、次いで、「子育て、教育に関する支援」が多くなっている。
- 居住年数別にみると、3年～10年未満は「子育て、教育に関する支援」が、他の年数では「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。
- 世帯(同居)構成別にみると、三世帯世帯は「子育て、教育に関する支援」が、他の構成では「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

●職業別にみると、公務員は「子育て、教育に関する支援」が、他の職業では「生活に困っておられる方への支援」が最も多くなっている。

■新型コロナウイルス感染症の影響下で必要な支援（複数回答）

	生活に困っておられる方への支援	子育て、教育に関する支援	事業所、企業等への支援	差別、DV、虐待などの対策	支援の必要はない	わからない	その他	不明・無回答
全体(N=1,217)	47.5	35.3	13.5	19.3	4.7	15.4	2.3	8.2
男(N=541)	47.7	34.6	14.2	17.7	5.7	15.2	1.3	7.6
女(N=657)	47.3	36.1	13.1	20.4	4.0	15.5	3.2	8.5
20歳代以下(N=87)	54.0	43.7	21.8	24.1	4.6	10.3	2.3	3.4
30歳代(N=112)	42.0	72.3	17.9	21.4	2.7	6.3	1.8	0.0
40歳代(N=158)	44.9	46.8	20.9	22.8	10.8	10.1	1.9	2.5
50歳代(N=185)	55.1	28.1	17.8	20.0	5.9	11.4	3.8	4.9
60歳代(N=229)	50.2	34.5	11.8	19.2	6.6	14.0	2.2	5.7
70歳以上(N=440)	43.9	23.9	7.3	16.4	1.6	23.4	2.0	15.5
水口地域(N=519)	48.7	37.8	13.1	20.8	4.6	15.0	2.7	6.6
土山地域(N=85)	47.1	28.2	7.1	10.6	5.9	18.8	1.2	15.3
甲賀地域(N=160)	40.0	34.4	15.0	19.4	4.4	20.0	1.9	8.1
甲南地域(N=302)	46.7	35.8	13.6	19.5	6.0	14.2	2.6	7.6
信楽地域(N=145)	53.8	31.7	17.2	18.6	2.1	12.4	1.4	9.7
3年未満(N=36)	44.4	36.1	11.1	16.7	5.6	16.7	0.0	2.8
3年～10年未満(N=71)	46.5	57.7	15.5	11.3	5.6	15.5	0.0	4.2
10年以上(N=1,091)	47.6	34.0	13.7	20.1	4.6	15.5	2.6	8.4
单身(N=115)	43.5	17.4	11.3	14.8	6.1	28.7	2.6	10.4
夫婦のみ(N=314)	51.9	30.3	9.2	18.5	3.5	20.1	2.9	5.7
二世帯世帯(N=550)	47.3	39.6	15.8	18.7	4.7	11.1	1.8	7.1
三世帯世帯(N=194)	42.3	44.8	13.9	23.7	6.7	11.9	2.6	11.9
その他(N=26)	53.8	26.9	19.2	34.6	0.0	23.1	3.8	7.7
会社員(N=299)	45.8	42.8	17.4	18.7	6.4	10.0	3.0	4.3
公務員(N=48)	41.7	62.5	6.3	20.8	6.3	6.3	0.0	2.1
自営業(N=90)	46.7	33.3	25.6	15.6	5.6	10.0	2.2	8.9
パート・アルバイト(N=200)	51.0	37.0	15.5	26.0	5.5	14.0	2.5	4.0
学生(N=32)	46.9	40.6	21.9	15.6	9.4	9.4	0.0	6.3
専業主婦・主夫(N=143)	45.5	37.1	12.6	23.1	2.1	19.6	2.8	11.2
無職(N=341)	47.5	24.9	5.6	16.4	3.2	23.8	1.8	12.9
その他(N=51)	58.8	25.5	17.6	15.7	3.9	11.8	2.0	5.9

(3) 新型コロナウイルス感染症の支援に関して

「問 25」 新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが令和5年5月8日に2類相当から5類感染症(季節性インフルエンザ感染症等と同等)に移行しましたが、「5類感染症」移行後も引き続き必要な支援等に関して意見があれば、ご自由にお書きください。
(自由記述)

新型コロナウイルス感染症の支援に関して 188 人、延べ 202 件の回答があった。

区分	件数
ワクチン接種・検査（医療費）の補助（無料化）	75
生活支援・経済的支援	32
医療体制・検査の充実	14
感染症予防対策に関して	13
感染症情報の公開	13
行政の対応について	12
自助努力	8
精神的なケア（将来的な不安等）	8
マスクに関する意見等	6
福祉・介護サービスの充実	3
感染症教育に関して	2
その他	16
合計	202

甲賀市市政に関する意識調査

アンケートID

= ご協力のお願い =

※上記のIDは無作為に割当てたものであり、個人を特定するものではありません。

日ごろから甲賀市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
 市では、まちづくりの主役である市民の皆様のお考えや思いをしっかりと受け止め、市政に活かしていくため、「市政に関する意識調査」を実施します。
 いただいたご意見等は、高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できる地域をつくるための大切な基礎資料とさせていただきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年(2023年)10月

甲賀市長

岩永裕貴

ご回答にあたってのお願い

■ 令和5年10月20日(金)までに、ご回答をお願いします。

- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。
 ※返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。
- ご回答は本調査票またはインターネット回答(同封のインターネット回答操作案内参照)のどちらか一方のみにてお願いします。
- 今回の調査は、無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を対象に実施しています。
- この調査は、個人を対象としていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身がご回答ください。(ご本人による回答が困難な場合は、ご家族等の方がご本人から聞き取って代筆ください。)
- この調査の回答は、無記名でお願いしています。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることはありません。安心してご回答ください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印をつけてください。
- 回答したくない設問については、お答えいただかなくて結構です。

- 甲賀市をより良いまちにするために調査にご協力ください。わからない事があれば下記へご連絡ください。
- Please cooperate with our survey to make Koka City a better town. Please call this number as follows, if you have any questions.
- 고카시를 보다 좋은 도시로 만들기 위한 조사에 협력해 주십시오. 모르는 것이 있으시면 다음으로 연락해 주십시오.
- 为了把甲贺市变成更好的城市,请协助调查。如果有不明白的地方,请联系以下地址。
- Pedimos sua colaboração em relação a esta pesquisa, para fazer da Cidade de Koka uma cidade melhor. Em caso de dúvidas, favor entrar em contato pelo telefone descrito abaixo.
- Por favor coopere con la encuesta para hacer de la Ciudad de Koka una ciudad mejor. Si tuvieran alguna duda, pueden llamar al número de teléfono que figura en la parte de abajo.

【本調査に関する問合せ先】

甲賀市総合政策部 秘書広報課 TEL 0748-69-2101(直通) FAX 0748-63-4619

《問5》 あなたの世帯(同居)はどのような構成ですか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|----------|--------------|
| 1 単身 | 2 夫婦のみ | 3 二世帯世帯(親・子) |
| 4 三世帯世帯(親・子・孫) | 5 その他() | |

↳ 《問5-1》 問5で「3・4・5」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。
(○はいくつでも) ※別居されているお子様・お孫様は含みません。

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 2歳以下 | 2 3歳～小学校入学前 |
| 3 小学生 | 4 中学生 |
| 5 高校生 | 6 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生) |
| 7 就学前または就学している子どもはいない | |

《問6》 あなたの職業等は何ですか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|----------|-----------|
| 1 会社員 | 2 公務員 | 3 自営業 |
| 4 パート・アルバイト | 5 学生 | 6 専業主婦・主夫 |
| 7 無職 | 8 その他() | |

↳ 《問6-1》 問6で「1～5」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------|
| 1 自宅 | 2 甲賀市内 |
| 3 甲賀市以外の滋賀県内 | 4 県外 |

2. 市政全体に関する満足度等についておたずねします

《問7》 あなたは、甲賀市に愛着をお持ちですか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 愛着がある | 2 まあまあ愛着がある |
| 3 あまり愛着がない | 4 愛着がない |

《問8》 あなたは、甲賀市の魅力を市外の人に自慢できますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 自慢できる | 2 まあまあ自慢できる |
| 3 あまり自慢できない | 4 自慢できない |

《問9》 あなたは、これからも甲賀市に住みつづけたいと思われませんか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------------|-------------|
| 1 住みつづけたい | 2 住みつづけたいとは思わない | 3 どちらともいえない |
|-----------|-----------------|-------------|

《問9-1》 問9で「1」と回答された方におたずねします。
あなたが甲賀市に住みつづけたいと思われるのはどのような理由(家庭の事情も含めて)からですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 地域に個性がある | 2 地域に愛着がある |
| 3 交通の便がよい | 4 買い物に便利 |
| 5 娯楽・遊戯施設がある | 6 地域の人間関係がよい |
| 7 仕事の関係(仕事がある) | 8 学校や進学の関係(学校がある) |
| 9 結婚している(家族、親族がいる)から | 10 住宅がある |
| 11 特に理由はない | 12 その他() |

《問9-2》 問9で「2」と回答された方におたずねします。
あなたが他の場所に移り住みたいと思われるのはどのような理由(家庭の事情も含めて)からですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 地域の個性に乏しい | 2 地域に愛着がもてない |
| 3 交通の便がよくない | 4 買い物に不便 |
| 5 娯楽・遊戯施設が少ない | 6 地域の人間関係になじめない |
| 7 仕事の関係(仕事がない) | 8 学校や進学の関係(学校がない) |
| 9 結婚する(家族、親族が他の場所にいる)から | 10 住宅の都合 |
| 11 特に理由はない | 12 その他() |

「問10」 あなたの甲賀市での暮らしの「満足度」と「重要度」についておたずねします。
 以下の①～⑩のそれぞれの項目について、右の欄の1～6の中から満足度合い、重要度
 合いに最も近いものを選んでください。(それぞれ○は1つ)

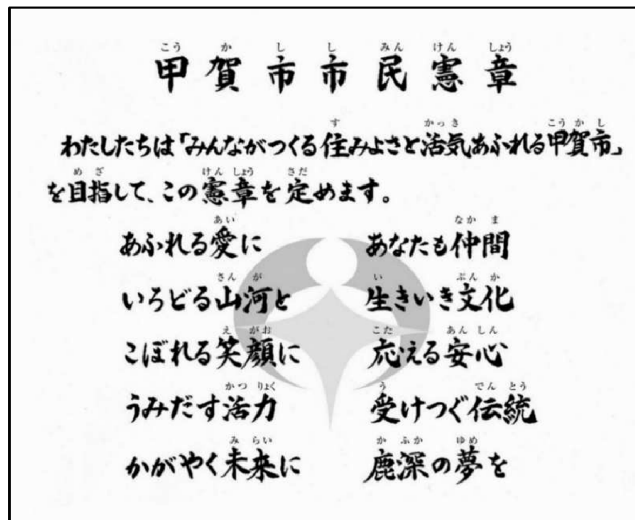
※ この調査項目は、「甲賀市市民憲章」で示している5つのまちづくりの方向性で分類しています。
 詳しくはP.6の「甲賀市市民憲章」をご覧ください。

	満足度						重要度						
	1 満足	2 満足どちらかといえ ば	3 どちらともいえない	4 不満足どちらかといえ ば	5 不満足	6 わからない	1 重要	2 重要どちらかといえ ば	3 どちらともいえない	4 重要ではない どちらかといえ ば	5 重要ではない	6 わからない	
1. あふれる愛にあなたも仲間													
①	市民自治(区・自治会、 自治振興会、市民活動)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②	市民共生 (人権、多文化共生)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③	男女共同参画	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④	シティセールス (情報発信、広報広聴)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2. いろどる山河と生きいき文化													
⑤	環境・資源・エネルギー(自然 保護、生活環境保全、脱炭素 社会、廃棄物処理)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥	歴史・文化財・景観(文化財の 調査、保護、活用、景観の 保全)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦	生涯学習・文化・スポーツ (生涯学習、文化、芸術、 スポーツの振興)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

	満足度						重要度						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
	満足	どちらかといえば	どちらともいえない	不満	不満	わからない	重要	重要	どちらかといえば	どちらともいえない	重要ではない	わからない	
3. こぼれる笑顔に応える安心													
⑧	地域福祉(高齢者の生きがい、障がい福祉、地域福祉団体、ボランティア、セーフティネット)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑨	保健・医療(健康、疾病の予防と早期対策、地域医療体制、国民健康保険、後期高齢者医療保険)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑩	住まい・生活(良好な住環境、公営住宅、上下水道、公園整備)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑪	安全・防災(事故予防、防犯、消防、地域の防災体制、土砂災害)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4. うみだす活力受けつぐ伝統													
⑫	農林畜水産(農林畜水産業振興、地域ブランド、鳥獣害対策)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑬	商工観光(商業、地場産業、工業、観光振興)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑭	活躍・雇用(就労支援、女性の活躍、勤労者福祉)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑮	道路・交通(広域幹線道路、道路整備、鉄道、バス)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

	満足度						重要度					
	1 満足	2 どちらかといえば	3 どちらともいえない	4 不満	5 不満	6 わからない	1 重要	2 重要	3 どちらともいえない	4 重要ではない	5 重要ではない	6 わからない
5. かがやく未来に鹿深の夢を												
⑯ 都市形成(市街地整備、土地の有効利用)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑰ 子ども・子育て(子育て支援、就学前教育、保育、放課後児童クラブ、子育てネットワーク)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑱ 学校教育、青少年(学校教育、教育環境の充実、健全育成)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑲ 行財政(職員の質、行政サービスの効率、財産管理、財政運営)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑳ 新型コロナウイルス感染症対策(市民生命、健康、安全、地域経済)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

※ 問10の調査項目は、下記の「甲賀市市民憲章」で示している5つのまちづくりの方向性で分類しています。



《問11》 あなたは、現在の暮らしに幸せを感じますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 そう感じる | 2 どちらかといえばそう感じる |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえばそう感じない |
| 5 感じない | |

↳ 《問11-1》 問11で「1・2」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたは、どのようなことに幸せを感じますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 収入(お金) | 2 就業状況(仕事の有無・安定) |
| 3 健康 | 4 自由な時間、充実した余暇 |
| 5 社会貢献 | 6 家族関係 |
| 7 友人関係 | 8 職場や学校等での人間関係 |
| 9 地域コミュニティ、ご近所との関係 | 10 その他() |

《問12》 あなたは、市政(市役所のしていること)に関心をお持ちですか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 関心がある | 2 まあまあ関心がある |
| 3 あまり関心がない | 4 関心がない |

《問13》 あなたは、市政に関係する次の項目について、どの程度満足されていますか。
以下の①～⑤のそれぞれの項目について選んでください。(それぞれ○は1つ)

	1 満足	2 どちらか といえば 満足	3 どちらと もいえな い	4 どちらか といえば 不満	5 不満	6 わから ない
① 行政サービスの水準	1	2	3	4	5	6
② 情報の公開度	1	2	3	4	5	6
③ 行政(市役所)の信頼度	1	2	3	4	5	6
④ 市役所職員の質・対応	1	2	3	4	5	6
⑤ 市政への住民参画のしやすさ	1	2	3	4	5	6

《問14》 あなたは、これからの4年間で重点的に取り組むべき施策は、どのようなことだと考えますか。各分野より1つずつ選択してください。

(1) 子育て・教育(○は1つ)

- 1 子育てにかかる医療費／学費などの経済的負担への助成
- 2 多様な保育ニーズに応じた「質」の向上
- 3 屋内遊戯施設など、子どもの遊び場の整備
- 4 子どものキャリア教育と起業家精神の育成
- 5 ICT※教育の取り組み強化
- 6 地域産業や文化等への理解を深める「ふるさと教育」の推進
- 7 「ものづくり」の魅力を伝えるための職場体験
- 8 外国人児童・生徒に対する教育支援
- 9 コミュニティスクールなど、学校と地域の連携促進
- 10 フリースクールなどの居場所づくり
- 11 結婚支援に対する取り組みの強化
- 12 歩道整備などの交通安全対策

※ 「ICT」:「Information and Communication Technology」の略で、情報通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。

(2) 地域経済(○は1つ)

- 1 環境に配慮したまちづくりの推進
- 2 地域経済の担い手の確保・育成への支援
- 3 「忍者」や「信楽焼」、「茶」などを活用した観光振興
- 4 6次産業化やスマート農業といった農業経営支援
- 5 「お試し居住」などの移住・定住施策の推進
- 6 スタートアップ支援といった起業支援
- 7 テレワークなど、企業に対する「多様な働き方」への支援
- 8 新たな道路整備
- 9 JR草津線の利便性向上
- 10 信楽高原鐵道や近江鐵道の存続に向けた支援、対策検討
- 11 コミュニティバス・コミタク※の利便性向上
- 12 コンパクトシティによる効率的な行政経営の推進
- 13 空き家、空き地などの活用・除却に向けた費用助成

※ コミュニティタクシー(コミタク)とは、タクシー車両を利用した予約制の乗合型公共交通(乗合タクシー)です。指定したエリア内の希望するバス停間を移動することができます。市内では9エリアで運行しています。

(3) 福祉・介護(○は1つ)

- 1 ヤングケアラーや引きこもり対策の強化
- 2 高齢者から若者、子どもまでが交流できる「多世代交流」の推進
- 3 健康寿命延伸に向けた高齢者の「健康づくり」への取り組み
- 4 高齢者の見守りなど、地域で支えあう取り組み
- 5 福祉施設等の充実
- 6 介護人材の確保と就労環境の改善
- 7 障がい者や高齢者が農業分野で活躍する「農福連携」の取り組み

3. 市民自治についておたずねします

〈問15〉 あなたは、自治振興会の活動に参加されていますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 積極的に参加している | 2 なるべく参加している |
| 3 参加していない | 4 活動自体を知らない |

〈問16〉 今後、自治振興会、もしくは区・自治会が重点的に取り組んでほしい事業内容はどのようなものですか。それぞれあてはまるものを1つ選んで番号を記入してください。

	自治振興会	区・自治会
① 子どもの見守り・防犯の見守り	(番号を1つ記入)	(番号を1つ記入)
② 子育て支援(保育サービス、一時預かりなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 子ども会行事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 若者への支援(婚活、出会いの場の創出など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 高齢者の見守り支援(独居高齢者など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 日常生活支援(送迎サービス、買い物支援など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 高齢者の活躍の場づくり	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 空き家・移住対策	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 道路・水路の軽微な修理・修繕	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 道路・水路の清掃など、簡易な維持管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 公園施設の軽微な修理・修繕	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 公園の清掃など、簡易な維持管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 公共施設の管理、運営	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 農業支援(農作物の集荷、遊休農地の手入れ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮ コミュニティビジネス(まちなかカフェなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯ その他()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

《問17》 地域コミュニティ※に関してどのように考えていますか。(自由記述)

※ 地域コミュニティとは、一定の地域を基盤とした住民組織であり、そこで暮らす住民が構成員となって、地域活動(お祭り、スポーツ、親睦活動、防犯、防災、環境美化活動)や地域課題の解決等、その地域に関わる様々な活動を自主的・主体的に実施している地縁型団体・組織(集団)をいいます。

《問18》 あなたが10年後に求める「豊かさ」とはどのようなことでしょうか。(〇はいくつでも)

1 健康	2 個人の時間(余暇)	3 家計のゆとり
4 すべての人の活躍できる場	5 移動のしやすさ	6 住みやすさ
7 仕事のやりがい	8 災害に強いこと	9 子育て・教育環境
10 若者の活躍できる場	11 自然環境	12 食生活
13 文化・芸術	14 スポーツ	15 田舎暮らし

《問19》 平成28年に制定された「甲賀市まちづくり基本条例」をご存じですか。(〇は1つ)

1 内容をよく知っている	2 ある程度知っている
3 名前は知っている	4 知らない



詳しくは市 HP から→

《問20》 まちづくり基本条例第19条には、「市民、議会及び市長等は、相互に信頼関係を築き、協働によるまちづくりを推進します」とあります。甲賀市は「協働」によるまちづくりが進んでいると思いますか。(〇は1つ)

1 非常に進んでいる	2 進んでいる
3 あまり進んでいない	4 進んでいない
5 わからない	

《問21》 まちづくり活動に参加するにあたり、何が必要だと思いますか。(〇は1つ)

1 時間	2 活動する場所	3 健康や体力
4 参加するための知識、技術	5 参加するきっかけ	6 一緒に活動する仲間
7 活動団体や活動内容に関する情報		
8 その他()		

4. 市の情報発信についておたずねします

《問22》 市に関する次の情報を、どの程度読んだり、見たり、また音声等で聞いたりしておられますか。(それぞれ〇は1つ)

	1 かならず 読む、見る、聞く	2 よく 読む、見る、聞く	3 たまに 読む、見る、聞く	4 読まない、 見ない、 聞かない
① 広報紙「広報こうか」	1	2	3	4
② 甲賀市ホームページ	1	2	3	4
③ 甲賀市LINE	1	2	3	4
④ 甲賀市フェイスブック	1	2	3	4
⑤ 行政情報番組「きらめきこうか」 (あいコムこうか)	1	2	3	4
⑥ 市議会だより	1	2	3	4
⑦ 市議会ホームページ	1	2	3	4
⑧ 市議会中継・録画(あいコムこうか)	1	2	3	4
⑨ 市議会インターネット中継・録画	1	2	3	4
⑩ 区・自治会等を通じた各戸配布や 回覧(文書、チラシ、ポスターなど)	1	2	3	4
⑪ 音声放送端末機	1	2	3	4

《問23》 行政サービスがデジタル化されることで、あなたが期待する取り組みはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1 インターネット活用による市役所の行政手続き
- 2 インターネット活用による遠隔相談(生活相談)
- 3 インターネット活用による遠隔診療
- 4 インターネット活用による災害情報通知や安否確認
- 5 インターネット活用による高齢者や子どもの見守り
- 6 インターネット活用による子どもの学力向上
- 7 インターネット活用による生涯学習の推進
- 8 スマートフォンアプリによるゴミ収集日や市税の納付期日等の情報通知
- 9 税金、手数料などの支払いをキャッシュレス化
- 10 その他()

5. 新型コロナウイルス感染症についておたずねします

「問24」新型コロナウイルス感染症で、困っていることはどのようなことですか。

(○はいくつでも)

1 収入減・支出増	2 失業・休業	3 体調面
4 精神面(メンタル面)	5 人間関係	6 学業
7 子育て・教育	8 困っていることはない	
9 その他()		

「問25」今後、どのような支援が必要と考えますか。(○はいくつでも)

1 生活に困っておられる方への支援	2 子育て、教育に関する支援
3 事業所、企業等への支援	4 差別、DV、虐待などの対策
5 支援の必要はない	6 わからない
7 その他()	

新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが令和5年5月8日に2類相当から5類感染症(季節性インフルエンザ感染症等と同等)に移行しましたが、「5類感染症」移行後も引き続き必要な支援等に関して意見があれば、ご自由にお書きください。

質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

令和5年10月20日(金)までに、ポストにご投函ください。

甲賀市市政に関する意識調査報告書

【市政全体・市民自治・情報発信等】

発行日：令和6（2024）年3月

編集・発行：甲賀市総合政策部秘書広報課

〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地

Tel:0748-69-2101/Fax:0748-63-4619